

六 北京関税特別会議関係

七 中国治外法権委員会会議関係

八 国民政府ノ関税付加税実施ヲ繞ル諸問題

九 東三省鉄道問題

十 雑件

付録 日本外交文書大正十五年第二冊(上・下巻) 日付索引

(以上 下巻)

事項一 北京政府ト一般政況

一 一月一日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東省特別区行政長官ノ人事ニ関シ意見具申ノ件

第一号

(一月二日接受)

本官発奉天宛電報第一号(同上)

特別区行政長官護路軍司令官及東支鉄道督弁ハ北滿ニ於テ最モ枢要ナル支那側權力機関ニシテ其人選如何ハ直ニ露支ノ關係ニ影響シ帝國ノ地位ニ波及スル処目下北滿ニ於ケル帝國在留民ハ支那側ノ旺盛ナル利権回収運動ト東支鉄道ヲ中心トスル赤露ノ經濟的進展トニ圧迫セラレテ意氣揚ラズ唯僅カニ露支勢力ノ拮抗及相互勢力ノ牽制ニ依リテ活動ノ余地ヲ保持スルコト御承知ノ如シ(十一月十四日外務大臣宛機密第一九〇号)然ルニ現状ヲ見ルニ支那官憲ハ些カ勞農ノ勢力ニ押サレ氣味ニテ赤露ノ地位ハ益々鞏固ナラントスル傾向アルガ故自然要路ニハ赤露ニ對シ強キ政策ヲ実行スル人物ヲ配置スル必要アリ此意味ニ於テ行政長官トシテハ于冲漢ノ如キ最適任者ナルヤニ見受ケラル唯于ハ東支督

一 北京政府ト一般政況 一

弁ノ兼任ヲ希望シ曩ノ辭職モ一ニ兼任ヲ得ザリシ事実ニ胚胎スルヤ聞及ビタルガ故ニ行政長官ノミニテハ受諾ヲ肯ンゼザルヤモ計ラレザル処現在東支督弁劉尚清ハ温厚ニ過ギ到底赤露代表者ト太刀打チヲ為スコト六ヶ敷對支那側理事トノ關係面白カラザルガ故ニ于冲漢ヲ就任セシムルニ依ルモ妙策ナルベシ現在行政長官ト護路軍司令官トヲ兼ネタル張煥相ハ今次事變ノ際ノ態度(夫レニハ種々内情アリ何レ郵報ス)ニ鑑ミ一般ニ早晚更迭ヲ余儀無クセラルルモノト噂セラレ当人モ亦其覚悟ヲ極メ居ル様子ナルガ同人ハ元來排外的傾向ヲ帶ブルモ我方從來ノ關係ヨリ見レバ他ニ適任者アラザル場合護路軍司令官トシテ留任セシムルコト可然カト思考セラル張煥相ハ二日当地發貴地ニ向フ管ナルガ奉天時局收拾ニ當リ北滿地方要路ノ人選問題モ張作霖ノ考慮ニ置カルベク右諸要人ト御會談ノ節自然話題ニ上ルベキカト思考シ当方面ノ事情御含ミ迄

大臣 北京へ転電セリ

一

二 一月七日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖下野ノ意向理由ニ関シ観測ノ件

第八号

(一月八日接受)

張作霖ハ二三日来頻ニ下野ヲ唱ヘ其標榜スル理由トシテ語
ル処ハ相手方ニ依リ必スシモノナラス菊池少将及新聞記者
等ヘハ日本側ヨリ排日ノ巨頭ト目セラレ自国民ヨリ売国奴
トシテ悪罵セラレ立ツ瀬ナク特ニ老衰甚タシキニ依リ下野
スヘシト称シ菊池ノ觀察ニ依レハ張モ英雄比ヘニハ自身ヨ
リ嫌氣ヲ生シタルモノノ如クナリトノ事ナルカ昨七日滿鉄
兼田ニ対シ張ハ下野理由トシテハ(一)心身既ニ衰弱セル事(二)
東三省父老ニ申訳ナキ事(三)戦後始末ノ困難ナル事等ヲ縷述
セシ様子ナルモ右ノ内(一)及(二)ハ今更ノ理由ニテアルマシク
其真意ハ専ラ(三)ノ後始末ニアルモノノ如ク見受ケラル孫伝
芳ノ南京攻略以來奉天側ハ奉票約三千万元ヲ消費シ差当リ
之カ穴埋ハ張ノ最苦心スル処張カ私財ヲ擲ツニ於テハ之ヲ
償フニ足ルヘキモ此際張トシテハ部下ノ欲セサル下野ヲ標
榜スル事ニ依リ幹部ヲシテ金策ノ途ヲ講セシムルト共ニ論
功行賞ニ対スル不平新旧兩派ノ争鬭ヲ有邪無邪ニ葬リ去ラ

四 一月八日 在中国公使館付本庄武官ヨリ
金谷參謀次長宛(電報)

北京政局ガ無政府状態ノ紛乱ヲ増シツツアル

件

(一月十二日外務省接受)

支第十号

許世英ハ本八日午後二時頃交民巷ニ逃ケ込ミタリ其原因ハ
支第九号坂電ノ如シ是ニ関シ姚震ノ語ル所ニ依レハ国民第
一軍側ニ於テハ段祺瑞ヲ下野セシムルコトヲ基礎トシテ許
内閣ノ組閣ヲ促進シ之ヨリ国会ヲ召集シ大總統ヲ決定セン
トシタルモ湯漪、章士釗、鄧漢祥等許ニ迫リ將ニ發セント
セル段下野ノ通電原稿ヲ取り還シ之ニ換フルニ段祺瑞カ他
日復全國ヨリ推戴セラルルノ余地アル通電ヲ發セントスル
ニ至レル結果許世英ハ此等新安福系ト新内閣トノ板挾ミト
ナリ遂ニ逃レタルモノナリト

姚震モ右湯、章、鄧等ノ画策ニ参画セル為第一軍方面圧迫
ノ危険ヲ感シ本夕六国飯店ニ入レリ又段祺瑞カ發セントセ
ル下野通電(其内容ハ既ニ新聞ニ發表セラレタリ)ハ取消
シタリト又是ニ対シ或ハ第一軍方面ノ暴力的危険ノ加ハル
モノ無キヤヲ案セラレアリ右ノ如クシテ北京政局ハ歩一步

ントスル底意モアルヘシ何レニシテモ此際下野ヲ標榜シテ
部下ノ態度ヲ一応下ル事最モ得策ナリト思惟シテノ一狂言
ト見ルヘキナリト存セラル

在支公使ヘ転電シ在滿州各領事ヘ暗送セリ

三 一月八日 在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張煥相ガ自己ノ去就ニツキ内話ノ件

第七号

(一月九日接受)

六日奉天ヨリ帰任セル張煥相ハ本官ニ対シ左ノ如ク内話セ
リ
張作霖ニ対シ辞意ヲ示シ行政長官ニ于冲漢ヲ推薦シタルモ
慰留セラレ現狀維持ニ決定シタルガ護路軍司令ハ兼任スル
モ其ノ実務ハ他ノモノニ当ラシムルコトトシ目下張作相ト
交渉中ナリ、吉林方面ニハ省自治ノ見地ヨリ行政長官ヲ狙
ヒ運動シ居ル向アルモ成効セサル可シ又張作霖ハ下野ノ意
向ヲ洩セルモ左右ヨリ引留メタルハ事実ナリ云々
張煥相ガ行政長官ノ地位ニ恋々タルト同時ニ依然世間ノ噂
ヲ氣ニシ居ルハ右會談中ニモ感知シ得タリ
公使、奉天、吉林ヘ転電セリ

無政府状態ノ紛乱ヲ増加シツツアリ猶目下馮玉祥ノ意図ヲ
体シテ当地ニ於テ隱謀画策ノ中心トナリアルハ李鳴鐘ニシ
テ彼ハ病氣ニ名ヲ藉リ交民巷逸病院内ニ在リ

五 一月十日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖下野問題ニ関シ王前奉天省長ト會談ノ

件

第一三号

昨今張作霖下野問題論議中トノ事ニ付キ予テ東三省々治ノ
将来ニ関シ帝國政府トノ諒解ヲ求メシメ度シトノ考ヨリ数
日前王省長ヲ訪ネ本官一個ノ私見トシテ保境安民ヲ当分ノ
方針トシテ從前ノ偏武主義ヲ捨テ民政特ニ財政交通ニ留意
セハ奉天政權ノ回復難カラサルヨリソノ施政方針ヲ以テ簡
明直截ニ帝國政府ノ諒解ト好意ヲ求ムルコソ此際ニ処スル
方策ナルヘクソノ所信ヲ以テ張ニ迫ル絶好機會ナラントソ
ノ決意ヲ促シ置ケル処作九日王ハ下野問題會議二回ノ經過
真相ヲ伝ヘ初メ一回ハ張側ノ思付キニテ言ヒ出シ王ハ下野
必シモ悪カラス但善後処置付カサルニ下野スルノ無責任ヲ
責メテ今日ソノ時期ニ非サルヲ言ヒ一旦思ヒ止マラシメタ

ルニ張ハソノ翌日再ヒ言ヒ出シ會議最中馮下野ノ報至リ忽
 話題之ニ集リ何等決スル無ク散會シ第二回會議ハ張作相具
 俊陞等降服軍ヲ各自ソノ部下ニ取り込ミ居レル事実ヲ知り
 得テ張カ彼等ニ自己ノ下野ヲ標榜シテ一喝ヲ加ヘシ迄ナル
 カ當時列座ノ諸員ハ時局收拾ノ善後策ニ付頻ニ王ノ意見ヲ
 求メタルヲ以テ王ハ新民屯ヨリ山海関一帶ニ於ケル軍事処
 分遅延ノ不始末ヲ指摘シタル後民国十一年奉直第一次戰以
 来年々軍費ニ千七八百万兵工廠ニ二千二三百万ヲ要シ省取
 入二三千万ニ過キサルニ其三分ノ二ハ軍政費ニ収用セラル
 第一次奉直戰以來保境安民ヲ主張セルモ容レラレス年々兵
 ヲ關外ニ用ヒ遂ニ今次事変ニ遭遇セル事実ヲ述ヘテ此際断
 然軍政費ヲ縮少シ兵三師団ノ精兵主義ニ改メ兵工廠費モ半
 減シ其一部ハ軍器以外ノ生産的製作業ニ従事セシムヘシ今
 ノ如クセハ何人カ局ニ当ルモ効ナケレハ寧ロ軍部ニ合セテ
 自分モ亦退クノ可ナルヲ信スト云ヘルニ楊宇霆ハ武備縮少
 ニ先ツ反対シ六ヶ師団維持ト山東直隸支持ノ必要ヲ力説シ
 張ハ未タ意見ヲ述ヘサルモ楊ノ所説ニ賛同スルモノノ如シ
 斯ク根本定マラサル限り貴總領事ノ意ニ添フ能ハサルモ自
 分ハ自説ヲ固持シ一同ノ熟考ヲ促カシテ會議ヲ閉シタルモ

張モ今日下野ノ不可能ナルヲ知ラサルニアラス真実下野ノ
 意ナキニモ非ス其意中ヲ察スルニ下野シテ其地位ヲ学良ニ
 譲リ度、何人カ彼ニ替リテ之ヲ云ヒ出サン事ヲ望ムナラン
 モ何人モ之ヲ云フヲ好マサル為張ハ多少苦惱セルモノト見
 ルコソ正シカラシク云々ト云ヘリ
 在支公使へ暗送セリ

六 一月十日 在中国芳沢公使ヨリ
 幣原外務大臣宛(電報)

北京中央政府ノ政情等報告ノ件

第一七号

(一) 往電第一四号ニ関シ

唐紹儀及章炳麟ハ長江筋ニ於テ隱然文治的法統派ノ頭目ト
 シテ策動シツアルハ最寄領事ノ報告ニ依リ委曲御承知ノ
 通りナルカ張紹曾ハ京津間ニアリテ同一目的ノ為メニ活動
 シ各方面ニ好都合ナル地位ヲ利用シ最近馮張及呉ノ調停ヲ
 試ミツツアリトノコトニテ最近張紹曾内閣ノ専ラ伝ヘラル
 ル所以ナルカ他方郭同等ノ議員ハ北京ニ非常議員會議ヲ開
 催シテ前記法統運動ニ連絡シ居レリ

(二) 往電第一四号許内閣ノ内輪喧嘩ニ付テ消息通ノ語ル所ニ

在支各領事及香港へ転電セリ

七 一月十一日

在中国芳沢公使ヨリ
 幣原外務大臣宛

徐樹錚銃殺ニ関スル劉驥業ノ談話報告ノ件

機密第四二号

(一月二十一日接受)

大正十五年一月十一日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

徐樹錚暗殺ニ関スル劉驥業談話ノ件

本件ニ関シ一月四日劉驥業カ段執政親近ノ某要人ヨリ聞込
 ミタル処トシテ語レル処左ノ如シ

一、徐樹錚ノ暗殺ハ馮玉祥ノ直接命令ニ依ルモノニシテ陸
 承武カ下手シタリト伝ヘラレ居ルハ全ク誤ナリ徐及其ノ
 一行ハ当日廊房ニテ張之江部下ノ国民軍ノ為全部捕縛セ
 ラレ同時ニ其ノ手荷物ハ一行ノ分ニ至ル迄悉ク検査セラ
 レタリ

国民軍ハ徐ヲ捕縛スルヤ直ニ馮玉祥ニ此ノ旨通知シ指揮
 ヲ仰キタルニ対シ馮ヨリ即時銃殺スヘシトノ返電アリ其

依ルニ于右任、易培基、馬君武、寇遐等ノ国民党系又ハ国
 民第二軍及第三軍方面ノ寧ロ急進派ハ許内閣ヲ利用シテ閣
 員ニ列シ許ヲシテ段執政ヲ排斥シテ此処ニ一氣呵成ニ国民
 會議ヲ開キ国民ト直接關係アル内閣ヲ實現セント画策シ
 (一) 往電第一四号ノ(三) 許ニ勸告シテ段下野ノ通電ヲ発セシ
 メ許モ亦總理ノ地位ヲ夢見ツツアル際ナルヲ以テ茲ニ段ニ
 下野ヲ實現セシメントセルモ段派安福系湯漪及陳宦等ハ極
 力之ニ反対シテ茲ニ往電第一四号ノ通り兩派ノ喧嘩トナリ
 許ハ一時姿ヲ晦マシタル位ナリトノコトナリ右ノ如キ次第
 ニテ中央政府ハ何等力モナク其ノ日暮シニ過シ居ル有様ナ
 リ

(二) 黄郛等国民軍第一軍方面ハ予テノ所謂黄郛撰行内閣ノ再
 現ヲ断念シ居ラス但シ第二第三軍方面ノ急進的方法ヲ不可
 トシ矢張り旧約法ニ依ル法統説ヲ為シ之レカ為メ各方面ノ
 諒解成立スル迄ハ段ノ留任ヲ希望シ居ル次第ナリ

(四) 以上ノ如キ内情ニ依リ今後ノ發展ハ往電第一四号ノ如ク
 固ヨリ各方面勢力ノ変遷ニ依リ変化ヲ来スヘク尤モ法統問
 題ハ旧約法系ノ主張タルト新憲法ノ主張タルトヲ問ハス益
 々盛ントナル模様ナリ

一 北京政府ト一般政況 八

ノ結果直ニ銃殺セラレ次テ從者一行ハ釈放スヘシトノ電
命来リ一行ハ漸ク釈放セラレタリ

二、馮カ徐ノ暗殺ヲ計画シタル原因ハ今回徐カ入京シタル
以来段執政ニ三回面会シ初メ二回ハ欧米視察ノ報告ヲ為
シタルカ第三回目ニ目下ノ政局ニ言及シ徐ハ段ニ對シ
「段執政ハ已ニ軍事的ニモ政治的ニモ絶望ノ状態ニ在リ
然レトモ外交方面ニ於テハ今尚相当ノ信望ヲ繼キ居ルニ
付此ノ際政局打開ノ方法トシテ段ヨリ共產主義嚴禁ノ命
令ヲ公布シ之カ取締ノ勵行ニ努力スルニ於テハ列國ハ必
ス段執政ノ方針ニ賛成シ施政上援助ヲ受クルコト大ナル
ヘシ」トノ趣旨ヲ進言シ同時ニ馮ノ共產的遺口ヲ攻撃シ
タル事実アリ然ルニ右事実カ許世英ノ耳ニ入り許ヨリ馮
ニ通シタル為馮ハ甚シク激昂シ其ノ結果遂ニ今回ノ凶行
ヲ決行スルコトトナリ偶々昨年来陸承武カ馮ノ許ニ食客
トナリ國民軍ニ籍ヲ置キ居ルヲ利用シ陸カ私仇ヲ報シタ
ル体ニ繕ヒタルモノナリ元來陸承武ハ少シ呆然シタ人物
ニテ且度胸モ無ク仇討ヲ為スカ如キ氣力アル人物ニ非ス
云々

右聞込ノ儘何等御参考迄報告ス

生等反唐派ノ侵入ニ備フコトトナリ竜雲ヲ昆明鎮守使兼東
北辺防督弁ニ胡若愚ヲ蒙自鎮守使兼東南辺防督弁ニ張汝驥
ヲ昭通鎮守使ニ夫々任命シタリ大理、騰越、思茅ハ前頭反
唐派ニ對スル問題解決ヲ俟テ設置シ東北、東南兩督弁所属
軍隊ヨリ分チ配属スル考ニシテ未タ各鎮守使ハ任命セサル
モ唐ノ胸中ニハ大理ニ陳維庚ヲ騰越ニ胡瑛ヲ思茅ニ李選廷
ヲ擬シ居レル趣ニシテ(三)財政ハ極端ニ緊縮方針ヲ取り軍人
給料ノ未払金中支出決定額九十萬元ヲ現金及債券ニテ支払
フコトトナリタルニ付一層困難ニ陥ルヘキモ前記軍縮ニ依
リ漸次救済シ又富滇銀行ノ紙幣ノ價格恢復策トシテ将来ハ
一切財政司ヨリ同行ニ對シ融通ヲ求メス極力紙幣ヲ回収シ
テ発行高ノ減少ヲ計リ且ツ外貨(外國品及外省品)中主ト
シテ奢侈品ヲ條約ニ抵触セサル方法ヲ以テ輸入ヲ制限シ
テ貿易ノ入超ヲ防ク考ニシテ将来約六ヶ月ヲ期シテ財政ノ
基礎ヲ固メ度シ云々ト語レリ

本信写送付先 在支公使、在広東及在成都總領事代理、
在重慶事務代理、台湾總督

九 一月十三日

在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

一 北京政府ト一般政況 九

八 一月十二日 在雲南槽谷領事ヨリ
幣原外務大臣宛

雲南省憲法制定及ビ軍事財政計画ニ関スル唐
繼堯ノ談話報告ノ件

機密公第一六号

(二月六日接受)

大正十五年一月十二日

在雲南

領事 槽谷 廉二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

雲南省憲法制定並ニ軍事財政計画ニ関スル件

昨十一日唐繼堯ハ(一)過般開催シタル雲南内政會議ニ於テ省
憲法制定ニ決定シテ現在之カ準備中ナリ(二)軍事ハ精兵主義
ニ則リ広西ヨリ掃蕩シタル不良兵ヲ悉ク淘汰裁撤シ新ニ訓
練ヲ加ヘ現在ノ三十六團ヲ約半減シ二十團(歩兵約十八團
特科約二團)ト為シ省内ニ六鎮守使ヲ設ケ昆明(雲南省
城)、蒙自、昭通、大理、騰越、思茅ニ駐在セシメ別ニ東
北辺防督弁(羅平ヨリ以北ノ雲南省ト貴州、四川兩省トノ
境界線一帶ノ防備)東南辺防督弁(羅平以南雲南省ト貴
州、広西兩省トノ境界線一帶ノ防備)ヲ置キ金漢鼎、范石

吳佩孚ノ動靜等武漢周辺ノ情勢報告ノ件

機密第一七号

(一月二十九日接受)

大正十五年一月十三日

在漢口

總領事 高尾 亨(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

武漢ニ於ケル現局ニ関スル件

本件ニ関シテハ屢次電報シ置キタルトコロ別紙ノ通補足報
告申進ス

本信写送付先 在支那公使 在奉天、天津、濟南、上海

各總領事、在南京、長沙、九江、蕪湖、

宜昌各領事

(別紙)

武漢ニ於ケル現局

(一)吳佩孚ノ通電 客臘三十日打発セラレタル吳佩孚ノ討賊
連軍事宜取消法統恢復ノ通電ニ對シ其後全国軍政兩界ノ巨
頭ヨリ陸統法統恢復賛成電報来リ一時吳ハ河南湖北湖南江
西安徽五省ノ軍務監督ニ推戴セラルヘシトノ説アリ又段祺
瑞ハ長江方面ノ時局ヲ收拾セムカ為メ吳ヲ河南湖北湖南江

西安徽浙江福建ノ七省治軍使タラシムヘシト電報シ来レリトモ伝ヘラレタルモ四匪ノ情勢ハ今尚ホ呉派ニ有利ニ展開スルニ至ラス該通電ハ張作霖ノ勢力頹廢シ奉天軍ヲ完全ニ関外ヘ驅逐シタルヲ以テ同志相互ニ排擠スルノ要ナキヲ以テ挙国一致シテ国是ヲ定メ度シトアルモ之ヲ熟詭玩味スルトキハ張作霖ト提携シ政策上ヨリ見ルモ又個人的關係ヨリスルモ氷炭相容レサル馮玉祥ニ對抗セムトスル意図ヲ表明セルモノナルコトハ容易ニ看取セラルルトコロナルカ東北ノ政局一変シ四面楚歌ノ悲境ニ陥リタル馮玉祥ハ下野ヲ声明シ露国入りノ報ヲ受ケテ一時得意トナリ張作霖失脚シ馮去ルモ国賊段祺瑞アリトナシ依然討賊連軍總司令部ヲ存置セシメツツアリ一面孫伝芳トノ連絡思ハシカラス之カ為メ參謀処長蔣方震ノ如キ絶ヘス南京方面ヘ往来シ殆ント席ヲ温ムル邊アララス昨今呉ハ湖北軍ヲ出動セシメテ河南ヲ攻略セム為メ已ニ湖北第一師ノ一部ハ河南省境ヘ進出シ頻リニ豫鄂ノ風雲險惡ナリトノ伝説アルモ第一師長冠英傑ノ如キ今尚ホ漢口ニ在リ悠々自適シツツアリ蕭耀南ト岳維峻トハ今尚ホ完全ナル友好關係ヲ保持シ互ニ相侵サムトスル意思ナキハ明瞭ナル事実ナリ呉カ客秋出蘆来漢以來幾度河南進

近ヨリ京漢鐵道沿線ニ駐防シ飽衣暖食シツツアルカ元来湖北軍隊ハ土地確固ニシテ寒氣激シキ河南ヘ出動ヲ好マス呉ハ如斯内外両面ヨリ見ルモ河南進出困難ナル暗礁アリ加フルニ呉ハ最近殆ント軍費金欠乏シ総ニユル方法ヲ以テ籌備ニ腐心シツツアルモ何レモ湖北省民ヨリ猛烈ナル反対ヲ受ケ失敗ニ終リ現在京漢鐵道南段武漢電話電報局ノ收入ヲ始メ各師長等ノ阿片税ノ一部ヲ天引スル外大部分蕭耀南ヨリ補給ヲ受ケ漸ク毎月討賊連軍總司令部ノ費途に充テツツアルカ如キ貧弱ナル財政状態ニアリ出動命令ヲ奉シタル軍隊ハ多額ノ出動費ヲ得スハ前進スヘクモアラス為之呉派一部ニ於テハ最近湖北軍ノ出兵ヲ断念シ湖南軍ヲ動員セムト画策スルモノアルカ如キモ後者ヲ選フコトハ前者ヨリ更ニ至難ナリ昨今頻リニ河南湖北両省ノ急ヲ報セラルルモ河南進寇ノ如キ絶對ニ望ミナシト一般ニ觀測セラレツツアリ

(二) 呉佩孚ト張作霖トノ合作 呉佩孚周匪ノ人物就中張志潭一派ノ如キ郭松齡ノ挙事前具出廬ノ標幟ヲ變更シ馮玉祥討伐ヲ目論ミ呉ト張作霖トヲ握手セシメント計画シタルモ奉天派ノ勢力崩壞ト共ニ一時立消トナリタルモ最近張作霖ノ勢力挽回ト共ニ呉張ノ連繫說再燃シ張作霖ノ代表張景惠ハ

軍ヲ計画シテ失敗ニ終リタルハ述上蕭及岳ノ提携ニ依ルコトハ勿論ナルモ又一面ニハ湖北軍隊ノ内部的原因アリ即チ蕭耀南ハ民国十二年以來公然阿片吸食ヲ許可シ軍警督察処ト称スル阿片税徴収機關ヲ設ケ毎月百二十三萬元ノ特捐(阿片税)ヲ徴収シ之ヲ省内ニ於ケル各師長及旅長等ニ分配シツツアルヲ以テ上ハ師長ヨリ下ハ一兵卒ニ至ル迄充分恵マレ軍餉金ノ豊富ナルコト支那全国稀ニ見ルト称セラルルトコロナリ各師長等ハ各自己ノ部下軍隊ノ駐屯地ヲ利益範圍トシテ毎月莫大ナル利益ヲ収メツツアリ一片ノ功名心ニ驅ラレ前途ノ成功覚束ナキ呉佩孚ノ命ヲ受ケ河南ノ曠野ニ身ヲ晒スコトヲ好マサルモ其出動命令ニ対シテ旧来ノ關係上之ニ服従セサル能ハス武漢付近ニ駐屯シ居リタル第二十五師湖北第一師湖北第一混成旅ハ命令一下兎モ角出動準備ヲ整ヘタルモ阿片税ノ収獲多キ地域ニ駐屯スル第八師第十八師第十八混成旅ノ各軍務長官ハ軍隊ノ出動ノ為メ自己ノ勢力範圍ヲ他ニ奪ハレルコトヲ虞レ省境ノ防備ハ一日モ忽ニスルコト能ハサルヲ理由トシテ全部下江セシムルコトヲ肯セス呉ヨリ若干ノ出動費ヲ得テ第十八混成旅ヲ除キ他ノ部隊ハ不性不性ニ其半数ヲ下江セシメタルモ目下武漢付

一兩日前来漢シ目下呉佩孚ト
一、約法ヲ恢復シ臨時正副大總統ヲ選舉ス
二、河南陝西兩省長ハ呉佩孚ヨリ推薦ス
三、山東ハ張宗昌ニ依テ維持ス
四、孫岳ヲ陝西ヘ復帰セシメ王世珍ヲ直隸督弁ニ任命ストノ四ヶ条ノ条件ヲ協議中ナリト伝ヘラレツツアリ
(三) 賄選議員ノ活動 呉佩孚ノ政綱ハ憲法擁護ニアリ撰政内閣ヲ恢復シ法統ヲ維持スルコトニハ敢テ反対セサルモノノ如シ呉景濂張伯烈ヲ首領トスル在漢百數十名ノ賄選議員ハ今次呉佩孚ノ通電ト全国軍政兩界ノ回電ニ刺戟セラレ本月初旬呉及張連名シテ憲法恢復ノ通電ヲ發シ昨今再ヒ活動ヲ開始シ国会ノ自由召集ヲ主張シ胡祖舜范鴻鈞李載廣黃白芳等ヲ起草委員トシテ本月七日

行ス
一、民国十三年ノ合法國務院ヲ恢復シ大總統ノ職權ヲ撰
二、国会ヲ自由召集シ六月間ニ後任大總統ヲ選舉シ同時ニ撰政國務院ハ衆議院議員ヲ改選シ法律ニ依リ六ヶ月ニ議院ヲ召集ス
三、新衆議院召集ノ日ニ旧衆議院議員ヲ法律ニヨリ解職

ス

四、憲法中改正ヲ要スヘキ点アラハ憲法會議ニ依テ修正ス

ノ四ヶ条ノ宣言ヲ発シ風雲ヲ湧起セムトシツツアリ目下天津方面ニアル余党ハ在漢議員ノ北上ヲ求メ北京ニ於テ國會ヲ再会セムト德源シツツアルモ張伯烈ノ如キ各方面ノ諒解成ラス段祺瑞ノ下野實現セス内蒙古ニ輜晦シツツアル馮玉祥カ何時再ヒ北京ニ現ハレ彼等ニ圧迫ヲ加フルヤ保シ難キヲ以テ各方面ノ妥協完カラサル以前ハ決シテ北上セスト明言シツツアルモ当初呉佩孚ヲ利用シテ兎モ角モ今日ノ形勢ヲ釀成シタルカ最近呉ノ無力ヲ侮ラムトスル氣声アリ主義節操ナキ彼等ハ或ハ中央ノ局面變化シ身辺ノ保障ヲ得ラルルニ於テハ呉佩孚ト絶縁シテ何時入京スルヤモ測ラレス

一〇 一月十三日 高木陸郎ヨリ
木村外務省亜細亞局長宛

孫潤宇ノ時局情報進達ノ件

大正十五年一月十三日

(二月二日接受)

高木 陸郎

外務省亜細亞局長 木村 銳市殿

ト確信スル一面ニ於テ赤化ヲ撲滅スルヲ以テ自ラノ任務ト為シ居レリ其詳細ハ鷺沢氏帰國ノ上足下ニ能ク転達スル処アルベシ

一 張作霖ハ近来非常ニ覺悟ス郭軍失敗後東省ノ勢力ハ当然維持スルヲ得ベク旧派ノ勢力恢復等ハ此間即チ問題ニ非ザルナリ

一 李景林ハ赫团长ノ裏切ノ為ニ失敗セルモ尚ホ二、三万ノ兵ヲ擁シテ滄州ニ退却シ已ニ張宗昌ト連合シ再攻ヲ準備シ居レリ

一 張宗昌ハ過般其子ヲ派シテ来漢セシメ服従ヲ表示シ其子ヲ以テ人質ト為セリ李景林亦早く既ニ人ヲ派シテ来漢セシム、即チ此ノ間張李連合甚ダ了解アルナリ

一 國民二軍即チ河南軍隊ハ近来較ヤ馮玉祥ト接近ス然レトモ呉帥ノ軍隊ニシテ國民二軍ノ名ヲ用ユルモノ尚四師ノ多キアリ(陳文釗師ノ如キモ今ハ已ニ靳雲鵬氏ノ統制ニ歸ス王為蔚師、田維勤師、王維城師)頃者皆山東省南部ニ軍ヲ進ミ斬ノ指揮ニ歸シ居レリ而シテ其他河南軍ノ精粹ト称スル李紀才ノ如キモ今ハ已ニ張宗昌ノ為ニ擊破セラレ樊鍾季師ノ如キハ山西省ヲ得ント欲セルニ因リ閻

一 北京政府ト一般政況 一〇

拜啓

別紙ハ漢口ニ在ル呉佩孚幕下ノ孫潤宇氏(前内閣書記官長)ヨリノ来信ニ有之時局御參考ノ一助トモ存シ翻訳ノ上差出申候間御内覽被成置下度候 敬具

(別紙)

拜啓

光陰矢ノ如ク亦小春近ク御指教ヲ仰ガン為メ心ハ遠ク錦地ニ馳セ居レリ、足下御起居御佳勝ノ御事ト奉拝察候此ノ間突如江浙義軍起リテヨリ呉玉帥ハ各方連合軍ノ推戴ニヨリテ漢口ニ来リ總司令部ヲ組織セリ、政治問題尚ホ研究中ニ在ルヲ除クノ外軍事上ノ布置ハ日ニ充実ス小弟聘ニ応シテ外交顧問トナリテ外交処ニ任命セラレ東三省ノ事宜及日支關係ノ各事ハ凡テ小弟ノ処理スルコトトナリ居レリ近時高尾総領事、鷺沢氏当地ニ来ラレシニ際シ接洽スル処アリシニ一切ノ事日ニ順調ニ進行セリ呉帥ノ対日感情亦日ニ了解ヲ見ルニ至レルハ洵ニ東亞ノ幸福ニシテ尚足下ヨリモ時々御指教賜ハラント希望ノ至ニ不堪候茲ニ近時ノ各事情ヲ左ニ列挙シテ御參考ニ供シ候

一 呉玉帥ハ東亞永久ノ和平及中日ノ徹底的提携ヲ必要ノ因

錫山ノ為ニ擊破セラル、鄧室珊師ノ如キモ此次李景林軍トノ戦ニヨリ亦頗ル損失ヲ蒙レリ、岳維峻ノ兩師ハ比較的整頓シ居ルモ開封一帶ノ維持ニ専心スル外亦他ヲ圖ラントスルノ実力ナク其ノ余ニ至ツテハ即チ皆烏合ノ衆ニ屬シ遑フニ足ラザルナリ

一 馮玉祥今次李軍ニ戰勝シ天津ヲ占領シ固ニ較ヤ利ニ順フ、然レトモ受クル所ノ損失尠シト為サス

唯タ背後別ニ人ノ在ル有ルニ過キス之レ大ニ注意ノ価値アリ

一 安福党人ハ一年以來悪ナササルナク、今亦失敗ス、且ツ曾毓雋、姚震皆逮捕セラレ近時聞ク所ニヨレハ已ニ死殺セラレント之レ乃チ因果応報ト云フヘシ

一段祺瑞ハ本ト安福党ノ傀儡タルガ今亦馮党ノ傀儡トナル、唯ダ官アラハ其ノ何タルヲ問ハス就カントスルモノニシテ人格地ヲ掃ヒ無恥ノ尤者ト謂フヘキナリ而カモ白人方面今日モ尚ホ其ノ勢力ヲ有スルヲ迷信スル者アルカ否ヤ、

之ヲ総スルニ時局ハ已テニ混戦状態ニ入り、将来、変化シテ如何ナル地歩ニ到ルヘキカ予測シ能ハサルモ恐クハ

今後ノ問題ハ当サニ赤化ト反赤化ノ方面ニ移ルヘシ
今後赤化シテ東瀋センカ殊ニ心配ニ堪エス、我東亜ノ中
日兩國ハ当サニ進ンテ一層ノ努力ヲ為スヘキナリ
閣下如斯大局ニ関シテハ成竹ヲ有シ必ス我ヲ指教スヘキ
モノアラン終ニ臨ミ多望ナル新年ト目下ノ御幸福トヲ企
禱致候 又拜

弟 孫 潤 字 梓

一一 一月十四日 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚ハ当分漢口ヲ離レ難キコト等ソノ近状

報告ノ件

第九号

(一月十五日接受)

吳佩孚ノ近状ニ関シ其後ノ情報ヲ綜合スルニ大要左ノ通
(一)近頃吳ノ洛陽行ヲ伝フル者アルモ吳ニ於テ其ノ必要ヲ認
メサルノミナラス時局ノ發展ニ伴ヒ当分当地ヲ離レ難キ状
態ニ在リ
(二)湖北軍隊カ河南ニ進出ス可シトノ説モ事實ニ非ス河南省
内ニ於テハ昨今岳維峻ニ対シ反旗ヲ翻ス者アリ為ニ岳ヨリ
ハ吳ニ対シ帰順ノ意ヲ表シソノ指揮ニ從フ旨ヲ申越セリト

ルヤノ形跡アリ元來張志潭ハ曾テ徐世昌總督時代ニ奉天ニ
テ總參議ヲ二年程勤メ其ノ当時張作霖トモ知合ニテ爾來兩
者ノ關係惡シカラストノ事ナリ

(三)昨今吳ノモトニハ各省ヨリ頻ニ代表者ヲ送り来リ會議ヲ
重ネツツアル模様ニ付中央政局ノ变化如何ニ依テハ或ハ吳
自ラ北京ニ乗込ム事無シトセス但シ馮玉祥ノ現状ニ対シテ
ハ多大ノ注意ヲ払ヒ居レリ

(四)当地ノ学生運動ハ吳カ不穩分子ヲ嚴重取締リ共產黨類似
ノ手合ヲ容赦ナク逮捕又ハ放逐セル為當分平穩ナリ
在支公使、天津、奉天、濟南ニ電シ上海、南京、杭州、
長沙ニ暗送セリ

一二 一月十五日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ト吳佩孚トノ關係阻隔シ吳佩孚ガ声望

ヲ加ヘツツアル狀況報告ノ件

第一号

(一月十六日接受)

漢口ニ於テ吳佩孚、齊燮元上海ニ於テ唐紹儀、章太炎等カ
呼応シテ法統恢復ヲ主張セルニ対シ孫伝芳昨今連省自治ヲ
主張シ始メタル処右ハ何レモ自己ノ立場ヲ標榜スル議論ニ

云フ

(三)張作霖トノ連絡ハ一月十一日其ノ代表張景惠來着以來吳
ニ対シ張志潭仲介者ト成リ頻ニ議ヲ凝シツツアリ其ノ今日
迄ノ要領ハ(イ)山海關ノ魏益三軍ヲ如何ニ処置ス可キカ(ロ)李
景林、張宗昌ノ兩軍カ合体シテ天津ヲ奪回セントスル現狀
ニ対シ吳ト連絡アル「孫」方ヲ如何ニ進退セシム可キカ(ハ)
中央政局ニ対シ如何ナル方針ニ出ツ可キカト云フニアル由
ナルモ未タ決定ニ至ラス

(四)中央政局ニ対スル吳ノ意見ハ段執政ヲ速ニ隱退セシメ黃
郛若ハ顔惠慶ヲシテ攝政内閣ヲ組織セシメ法ニ依リ大總統
ヲ選舉スト云フニアリ

(五)是ニ対シ当地ニ在ル国民党系議員等ノ意見ハ中央政局ハ
宜シク民國十三年當時ノ合法組織即チ曹錕大總統ノ下ニ顏
惠慶内閣ヲ復帰セシム可シ等云フニアリテ吳ノ意見ト一致
セス

(六)北京ノ黃郛ヨリハ当地ノ孫潤宇ニ書ヲ寄セ吳佩孚トノ連
絡ヲ希望シ速ニ孫ニ上京セン事ヲ求メ来レリト云フ(此ノ
点極秘ニ願フ)

(七)張志潭ニ対シ張作霖ヨリ奉天省長タラン事ヲ求メ来リタ

止リ實際上ハ結局孫吳兩人実力ノ優劣如何ニ依リ解決セラ
ル可ク右ニ関シ当地交渉員ノ談ニ依レハ孫伝芳ハ從來馮玉
祥ト連絡シ中央政局ヲ解決セントスル腹案ナリシ処馮ノ下
野ニ依リ相談相手ヲ失ヒ一面吳佩孚トノ關係益々阻隔シ来
レル為目下ノ処中央政局ニ関シ余リ議論スルヲ好マス漠然
連省自治ヲ標榜スルニ至リタルモノナルカ之ニ反シ吳佩孚
ハ馮玉祥ノ下野並ニ奉天派トノ連絡ニ依リ最近頗ニ声望ト
威力ヲ加ヘ特ニ江蘇並ニ浙江土着軍カ内心孫ヲ離レテ吳ニ
向ヒ馮玉祥ノ部下モ吳ニ同情ヲ表シ来レル結果実力比較上
孫ハ最早吳ノ敵ニ非ス從テ中央政局ハ今後吳佩孚ノ意思ニ
依リ決定スルモノト觀察セラルルト同時ニ孫伝芳ノ地位ハ
永続スルモノト認ムル能ハストノコトナリ尚顧維鈞ハ孫伝
芳、陳陶遺ニ会见ノ為昨十四日上海ヨリ当地ニ来レル処其
ノ使命ハ差当リ不明ナリ

公使、奉天、天津、漢口、上海、濟南、青島ニ電シ杭
州、蘇州、蕪湖、九江ニ暗送セリ

一三 一月十五日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

滿州獨立宣言ノ真否ニツキ張作霖ニ確カメタ

ル件

第二〇号

(一月十六日接受)

張作霖ハ滿州独立ヲ宣言シ其ノ旨各県知事ニ通令セリトノ風説ニ関シ昨十三日夜本官張ト会谈ノ序テヲ以テ確カメタル処許内閣組織ノ当時北京政府ノ来電ニ対シ中央部赤化ノ傾向スノ如ク顯著ナルニ於テハ爾今中央ノ命令ヲ奉セサルノ止ムナキニ至ル可キ旨電報セル事アルモ右ノ如キ通電ヲ發セシ事實無シ云々

北京、哈爾濱、上海、浦潮、吉林、長春、安東、牛莊へ転電セリ

一四 一月十六日 在奉天吉田總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

滿州独立宣言、下野問題ニツキ張作霖ト会谈ノ件

第二三号

爾来下野問題喧シキヲ以テ態ト張作霖訪問ヲ差控ヘ居リタルカ最早一段落ノ頃ト考ヘ善後策ニ就キ相談ヲモ試度キ考ニテ昨十四日夜往訪ノ処張ハ過般米種々心配ヲ掛ケタリトテ一応謝意ヲ表セル後東三省独立ノ通電ヲ發セリヤトノ本官ノ問ニ対シ段執政左右ノ輩近時国民党ト結ヒ其言動稍モ

カ次テ言ヲ和ラケ自分近頃漸ク老ノ至レルヲ感シ久シク任ニ堪エサルヲ以テ後継ヲ得テ去ラント欲スルノ情切ナリ且俊陞張作相等良ク自分ニ代ルヲ得ヘク自分モ亦去ルニ臨ミテ後ヲ良クスル相当ノ用意モアリトテ何時ニナク元氣無キ体ニテ語り出テ一兩日前吉林代表来リ頻ニ自分ヲ慰撫シ留任ヲ希望セルニ付自分之迄ノ行政方針ヲ述ヘ吉敦鉄道問題ニ付契約ノ地方開發以外何等ノ秘密ナク其ノ契約条件曾テ其類無キ程有利ニ締結セラレタル次第ヲ申聞ケタルニ彼等モ意ヲ諒シテ去レリト云ヘルニ付該問題ハ最早此ノ儘ニ放任シテハ如何ト往電第一七号ノ趣旨ヲ申聞ケタルニ交通部カ彼ヲ売国奴呼リヲナスヲ以テ甚タ不都合ナリトナシ何カ發表シ度キカ如キ口吻ヲ漏セシカ兎モ角此ノ際ハ威敵アル緘黙ヲ守ルニ如カストナスニ一致セリ尚下野問題ニ付本日黒龍江省代表来リ管ニテ三省代表打揃イテ張作霖推戴ノ意ヲ明カニセシメタル後張ノ態度ヲ決定スルモノナルヘク下野問題解決セサレハ諸政縮ニ就カサルヲ以テ此数日内ニハ本件結果ヲ觀ルナラント存セラル

北京 滿州各領事へ転電セリ

スレハ赤化極端ニ走ル傾向アルヲ以テ先頃許内閣組織ノ頃北京政府来電ニ対シ中央政府ニシテ反省スルナクンハ東三省ハ遂ニ其ノ命令ヲ奉セサルノ已ム無キニ至ラント返電セラル事アルモ特ニ東三省独立表示通電ヲナセル事ナシト云ヒ郭松齡事件善後処分ニ言及シテ最モ沈ミ勝チニ自己既往ノ来歴ヨリ闕朝璽、張煥相其他腹心ヲ今日迄引上ケ来レル種々ノ来歴ヲ述ヘ多年生死ヲ共ニセル郎党今ニシテ自分ニ異心ヲ抱クニ至ツテハ殊ニ長歎ノ外ナシト云ヒ(闕朝璽以下款ヲ郭松齡ニ通セル書面一束郭松齡軍司令部ヨリ押収セルカ以上ハ張カ右書翰ヲ見テノ感想ナラン)永田代議士ガ張ニ対シ現内閣破壊ノ為ニハ張カ町野ニ百万円交付セリトテ痛ク憤慨ノ面持ニテ貴国ニハ交友多ク平時特ニ貴国政府ノ好意ニ対シ感謝ノ念ヲ抱ク自分ニ対シ貴国代議士タル者カ噂ト雖モ斯ル言ヲナスハ甚タ以テ心外ニ堪エス町野ハ性疎ニシテ小心ヲ加ヘズ偶々其ノ言動常軌ヲ逸スルモノアルモ自分年来ノ旧知個人ノ情特ニ深キモノアリ故ニ自分モ亦其厚意ヲ多トスルノミ自分今ヤ内ヲ治ムルニ忙シク外ヲ顧ミル暇非ラス由来貴国人ノ自分ノ存意ヲ了解セサルモノ多キハ最モ不快千萬ナリトテ稍興奮色ヲ為セシ

一五 一月十六日 在漢口高尾總領事ヨリ 幣原外務大臣宛

蔣方震等渡日及ビ蔣ト吳佩孚ノ關係ニツキ報

告ノ件

機密第一九号

(一月二十九日接受)

大正十五年一月十六日 在漢口

總領事 高尾 亨(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿 蔣方震等渡日ニ関スル件

吳佩孚拳事以来吳ヲ助ケ殆ント一人ニテ都テヲ切回ハシツツアリシ參謀処長蔣方震ハ近来事毎ニ意ノ如クナラサルニ不平ヲ抱キ最近辭職シ目下上海ヨリ蔣ノ辭職ノ原因トシテ吳佩孚側人物ノ語ルトコロニ依レハ昨年十一月下旬張作霖トノ提携説盛ナル際蔣ハ參謀股同ヲ吳ノ代表トシテ日本へ派遣セムコトヲ提議シタルモ吳ハ自分(吳)ノ代表トシテハ余リニ貫禄少シトテ之ニ賛成セサリシモ兎モ角日本へ派遣スルコトナリ土肥原中佐ト同道下江シテ日本へ赴キタル由ナルカ蔣ハ是ヨリ殷ト共ニ吳ニ対シ不快ノ感ヲ抱キ殊ニ昨今張景惠張作霖ノ代表トシテ来漢シ反對派タル張志潭

等ノ斡旋ニヨリ吳及張ノ合作殆ント成ラムトスル為愈々辭職ニ決シタル由ナリ

原来蔣ハ吳トハ同列ノ人物ニシテ国民党系ニ属シ張其鏗等ヲ率ヒ司令部側ニ重キヲナシタル人物ニテ最近孫伝芳トモ相当了解アルモノノ如ク当地ニ於テハ蔣及殷ハ孫伝芳ノ代表トシテ近ク別府へ赴キ更ニ東京へ赴クヘントノ説アルトコロ日本ニ於ケル吳佩孚ノ名声如何ニ依ツテハ或ハ自ら吳ノ代表ト称スルヤモ計ラレサル処現在吳トハ前述ノ通全然關係絶チタルモノニ付右ノ事情ハ予メ御含ミ置カレ度シ尚ホ往電第九号ノ通り吳佩孚ヲ中心トスル旧直隸派ト蔣及張等ノ率イル国民党系トハ政見ニ対シ甚タシク意見ノ隔絶アリ司令部内部ノ暗闘絶ヘス張及吳ノ提携ノ如キ旧直隸派人物ノ優勢ヲ語ル一端ニシテ今後ノ成行如何ニ依ツテハ蔣已ニ去リタル今日或ハ国民党系人物ハ全部吳ヨリ遠サカルニ至ルヤモ図ラレサル現状ナリ右報告ス

写送付先 在支公使、天津、濟南、奉天、上海總領事、

南京領事

一六 一月十七日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

(一)以上ノ諸勢力ノ外特ニ茲ニ注意ヲ要スルハ往電第一七号(二)ノ内ニ述ヘタル極端分子ニシテ前記段擁護派及ヒ法統派ト全然主張ヲ異ニスルモノナリ右ハ大体国民軍特ニ第二、第三軍及ヒ国民党等並ニ大学派トモ称セラルル北京大学ノ他ノ有力ナル国民党系学校ヲ中心トスル学校ヲ背景トスルモノニシテ既ニ報告セル通り許世英内閣ニ於テハ于右任(未タ就職セサルモ)ヲ中心トスル国民党系閣員ハ大体此ノ色彩ヲ有ス此ノ一派ハ所謂孫文主義ニ依リ直ニ国民會議ヲ開催シ直接人民政治ヲ行ハントスルモノニシテ進ンテ露國ノ例ニ倣ヒ委員制ヲ布カントスル一派ナリ彼等ハ客年往電第一〇七五号ノ(一)及第一〇八五号(往電第一〇九二号参照)ノ国民大会ノ際ノ計画ニテハ曹錕及段祺瑞ヲ民治主義反對者トシテ死刑ニ処シ直ニ于右任、鹿鍾麟、李石曾、徐謙、顧孟余等ヨリ成ル委員制内閣ヲ任命スルコトニ決定セルモ国民軍中黃郛等ノ温健派優勢ニテ結局国民軍トシテハ黃郛ノ摂行内閣ヲ実現スルコトニ決シタル次第ナルカ今回于右任等ハ許世英ヲシテ内閣ヲ組織セシメ段ヲ追ヒ次テ許ヲ追ヒ一氣呵成ニ予テノ目的ヲ達セントシタルモ段擁護派ニ妨ケラレ段ノ下野ハ実現セスシテ今日ニ至リ結局于右任

中央政局ヲ繞ル段擁護派、約法派、護憲派及
ヒ極端分子ノ動靜ニツキ報告ノ件

第三一号

(一)往電第一七号ノ(一)及ヒ(二)ニ関シ

段ヲ支持スルモノニ新旧安福系ヲ中心(龔心湛、陳威、湯漪等)トスル純粹ナル段擁護派ノ外法統回復迄段ヲ留位セシメントスル所謂法統派有リ其ノ内旧約法ヲ回復セントスル所謂約法派ト曹錕ノ憲法ヲ回復セントスル所謂護憲派ニ分ツヘク前者中ニモ黎元洪ノ在任期間ヲ復活セントスル一派ト単ニ旧議員カ約法ニ基キ集合シテ新ニ大總統ヲ選舉スヘントナスモノ有リ黃郛摂行内閣説ハ後者ニ属シ或ハ又顧惠慶ヲシテ内閣ヲ組織セシメントスルモノ有リ他方所謂護憲派ハ吳佩孚ヲ武力の中心トシ唐紹儀、孫洪伊、章炳麟等旧国会議員ノ連絡スル運動有リ之等法統派ノ運動ハ今後山東方面ノ戦局ソノ他張作霖、吳佩孚ノ勢力結合若ハ消長ノ關係ニ由リ影響ヲ受クヘキハ勿論ナルモ国民各軍ノ気色面白カラサルト共ニ護憲派ヲ中心トスル勢力ハ漸次増進シツツアリト一般ニ考ヘラルルト共ニ何レニスルモ段ノ執政時代ハ遠カラス終焉スヘク見ラレ居レリ

ハ北京ヲ去リテ西山ニ引込ミタルカ彼ハ国民軍就中第二第三軍方面(鄧宝珊、李紀才)等ト連絡シテ愈々段反對及法統回復反對ノ立場ヲ鮮明ニセリ彼等ハ国民党中特ニ左傾派タル徐謙、李烈鈞ヲ初メ大学派タル李石曾、李大宗、顧孟余等ト連絡ヲ取り北京、上海、広東等ヲ中心トシテ各方面ニ対シ中ニ在リテハ国民政治專制反對外ニ在リテハ反帝國主義不平等条約取消ノ如キヲ旗幟トシテ徹底的ニ支那ノ改革ニ向ハントスルモノナリ之等ノ内極端ナルモノハ露國側ト連絡シ露國ハ又彼等ニ依リテ自由ニ自己ノ宣伝ヲ行ヒツツアル次第ナリ之等ノ一派ハ許内閣中ニ於テ于右任以外ニ既ニ就職セル易培基、寇遐等ヲ代表者トシ一斑ノ勢力ヲ政府内ニ有スルモ前記ノ通法統派ノ擡頭ト共ニ結局中央政府ヨリ其姿ヲ隠スヘキコトト成ルヘキモ今後思想的ニ社会的ニ愈々勢力ヲ張り輿論ヲ背景トシテ政治上ニ於テモ常ニ隱然タル大勢力ヲ形成スルモノト認メラル

(二)以上ノ情勢中ニ端ナクモ日本ノ満州出兵問題起リ右ハ前記ノ如キ主張ヲ有スル極端派ニ依リ激烈ナル排日運動ノ口実ニ利用セラレ往電第二四号汪公使ノ報告ハ逸早く外部ニ漏レ私ニ段驅逐ヲ計画シツツアル彼等極端派ノ逆用スル処

トナリ一般民論ハ各方面ノ煽動ニ依リ放逸ナル方面ニ走り居リ彼等民党及ヒ国民軍ハ自己ノ内政上ノ立場ヨリ其有スル各種ノ機関ヲ通シ排日及排外ヲ宣伝シ居ル有様ニテ目下ノトコロ日本側ノ釈明ハ容易ニ耳裡ニ入ラサル有様ニシテ彼等ノ運動ハ今後益々世間ノ耳目ヲ聳動スヘク此運動ニ最モ油ヲ注キ居ルハモトヨリ「カラハン」自身ニシテ日露ノ關係カ日支關係ニ直接重大ナル影響ヲ及ホスハ勿論ニテ此点ニ関スル措置ニ付テハ十分ニ考慮ノ要アリト思考ス
在支各領事及香港へ転電セリ

一七 一月十八日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ノ下野、奉直提携等ニ関スル楊宇霆談

話報告ノ件

第二五号

楊宇霆昨十七日来訪ソノ談ニ依レハ一兩日来東三省ノ代表ヲ集メ頻ニ會議中近ク下野問題決定ノ上ハ内政軍政ヲ区分シ省議會連省議會ヲ設ケ保境安民ノ策ヲ樹ツヘシ然リトテ全然支那本部ヨリ独立スル訳ニモ行キ難ク各方面トモ可然接触ヲ計ルヘク先ツ吳佩孚トノ關係ニ於テハ張ヨリモ一層

カ日本ニ遊学シソノ諒解ヲ求メ又日本ヲ知ルノ機會ヲ作ルハ彼将来ノ為メニモ張作霖ノ為メニモ最モ望ム処ナリ云々
在支公使、哈爾濱、吉林、長春、安東、牛莊ニ転電セリ

一八 一月十九日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉天軍ガ山海関秦皇島ヨリ国民軍ヲ撃退シタ

ル件

第二八号 (一月二十日接受)

總司令部着ノ電報ニ依レハ奉天軍ハ九門口ヨリ進出シ石門口ヲ占領シ大ナル戦鬪無ク敵ハ山海関及秦皇島ヲ撤退捕虜數一連隊目下騎兵ヲシテ昌黎方面ニ追撃張奉軍ハ是以上追撃ナササル方針ナリト
在支公使、天津、濟南、上海、吉林、哈爾濱、安東、牛莊へ転電セリ

一九 一月二十二日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳、吳佩孚、張作霖等ニ関スル諸情報報

告ノ件

第一二号

(一月二十三日接受)

一 北京政府ト一般政況 一八 一九

失意ニ在リ吳ノ方カ張トノ連絡ヲ欲スル次第ニテ吳ノ參謀長蔣方震近日別府ヲ經テ大連ニ来ル筈、兩三年張吳相争ヒ居レル如クシ提携セハ将来ハ兩者根本的諒解ノ成立ノ機會ヲ見出ササルヘカラス自分ハソノ考ニテ大連ニ於テ十分打合せノ積リナリ孫伝芳ハ狡猾ナル質ニテソノ言フ処信賴シ難ク從テ部下彼ニ心服セス背反気分モ有ルヘク吳佩孚トモ宜カラサルハ事実ナラン山東張宗昌ハ吳トモ岳維峻トモ相當連絡付キ後顧ノ憂無ク直隸奪回ハ一ニ張作霖ノ山東援助ノ程度ト目下画策中ナル兩軍ノ山海関奪回ノ遲速ニモ依ルヘシ東三省ハ支那本部トノ關係ヨリモ実ハ日本政府トノ諒解ヲ作ルヲ以テ急務トス之迄日本政府ト十分ノ接触有リシカ如ク考ヘ居リシニ實ハ甚タ不十分ナリシハ意外ナリ自分ハ差シ当レル軍務結了次第渡日シ視察旁暫時滞在朝野ト接触ヲ新ニシ度ク張学良モ二三年日本ニ留学シ後欧米漫遊ニ出テ度ク右ハ直ニ張作霖ノ許可ヲ得ルニハ多少ノ困難有ラシモ張モ速ニ自己ノ後継者ヲ作ル用意肝要ナリ從來学良ハ兎角日本政府ノ氣受宜カラサリシモ右ハ郭松齡輩ニ誤ラレタルモノナルヘク今回ノ事變ニテ張作霖、学良共ニ日本ニ對スル考ヘニ變化ヲ来シ居ルハ明カト言フ可ク此ノ際学良

齊燮元其他吳佩孚側要人ノ談話ヲ綜合スルニ

(一)最近孫伝芳ハ馬玉仁ノ軍隊ヲ解散セントシタル為馬ハ白宝山、陳調元、夏超等ト共ニ愈々孫伝芳驅逐運動ヲ起サントシ數日前密ニ齊燮元ニ對シ速ニ江蘇へ帰り軍隊ヲ統帥セラレ度キ旨申越シタルモ齊ハ吳ト協議ノ結果此ノ際穩便ニ時局ヲ收拾スルコト得策ナリト認ムルニ依リ暫ク孫伝芳ニ服從スヘキ旨申送リタル由ナルカ

(二)右ニ関連シ一月二十一日孫潤宇ハ吳佩孚ノ命ナリトテ最近吳及孫伝芳トノ關係ニ付兎角ノ風評アルトコロ孫ハ吳ニ對シ何等敵意ナク現ニ孫ヨリハ吳ニ對シ一兩日前大要馮玉祥ノ下野以來長江ハ目下時局ノ中心トナリ当方面ノ動靜ハ内外ノ注視スル所ナルカ故ニ貴將軍ト予トノ主張及言動ハ一致セサル可ラス然ルニ貴將軍ヨリハ何等時局收拾ニ関スル意見ノ表示ナキ為予ニ於テモ濫リニ發表ヲ差控ヘ居レル次第ナルニ付今後遠慮ナク發表セラレ度ク予ハ必ス驥尾ニ付シ一致進行シ速ニ時局ヲ安定セラレ度クシ云々
トノ信書ヲ送り越シタリトテ其ノ写シヲ本官ニ手交シ誤解ナキ様含ミ置カレ度キ旨申述ヘタリ

(三)次ニ昨今当地ニ於テハ河南省境ニアル劉鎮華、張治公等

ノ陝西軍隊ハ李雲竜ノ陝西督弁説ニ反対シ吳新田等ト共庇シテ岳維峻ニ対シ反旗ヲ挙ケタルタメ岳ハ国民軍各軍ニ対シ救援ヲ求メタル所右ハ吳佩孚カ旧部下ヲシテ河南内部ノ切崩シヲナシタル結果ナリトテ国民軍側ハ大ニ憤慨シ湖北ニ向ケ攻勢ニ出テントスルノ情勢アリ之カタメ吳ハ一月二十日夜急ニ湖北第一師湖北混成第一第三第十七第二十一各隊ニ河南ニ向ケ出動ヲ命シ第一師ノ一部ハ既ニ信陽ニ到着セリトノ事ニテ当方面ノ形勢幾分緊張シツツアリ

四右ニ付齊燮元ハ斯ル情報トナルハ予定ノ計画ニシテ即チ張作霖ト連絡ノ結果張ハ先ツ山海関ノ魏益三等ヲ追ヒ張宗昌、李景林ノ軍ト呼応シテ天津ヲ攻略スルタメ河南ニ向ケ軍ヲ進ムル態度ニ出テ一面同省内ニアル旧部下ヲシテ岳維峻等国民軍系統ノ軍隊ヲ驅逐スルノ策ヲ執リタル結果ニシテ都合好ク行カハ戦鬪ヲ交ヘスシテ河南ハ吳佩孚ノ勢力下ニ入ルヘシ而シテ張作霖トハ飽クマテ赤化分子タル国民軍ヲ撃滅スル諒解成立シ此ノ目的達成ノ上ハ奉天軍ハ総テ関外ニ退キ関内ハ吳佩孚ノ系統ニ依リ統一ノ方法ヲ講スルコトトナレリ云々

北京、天津、奉天、濟南へ転電シ上海、南京、杭州、長

持ニ努力スルノミ云々

北京、奉天、天津、濟南、青島、漢口、上海ニ転電シ杭州、蘇州、蕪湖、九江ニ暗送セリ

二一 一月二十八日 在中国芳次公使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

北京政局ノ發展ト国民軍内部情況報告ノ件

第六三三号

(一月二十九日接受)

二十七日仏国公使ハ本使ニ向ヒ数日前頗惠慶ノ求メニ依リ仏国通過ノ旅券査証後「レセパッセ」ヲ与ヘ置キタル所頗ハ其後政局ノ發展ニ伴ヒ近ク國務總理トナルヘク從テ其ノ必要消滅シタル旨内話シタリ(往電第三一號ノ(一)参照)同公使ノ有スル報道ノ根拠那辺ニ在ルヤ不明ナルモ旧年年末ニ差懸リテ政費調達難ト段政府ノ後援者タル国民軍ノ地位ノ動搖カ内閣ノ前途ニ濃厚ナル暗影ヲ投シタルハ事實ニシテ特ニ東支鉄道問題ニ関スル露国外交政策ノ累ヲ受ケテ国民軍カ一般ノ人氣ヲ損シタルニ乘シ張作霖、吳佩孚ノ反赤化標榜ノ連盟ハ頓ニ其ノ勢力ヲ加ヘ湖北山東ノ兩方面ヨリスル河南経略計画モ進捗セルモノノ如ク国民第一軍側ニテハ二十六日五名ノ將官連名ニテ同軍ヲ赤化団トスル世間ノ

沙、宜昌、九江へ暗送セリ

二〇 一月二十四日 在南京森岡領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ノ湖北河南時局ニ関スル談話報告ノ件

第一〇号

(一月二十五日接受)

本日孫伝芳宴会ニテ当館ニ来リ湖北河南時局切迫ニ関シ左ノ通り談話セリ 最近吳佩孚カ張作霖、張宗昌等ト同盟ヲ結ヒ赤化軍討伐ノ名ヲ以テ岳維峻ヲ攻撃スル準備ヲ了セルニ付予ハ国民軍首領ヲ一概ニ赤化ト看做スノ甚タ不都合ナル理由並ニ時代錯誤ノ張作霖、張宗昌等ト握手スルノ何等謂レ無キ事ヲ述ヘ今回吳佩孚ニ対シ河南攻撃中止ヲ勸告シタルモ吳ハ予ノ忠言ヲ聞キ容レス愈々河南ヲ攻撃ニ決シタル模様ナリ予ハ岳維峻トハ友人ナルヲ以テ此際努メテ軍隊ヲ収束シ吳トノ衝突ヲ避クル様勸告シタル処岳ヨリ右ハ至極同感ナルモ吳佩孚カ故ナクシテ攻撃ニ出ツル時ハ已ムヲ得ス抵抗セサルヲ得サル旨回答シ来タレリスノ如ク形勢切迫シ何時兵火ヲ觀ルヤモ計ラレサル処予ハ此ノ種ノ無意味ナル戦争ニハ絶対不賛成ナルヲ以テ此際差当り嚴正中立ヲ守リ管内ノ治安維

誤解ヲ解ク通電ヲ発シ又段祺瑞ハ腹心ヲ以テ吳佩孚中心勢力切リ崩シテ画策(最近一邦人訪客ニ対シ張作霖カ吳佩孚ト提携シテ後悔スルナカラシム事ノ忠告ヲ張ニ伝フル事ヲ依頼シタル事實アリ)最近ノ閣議ハ馮玉祥ノ再起ヲ促ス為メ賈陸軍總長ヲ平地泉ニ派遣スルニ至リタル等政局ノ低氣圧ヲ語りタルモノニシテ闕譯ノ如キ段派ノ政客モ最近館員ニ対シ吳ノ現在ノ地位ハ対内対外双方トモ順潮ニ棹サセルモノニシテ其ノ勢力恐ル可キモノアルヲ説キ自派ノ将来ニ付悲觀的口調ヲ示セル由ナリ

二二 一月三十一日 在漢口高尾總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

鄭州ニ於テ湖北軍ト国民軍ガ交戦スル場合ニ

ハ我が居留民ノ生命財産ガ危険ニ瀕スル恐れ

アル件

第二六号

往電第二三三号ハ本官常ニ接触シツツアル吳佩孚側重要人物ノ談話ヲ綜合シタルモノナルカ右ニ依リ湖北軍ハ目下信陽付近迄進出シ居ルモノノ如キモ同軍ハ旧曆ノ年関ヲ目前ニ控ヘ更ニ一層軍費ノ窮乏ヲ告ケツツアルヲ以テ吳ハ果シテ

前電ノ計画ヲ着々実行シ今後一ヶ月後ニ入京シ得ルニ至ルヤハ固ヨリ疑問ナリ

次ニ一月二十七日鄭州日本人会長高原ノ来電ニ拠レハ同地ノ官憲ハ鉄道ノ不通ハ土匪ノ所為ナレハ遠カラス復旧スヘク湖北軍ハ何等問題トスルニ足ラストノ布告ヲ出シ人心ヲ慰撫シツアル由ナルモ万一同地方ニ於テ兩軍ノ衝突ヲ見ルカ如キ事アラハ我居留民ハ忽チ危殆ニ瀕スルヲ以テ三十日前電河南官憲ニ対スル要求ノ外更ニ呉佩孚側ノ張志潭ニ対シ鄭州方面ニ於テ近ク湖北軍ト国民軍トノ交戦ヲ見ルヤノ説アル処同地ニハ多数ノ我居留民アリ何レモ護照ヲ携帶シ条約ニ依リ土貨ノ買付ニ従事シ居レリ万一同地ニ於テ兩軍交戦スルニ於テハ我居留民ノ生命財産ハ危殆ニ瀕スルニ依リ此際呉佩孚ヨリ前敵總司令ニ対シ出来得ヘクンハ鄭州ニ於ケル市街戦ヲ避ケ極力我居留民ヲ保護スル様電訓方取計ハレ度旨照会シ置キタリ

在支公使、濟南、青島、南京へ転電セリ

二二 一月三十一日 小泉支那駐屯軍司令官ヨリ河合參謀總長宛(電報)

日本軍工兵ガ奉天軍ニヨリ抑留護送セラレシ

哨ニ投ケツクルヲ得タリ次テ山海關ニ到着スルヤ田中ハ遽ニ跳ヒ降りタルモ奉天兵ノ為ニ包圍サレ奉軍司令部ニ拉致サレントセシニ我歩哨之ヲ発見シ守備隊ニ報告スルト共ニ田中等ニ加勢ス支那軍ハ装填セシ銃ヲ指向ケ脅威セシモ守備隊長ノ到着ト共ニ一行ヲ伴ヒ騎兵第十七師長ニ交渉スルヲ得タリ

三、右交渉ノ結果支那側ニテハ誤解ナリシヲ知り相当陳謝ノ意ヲ表シ田中軍曹一行ニハ護衛兵ヲ付シテ再ヒ作業地ニ赴カシムル等全ク面目ヲ一新セリ然レトモ一行カ山海關ニテ脱出セシ時先方ノ參謀中佐張慶元カ列車ノ停車ヲ詰リシ件アリ少クモ其時迄ハ先方上一同日本兵ヲ錦州ニ送り尋問セントセシコト明カナリ

關東、北京、奉天濟

二四 二月五日 在中國芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛

時局ニ関スル各方面ノ談話要領送付ノ件

機密第一五九号

(二月十六日接受)

大正十五年二月五日

在支那

トシタル事件ノ経過報告ノ件

天電第五一号 (二月二日外務省接受)

田中工兵軍曹以下六名奉天軍ノ為ニ抑留護送セラレントシ纒ニ脱出シ得タル事件ノ顛末次ノ如シ

第一(経過)

一、奉、国兩軍昌黎、灤州間ニ対峙シ兩地間ノ電線ハ支那軍ノ為ニ切断セラレタルニ依リ灤州守備隊長ハ田中軍曹外建築兵二名歩兵三名ヲ修理ニ派遣シ田中一行ハ一月二十七日昌黎付近ニ到リタルニ奉軍騎兵第十七師(黒龍江)第十團連長其勝仁等ニ作業ヲ拒マレ第五旅司令部ニ連レ行カレ先方ニテハ国民軍ノ為ニ情況ヲ探ル者ト誤解セシモノノ如ク參謀中佐張慶元種々問答アリ支那側ハ田中等ノ作業及灤州帰還ヲ拒ミ且百万欺キテ奉軍軍用列車ニ乗セ錦州ニ到ラントセリ

此問答中日本軍タルコトハ先方ニテ十分確メタルモノナリ

二、前記連長(其勝仁)ハ一行ヲ監視シテ車中ニ在リ列車秦皇島ニ停ラサリシモ田中ハ通信兵ヲシテ窓ノ錠ヲ破壊サセ一方事情ヲ紙片ニ記シテ錘ヲ付ケ置キ秦皇島ノ我歩

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

時局ニ関スル各方面ノ談話要領送付ノ件

当国政局ノ大体ノ趨勢ニ付テハ往電第三一号及第六三二号ヲ以テ報告致置タル処尚館員カ各方面ノ要人ト接触シテ得タル情報中参考トスヘキ談片別紙ノ通一括何等御参考迄御査閱ニ供ス

(別紙)

一、馮玉祥ノ下野ト其ノ影響

(イ)馮玉祥ノ下野通電カ一般政局ニ大ナル衝動ヲ与ヘタルハ事実ニシテ殊ニ国民軍将来ノ結束ニ対シ重大ナル影響ヲ及スコト疑ヲ容レス西北督弁ノ後任タルヘキ張之江ハ固ヨリ一介ノ武弁ニシテ政治的手腕ニ乏シク從テ從來ノ如ク他地方ノ国民軍ニ号令スル能力ナシ現ニ馮ノ通電中ニ「爾今国民軍ノ名称ヲ取消ス」トアルニ対シ国民軍第二第三軍ノ一部ニテハ此ノ名称ハ各軍將領協議ノ上決定シタルモノナルニ付馮カ独断ニテ勝手ニ取消シ得ヘキモノニ非ストテ憤慨スルモノアリ

(ロ)国民党カ從來国民軍側ト相当共鳴シ居リタル点アリシ

ハ事実ナルモ馮ノ下野ニヨリ党ノ勢力ニ何等影響ヲ及
スコトナシ(以上一月五日楊庶堪談話)

二、段祺瑞ノ近況

(イ)段執政ニハ一月元旦面会セルカ徐樹錚ノ暗殺ニ付落胆
シ居ルコト意想外ニシテ時局ノ前途ニ対シ甚シク憂慮
シ居レリ(一月五日楊庶堪談話)

(ロ)先年段カ失脚下野シタル主ナル原因ハ安福一派ノ陰謀
ニ対スル反対多カリシニ因ルモノナルヲ以テ一昨年秋
段祺瑞ノ再起ニ当リ段ノ友人ハ段ニ対シ安福派ノ人物
ヲ再用セサルコト陰謀ヲ弄セス政治ヲ公開スヘキコト
ヲ勸告シ當時ノ輿論モ亦同様ノ希望ヲ致セリ然ルニ段
カ臨時執政トナルヤ前ノ安福派ハ漸次重用セラレ段ヲ
包擁スル者ハ殆ト同派ノ人物トナリ其ノ政府カ実力ヲ
有セサル為種々ノ陰謀術策ヲ弄シテ各省督弁其ノ他ノ
有力者ヲ操縦シ互ニ牽制セシメントシタルカ其ノ結果
ハ反テ戦争ヲ惹起シ毫モ統一ニ資スルコトナク一例ヲ
挙げクレハ奉天派ハ奉直戦後横暴ノ態度アルヤ長江方面
ノ勢力ト私通シテ之ヲ制セントシ却テ今回ノ戦乱ヲ醸
シタルカ如シ加之前安福派ノ人物ハ種々ノ弊害多ク官

右ニ派カ勢力争ヲナシ其ノ結果有勢ナル方カ攝政内閣
ノ組織ヲ為スモノト観測セラル

(ロ)而シテ約法主張ノ一派トシテハ張紹曾内閣最モ合理的
ナリ張ノ撰閣成立スレハ順序トシテ黎元洪ノ大總統就
任ヲ予想サルルモ黎ニ対シテ張作霖ノ反対アルヘク今
後張ノ中央ニ対スル勢力恢復如何ニ依リ黎出馬ノ可能
性ニ影響ヲ及ホスヘシ

(ハ)之ニ反シ護憲派カ有勢ナルニ於テハ順序トシ顔惠慶
内閣ノ成立ヲ期待セラル黄郛モ顔内閣ノ一員ニシテ系
統上護憲派ニ属スルヲ以テ憲法恢復ヲ標榜スルニ於テ
ハ理論上其ノ出馬モ合理的ニテ現ニ黄自身モ頻リニ運
動シ居ル模様ナルカ周囲ノ情勢ハ恐ラク黄ニ有利ナラ
ス寧ロ顔撰閣ノ方無難ナルヘシ(以上一月七日王毓芝
談)

(ニ)今ヤ支那ノ政界ハ法統論ト非法統論ノ二派ニ分レ法統
派(約法ノ法統ト憲法ノ法統トアリ)ニハ前國務總理
張紹曾等之ヲ主唱シ黎元洪、吳佩孚、孫傳芳等之ニ贊
成シ又非法統派ノ段祺瑞ニ対シテハ馮玉祥派即國民第
一軍派之ヲ主持シ許世英ニ対シテハ岳維峻即國民第二

金ヲ以テ私囊ヲ肥ヤシ豪奢ノ生活ヲ極ムル等一般ヨリ
指彈セラルルニ至レリ段祺瑞ハ清廉ナリト称スルモ其
ノ子段宏業ハ常ニ小策ヲ行ヒ往々段祺瑞ノ方針ニ反ス
ルノ行為アリ例ヘハ四川ノ劉湘カ督弁ノ命令ヲ發セシ
ムル迄ニ三十萬元ヲ費シ四川ノ一塩運使カ其ノ辞令ヲ
得ルニ五萬元ヲ提供シタルカ如キ之レナリ斯ノ如ク安
福派ハ小策ヲ弄シ國帑ヲ濫費シ政治財政ヲ公開セスシ
テ戦乱ヲ招キテ國民ノ反対ヲ受クルハ其ノ惡政ノ為ナ
リ

(イ)段祺瑞カ臨時政府ヲ組織スルヤ同政府ハ全然革命政府
ナルコトヲ標榜シ何等法律ニ根拠セス從來ノ約法憲法
ハ全然顧慮スル所ナカリシ為其ノ政治ハ粗放ニ流レ何
等ノ拘束ナク随意ニ行ハレタル結果弊害百出シ法統論
ノ勃興ヲ見ルニ至レリ(ロ)四川ノ代表蔣士立ノ談)

三、法統回復運動ノ擡頭

(イ)最近護法ノ声漸ク擡頭シ来リ吳佩孚、張作霖等何レモ
護法主張ノ通電ヲ發シ居ル処所謂護法ニ二種アリ(一)ハ
民國元年ノ約法ヲ恢復セントスルモノ(二)ハ民国国会制
定ノ憲法ニ依拠セントスルモノニシテ段ノ下野ニ依リ

軍派現ニ之ヲ主持スルモ孰レモ眞実ノ主持ニ非スシテ
之ヲ利用セントスルノミ要スルニ各種ノ議論モ多クハ
人望ヲ収メ自己ヲ利セントノ口実ニ過キサルヘシ(蔣
士立談)

四、國民軍ノ形勢

(イ)馮玉祥ハ元來赤化ノ傾向アリシニ非ラサルモ目前ノ打
算ニ倣ク大局ヲ解セサル彼ハ反対派ノ利用スル所トナ
リ今日トナリテハ其ノ立場ニ窮セリ然ルニ其ノ下野ノ
声明ニ際シ露國ニ入ルコトヲ發表シ一層反対派ノ乘ス
ル所トナリタリ國民軍カ彼等ニ対シ次第ニ圧迫ヲ加ヘ
ツツアルコトヲ知ルニ足ル(一月二十六日關鐸ノ談)

(ロ)均シク國民軍ト云フモ一軍、二軍、三軍ハ今ヤ殆ント
分裂ニ近ク今後決シテ一致ノ行動ニ出テサルヘシ第一
軍ハ馮玉祥下野後モ背後ニ於テ指揮シ居レルカ過般ノ
戦争ニ損害最モ多ク兵器彈藥ニ欠乏シ殊ニ郭松齡軍全
敗ノ結果士氣阻喪シ政界ハ彼等ニ反対スル者多キヲ以
テ奉天軍カ其ノ兵力ヲ挽回スルニ於テハ到底現勢ヲ維
持スルコト能ハサルヘシ第二軍ハ岳維峻ノ統轄スル処
ナルモ其ノ部下ハ各派ニ分レ毫モ一致セス或ハ吳佩孚

軍ノ侵入シ来レルヨリ形勢ニヨリテハ遂ニ分裂スルニ至ルヘキ乎、共產派カ第二軍ト提携シ居レリト云フモ右ハ第二軍ノ一部ナル元靖国軍即河南ノ土匪タリシ一団ト連絡シ居ルナリ彼ノ李仲三ハ土匪ノ頭目タリシモノニテ胡景翼ト馮玉祥ト連絡ノ任ニ当リ居タル者ニテ今モ一二軍間ヲ往来シ居ルモ彼等数名ハ過激ナル共產党ニテ段及日本ニ反対セル者アリ岳維峻自身ハ決シテ共產派の人物ニ非ス故ニ二軍ノ大部分カ赤化セリト云フハ当ラス第三軍ノ孫岳ハ漸クニシテ天津ヲ守リ居ルモ津浦線ニ於ケル河南軍退却スルニ於テハ張李連合軍ハ天津ヲ恢復スルニ至ルヘシ(一月三十一日姚震談)

(イ)張之江ハ馮玉祥ノ如キ狡猾ナル人物ニアラス彼ハ赤化ノ恐れヘキヲ知り之ニ反対ノ意見ナルヲ以テ漸次第一軍ヨリ赤化分子ヲ遠サクルナラン鹿鍾麟モ亦共產主義ニ賛成セサルモ彼ハ一昨年李石曾等ノ過激派ニ利用セラレ宣統帝ヲ宮中ヨリ驅逐シタル關係アリ今ハ之ヲ後悔シツアルモ直ニ李一派ニ反抗スルヲ得サル破目ニ在ルヲ以テ彼等ニ対シ断乎タル処置ヲ執ル能ハサルナラン(張之江ノ昵懇者賈恩絨ノ楊歎谷ニ対スル談)

ク段祺瑞モ下野スルノ外ナカルヘシ(一月二十八日蔣士立ノ談)

(ロ)近來国民一般ノ赤化反対氣運擡頭シ来リ此ノ氣運ニ乘リシモノヲ吳佩孚ノ北上トス吳ハ張作霖ヨリ軍資ノ補助ヲ受ケ張宗昌李景林ヨリ武器ノ供給ヲ受クルコトトナリ北上ヲ敢行セリ今回ノ中東路問題ニ於ケル露國ノ態度ハ一層反赤化運動ニ口実ヲ与ヘカラハンノ行動ハ露骨ナル赤化運動ト認メラレ是等反赤化派ハカラハン驅逐ヲ計画シツツアリ(一月二十六日闕鐸談)

(ハ)目下中央政府ノ閣員ノ多クハ親露派ノ人物ニシテ之ニ対スル反感各方面ニ増大シツツアレハ彼等ノ運命ハ長カラサルヘシ(蔣士立ノ談)

(ニ)段執政ハ今ヤ全ク其ノ股肱ヲ失ヒ内閣總理許世英モ段ノ意ノ如ク行動スル能ハス近頃段ノ排斥セル人物ヲ頻リニ登用スルカ如キ狀況ナレハ許總理トノ關係モ密接ナラス目下殆ト政務ニ容喙セス只成行ヲ傍觀セルノミナリ然シ自己ノ進退問題ト某省(東三省ナラン)討伐ノ執政令ヲ発セサルコトノ二点ニハ注意シ居レリ(一月三十日姚震談)

(ニ)国民軍中最モ赤化セルハ岳ニ属スル第二軍ナリ多数ノ赤化分子其ノ幕下ニ入り込ミ居レルカ于右任、徐謙、史之照及李仲三等ハ共產派著名ノ人物ニシテ第二軍ニ属スルカ或ハ密接ノ關係アル者ナリ北京ニテ発行セル国民新報ハ第二軍ノ機關紙ニシテ共產派ノ宣伝ト排日ニ努メツツアリ彼等ト密接ノ關係アルハ北京大学其ノ他学界ニ多ク彼等ハ露國側ト連絡シ段祺瑞、張作霖及日本反対ノ為メ運動費ヲ露國ヨリ得居ル趣ナリ(同上)

五、吳張合作問題ト中央政局

(イ)最近張作霖ト吳佩孚ト提携ノ結果支那ノ政局ハ一大変化ヲ生セリ奉天軍ハ山海關方面ニテ国民第一軍ニ對抗シ山東ノ張宗昌、李景林ハ津浦線北段ニ於テ国民第三軍ニ對抗シ吳佩孚軍ハ既ニ京漢線ヲ北進シ国民第二軍ト河南ニ戦ハントシ從來沈黙ヲ守リタル山西ノ閻錫山軍モ亦京漢沿線ニ進出シ吳ニ響應セリ蕭耀南ハ從來吳ニ服従シ居リタルニ非サルモ大勢吳ニ有利ナル以上之ト行動ヲ共ニスルハ当然ニシテ是等ノ各勢力一致シテ国民軍ニ当ルニ於テハ国民軍ノ前途頗ル悲觀スヘク吳ニシテ北京ニ乘込ミ来ランカ中央政局ハ全然一変スヘ

二五 二月六日 在奉天吉田総領事ヨリ幣原外務大臣宛

関東軍参謀部調査ニヨル奉国兩軍ノ対峙狀況
送付ノ件

機密公第九二号

(二月十二日接受)

大正十五年二月六日

在奉天

総領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

奉国兩軍最近ノ対峙狀況ニ関スル件

山海關方面奉軍ノ配備狀況ニ関シテハ本月五日付機密公第九〇号拙信ヲ以テ報告申進置キタル処関東軍参謀部調査ノ奉国兩軍最近ノ対峙狀況別紙ノ通り何等御参考迄ニ送付ス
本信写送付先
在支公使 天津 牛莊 新民府

(別紙)

奉国兩軍最近ノ対峙狀況

奉軍ハ国民軍ニ対シ概ネ戰略的守勢ノ態度ヲ採ルニ決シ軍隊ヲ之ニ適合スル如ク集結ス殊ニ熱河方面ニ対シテハ十分

考慮ヲ私ヒ将来其ノ都統ニ内定セル湯玉麟ノ麾下ヲ以テ当
ラシム

国民軍ハ昨冬天津付近戦闘ノ瘡痍未タ癒ニス軍費武器彈藥
ノ欠乏甚タシク加フルニ各軍間ノ利害一致セス又同軍内ニ
在リテモ諸將間ノ融和ヲ欠キ態度漸次消極ニ陥リ来ル

一、国民第一軍ノ陣地

第一軍ハ灤河右岸ニ防禦陣地ヲ構築スル管ナルモ陣地正
面大ニシテ兵力ヲ吸収スルコト多キニ苦シミツツアリ
又奉天側ノ判断ニ依レハ一月二十八日頃ニ於ケル国民軍
ノ兵力ハ永年付近ニ一旅、灤州付近ニ一団並葉亭付近ニ
一団アリテ唐之道師ヲ合スルモ兵力二万ニ達セスト云フ

二、国民軍戦意薄ラク

1 奉軍ニ対シ第一軍ヨリ出動セシムヘキ兵力ハ計四師ナ
リト豪語セシニ拘ラス既ニ出動セシモノハ其ノ一部ニ
過キサルノミナラス孫岳ヨリノ出兵請求ニ対シ鹿鍾麟
ノ一月二十七日発返電ニ依レハ五日以内ニ一混成旅ヲ
送りタル後奉軍ニ対スル出兵ヲ一時打チ切ル可シト称
ス

2 国民軍ハ徒ラニ宣伝ヲ以テ其ノ非ヲ覆ハントシアリ例

一月二十七日頃ニ於ケル奉軍位置ノ概要左ノ如シ

歩兵一旅、騎兵二師、山海關、秦皇島、石門寨付近

騎兵ノ一部ハ昌黎ニ在リ

歩兵三旅、 騎兵一師 錦州、連山付近

歩兵三旅、騎兵一師 北鎮、黒山付近

一師 (湯玉麟) 義州

砲兵隊 新民

五、奉軍飛行隊出動

鹿鍾麟軍ノ東進並熱河方面ノ情況ニ鑑ミ張作霖ハ一月二
十八日飛行隊ノ出動ヲ命ジ二隊(十二機)ヲ一月三十一
日出発錦州ニ向ハシム

二六 二月十二日 木村亞細亞局長ヨリ
在北京重光書記官宛

对中国政策実施上ノ諸問題ニ関シ意見伝達ノ
件

拝啓陳者益々御勇健御活動ノ趣承知致シ欣懐ニ堪ニス候
擬目下貴地ニ於ケル陸軍側諸機関ト外務省側トハ折合頗ル
良好ナル由誠ニ同慶至極当方ニ於テモ陸軍外務両省ノ關係
ハ貴地同様頗ル円満ニテ常ニ密接ナル接触ヲ保チ居リ現ニ

ハ奉軍山海關付近ニ陣地ヲ占領セハ国民軍側ハ第一
軍ハ熱河方面ヨリ攻勢ヲ採リタルニ依リ奉軍ハ全部関
内ニ退却セリト称シ又張作霖カ保境安民ノ通電ヲ発ス
ルノ報伝ハルヤ該通電ヲ偽造シテ宣布スル等宣伝ヲ以
テ愚民ヲ瞞著セントシアリ

3 在天津第二軍ノ一旅(長史宗法)ハ李景林ニ内応ノ意

向アリ唐之道軍亦奉天ニ帰順スルノ時機ヲ待ツツア
リ又魏軍中ノ一団長(第一軍系)カ最近秦皇島付近ニ
テ奉軍ノ旅長ニ会見シ秘密裡ニ何事カ談議セシカ如キ
諸將中戦意薄ラクキ平和熱ノ萌シタルノ例証ナリ

三、国民軍大沽砲台占領

塘沽ニ在リシ国民軍ハ大沽砲台ヲ占領シ砲列ヲ敷キ夜間
大沽水道ヲ通過スル船舶ハ国籍ノ如何ヲ問ハス之ヲ砲撃
スル旨水先案内組合ニ対シ声明セリ又一月二十九日同地
税関長ニ対シテ航路標識ノ消灯ヲ要求セシモ之ヲ拒絶セ
ラル

因ニ二十九日夜ハ前記声明アリシニ拘ラス清水丸其他ノ
船舶ハ無事同水道ヲ通航セリ

四、奉軍位置

過般張郭戦ノ際ニ於ケル滿州駐屯軍補充ニ当リテモ両省間
完全ニ意見ノ一致ヲ見タル次第ニテ往年ノ西北利武器事件
當時ト比較スレハ実ニ著シキ相違ニ有之此ノ傾向ハ大局上
是非今後モ持統致度就テハ貴地ニ於テモ此ノ上トモ御配慮
相成度御互ニ軍閥攻撃時代トハ隔世ノ感有之候旁々支那側
及日本新聞紙等ノ根拠ナキ宣伝若クハ離間策ニ対シテハ充
分御警戒相成様致度候

土肥原ノ件ハ御同様遺憾ノ次第ニ有之當時本件ニ関スル電
報接到ト共ニ直チニ陸軍側ノ注意ヲ喚起致置タル次第ナル
カ一方先般土肥原帰朝ノ際更ニ同人ヲ招致シ事情ヲ質シタ
ル処本件ニ就テハ多少ノ誤伝存スルヤニ見受ケラレタルモ
兎ニ角帝國ノ軍人カ我カ対支不干渉ノ政策ニ背馳シテ妄動
スルノ不可ナルコト殊ニ自己ノ任地外ニ赴キテ支那ノ一党
一派ノ合縱連衡ニ介入スルカ如キハ断シテ許スヘカラサル
次第ナル旨ヲ嚴重戒告致置候条右御含置被下度候

陸軍側情報ニ付テハ全然同感ニ有之臆測ニ非ムハ断片の
聞込ヲ其ノ儘打電セルモノアリ中ニハ御承知ノ通り例ノ職
業の情報供給者ノ情報鵜呑ノ發電ニ係ルモノアリ全部輕々
ニ信ヲ措キ難ク此ノ辺ノ事情ハ本省ニ於テモ充分吞込居リ

候間御安心相成度候

北支駐屯軍撤退ノ件ハ頗ル理想的ニハ有之候モ何分現在ノ如キ支那ノ政局ノ下ニ於テハ諸般ノ關係上ノカ實現ニ甚タ困難ナル事情アルノミナラス其ノ撤退ハ惹テハ滿州ニ於ケル我カ駐兵權ニ関スル論議ヲ生スルノ惧モアリ旁々慎重考量ノ要アリ当分ハ現状維持ノ他ナカルヘク從テ今次ノ北支駐屯各國軍守備区域問題ニ對スル芳沢公使ノ措置ノ如キハ機宜ニ適シタルモノト思考致居候

次ニ顧問其ノ他在支陸軍諸機關ノ根本的變改ノ件モ之亦理想論トシテハ至極同感ニ有之候モ實際上今直チニ之ヲ実行スルハ種々機微ナル關係モアリ之カ實現頗ル困難ナル次第ナルヲ以テ当方トシテハ右機関ヨリ生スル弊害ヲ出来得ル限リ防止シツツ漸進的ニ之カ改善ニ進ミ度意向ニテ現ニ各顧問並駐在員ノ員数任務等ニ関スル詳細正確ナル調査表ヲ用意シ置キ其ノ不当ニ膨張スルコト無キ様監視ヲ怠ラサルト共ニ他方苟モ其ノ本来ノ任務以外ニ涉ル行動アルトキハ陸海軍外務局長會議等ニ於テ嚴重陸軍側ノ注意ヲ喚起シ居ルノミナラス更ニ進テ有田總領事機密第四二号ノ如ク単ニ北支駐屯軍ト在天津總領事トノ關係ニ止マラス一切ノ陸軍

テ当面交渉ノ相手方タル王、黄等ト接觸ヲ保ツノ要アルハ固ヨリナルモ之カ為他ノ諸党派ノ存在ヲ閑却スルカ如キコトアラムカ結局公平ナル判断若クハ健全ナル對支政策ノ實現ヲ期シ得サルニ至ルヘク此ノ辺勿論充分御賢察ノコトトハ信シ候モ近時往々前記ノ如キ風説ヲ為スモノモ有之候ママ此ノ上トモ御注意ノ上関稅會議其他ノ事務ニ当ラレムコトヲ希望シテ已マサル次第ニ候

最後ニ一言申添度ハ昨今北京公使館内ニハ兎角等閑視セラレ不遇ノ地位ニアル者ト然ラサル者トアリトノ噂ニ有之候処右ニシテ若シ事實トセハ貴官御着任以來種々御努力ノ結果漸ク從來ノ弊風ヲ一掃スルニ至レリトノ好評ニ對シ一汚点ヲ印スルコトトモ為ルヘキニ付右御舎ノ上此ノ上トモ館員各自其ノ地位ニ応シ其ノ職分ヲ尽シ得ル様折角御配慮相煩度以上ハ御心易キマニマニ十把一束腹藏ナキ所ヲ申上候段不惡御諒察願上度堀參事官初メ同僚諸君ニ宜敷御伝言願上候

大正十五年二月十二日

拜具

諸機関ヲシテ在支公使領事等ノ節制ニ服セシムル方法ニ付テモ研究ヲ重ネ居ル次第ニ付右御舎相成度又從來ノ所謂顧問ナル者カ武官ニ限ラレタル弊風ヲ匡正スルト共ニ此ノ際少クトモ東三省ノ保境安民地方開發ノ為張作霖ヲシテ有力ナル我文武顧問ヲ傭聘セシメントシソレトナク努力中ニ有之候間右貴官限リ極秘ノ御含込申添候

尚序ナカラ申述ヘ度ハ巷間或ハ我在支公使館ニ於テハ眼中唯タ王正廷、黄郛一派アルノミニシテ王、黄即支那ナルカ如ク考ヘ居レリト評スル者アル事ニ候思フニ王正廷、黄郛ヲ初メ国民党一派並ニ青年學生等ノ提唱スル新運動ハ遠キ将来ヲ考フレハ結局支那全体ヲ支配スルニ至ルモノナラムモ右ハ今直チニ實現スヘキモノニ非スシテ今後幾多ノ波瀾曲折ヲ經タル後而モ其ノ間幾度カ現存ノ軍閥其ノ他ノ諸党派ノ興亡消長ヲ見タル上初メテ實現スヘキモノナルヘク從テ吾人實務ニ当ルモノトシテハ右軍閥等合縱連衡ノ現状ニ對シ深甚ノ注意ヲ払フ要アルハ勿論ノ義ニ有之候而テ此ノ見地ヨリスレハ王正廷、黄郛一派ノ如キモ亦差当リ支那政局ノ根底ヲ靜カニ流ルル新潮流ノ上ニ諸軍閥ト共ニ起伏シツツアル大波小波ノ一ニ過キサル次第ニシテ從テ我方トシ

二七 二月十九日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

張作霖ノ東三省保安總司令ニ正式就任ト其ノ

人的配置ニ関シ報告ノ件

機密公第一二〇号

(二月二十三日接受)

大正十五年二月十九日

在奉天

總領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

張總司令ノ正式就任ニ関スル件

張作霖ハ本月十日付ヲ以テ奉天軍制組織ニ變更ヲ行ヒ去ル十三日督軍公署ニ於テ東三省保安總司令ノ正式就任式ヲ舉行セリ当日三省ノ軍政大員並各法團代表參列シタルカ其典禮ハ莊嚴ヲ極メタリ右作霖ノ新任ト同時ニ該部ノ組織ヲ左記ノ通更正セリ即チ

左記

總司令 張作霖

參謀總長 楊宇霆

參議

張景惠

- 王樹常
 - 王丕煥
 - 齊恩銘
 - 張厚琬
 - 參謀長 于國翰
 - 1 參謀処 (陳欽若)
 - 2 軍務処 (王之佑)
 - 3 軍学処 (尹鳳鳴)
 - 4 軍衛処 (彭士彬)
 - 5 軍需処 (樂貴田)
 - 6 航警処 (沈鴻烈)
 - 7 工程処 (張秀奎)
 - 8 軍法処 (顏文海)
 - 9 医官処 (王宗洋)
 - 10 副官処 (愈恩桂)
 - 11 秘書処 (任毓麟)
 - 12 政務処 (夏仁虎)
- 右ニ関シ高交渉員カ極秘トシテ河野副領事ニ内話セル処ニ依レハ本件ハ楊宇霆ノ発案ニ係ルモノニシテ元來楊ハ奉直

メントスル等種々策動シツアルモ何等武力の背景ヲ有セサル彼等ハ到底成功ノ見込ナキカ如シ他方現内閣ノ國民黨員ハ当初先ツ許ヲ以テ段ヲ下野セシメ然ル後許ヲ驅逐シ我党内閣ヲ以テ之ニ取ツテ代ラントノ魂胆ナリシカ予定ノ計画ニ反シ段ハ容易ニ下野セス結局于右任モ入閣セサリシ次第ナルカ(往電第三一号ノ(二)参照)今回ノ許辭職ト共ニ当初ノ計画ニ復帰シ同人出テテ易培基及國民黨系ニ傾ケル馬君武等ト共ニ純然タル國民黨内閣ヲ組織シ国民党會議ヲ招集セント試ミツツアリト伝ヘラル尤モ于ノ個人的關係上右ハ国民党第二軍ヲ背景トスルコトナルヘク第一軍側ニ於テハ必スヤ右計画ヲ好マサルヲ以テ矢張り比較的温健ナル黄郛ノ攝政内閣説ヲ唱ヘ又已ムヲ得サレハ王正廷ヲシテ一時總理ノ職ヲ行ハシムヘシトナス説モ相当有力ナルモノアルモ結局国民党第一軍系ナル現陸軍總長賈德耀ヲシテ其ノ儘代理總理ニ就任セシムルコトトナルヘク觀測セラル

(二)右中央政局ノ転回ハ固ヨリ各方面ノ戦局ノ如何ニ掛ル処長江筋ニ於ケル蕭耀南ノ死ニ因リ湖北ニ於ケル吳佩孚ノ地位ノ有利トナレルハ事実ナルモ蕭ノ直系ト見ラレ居ル

戦並ニ奉郭戦ニ於テ專擅の行為多ク時ニ張作霖ト意思ノ疎通ヲ欠ケルコト再三ニシテ止マラス又内部ノ大員トノ折合宜シカラス常ニ怨嗟ノ的トナリ居ル傾向アルヲ以テ今後責任回避ノ趣旨ニ依リ會議トナシタル次第ナリ云々ト而テ作霖ハ東三省保安總司令ニシテ依然奉省督辦ノ任ヲ帯ヒ又楊參謀總長ハ兵工廠及訓練処長ヲ兼任ス尚許蘭州モ參議ニ擬セラレツツアルカ張景惠ノ就任ニ関シテハ内部ニ異論多キ模様ナリ而テ參議ノ人員ニ付テハ今後漸次ニ増員スル由右報告申進ス

本信写送付先 在支公使 漢口 天津 上海各總領事並 在滿各領事

二八 二月二十日 中国芳沢公使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

中央政局ノ不安定ナル狀況等報告ノ件

第九二号 (二月二十一日接受)

往電第八九号ニ関シ
(一)許總理請暇後ノ中央政局ニ對シテハ所謂段派ハ或ハ許世英ヲ復活セシメントシ或ハ王揖唐ヲ起用セシメントシ或ハ孫宝琦、盧永祥又ハ王士珍ヲ以テ超然内閣ヲ組織セシ

宜昌上游ニ抛レル盧金山及ヒ江西ノ方本仁共ニ必シモ吳佩孚ノ意ニ從ハサル可ク從テ吳トシテモ全力ヲ河南攻略ニ注ク能ハサルノミナラス元來國民黨軍カ今日迄湖北ノ侵入ヲ試ミサリシハ蕭ト岳維峻トノ間ノ省境不可侵ノ約束有リタルニ依ルモノニシテ蕭ノ死後ハ愈々吳派ト國民黨派トノ對抗激烈ヲ加ヘ來リツツアル有様ナリ國民黨方面ハ蕭ノ死亡ハ齊燮元等ノ予定ノ計画ナリトシテ吳佩孚ノ惡辣手段ヲ攻撃スルト共ニ長江筋ニ於ケル反吳ノ氣運ヲ醸成セシメントシツツ在リ

(三)以上ノ事情ト共ニ当方面ニ於テ特ニ注意セラレ居ルハ廣東政府ノ成績ニシテ同政府ハ廣東ヲ中心トシテ漸次勢力ヲ拡大シ蔣介石ノ訓練有ル軍隊ハ次第ニ直接間接長江筋ニソノ勢力ヲ及ホスヘキヲ以テ國民黨ニ於テハソノ形勢ノ變転ヲ注視シ局面ヲ再ヒ國民黨側ニ転回セント焦慮シツツ在リ馮カ下野ヲ宣言シテ一時攻撃ノ目的物タルヲ避ケ窮境ヲ脱シタル以來事態變化シ馮出馬ノ氣運日ニ濃厚トナリツツアリト一般ニ觀察セラレオリ馮ハ既ニ張家口ニアリト云ヒ或ハ段執政ニ對シ馮ニ命シテ吳佩孚ヲ討伐セシムヘシト迫リツツアリト云フカ如キ皆這般ノ消息ヲ

伝フルモノノ如シ他方天津、山海関方面ニ対シテハ孫岳ノ勢力ニ代フル為一軍ハ愈鹿鍾麟ヲ以テ之ヲ固メシムル事ニ決シ続々天津方面ニ軍隊ヲ送リツツアリトノ事ナリ斯如クニシテ戦局ハ全国的ニ再醞釀シツツアリテ中央政府ノ異動ハ差当リ永続性ヲ有スルモノ無ク如何ナル人物ノ登場スルモノ今後益々不安定ナル政局ヲ続クルモノト見受ケラル

(四)要スルニ国民軍ハ馮下野ノ後内部關係ニ於テモ面白カラサル点多カリシカ愈結束ヲ固ムル必要ヲ生シ外部ニ対シテハ広東及孫伝芳ト連絡シ彌縫のニテモ中央政權ヲ其手ニ収メ必要ニ応シテ馮ハ出馬ヲ断行スルノ計画ナルモノノ如シ

在支各領事及香港へ暗送セリ

二九 二月二十三日 在濟南藤田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

山東督弁ノ更迭ニ関スル件

第二八号

(二月二十四日接受)

本官発在支公使宛電報第二六号

北京発大臣宛電報第九三号ニ関シ

東三省統治ノ大方針及張學良將來ノ地位等ニ付テハ何等決定セル模様ナク殊ニ旧正月以來張作霖ハ齒痛ノ為メ数日間引込ミ中ノ処昨今漸ク元氣ヲ恢復セル模様ニテ東三省内政統治ノ方針ニ付テハ全ク決定シ居ラス

一、王省長ハ毎年旧正月ニハ郷里錦州ニ帰ヘルヲ常トセルカ今回モ例ニ依リ先日帰郷セリ然ルニ外間伝フル所ニ依レハ王省長ハ多分郷里ヨリ出奉セサルヘントノ噂アリ右噂ノ原因トシテハ王省長ハ近来督軍署側ノ軍事行政ニ対シ頗ル反対ノ意見ヲ抱持シ居リ殊ニ財政ノ紊乱ニ対シテハ非常ニ憂慮セルモノアリ故ニ王省長ハ是迄数回ニ涉リ辭意ヲ漏シタル事アリ故ニ今回モ多分辭職ヲ申出スマモ計ラレスト謂ニアリ

一、東三省ノ主ナル官民ハ張學良ノ政治上無經驗ナルト單ニ一介ノ少壯軍人ニシテ東三省ノ国歩困難ナル政治ヲ処理スルノ實力ニ乏シク其力量未タ作霖ノ後継者トシテ統治者ノ地位ニ立ツ能ハストノ輿論頗ル旺ナレハ今後トモ東三省ノ政治ハ全ク作霖ニ依リ処置セラルルノ外無カルヘク從テ學良ハ単ニ軍政方面ニ涉リ活躍スルニ過キサルヘシ

潘復ハ同人及目下米濟中ノ曲同豊ノ意見トシテ現在直隸、山東連合軍カ優勢ニシテ且段祺瑞ニ対スル感情悪カラサル際山東督弁更迭ノ命令ヲ發表スルコトハ一面明ラカニ無効ナル而已ナラス段ノ將來ニ取リテモ却テ不利ナルヲ以テ該命令ヲ發表セサル様貴公使ヨリ段ニ通達方希望アリタリ外務大臣へ転電セリ

三〇 二月二十三日 在奉天吉田總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天政情ニ関スル張景惠ノ談話報告ノ件

機密公第一三二号

(二月二十七日接受)

大正十五年二月二十三日

在奉天

總領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

奉天政情ニ関スル張景惠ノ談話ニ関スル件

東三省保安總司令部參議張景惠カ本日河野副領事ニ漏シタル時局談中主ナル事項左ノ如シ

一、自分ハ客月末漢口ヨリ帰來シ奉天省督軍署側ノ政情ヲ通察セルニ將來熱河ヲ奉天省ノ掌中ニ取収ムルヤ否ヤ並一、楊宇霆ハ識見ノ經驗共ニ卓越セル人物ナルモノ万事ニ互リ專断の行為多ク同僚間ノ睦誼ヲ欠キ殊ニ奉郭戦以後ハ張作霖トノ折合モ面白カラサルモノアリ旁々楊ハ將來自己ノ重大責任ヲ忌避セントスルノ傾向アルハ勿論ナリ

一、奉郭戦當時關朝璽カ郭松齡ト款ヲ通シ居タリトノ嫌疑ヲ受ケ居ル模様ナルモ右ハ虚説ナリ關朝璽ノ部下カ八面城ニ於テ暴動ヲ起シ張作霖ノ怒リニ触レタルハ勿論事實ナルモ斯ハ關朝璽カ部下ニ対スル給料不足ノ為メ熱河地方ニ於テ人民ノ阿片ヲ没収シ或ハ重税ヲ加シ巨額ノ金額ヲ集メタル事ヲ知レル部下軍隊ハ其分配ニ与カンカ為メ種々ナル惡計ト暴行トヲ企テタルハ事實ナリ關朝璽ハ最近迄大連ニ居住シ居タルカ黒龍江省呉督弁奔走ニ依リ曩ニ漸ク張作霖ノ疑惑ヲ解クニ至レリ元來張作霖、關朝璽ト親戚ノ間柄ニテ吳俊陞ハ關朝璽ノ赦免方ニ付テハ誠ニ友誼ヲ重シシ熱心ニ張作霖ノ感情緩和ニ努メタリ關ハ熱河駐在中ハ恣ニ官金ヲ濫用シ加之独断ヲ以テ大洋票ヲ發行シタルカ現在ニ於テハ其大洋票ハ市上ニ流通セサル為メ同地方八ヶ県住民ハ頗ル迷惑ヲ感シ是カ救済策ヲ奉天省ニ電稟セシ趣ニテ右ニ対シ張作霖ハ曩ニ關朝璽ニ其

回收方ヲ命シ居レルモ濫發セル大洋票ハ巨額ノ事ニモアリ到底短日月ニ是カ賠償ヲナシ得サルヘシ目下關朝璽ハ奉天城内ニ居住セルカ曾テ同人ニ隸屬セシ軍隊ハ遼瀋道各地ニ散在シ居ル為メ闕ハ其収撫ニ付苦慮シツアル由ナリ云々

右何等御参考迄申進ス

本信写送付先 在支公使、上海、漢口、天津、吉林、哈爾濱、長春、赤峰、安東、牛莊

三一 二月二十八日 在青島江戶總領事代理ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

畢總司令及比渤海艦隊ノ動靜報告ノ件

第三二号 (三月一日接受)

畢總司令ハ二十八日午後一時發陸路芝罘ニ向ヒ同地發便船ニテ大連經由奉天に赴ク管尚当地碇泊中ノ渤海艦隊五隻(海圻、海琛、永翔、楚予、華甲)及商船三隻ハ軍需品及軍隊八千名ヲ搭載シ三月一日中ニ大沽及秦皇島方面ニ向ケ出發スヘク右ハ目下馬廠方面ニ於テ北進中ノ直魯連合軍ト策應シ天津攻撃ニ当ル計画ニテ畢ハ奉天ヨリ秦皇島ニ引返シ攻撃ヲ指揮スル趣ナルカ同人ノ奉天行ハ右軍事行動ニ関

三三 三月三日 在奉天內山總領事代理ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

王奉天省長ノ辞表提出ニ関シ于冲漢内話報告

ノ件

第七五号

往電第七四号ニ関シ

于冲漢ノ鎌田ニ語ル処ニ依レハ省長ノ辞表ハ省長公署秘書ヨリシテ歸リ昨二日張作霖ニ提出セラレタルカ右辞表ニハ単ニ病氣靜養トアルモ別ニ作霖宛長文ノ書面ヲ以テ軍備縮少民力休養等ニ関スル省長日頃ノ主張ヲ縷述シ有リ張ハ右辞表ニ不許可ト記入シタルカ多分慰留ノ為メ副省長級ノモノ金州ニ派遣セラル可シ又于ノ河野ニ語ル処ニ依レハ愈々王ニ於テ辞意ヲ翻ササルニ於テハ楊宇霆、鄭謙、劉照青、等候補者タル可ク袁金鎧及ヒ自分(于)ハ王ト同意見ナルヲ以テ断シテ引受ケス尚王政務庁長ハ本官ニ對シ王省長ハ帰奉セサルヲ得サル可キモ目下ハ旧正月ニテ事務閑散ノ時機ナルヲ以テ旧曆二月頃迄ハ不在ニテモ官務上左程差支無カル可シト語り又財政庁公署長ハコノ際省長ノ言ヲ容レ難局ニ際シ王省長ノ外他ニ之ニ当ル可キモノ無シト

シ打合ノ為ナルカ如シ
前段關東長官ニ電報ス

三二 三月一日 在芝罘別府領事代理ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

畢總司令ノ動向報告ノ件

第三号 (三月二日接受)

畢司令一日午前本官來訪海圻、永翔、楚予外二隻ノ軍艦兵八千ヲ搭載昨二十八日青島發二日午前零時頃当地入港ノ予定ナレハ同日未明永翔ニテ大連ニ向ヒ幕僚護衛兵計二十名ト共ニ行動打合ノ為奉天に赴クヘキニ付特ニ來訪ノ旨ヲ述ヘ艦隊及兵ハ秦皇島ニ回航シ自分モ直ニ秦皇島ニ引返シ陸海ヨリ李軍ト策動ノ管ナリ当地軍隊ハ王戒嚴司令約一千名ヲ率イ商船ヲ徵發シテ第二次ニ出發セシムル管ニテ日取未定ナリ市中ノ治安維持ハ李參謀長及衛長責ヲ負フ旨語レリ尚内偵スルル処ニ抛レハ今次遠征ノ畢部下軍隊中兵器ヲ有スルモノ七割ニ過キスト云フ

畢ノ出發日取ハ關東長官ヘ電報濟
在支公使、濟南、青島、奉天、天津ヘ電報セリ

慰留セハ歸任スルナラント語レリ

惟フニ國民軍ト連合軍トノ勝敗ヲ見ルニ非サレハ軍憲側モ俄ニ省長ノ主張ヲ容ルル事覺東ナキヤニ思考セラル

在支公使、哈爾濱、吉林、天津、濟南ニ電通シ、遼陽、牛莊、長春、安東、鉄嶺ニ暗送セリ

三四 三月三日 在中國芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛

北京ニ於ケル反英討吳示威大会ノ模様報告ノ

件

公第二四五号 (三月十六日接受)

大正十五年三月三日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

反英討吳示威大会ニ関スル件

二月二十七日午後一時反英討吳示威大会天安門ニ於テ開会セラレタルニ付当日ノ模様何等御参考迄左記ノ通り報告ス
一、参会団体

北京学生会、北京總工会、広東外交代表団、国民党市党

部済難会、四川外交代表团、東三省帰国学生団、非基督教大同盟等約一千人

二、演説

大会主席王一飛開会趣旨ヲ説明シテ中国民衆勢力ハ日々益々發展シ南方国民政府ハ民衆革命勢力ノ根拠地ト成リ居レル処帝國主義者ハ一方反動軍閥ト勾結シ民衆勢力及比較的民衆勢力ニ接近セル国民軍ニ向ツテ攻撃ヲ加ヘ最近呉佩孚カ崛起シ河南ニ出兵シ更ニ張作霖ト提携スルニ至リタルハ彼カ完全ニ英國帝國主義ノ走狗ト成リタル証拠ナリ彼ノ勢力發展ハ民衆ニトリテ大ナル危険ナルヲ以テカヲ竭シテ打倒ササルヘカラス且ツ英國帝國主義者ハ最近広州ノ封鎖ヲ実行セリ広州政府ハ人民ノ政府ナリ英國ノ広州封鎖ノ成功ハ実ニ民衆革命運動ノ莫大ナル損失ナルヲ以テ吾人ハ極力反抗シ以テ広東政府ヲ擁護セサルヘカラスト述ヘタリ

次テ王佈仁、楊理恒、瞿秋白、等相繼テ演説セリ

三、大会決議案八項

- 次ニ主席ヨリ提出セル左記決議案ハ満場一致通過セリ
- (イ) 全国ニ通電ヲ發シテ一致呉佩孚ニ反対ス

(ロ) 英日經濟絶交

(ハ) 奉張残余勢力ノ肅清

(ニ) 英日帝國主義ヲ打倒セ

(ホ) 国民革命万歳

尚ホ市中游行ニ際シ散布セル主ナル伝單何等御参考迄一括添付

三五 三月四日 在奉天内山総領事代理ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

王永江奉天省長ノ辭職慰留ニ関スル張作霖談

話報告ノ件

第七六号

往電第七五号ニ関シ

昨三日張作霖ハ松井顧問ニ対シ王永江ハ自分ヨリ慰留電ヲ發シ若シ聞カサレハ自分モ又下野スル外ナントノ意ヲ伝ヘ楊宇霆モ極力意見ノ交換ヲナシ善後策ヲ講シタントノ慰留電ヲ發シ又張学良ヲ王ノ許ニ遣シ慰留ニ勉メシムルコトトシタリト語リタル由ナルカ右ノ外省議會商務会等ノ代表モ夫々慰留ノ為金州ニ赴キタリ 在支公使ニ転電セリ

(ロ) 全国ニ通電ヲ發シテ広東革命政府ヲ援助シ帝國主義ニ反抗シ並ニ英日經濟絶交ヲ実行ス

(ハ) 国民政府ニ通電ヲ發シテ其ノ出兵北伐並ニ武力ヲ以テ帝國主義ノ封鎖政策ニ反抗セムコトヲ促ス

(ニ) 全世界ニ通電ヲ發シテ被压迫民衆一致シテ英國帝國主義ノ对中国侵略ニ反対ス

(ホ) 孫伝芳ニ通電ヲ發シテ其討張討呉ヲ促シ並ニ民衆運動ヲ庄迫スルヲ得サラシム

(ロ) 香港第二次大罷工及河南 作福公司罷工ノ同胞ヲ援助シ英國帝國主義ニ反対ス

(ハ) 教育部ニ請ヒ教会学校ヲ封鎖ス

四、口号(標語)

右終ツテ左ノ口号ヲ三唱シ市中游行ニ移レリ

(イ) 呉佩孚ヲ打倒セ

(ロ) 呉張連合ニ反対ス

(ハ) 英國ノ広州封鎖ニ反対ス

(ニ) 広州国民政府ヲ擁護ス

(ホ) 広州政府ノ北伐ヲ要求ス

(ロ) 英日貨抵制

三六 三月五日 在奉天内山総領事代理ヨリ 幣原外務大臣宛

張作霖下野問題等ニ関スル張景惠ノ談話報告

ノ件

機密公第一六〇号 (三月十日接受)

大正十五年三月五日

在奉天

総領事代理 領事 内山 清(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

時局ニ対シ張景惠ノ談話ニ関スル件

奉天省參議張景惠ハ本年一月張作霖ノ代表トシテ武漢地方ニ赴キ呉佩孚ニ対シ赤化思想防止並馮玉祥一派ニ支那海口ヲ包有スル地盤ヲ与ヘサルコト等ニ関シ協調ヲ遂ケタルカ景惠ハ最近奉天督軍署ノ枢要機務ニ参与シツツアルカ昨日同人カ河野副領事ニ語レル処ヲ綜合スルニ省長王永江ハ今回愈々辞表ヲ提出セルモ作霖ハ之ヲ許可セス不日慰撫ノ為督軍署ヨリ副官長級ノ者ヲ金州ニ遣ハン右辞表ヲ撤回セシムル筈ニテ結局王省長ハ作霖ノ体面維持ノ義理合ニ余儀ナクセラレ帰任ヲ視ルニ至ルニアラスヤト察セラル又作霖

ハ曩ニ下野ヲ取消シタル処最近東三省民ノ人氣ハ漸ク省外
出兵ニ不平ヲ唱へ或ハ省庫ノ空乏ニ憤慨シツツアル一方赤
化防遏ニ関シテモ作霖ハ至極困難ノ立場ニ在リ旁々作霖自
身トシテハ時機ヲ見計ヒ下野シ其後任ニハ実子学良ヲ挙ケ
度希望ヲ有セル如キモ今日若シ作霖下野スルニ於テハ東三
省ハ忽チ分裂ヲ招致スルニ至ルヘク又学良トシテハ年少氣
銳ノ武人ニ過キス到底東三省ノ繁雜ナル政務処理ノ器ニ非
ラス要之東三省ハ先ツ現状ヲ維持スルノ外途ナカルヘシ尚
奉天票ノ下落ニ関シテハ省当局ハ非常ニ焦慮シツツアル模
様ナリト

右何等御参考迄ニ報告申進ス

本信写送付先 在支公使、哈爾濱、長春、吉林、安東、

遼陽、鉄嶺

三七 三月六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

新内閣顔触レ及ビ政情ニ関シ報告ノ件

第一一六号

(實地内閣)

(一)新内閣顔触レハ四日付公表セラレタルカ既報ノ外海軍杜
錫珪、司法盧信、教育馬君武、國務院秘書長鄧漢祥ナリ

ル旨ヲ語り且ツ関稅會議モ進捗セス又九千万弗增收額決
定案ニ付キテモ承認無キハ列國ニ於テ誠意無キ事ヲ示ス
モノニシテ支那トシテハ大ニ覚悟セサル可カラサル時機
ナルニ付キ或ハ天津ニ行キ同志ト共ニ根本問題ニ付キ協
議スルノ意向ヲ有スル旨語りタル有様ナリ

(四)段派安福派ノ策士ハ吳佩孚ノ北上阻止ヲ熱望スル結果頻
ニ奉天ト国民軍トノ妥協ヲ計画シツツ在リ国民軍側ニ於
テモ之ヲ歡迎シ或ハ熱河ヲ奉天ニ讓リ又曾毓雋ノ釈放ヲ
以テ妥協条件トセント焦リ居ル向モ有リトノ事ナリ
在支各領事及香港ニ転電セリ

三八 三月六日 在奉天內山総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

王永江ノ意向ニ関スル松井顧問ノ情報報告ノ

件

第七八号

松井顧問ハ四日夜金州ニテ王省長ト会谈シタルカ省長モ国
民軍ト連合軍トノ勝敗決セサルニ先立チ奉天側カ直ニ其兵
ヲ関外ニ収ムルノ不可能ナルハ了解シ居ルモ天津奪回問題
決定後ハ王省長ノ主張スル如ク保境安民ノ方針ニ出ス可シ

(尚既報農商楊文楷ハ楊文愷ト訂正有リ度シ)尚馮玉祥
同日付ニテ直隸陝宣撫使ニ任命セラレタルカ馮ハ下野後
事實上国民軍ノ統率ニ当リタルモ今後ノ任命ニ依リテソ
ノ出馬ヲ促シタル次第ナリ

(二)国民軍側ニ於テ戦況不利ニ伴ヒ局面打開ノ必要ニ迫ラレ
特ニ反対側カ国民軍側ノ赤化ヲ高調シ支那ノ赤化防止ヲ
口実トスルニ対シ少クトモ当面ノ措置トシテ右反対派ノ
目標ヲ除去スル必要ニ迫ラレ居タルト共ニ吳佩孚等旧直
隸派ノ北上ヲ防止スル点ニ於テモ段直系派ト利益ノ一致
ヲ見效ニ段派ト国民軍側トノ連繫内閣ヲ実現スルニ至リ
タル次第ナリ從テ曩ニ段ノ下野ヲ要求シ且ツ赤化分子ト
見ラレ居タル于右任(ハ就任セサリシモ) 易培基、王
正廷、江華等ヲ排斥シ之ニ加フルニ顔ヲ初メ吳佩孚ソノ
他段派及国民軍ニ反対ノ立場ニ在ルモノニ氣受ケノ悪カ
ラサル所謂穩健的政治家ト目サルル新聞員ヲ拉シ来リテ
攻撃ノ鋒ヲ避ケント試ミタルモノノ如シ要スルニ新内閣
モ戦況落着迄ノ一時的ノモノト見ルモノ多シ

(三)顔惠慶ハ未タ就任ヲ承諾セス一般ニソノ就任ハ実現セラ
レサル可ク觀測セラレ居ル処王正廷ハ四日愈総長ヲ辞ス
トノ奉天軍憲側ノ言ニハ從來ノ実績ニ徴シ絶対ニ信用ヲ置
カス從テ軍憲側カ衷心ヨリ保境安民ノ覚悟ヲ定メ且之ヲ実
行スルノ誠意アルコトヲ見極メタル上ナラテハ王省長ハ帰
任セサルノ意向ナリト認メラレタリト云フ尚松井ハ六日午
後三時当地発上京スヘシ
在支公使へ転電セリ

三九 三月七日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

「イワノフスキー」ソ連中央執行委員孫伝芳

ニ会见ヲ拒絶セラレタル旨報告ノ件

第二三号

(三月八日接受)

露国中央執行委員会委員「イワノフスキー」在北京露国大
使館參事官「ソロヴィエフ」同書記官「バシカブ」等ハ在
上海露国総領事「リンデ」ノ案内ニ依リ本月五日態々当地
ニ来リ孫伝芳ニ会见ヲ申込ミタル処孫カ会见ヲ拒絕シタル
為甚タ不氣嫌ニテ即日上海ニ引返シタルカ一行ハ直ニ広東
ニ向フ筈ナル旨交渉員ヨリ談話有タリ

一行来寧ノ目的ハ支那側ニ於テモ不明ナル由ナルカ時局柄
重要要件ヲ帯ヒタルモノト察セラルルト共ニ露国ハ国民軍

援助ノ為広東側ヲ動カシ北伐ヲ実行セシメントノ意向有リ
ヤニ伝ヘラルル事情モ有リ旁々孫伝芳ハ警戒ヲ加ヘ特ニ会
見ヲ避ケタル次第ナリト云フ

尚孫伝芳ノ参議楊文愷今回農商総長ニ任命セラレタル趣ナ
ルカ本人ハ受任ノ意志ナシ

北京、広東、上海、漢口ニ転電シ奉天、天津、濟南、青島
ニ暗送セリ

四〇 三月十一日 在長沙野田領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

湖南ノ政情ニ関スル趙恒惕省長談話報告ノ件

第八号

(三月十三日接受)

往電第六号ニ関シ

引続キ趙省長ノ逃亡説伝ヘラレタルヲ以テ其ノ実否ヲ確メ
ノ為十日午後本官ハ突然省長公署ニ趙省長ヲ訪問シタルニ
早速面会ノ上趙ハ八日以来ノ謠言ハ広東ヨリ入込メル赤化
分子ノ宣伝ニシテ何等根拠有ルモノニ非ス自分(趙)ハ都
合ニ依リ近ク省長ヲ辞任シ省憲法ニ依リ唐生智ヲ内務司長
ニ任命シ省長ノ職權ヲ代行セシムル考ニシテ唐ヲ呼寄セ中
ナルヲ以テ唐ノ来着ヲ待チテ近々下野ノ決心ナリ

張、吳、孫同盟ニ関スル靳雲鵬ノ遊説ト孫ノ態度ニ

関シ報告ノ件

本日十三日付機密往信第六八号ニ関シ孫伝芳昨十四日宴会
ニテ当館ニ来リ本官ノ質問ニ対シ左ノ通内談シ且右ノ次第
序ノ節日本政府ニ転達方申出テアリ

今回靳雲鵬遊説ノ目的ハ国民軍没落セントスル今日張作
霖、吳佩孚及余ノ三人ガ互ニ従来ノ行懸ヲ去リ同盟ヲ
訂結シテ速ニ国内ノ統一ヲ図リ反赤化ノ健全ナル中央政
府ノ組織スルヲ希望スルニ在リテ靳ハ熱心ニ余ニ対シ勸
説スル所アリタリ右ノ提議ハ主義トシテハ同感ナルモ実
際問題トシテ考フルニ張作霖、吳佩孚及余ノ三人ハ感情
問題ヲ別トシテ夫々異レル利害關係ヲ有スルニヨリ此際
直チニ同盟スルコトハ不可能事ニ属スルノミナラス三人
ノ内何人ヲ盟首トスルヤカ第一難問題ナリ余ノ見ル所ニ
ヨルニ仮リニ同盟スルトシテ三人ノ内何人カ盟首トナル
モ一旦平和克復ノ暁ニハ他ノ二人ハ必ス服従ヲ肯セサル
ヘク結局団栗同志ノ寄合世帯ニテ支那ノ統一ヲ企ツルカ
如キハ抑モ間違ナレハ将来袁世凱ノ如キ中心人物ノ再現
ヲ見ルニ至ル迄現状ノ儘推移スルノ外ナカルヘシ尤モ赤

当地ノ治安維持ニ付テハ充分手配シアルヲ以テ安心アリタ
キ旨ヲ述ヘ唐ノ軍隊進軍説ヲ極力否認セリ

惟フニ唐ノ軍隊ノ一部カ北上シテ衡山ニ移駐セルコト及最
近江西省ヲ經テ劉陽ニ入レル前粵軍師団長謝文炳ノ軍隊解
散ニ関シ混雜セルコト国民党系ノ宣伝等カ醞釀シ来リ趙
恒惕、唐生智間ノ暗流ト結ヒ着キ政局急変説ヲ生シタルモ

ノニシテ大勢ハ往電第六号ノ如クニシテ最近ノ政変ハ免レ
サルヘキモ事態ハ左迄接迫セルモノニ非スト觀測セラル
北京、漢口、杭州、広東、上海ヘ転電シ南京、沙市、宜昌
ヘ暗送セリ

四一 三月十五日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛

張、吳、孫同盟ニ関スル靳雲鵬勸説ニツキ孫

伝芳内談報告ノ件

機密送第六九号

(三月二十三日接受)

大正十五年三月十五日

在南京

領事 森岡 正平(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

化防止ノ方針ニ関スル限リ三者トモ同一意見ニモアリ今
後三者間ニ或ル程度迄好意的共助ヲナシ国内ノ治安維持
ニ便スルコトハ差支ナキモ三者同盟全國統一等ノ大問題
ハ暫ク懸案トシテ向フ二三年形勢ヲ觀望シタク右ノ次第
靳ニ伝ヘ置キタリ

尚靳ハ一応奉天ニ歸リ再び来寧当分居ヲ南京トスル管云
々
右ニヨリ察スルニ靳ノ遊説ハ張、吳、孫三者ノ諒解上相当
ノ効果ヲ収メタルモ三方面同盟迄ニハ今後幾多ノ曲折ヲ免
レサルヘシ

右報告ス

本信写送付先 在支公使、奉天、上海、天津、漢口、広

東、福州、青島、濟南各總領事、蘇州、杭州、蕪湖、

九江各領事

四二 三月十六日 在奉天内山總領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

邦人ニシテ奉天軍ニ参加セル者ナキ旨報告ノ

件

第八四号

(三月十七日接受)

本官発在支公使宛電報第三七号
貴電合第四九号ニ関シ

総司令部側特務機関並ニ在留民側等ニ就キ取調ヘタル処曠
峨少佐是永中佐ノ阿顧問カ秦皇島司令部ニアル外邦人ニシ
テ奉天軍ニ参加セル者ナシ但シ楊宇霆ハ奉直戦當時ニ於テ
多数ノ日本人前線兵士等ヨリ彈藥ヲ買収シ利益ヲ得ル為便
服ヲ纏ヒテ戦線ニ徘徊スル者アリシヲ認メタルモ今回ハ確
カナラス何レニスルモ日本人カ戦線ニアリテ遊撃行動ヲ為
シツツアルカ如キハ奉天軍艦ノ日本国旗掲揚説ト同様全ク
為メニスル国民軍側ノ想像説ニ過キササルモノナリト言ヘリ
外務大臣ヘ転電セリ

四三 三月十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

北京ニ於ケル孫文逝去一週年紀念大会ニ関シ

報告ノ件

公第二九八号

(三月二十六日接受)

大正十五年三月十六日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

リテ礼拝シ午後六時ニ至ル迄参詣者数万ニ達シタリ

(2)天安門内ノ大和殿ニ於テモ孫文ノ祭壇ヲ設ケ「主張開
国民会議」「廢除不平等条約」「実行中山先生遺囑」
等ノ額ヲ掲ケ傍ニ国民党员ノ出張所ヲ置キ署名並党员
加入ヲ勸メタリ樊鍾秀、王乃模、姚国斌、于右任其他
多数ノ輓聯ヲ列ヘ午前七時北京各団体並国民党员全員大
和殿ニ来集シ午前九時国民党領袖連ノ礼拝終リ徐謙主
祭者トシテ一場ノ挨拶ヲ述ヘ全員脱帽礼拝セリ次テ于
右任哀悼文ヲ読ミ吳稚暉孫文ノ孫ヲ同道シテ全員ニ謝
意ヲ表示シ散会シタリ此日午前九時内閣總理賈德耀ハ
屈内務其他各総長並王正廷等ヲ具シテ礼拝シタルカ同
日午後六時迄各団体各学校ヨリノ参拝署名者合セテ四
千名以上ニ及ヒタリトイフ

(3)当日天安門前ヨリ正門中華門ニ通スル石道中央ニ於テ
孫文銅像地固メ式行ハレ主祭者徐謙鋤ヲ執リ式ヲ始メ
碑石ヲ安置シタリ国民党员ノ参列者トシテ吳(脱)徐
謙、于右任、李石曾、顧孟餘、蔣孟麀、朱家驊等ノ顔
ヲ見タリ

(4)当日ハ各種宣伝「ピラ」冊子等ノ頒布高非常ナリシカ

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

北京ニ於ケル孫文逝去一週年紀念大会概況報告ノ件
孫文ノ逝世一週年ヲ紀念スル為北京ニ於テハ本月十二日十
三日十四日ノ三日間ヲ期シ各所ニ紀念大会演説会宣伝行列
等行ハレタルカ孫文ニ対スル人氣甚タ旺盛ニシテ支那ニ於
ケル風潮ノ一斑ヲ知ルニ足ルト認メラルルヲ以テ当日ノ概
況何等御参考迄左ニ報告ス

一、第一日(三月十三日)天安門内ノ大和殿及中央公園内
ノ社稷壇等ニ孫文ノ祭壇ヲ設ケ国民党员初メ北京各種団
体一般群衆ノ礼拝者数万ニ達シタリトイフ各所ノ情況ヲ
簡述セムニ

(1)中央公園内ノ社稷壇ノ孫文祭壇ニテハ例ニ依リ「努力
国民革命」「三民主義尚存」「打倒任何党派軍閥官僚」
等ノ文字ヲ大書シタル聯ヲ掲ケ殿後ノ牆上ニハ段執
政、章士釗、関稅特別會議委員會蔡廷幹、方本仁、熊
希齡等ノ輓聯所狭キ迄ニ列ヘラレタリ国民党员張秋
白、馬敘倫等祭儀ヲ畢ルヤ午前九時西北边防督弁張之
江特派張樹聲、唐悅良龔交通總長代理等礼拝シ次イテ
一般市民並北京各大学各中学各小学等四百余ノ団体来

新聞ノ報スル処ニ依レハ第一日孫文ノ写真遺文等ノ頒
布三万第二日九万ニ及ヒ其他第一日中頒布高「孫中
山先生」一万冊「中国国民党」七八千冊「大会日刊」
一万冊「建国方略」二万冊「慘案画報」三千「商
民」「党聲」「革命週報紀念号」等各数千部ニ及ヒタ
リト

二、第二日第三日ハ天候不良ノ為参会者ハ第一日ノ程ナカ
リシニ各祭場共依然各学校団体其他一般参詣者等相当ノ
人出ヲ見各所ニ路傍演説隊ヲ見受ケラレタリ

三、当日当館ニ於テ入手シタル各種宣伝「ピラ」並小冊子
類何等御参考迄別添ノ通り送付ス

四四 三月十六日 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

吳佩孚ノ軍費工面ニ関シ報告ノ件

機密第一六二号

(三月三十一日接受)

大正十五年三月十六日

在漢口

總領事 高尾 亨(印)
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吳佩孚ノ軍費ニ関スル件

某消息通ノ談及其他各方面ノ情報ヲ総合スルニ吳佩孚ハ昨秋出廬來漢シ挙事以來武漢兩總商会漢口銀行公會ニ対シタル借款ヲ筆頭ニ釐金稅負請額ノ三分ノ一増額シ阿片ヲ一担ニ付キ銀百二十元ヲ銀二百元ニ値上ケシ食塩値上ケニ依ル毎月銀十二萬元ノ増収ヲ得其他京漢鐵道武漢電話兩局ノ收入ヲ始メ旧直隸派軍人政客ノ獻金乃至武漢豪商ヨリ没収セル金額ヲ合シ今年一月下旬湖北軍隊ノ河南出動前迄ニ得タル軍費ハ銀五百萬元ニ達ストノコトナリ吳佩孚ハ蕭耀南ノ死後杜錫鈞ヲ省長ニ任命ノ条件トシテ軍費ノ調達ヲ命シタルカ杜錫鈞ハ吳佩孚ノ威ヲ藉リ各方面ニ対シ反對者買収又ハ懷柔ニ奔走ノ旁ヲ最近阿片ヲ一担ニ付キ更ニ三百二十元ニ値上ケン毎月三十萬元ノ増収ヲ図リ別ニ省政府ノ官有財産ヲ抵当ニ漢口支那銀行團ヨリ銀一百二十萬元ノ借款ヲ為シ又湖北官錢局ヨリ銀一百萬元ヲ支出セシメ更ニ蕭耀南等ノ反對ノ為メ一時中止サレタル当地英米煙公司トノ銀三百萬元ノ借款ヲ同公司ヨリ每年省政府ヘ納付スヘキ紙巻煙草稅ヲ銀六十萬元ニ増額シ五ヶ年分前納ノ条件ニテ昨今湖北財政厅长ヲシテ該借款契約ヲ調印セシメタル由ニテ為

之同公司製造ニ係ル紙巻煙草「哈德門」ハ二三日前ヨリ値上ケサレタリ如斯杜錫鈞ハ省長就任以來僅々一ヶ月間ニ銀五百五十萬元ノ軍費調達ニ成功シ今次斬雲鸞軍ノ北伐ニハ八十萬元携帶セシメタリトノコトナリ尚吳佩孚ハ最近鄭州以南ノ京漢鐵道ノ管理權ヲ完全ニ掌中ニ収メタルヲ以テ此方面ノ交通恢復セハ更ニ毎月一定ノ増収ヲ得ル見込アリ蕭耀南在世當時一時財產窮乏ニ陥リタル吳佩孚ハ昨今軍費ニ多少余裕ヲ生シ来レリト言フ

何等御參考迄ニ此段報告申進ス
本信写送付先 在支公使、在奉天、天津、濟南、上海各
總領事、在南京、長沙、宜昌、九江各領事

四五 三月二十一日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京學生射殺事件ニ関連シ徐謙、李大釗、李石曾等ノ通緝令布告ニ至ル經過並ビニ輿論等

報告ノ件

第一八九号 (三月二十一日接受)

往電第一八一号ニ関シ

(一)徐謙、李大釗、李石曾、易培基及顧孟余ニ対スル通緝令

(逮捕令) 及李鳴鍾ノ集会禁止ニ関スル布告ハ何レモ十九日発表セラレ其ノ内容ハ大体東方電報ニテ御承知ノ通りナル処右通緝令決定ノ經過トシテ二十日晨報ノ報スル所ニ依レハ往電第一八一号緊急閣議ニ於テ段ヲ初メ賈德耀、屈映光、賀得霖、龔心湛、盧信其ノ他外交、海軍、教育、農商四部ノ次長ニ李鳴鍾ヲ加ヘ善後措置ヲ擬議シタル結果議論ニ派ニ分レ段ヲ筆頭トセル硬派ハ此ノ際群衆領袖ト自称セル徐謙等ヲ共產党ノ名目ノ下ニ捕縛シ嚴重ナル取締ヲ為スヘキコトヲ主張シ軟派ハ之ニ対シ穩便ナル処置ヲ主張シタルモ斯クテハ今回衛隊ノ射殺事件カ政府ノ責任タルヲ默認シタルコトトナリ内閣ハ總辭職ノ外ナカルヘシトノ意見出テタル結果本件通緝令ノ發布ヲ見タルモノニシテ最初ハ陳啓修及朱家驊ノ二人加ヘラレ居タルモ右兩人ハ未タ重要人物タル声望ナシトテ易培基及顧孟余ヲ以テ之ニ代ヘタリトノ趣ナリ

本件射殺ノ当面ノ責任者ハ吳光新ノ旧部下ニシテ國民軍ト全然系統ヲ異ニシ居ル段執政ノ衛隊ナルカ國民軍側李鳴鍾ノ部下タル軍警ハ其ノ責任ノ自己ニ在ラサル旨述ヘ弁駁書ヲ特ニ公表シ居ル有様ナリ

(二)本件ニ対スル輿論ハ大体東方電報ノ通ナル処要スルニ今次ノ射殺事件ヲ以テ政府ノ責任ト為シ之ヲ攻撃スルト共ニ他方青年學生等ヲ使噤シテ此ノ如キ慘害ヲ蒙ルニ至ラシメタル前記左傾派領袖ハ少クトモ之カ道德的責任ヲ免カルヘカラスト為シ且本件ハ速ニコレカ調査ヲ為シ公平ナル司法的解決ヲ為ササルヘカラストスルニ一致シ學生等ハ宜敷ク真ノ民衆指導者ト煽動的奸人トヲ識別セサルヘカラスト警告セルモノ多ク論調ハ今日迄一般ニ穩健ナリ又当地有力ナル各方面ノ觀察ヲ綜合スルモ本件射殺事件カ段政府ニ対シ相当痛手タルニハ相違無キモ國民軍トシテ現ニ孤立ノ姿ニシテ段ヲ見放ス能ハサル狀況ニアリ旁戰況ニ激変ナキ限リコレカ為メ現内閣ノ顛覆ヲ見ルカ如キコトナカルヘシトスルニ一致ス

(三)但シ十九日李烈鈞、張繼、^{カウキイトウ}方声濤等ハ天津ヨリ電報ヲ寄セ其ノ措辭激烈ヲ極メ此ノ際軍警当局ヲシテ死傷者ノ家族ヲ慰問セシムルト共ニ政府ヲ根本的ニ改造シテ暴人(段祺瑞ヲ指ス)ヲ逮捕シ人民射殺ノ罪ヲ糺シ國民軍ハ民衆ト一致ノ態度ヲ執ルヘシト主張シ来レル有様ニシテ國民黨及極端派ノ態度ハ今後益々執拗トナルヘキハ想像ニ難カラス

在支各領事 香港へ転電セリ

四六 三月二十二日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

湖北省長ヨリ江西、湖北間緊張ノ際我が第一

水雷戦隊來航暫時延期方内談アリタル件

第七九号(至急) (三月二十三日接受)

第一水雷戦隊旗艦以下十六隻四月九日当港へ来ルヘキ旨報
道アリ支那側ニ於テモ歡迎ノ意ヲ表シ居レル処本日省長ヨ
リ江西方面ノ形勢俄ニ緊張シ来タリ同省ハ既ニ動員令ヲ発
シ湖北ヨリハ之ニ對抗スル為武穴ニ到ル沿岸一帯ニ亘リ軍
備ヲ整ヘ居ル次第ニテ何時衝突ヲ見ルヤモ知レス万一同隊
ニ対シ天津方面ノ如キ不祥事ヲ演スルニ於テハ遺憾至極ニ
付双方ノ為暫時延期叶フマシキヤ折角ノ御來訪ヲ阻止スル
ハ不本意ナルモ時局柄切ニ考慮ヲ煩ハシ度旨内談アリ江西
ノ狀況ハ前電ノ通ニシテ右ノ希望ハ一応尤ノ儀ト存セラル
ルニ依リ至急御詮議ノ上何分ノ儀電訓ヲ請フ
在支公使 上海 九江へ転電セリ

四七 三月二十四日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

南京ニ於テ孫伝芳ト会谈、地盤ノ確保ヲ勸告
シタル旨報告ノ件

第六九号

往電第六四号ニ関シ

本官交渉員ト会合ノ際孫伝芳ニ面会シ度キ希望ヲ洩シタル
ニ早速南京へ通シタリト見ヘ孫ヨリ本官ノ來寧ヲ待ツ旨申
越アリ依テ二十三日往訪(森岡領事同席)談話ノ要領次ノ
如シ

本官ハ先ツ支那ノ内政殊ニ各領袖ノ集合離散乃至其ノ成敗
興亡ニ興味ヲ有セス何人カ權力者タルハ中国人自ラ決スヘ
キ問題ニテ只タ自分トシテハ私慾ノ為メ民衆ヲ虐ケサル人
物タルコトヲ民国ノ為メ切望シ居ルニ過キス從テ本官ハ貴
下カ何人ト結ハルルヤノ問題ヨリモ如何ナル政治ヲ施行セ
ラレツツアリヤノ点ヲ注目シ居ル次第ナリ余ハ貴下ト相知
リテ日尚ホ浅キモ貴下ノ新時代ノ要求スル人材タルヲ知ル
我政府ニモ新支那ノ覚醒ヲ認メ之ニ多大ノ興味ト期待トヲ
有シ居ルハ先般議會ニ於ケル幣原男爵ノ外交方針演説ニ依
ルモ明白ナリト述ヘ孫ノ治水開墾財政整理等ノ堅実ナル施
政ニ着手シツツアルヲ賞讃シ更ニ上海ノ状態ニ言及シスル

王永江辭職ヲ繞ル奉天省内ノ形勢等報告ノ件
第一〇二号 (三月二十五日接受)

王永江辭職以來省長財政厅长ノ任命未タ行ハレサルハ文官
派ニ於テ財政ノ対策定ラサルカ故張作霖ハ怒リテ王ノ辭職
ヲ許スト噂サレタルモ吳俊陞ハ自ラ王慰留ノ為金州ニ赴キ
其復職ニ奔走シ王復職セサレハ吳モ亦辭スル氣配アリ省内
ノ形勢今尚混沌ノ状アルモノノ如シ軍閥派ハ閥内進出地盤
獲得ニ依リテ戦費充実ヲ計ルニ力メ今回ノ戦勝ハ偶々此希
望ヲ満足セシムヘキ外觀ヲ作レルモ支那中央ノ政況ハ俄ニ
張作霖ノ為ニ樂觀ヲ許サス閥外ニ失ヘルモノヲ閥内ニ得ン
トシテ戦費益々嵩ミ財政愈々行詰マルヘキ虞アリ張作霖ハ
唐山ヲ得テ兵ヲ還スト称スルモ張學良ハ勝ニ乘シテ近ク北
京ヲ掌中ニ収メント豪語シ居リ吳佩孚李景林張宗昌等反國
民軍ハ今後共益々奉軍引出シニ尽力スヘク尚町野ニ対シテ
ハ陸軍大臣ヨリ確^ズト帝國政府ノ決意ノ在ル処申聞ケラレ同
人カ張作霖ニ対シ若ハ張作霖ノ為ニ小策ヲ弄セサル様敵ニ
申聞ケアル様特ニ御配慮ヲ請フ

四八 三月二十四日 在上海矢田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大都会カ人為的ニ二三個ノ獨立機關ニ依リテ分割支配サルル
コトノ不自然並ニ二百万人ノ蒙ル有形無形ノ不便利ヲ力
説シ而モ此ノ内ノ二機關ハ前頭支那ノ自覺運動カ我々ノ期
待スルカ如ク合理的ニ發展シ行カハ早晚消滅スヘキ運命ニ
アルハ何人モ否定シ得サル所ナリ卑見ニ依レハ此ノ過渡的
時代ニ処スルノ改善法トシテハ先ツ出來得レハ二個ノ外國
租界ヲ合併シ更ニ南市閘北等ノ支那町ヲ統一スル自治機關
ヲ設ケ之等ノ代表ト租界ノ代表トヲ集メタル一委員會ヲ組
織シ警察ノ徹底的共助電話水道等公共事業ノ統一等手近キ
仕事ヨリ処理シ行クコト然ルヘクト信スル旨ヲ述ヘタル処
孫ハ全然同感ヲ表シ既ニ上海ヲ特別商埠地トスル案ヲ作り
孫自ラ總弁ヲ兼任シ別ニ座弁ヲ置キ上海ニ常任セシメ一切
ノ事務ニ当ラムル考ニテ座弁ノ候補者モ略内定シ居レリ
トテ丁文江(英國文化事業ノ支那委員)ノ名ヲ示シ北京政
府ヲシテ一指ヲ染メシメサル意氣込ヲ示シ右實現ニ関シ外
國側トノ諒解等本官ノ尽力ヲ仰ク旨ヲ申添ヘタリ
本官ハ話頭ヲ転シ總司令今日ノ勢力カ連戦連勝ノ結果ナル
ハ元ヨリ承知シ居ルモ勝利ノ裏面ニハ必ス大ナル犠牲有リ
江南ノ重地ニ蟠居セラレタル以上退イテ地歩ヲ固メ戦ヲ極

力避ケラルル事切望ニ堪エス此地ニ於テ銳意財政ヲ整理シ産業ヲ興シテ近代式ノ行政ヲ施スト共ニ軍紀ヲ嚴ニシ秩序ヲ維持センカ一兵ニ軋ラスシテ声望先ツ天下ヲ征服ス可シト説示シタルニ大イニ我カ意ヲ得タリト喜ヒタルカ其夜ノ宴会ニ於ケル様子殊ノ外好機嫌ナリシニ徴シ万更御座ナリニハ非サリント認メラル

尚岡村中佐ノ談ニ依レハ先日陳儀來寧ノ際岡村中佐ニ対シ自分ハ昨年峇兵以來益々孫ノ人物ニ傾倒ス殊ニ南京占領ノ後我々ハ皆南京ヲ固ム可キヲ主張シタルニ孫ハ敢然トシテ群議ヲ排シ兵ヲ江北ニ進メ徐州攻略ヲ断行シタル後南京ヲ守リタル勇氣決断ニハ部下將領モ信服シ居レリ又孫ノ偉キ事ハ支那人間ニモ未タ余リ知ラレ居ラスト語リタル由尚孫ノ軍警ハ規律嚴肅ニシテ民望ヲ収メ孫自身モ從來ノ支那大官ト類ヲ異ニシ本官会見ノ際ノ如キモ孫ノ考案セルモノナリトテ全然微章ヲ付セサル一兵卒ト同様ノ粗末ナル軍服ヲ着シ熱心軍務ニ歎掌セルヲ見タリ

四九 三月二十六日 在漢口高尾總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

大ニ歡迎スル処ナリトノ意向ナリ卑見ニ依ルモ右ハ至極尤モノ希望ニシテ強テ逆フモ如何ト存セラルルニ依リ右ノ趣八角司令官ニ御伝ヘノ上可然考慮ヲ払ハレ結果電報有リ度シ

五〇 三月二十八日 在漢口高尾總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報) 沅江丸被射事件ニ関シ呉佩孚ニ注意喚起ノ件

長沙發閣下宛電報第一一號ニ関シ 右ハ余リノ暴状ト存シタルニ依リ三月二十八日日本官呉佩孚ヲ訪問シ詳細ニ顛末ヲ説明シ之レカ善後処置ニ付テハ何レ政府ヨリ長沙領事ヘ訓令アルヘシト思考スルモ本官一個ノ感想ヨリセハ本件ノ如キハ北方国民軍ノ暴状ト共ニ極メテ重大ノ意義ヲ有スルモノニシテ益々世界ノ同情ヲ失墜シ如何ニ国内ノ統一ニ努ムルトモ対外關係ノ紛糾ハ延テ立国ノ基礎ヲ危殆ナラシムヘク日本ノ輿論ハ飽ク迄支那ヲ救済援助スルニアリト雖モ斯ク迄諸方ニ国交ヲ無視スルノ事態頻發スルニ於テハ遂ニ如何ナル態度ニ変スルヤモ計リ難シ日

湖北当局ハ大沽事件ノ反響等人心ノ刺激ヲ考 慮シ旗艦ノミノ來航ヲ歡迎スル意向ノ件 (三月二十七日接受)

第八二號 本官發上海宛電報 第二八號 大臣發電報第二四號ニ関シ

早速省長ノ外呉佩孚、齊燮元、陳嘉謨等ヘモ伝ヘタル処江西、湖北間ノ關係ハ齊燮元鄭州ヨリ帰來後方本仁トノ諒解成リ差当リ形勢悪化ノ惧無キニ至リタルモ(但シ警戒ハ解カスト言ヘリ)コノ際日本驅逐隊多數ノ來航ヲ以テ甚シク人心ヲ刺戟シ右ノ行動ハ大沽事件ニ対スル示威運動ナリトテ既ニ檄文様ノモノヲ撤布セルモノスラ有リ五七記念日ノ他ノ排外的記念日モ近スキ居ル今日最警戒ヲ要スル次第ニシテ地方当局トシテハ能フ限り過激分子ニ口実ヲ与ヘサル様努メタク先般米國驅逐隊來航ノ際ノ如キモノノ取締ニ手古擦リタル实例モ有リ多數ノ兵員上陸ノ為万一行違ヒ等ヲ生スル時ニ忽チ暴動化スル土地柄ニ付少クトモ中央ノ時局定マリ当方面ノ軍事行動終熄スル迄暫ク延期セラルル事希望ニ堪ヘス又司令官ノ坐乗セル旗艦ノミ來訪相叶ハハ

本既ニ然リ全世界輿論ノ硬化ニ至リテハ恐ラク時ノ問題ニ過キサルヘシ之ヲ救済スルハ速ニ時局ノ平定ニ努ムルト共ニ不幸ニシテ対外關係ヲ惹起セハ第一ニ国交ヲ尊重シ飽ク迄誠意ヲ披瀝シテ公正ニ処断スルニアリ長沙事件ノ如キ万一同地ノ政権カ優柔不断善後処置ヲ誤マルニ於テハ其ノ結果ハ推シテ知ルヘク遺憾ニ堪ヘサル旨ヲ述ヘタルニ呉ハ本件ノ發生ハ何トモ陳謝ノ辭ナク早速唐生智ニ警告ヲ与フヘシトテ即座ニ電文ヲ起草シ發電ヲ命シタルカ右ハ現在湖南トノ關係ニ鑑ミ固ヨリ効果アリトハ存セサルモ少ナクトモ此ノ種事件ノ發生ニ対シテハ彼ニ二分ノ刺戟ヲ与ヘ軍事一点張りニテ國家ヲ救済セントスルカ如キハ以テノ外ノ心得違ナル旨ヲ痛切ニ知ラシメ置クコト必要ナルヘシト存シ特ニ訪問セル次第ナリ尚ホ序ニ時局談ヲ試ミタルカ近ク段祺瑞退去ノ上ハ差当リ王懷慶ヲ北京ニ入レ治安維持ノ任ニ当ラシムル旨ニシテ自分等ノ入京ハ未タ其ノ時期ニアラスト云ヘリ

五一 三月二十九日 在奉天吉田總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

北京 上海 長沙ヘ転電セリ

張作霖ハ張宗昌ト会談ノタメ山海関ヘ出発ノ件

第一一〇号

張作霖ハ数日前張宗昌ニ出奉ヲ促シタルモ張宗昌ヨリハ現ニ国民軍ト対峙中ニテ出奉不可能ニ付秦皇島迄出迎フヘキ旨返電シ来リタルヲ以テ作霖ハ山海関辺ニテ張ニ落合フ為吳俊陞、汲金純、于国翰等ト共ニ急遽出發ニ決シ(脱?)尚張作霖モ二十九日出發スヘシト云フ作霖ハ松井ニ對シテハ数日中ニ歸奉ノ予定ナリト語リタル由ナリ支、天津、漢口、上海、濟南ニ転電シ哈爾濱、吉林、長春、安東、牛莊、青島、南京ニ暗送セリ

五二 三月二十九日 在上海矢田総領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

第一水雷艇隊ハ全隊遼航ノ意向ナル旨報告ノ件

第七四号

本官發漢口宛電報第三五号

貴電第二八号ニ関シ

第一水雷艇隊司令部ヨリ左ノ通り

リ尚同船ノ船橋及客室ニ命中セル銃丸數十発アリ軍隊ノ配屬等取調ヘ中ナリ北京、天津、上海、長沙、九江ヘ転電シ南京、重慶、沙市、宜昌ヘ暗送セリ

五四 三月二十九日 在漢口高尾総領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚沅江丸事件ニ関シ陳謝ノ上唐生智ヘ敵重査弁方發電ノ件

第八七号

本官發長沙宛電報

第一七号

本官發大臣宛電報第八六号ニ関シ

沅江丸ニハ唐生智ノ代表譚天地モ同船シ現状ヲ目撃シタル次第ニテ同人ハ当地到着後直ニ吳佩孚ヲ訪問シ具ニ狀況ヲ報告シタル趣ニテ吳ハ本二十九日孫潤宇ヲ当館ニ遣シ目下湖北軍ハ湖南江西ノ省境通山、崇陽、新堤方面ニ配備中ニテ岳州方面ニ在リシ吳派ノ湖南第二師葉開鑫ノ軍隊ハ既ニ湖北省内ニ退却シ葉自身ハ本月二十七日当地ヘ来リ居レリ依テ右ノ暴行ハ全ク唐生智所屬軍隊ノ所為ト認ムルカ(海

当隊漢口迄ノ溯航ハ例年ノ巡航ニシテ何等意味ナキモノニモアリ又当隊トシテ旗艦ト駆逐艦トヲ分離行動セシムルハ事實上不可能ニ付御迷惑乍ラ全隊溯航ノ事ニ致シ度ク貴地着ノ上ハ当隊トシテ充分行動ニ注意スヘキモ支那側ニ對シテモ夫々注意方御配慮ヲ請フ

外務大臣、九江ヘ転電セリ

五三 三月二十九日 在漢口高尾総領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

日清汽船沅江丸岳州付近ニテ中国軍隊ニ射撃サレ死傷者ヲ出シタル旨報告ノ件

第八六号

(三月三十日接受)

日清汽船会社沅江丸ハ欧米人船客四名支那人船客約四百名(邦人船客ナシ)ヲ搭載シ三月二十八日午前六時半長沙出帆漢口ヘ向ケ下航ノ途中同日午後四時二十二分同船カ岳州ヲ通過ノ際南岸ニアリシ支那軍隊ハ散兵戦ヲ為シ同船ニ對シ約二十分間ニ亘リ小銃及機関銃ヲ乱射シ支那人船客中重傷者三名輕傷者二名ヲ出シタルヲ以テ直ニ城陵磯迄急航シ同地税関外人医師ノ手当ヲ受ケタルモ遂ニ一名死亡シタルカ同船ハ右死傷者ヲ載セ今二十九日午前八時当地ヘ入港セ

軍無線電報ニ依ルモ唐ノ軍ハ既ニ岳州ニ入レルモノノ如シ)何レニセヨ斯ル不祥事ヲ發生セシメタルハ甚タ遺憾ナリトテ陳謝ノ意ヲ表シ次テ吳ヨリハ早速唐生智ニ對シ本件顛末ヲ電報シ敵重査弁方ヲ求ムルト同時ニ今後ノ取締ニ付注意ヲ与フル積リナルカ如何ト述ヘタルニ付本官ハ之ニ同意ヲ与フルト共ニ更ニ本件ニ関シテハ吳ヨリ陳督理ニ命シ目下同方面ニ駐防中ノ湖北軍隊ヲ戒飭シ日本船舶ノ保護方ニ付テハ特ニ注意シ置ケリ

尚本官ハ本件ノ發生地カ貴館管内ナルモ当地ニ於テ詳細ノ事情判明セル次第ニ付不取敢別電第一八号訳文ノ通唐生智ヘ直接電報シ置ケリ委細右ニテ御承知ノ上然ルヘク御交渉ヲ請フ

尚日清ノ定期船ハ事態判明スル迄当地出港ヲ見合セ方命シ置ケルニ依リ貴地ニ於テモ狀況次第ニテ然ルヘク御配慮ヲ請フ

外務大臣、在支公使、上海ヘ転電セリ

五五 三月二十九日 在漢口高尾総領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

沅江丸事件不法軍隊ノ処罰ヲ唐生智ニ要求ノ件

件

第八八号

(三月三十日接受)

本官発長沙宛電報第一八号

本國商日清汽船会社ヨリ本月二十八日同社々船沅江丸ハ長沙出帆漢口ヘ向ケ下航ノ途路同日午後四時二十二分岳州ニ差懸リシ際同地南岸ニアリタル貴國軍隊ハ散兵戦ヲ為シ小銃及機関銃ヲ以テ同船ヲ乱射シ貴國人船客中死者一名重傷者四名ヲ出シ同船ハ本日午前八時当地ヘ入港シ貴國官憲ニ對シ右ノ不法軍隊ヲ嚴重処罰有度旨願出アリ依テ本総領事ハ同船ヲ臨檢セシニ右ハ事實ニ相違ナク銃丸命中五十七発ニ及ヘリ同船々客中ニハ貴師長ノ代表譚天地アリ親シク現狀ヲ目撃シ驚愕ノ余リ直ニ吳總司令ニ對シ具ニ報告セル由ナルカ貴我兩國ノ關係敦睦ナルニ拘ラス斯カル不法行為ノ發生ヲ見タルハ本総領事ノ最モ遺憾トスル処ナリ貴師長ニ於テモ日支ノ邦交ヲ顧念シ本件暴行者タル軍隊ヲ充分取締ノ上嚴重ニ処罰スルト同時ニ今後再ヒ斯カル不法行為ヲ繰返ササル様所屬軍隊ニ對シ嚴重ニ命令シ同方面ヲ航行スル帝國船舶ニ對シ隨時保護ヲ加フル措置アランコトヲ希望ス尚本件ニ関シテハ追テ長沙帝國領事ヨリ直接貴師長ニ對シ

上此ノ際ノ来航ハ是非共延期セララル様重ネテ至急御詮議ヲ仰ク
北京ヘ転電セリ

五七 三月三十一日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

沅江丸事件ハ唐生智軍ノ所為ト確認サルル旨

報告ノ件

第九〇号

(四月一日接受)

本官発在支公使宛電報第七二号

貴電第九号ニ関シ

長沙トノ電信不通ニテ事狀判明セサルモ昨夜当館ニ達シタル同地ノ警備艦「保津」ノ無電ニ依レハ野田副領事ハ唐生智ニ抗議ノ結果唐ヨリハ実狀調査ノ為副官ヲ岳州ニ派遣セリトアリ暴行兵ノ所屬ハ湖南軍ニ相違無シト認ム軍艦「宇治」今朝当地岳州ニ向ヘリ尚湖南境ニテ湖北軍壘壕ヲ築キ防備中ナルカ衝突ハ脱レスト伝ヘラル昨日来武昌住民モ当地ヘ避難シ来ルモノアリ吳佩孚及本官ノ措置ハ往電第六八号及六九号ノ通りナルカ本官ノ唐ニ宛テタル電報ハ発信不能ナリ「宇治」ノ代艦トシテ南京ヨリ軍艦「比良」湖江

提議スル処アルヘキモ不取敢茲ニ電報ヲ以テ叙上ノ次第要求スルニ付本件貴方ノ処分振ニ関シ何分ノ儀回電アリタン外務大臣、在支公使、上海ヘ転電セリ

五六 三月三十日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

第一水雷戦隊全艦ノ来航ハ示威運動ト誤解セラルル虞アルニツキ溯航延期方要請ノ件

第八九号

(三月三十一日接受)

第一水雷戦隊ハ上海ヨリ転電ノ通り矢張り当地迄溯航スル由ノ処其ノ後湖南湖北ノ形勢切迫ヲ伝ヘラレ(三十日發東方電参照)現ニ鉄道ノ一部ハ破壊セラレ電信モ亦不通ニシテ人心幾分動揺ノ微アリ殊ニ沅江丸射撃事件ハ内外人一般ニ刺戟ヲ与ヘ其ノ再発ヲ防止スル為メ細心ノ注意ヲ必要トスル折柄示威運動ト誤解セラルル多數戦隊ノ来航ハ仮令前年ノ如キ故障ヲ生セストスルモ不穩分子ニ口実ヲ与ヘ如何ナル事態ヲ惹起スルヤモ計リ難ク特ニ長沙方面ニ及ホス悪影響ハ一層憂慮ニ堪ヘス今日ノ場合本官等ハ支那官憲ト協力シ努メテ事端ヲ避クルヲ以テ最善ノ策ト心得居ル次第ニ付海軍ノ行動ヲ妨クルノ嫌アルハ遺憾ナルモ事情御賢察ノ

シツツアリ

外務大臣、上海、九江ニ転電セリ

五八 三月三十一日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚ハ沅江丸事件ニ関シ唐生智ニ不法軍隊ノ査弁並ニ今後ノ取締方ニツキ警告ヲ発シタルモ何等回答ナキ件

第九一号

(四月一日接受)

往電第八六号ニ関シ

三十一日張志潭ノ吉竹ニ語ル処ニ拠レハ吳佩孚ハ直ニ無線電信ヲ以テ唐生智ニ對シ不法軍隊ノ査弁並ニ今後ノ取締方ニ付警告ヲ発シタルモ唐ヨリハ未タ何等ノ回答ナシト尚岳州ニアリシ葉開鑫ノ軍隊ハ大部分唐ノ軍隊ノ為解散セラレ湖北省境ヘ逃亡シ来レル軍隊ハ約三千ナリ目下唐ノ軍隊ハ岳州方面ニアリ吳ハ二十五師及二十一混成旅ノ兵力約二万ヲ以テ省境臨湘、羊楼司方面ニ壘壕ヲ築キ防備中ニシテ昨今兩者間ノ形勢相当逼迫シ居レルモ唐ハ沅江丸ニテ来漢セシ代表譚天地ヲシテ吳ニ對シ自分(唐)ハ決シテ赤化シ居ルニ非ス又湖北ヘ侵入ノ意図ナシト頻ニ弁明シ居リ吳トシ

テモ此際湖南トハ出来ル丈開戦ヲ避ケ度キ考ヘニシテ今尚
蔣方震ヲ代表トシテ長沙ニ留メ居ル次第ナルカ唐ノ背後ニ
アル赤化分子ノ態度如何ハ最警戒ヲ要スヘシト
尚当地日清汽船支店ヨリ前日湘潭ヲ発シ本日当地ヘ入港セ
シ曳船梅丸ハ岳州通過ノ際湖南軍隊ヨリ臨検ヲ受ケタル由
ナルカ途中当地ヨリ長沙ヘ向ヒタル曳船竹丸及松丸ニ出会
ヒタルモ同船ハ臨検モ受ケス格別ノ故障ナク通過シタルヲ
以テ沅江丸ニ鉄板ニテ防弾設備ヲ為シ明四月一日再ヒ長沙
航路ヘ就航セシメ度旨申出アリ本官ハ目下当地及長沙間ノ
通信機關全然杜絶シ同地トノ連絡上必要ナリト認メ之ヲ承
認シ岳州迄溯航シ同地ニアル宇治艦長ノ指揮ヲ受ケ進退ス
ヘキ旨申聞ケ置ケリ

在支公使、天津、奉天、上海、九江ヘ転電シ長沙、沙市、
宜昌、南京ヘ暗送セリ

五九 四月一日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

秦皇島ニ於ケル張作霖ト張宗昌、李景林等ト

ノ会談ニツキ内探ノ件

第一一八号

ニ出向キ度意向アリトノコトナリ

北京、天津、濟南、上海、南京、漢口ニ転電シ哈爾濱、長
春、吉林、牛莊ニ暗送セリ

六〇 四月二日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

第一水雷戦隊ノ溯航ハ民心ヲ刺激スル虞レア

ル旨八角司令官ニ伝ヘラレタキ件

(四月三日接受)

本官発南京宛電報

第四二号

左ノ通八角司令官ヘ至急御伝ヘテ請フ貴隊当地ヘ御遊航ニ
付テハ我カ官民ハ勿論支那側ニ於テモ進シテ歓迎ノ意図ハ
有スルモ最近当方面ノ状況ハ曩ニ上海經由貴官宛並ニ森岡
ヨリ転達スヘキ電報ニテ御承知ノ通ナルモ左傾分子ノ排日
英帝國主義ノ運動ハ中々深刻ニシテ現ニ武昌方面ニ於テハ
一兩日来其ノ鋒銚ヲ現シ来リ近ク来ルヘキ各種排外記念日
ニハ一大運動ヲ起スヘシトノ風聞アリ支那当局ニ於テハ極
力防庄ニ努メ居ルモ官憲ノ威力ハ北京学生射殺事件ノ結果
等ニ顧ミ兎角不徹底ニシテ動モスレハ民衆ニ媚フルノ嫌ア

往電一一〇号ニ関シ内探スルニ張作霖ハ二十九日午後秦皇
島ニ於テ張学良ト共ニ来着セル張宗昌ト約三時間程会谈ノ
後李景林ハ後レテ来着シ最初作霖ハ李ニ相当嫌味ヲ並ヘタ
ルモ李ハ奉郭戦當時ノ苦衷ヲ種々釈明スル処アリテ相互ニ
充分諒解ヲ得タル結果三十日午前中国軍對策ヲ協議シタ
ルカ右会谈ノ模様ニ関シ張作霖及楊宇霆ノ松井ニ語ル処ニ
抛レハ会谈ノ主眼トスル奉天派各軍ノ結束ハ上首尾ニ終リ
将来国軍ヲ討滅スヘキコトヲ申合セ李景林ヲ連合軍(前
敵)総司令トナスコト地盤問題其他ノ具体案ハ奉天ニテ計
画シ各軍各方面ニ交渉スルコト褚玉璞ヲ直隸督軍ニ決定シ
李景林ハ北京攻略後京畿衛戍司令若ハ陸軍總長タラシムル
コト等ヲ決定シタリト云フ

国民軍討滅ニ関スル奉軍ノ連合軍援助程度ハ明確ヲ欠ク嫌
アルモ差当リ武器彈藥等ヲ供給シ他ハ戦況ニ依リ臨機ノ処
置ヲ講セントスルニアルモノノ如ク又李景林ニ對シテハ榮
職ヲ与ヘテ其実利ヲ奪フノ魂胆ナランカト察セララル

尚張ハ帰途錦州ニ立寄り同県知事張德恒ハ奉郭戦當時郭ノ
為ニ六十萬元ノ軍費ヲ調達セリトノ廉ニヨリ之ヲ銃殺シ三
十一日午前七時帰奉シタルカ愈々北京陥落ノ後ハ更ニ天津

リ万一貴隊ノ来航ニ依リ民心ヲ刺戟シ左傾分子ノ乗スル所
トナラハ我方ニ於テ支那側ノ希望ヲ退ケタル行懸上其ノ結
果ニ對シ極メテ不利ノ立場ヲ招クノ虞有リ目下ノ状勢ハ内
外人共ニ努メテ事端ヲ避ケンコトニ腐心シ疲弊セル經濟上
ノ打撃ヲ幾分ニテモ減センコトニ努力シ居ル次第ナリ
右ハ本官一己ノ判断ニシテ支那側ニ對シテハ既ニ貴電ノ趣
旨ヲ説明シ来航ノ如何ハ我方ノ自由ナル旨ヲ申伝ヘ居留民
有志ニ於テハ夫々歓迎ノ準備ヲ進メ居レリ本官ノ私情ヨリ
セハ閣下ニ對シ衷心遺憾ニ堪ヘサルモ卑見ノ当否ハ本官全
部其ノ責ニ任スヘク今一応御考慮ノ上至急何分ノ儀御回示
ヲ請フ

外務大臣 在支公使 上海 九江ヘ転電セリ

六一 四月二日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

沅江丸事件ニ関スル唐生智軍側ノ情報報告ノ

件

第九六号

(四月三日接受)

四月二日岳州発軍艦宇治ヨリ情報電報左ノ通
当地着後支那最高指揮官ヲ問ヒ沅江丸射撃ノ理由ヲ問フニ

日ク二十八日ハ当地占領ノ日ニテ下航シ来ル沅江丸ニ敵兵約四十乗船セルコトヲ望遠鏡ヲ以テ認メ停船セシムヘク数発ヲ発射シタルニ逸走セントシタル為已ムヲ得ス発砲セリ現ニ其ノ兵ハ城陵磯ニテ下船シ一部ハ逃亡セシモ一部ハ捕虜トシテ収容セリト

尚本件ニ付テハ既ニ唐師長ヨリモ訓令アリ自分トシテモ遺憾千万トスル処ニシテ再ヒ斯ノ如キコトヲ為ササル様嚴重取締ルヘキ旨声言セリ目下此ノ方面ニハ吳軍來攻ノ噂アリテ警備嚴重夜間移動スルモノアラハ小舟ト雖モ発砲停止セシメツツアリ又上流ニ於テモ航行船舶ハ臨検ノ為數発ヲ食フヲ例トスト暫ク監視警戒ノ要アルモノト認ム次イテ又同船發電ニ支那軍艦江貞船長ノ言ニ依レハ唐軍ノ岳州占領ニ對シ吳ハ海軍總司令ニ軍艦派遣ヲ要求シ其結果該江貞ノ外二隻來航ノ筈ナリ尚当方面ノ唐軍ハ近ク撤退シ前岳陽鎮守使入城ノ筈ニテ平和裡ニ行ハルヘシト

六二 四月二日 在漢口高尾總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

唐生智代理省長就任直後ノ措置及ビ湖南省政

情ニ関シ報告ノ件

絡ニ止リ吳佩孚トノ關係ハ葉開鑫ヲ驅逐セル為吳ノ感情ヲ害セルコトハ事實ナルモ一面唐ハ此ノ舉ニ出テタル事情ヲ説明シテ吳ノ諒解ヲ懇望セルニ三十日迄ノ成行ニテハ岳州ニ多數ノ唐軍ヲ置カサルコトトシテ吳軍ニ對スル脅威ヲ除クコトニテ妥協成立ノ見込ナリ乍併若シ吳カ湖北軍ヲ岳州ニ入ルルコトヲ主張スルニ至ラハ唐ハ省政對策上到底之ヲ容レサル結果兵乱ヲ見ルニ至ルヤモ知レサルモ万然ルコト無カルヘシ

尚廣東政府ノ代表者陳白ノ兩名カ偶然今日ノ事件ニ際シテ当地ニ來レル処軍事の使命ヲ帶フルニ非スシテ政策上ノ連絡ヲ保チ旁唐ノ態度觀察ノ為ナルカ之ヲ機會ニ頻發スル國民黨系各種不穩運動ニ對シテハ廣東政府トノ關係上其ノ取締方ニ関シ唐ハ目下苦心ナリト云ヘリ

右兩名ノ説明並ニ最近各事情ヲ對照スルニ吳ハ北方對策上強ヒテ湖南ト事ヲ構フルコト無カルヘク廣東總領事ノ來信ニ依レハ廣東軍ノ北進モ玆數ケ月中ニハ実行困難トノコトナレハ當省對他省トノ軍事關係ハ現在ノ程度ニテ一先終息スヘシト觀測セラル唯唐生智ノ方策ハ性質極メテ独断的且峻烈ナル為今後共外部ノ誤解ヲ招キ風説ノ頻發ヲ免レサル

第九七号 (四月三日接受)

三月三十一日長沙發本官宛第一〇号(長沙ノ依頼ニ依リ轉電ス)

二十九日夜唐生智代理省長ニ就任ト同時ニ行ヘル第二師長第五旅長等ノ拘禁第二師長葉開鑫及其ノ部下ノ旅長團長等ノ解職及岳州ニ在ル葉開鑫驅逐ノ為ノ出兵ニ関シテハ風説区々ニシテ或ハ廣東軍ノ後援ヲ得テ北伐ヲ行フモノナリト云ヒ或ハ吳佩孚軍ノ南下岳州ニ入レルニ脅威ヲ感シ之ヲ阻止セン為ナリト云ヒ又ハ商民ニ對スル自己ノ權威ヲ固ムル為ノ非常手段ニテ全然對省内政策ニ過キスト云ヒ其ノ真相ヲ確メ得サリシカ當館トシテハ大体對内政策ト觀察シ程無ク次第ニ摺伏スヘキモノト思料シ居タル処二十八日岳州ニ於ケル日清汽船沅江丸射擊事件アリ鉄道電信ノ不通トナル等我國ニ對スル危險損害漸次増大ノ虞有ルニ付三十日唐生智ニ面会ヲ求メタルモ折柄重要會議開催中ナリシ為前第一師長賀耀組及蔣方震ニ就キ真相ヲ確メタルニ右兩人ハ外部ヨリ見テハ矛盾撞着到底諒解シ難キモ最近發生ノ事態ニ関シ各般ノ事實ニ立脚シ各方面ヨリ説明ヲ徵シタルニ廣東トノ連絡ハ唐ノ地位擁護上已ムヲ得サルニ出テタル表面的連

ヘシト思料ス

在支公使 上海、廣東、九江、南京へ転電セリ

六三 四月三日 在ソ連邦田中大使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

在庫倫タス通信員ノ馮玉祥インタビューニ関スルイズヴェスチャ報道報告ノ件

第一二三号 (四月四日接受)

三月二十二日庫倫着ヲ伝ヘラレタル馮玉祥カ同地「タス」通信員ニ与ヘタル「インタビュー」今三日「イズヴェスチャ」ノ報スル処大要左ノ通

支那ハ目下過渡時代ニ在リ其大部分ハ日本及英國ノ傀儡タル張、吳反動分子ノ治下ニアリ國民黨ノ自由解放ノ運動ハ労働者学生ノ加担アルモ商人及農民ハ尚旧思想ニ囚レラルヲ以テ該運動振興ノ為ニハ民衆運動ヲ急務トス
今次國民黨軍ノ退却ハ戰略上ノ必要ニ出テタルモノニシテ敗北ニ非ス張、吳ノ妥協ハ永続セサル可シ國民黨ト余トノ關係ハ余自身同黨員トナルコトトナル可シ余ハ終生ノ目的トシテ孫文ノ遺訓ヲ実行スルノ決心ヲナセリ三月前余ハ辭職シタルカ之熱慮ノ結果ナリ余ハ莫斯科着後労働者トシテ工

場ニ入り労働者ニ交リ實際政治ヲ会得シ「ソ」連邦ノ政治
經濟事情ヲ研究ス可ク三年滞在ノ後帰国シテ政治ニ關係セ
ン考ヘナリ労働者兵卒ノ永キ經驗ヲ有スル自分トシテハ右
生活ノ變化ハ厭フ所ニアラス云々

北京へ転電シ北京ヨリ奉天、張家口へ暗送セシム

六四 四月四日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

國民軍ノ態度硬化及ビ連合軍・奉天軍ノ進出

等北京情勢ニ関シ報告ノ件

第二四四号

往電第二三七号ニ関シ

(一)其ノ後各方面ノ情報ヲ総合スルニ一時直クニモ撤退ノ氣
配ヲ見セタル鹿鍾麟ノ國民第一軍ハ最近態度著敷ク硬化シ
國民軍ハ決シテ敗退セルニ非ス攻防共ニ充分ナル実力アリ
反國軍ニシテ無理ニモ北京ヲ攻メ取ラントスルナラハ之ト
決戦ヲ為シ目ニ物見セテ呉レント敦固キツツアル趣ナル処
右態度硬化ノ原因ハ(イ)最近露国ヨリ張家口ヲ経テ多量ノ武
器彈藥到着シタルコト(ロ)國民第一軍師長旅長其他少壯幹部
ニハ主戦派多ク三十一日ノ幹部會議ニ於テ國民軍カ相当地

(二)北京治安維持ノ問題ハ調人連ノ最モ苦心シ居ル所ニシテ
兎ニ角警察ヲ鹿ノ手ヨリ離スヲ最モ急務トシ鹿鍾麟ノ諒解
ヲ得テ一般市民ノ信用最モ厚キ吳炳湘ヲ警察總監ニ举ル事
ニ決意シ吳ノ内諾ヲ得タル所執政府側ニ於テハ侍從武官長
衛興武ヲ總監タラシメントシ此点ニ付段派ト調人連トノ間
ニ感情ノ疎隔ヲ来シ又衛ノ任命ニ対シテハ鹿鍾麟承知セス
右衛ヲ支持シツツアルハ段宏業一派ニシテ目下支那人間ニ
木子政治ト称セラレ國民軍ハ彼等一派ニ対シ著ク反感ヲ抱
キ居レリトノ事ナリ

(四)目下北京付近ニ押シ寄せ来リツツアル連合軍及奉天軍ハ
十万余ニシテ之ニ山西及吳軍ヲ加フレハ数ニ於テ非常ニ優
勢ニシテ國民軍ハ現二十万ニ近ク最近三万ニ近キ甘肅軍出
動來援シタリトノ情報モアリ國民軍ニシテ撤退セスシテ会
戦トモナラハ相当重大事タル可ク北京城内ニハ目下唐ノ一
衛方振武ノ國民五軍ノ一部モアリ万ノ場合ハ掠奪行ハル
ル事無キヲ保セストテ人心相当動揺シツツアルモノノ如シ
天津、漢口、濟南、奉天、上海ニ転電セリ

六五 四月四日 在長沙野田領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

盤ヲ保障サレタル上和平解決ヲ為スニ非サレハ武力ヲ以テ
北京ヲ保持スヘシトノ主張勝ヲ占メタルコト(イ)國民軍カ退
却ヲ開始シタル後今日迄一回モ戦争ヲ為サス此ノ儘敵軍ノ
圧迫ヲ受ケツツ更ニ北京迄明ケ渡スニ於テハ國民軍ノ面目
立タサルコト(ニ)撤退費ノ工面拂ラス反國軍トノ妥協見込少
ナクナリタル為メ自棄氣味ニナリタルコト等ヲ挙クルヲ得
ヘシ

(一)王士珍等調人連ノ和平運動ハ今猶ホ継続中ナルモ張作
霖、吳佩孚等ハ今日ニ至ル迄何等ノ意志ヲ表示セス全然無
視セラレタルノ觀アルモ元來武力モ財力モ無キ之等元老連
ノ運動カ目下ノ情形ニ於テ所期ノ効果ヲ収ムヘシトハ何人
モ想像セサル所ニシテ王士珍等自身モ只タ人事ヲ尽シテ天
命ヲ待ツト諦メ居ルモノノ如ク過日天津ニ派シタル三多將
軍ハ張宗昌、李景林、張學良等トモ会见シテ意見ヲ交換シ
タルカ彼等ハ張作霖、吳佩孚ノ意見ヲ徵セサル限り何トモ
回答出來ストノコトニテ不得要領ニ終リタルヲ以テ三多將
軍ハ已ムヲ得ス便船次第大連經由奉天ニ赴キ更ニ張作霖ト
会见篤ト談合スルコトトナリタル趣ナルカ其ノ効果ハ頗ル
疑問ナリト云フヘシ

沅江丸事件解決方法ニ付請訓ノ件

第一三号(至急)

漢口發貴大臣宛電報第八六号及漢口發長沙宛電報第一七号
ニ関シ

三日沅江丸船長ニ就キ取調ヘタルニ我方ニハ何等手落ナキ
コトヲ確メタリ支那側ハ未タ調査ノ結果ヲ報告シ来ラサル
モ湖南軍ノ行為ナルコトヲ認メ將來ノ保障ニ就キ充分ノ措
置ヲ執ルコト及誠意ヲ以テ解決ニ当ルヘキ旨敕命シ居レリ
本件ハ事件ノ性情並ニ大沽事件直後ノ折柄慎重処理ノ必要
アリト思考セラルル処在支公使發漢口宛電報第九号ノ次第
モアリ本官ニ於テ在漢口總領事ト協議ノ上地方的ニ解決シ
然ルヘキヤ尚ホ本官ニ於テ心得置クヘキコトアラハ併せて
御電訓ヲ請フ

六六 四月六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

國直合作ノ成否等ニ関スル中国要人談話報告

ノ件

第二五〇号

往電第二四四号ニ関シ

(一) 船津カ孫宝琦、胡霖、彭希明(段宏業ノ信任スル者)其他二三政客ヨリ得タル時局談ヲ総合セル処ニ依レハ国民軍ハ最初奉天側ト或種ノ条件ノ下ニ妥協ヲ試ミシモ奉派ノ要求過大ナリシ為遂ニ成立セス而シテ其後直魯連軍及奉天側ノ圧迫ハ益々甚シク成リタルヲ以テ国民軍側ニテハ方向ヲ転シ呉佩孚側ト諒解ヲ求ムル為運動ヲ開始シ王乃模、何遂(国民軍第三軍領袖)ト先ツ保定ニ向ヒ瀕踏ミヲ為シタル結果稍々有望ナルヲ看取シタルヨリ張之江ハ更ニ平素最モ信任スル興和道尹丁春膏ヲ呉佩孚ノ下ニ特派スルコトナリ三日既ニ出發シタリ元來呉佩孚ト馮玉祥トハ第二奉直戦ノ際馮ノ裏切以來殆ント不俱戴天ノ仇敵同様ノ關係ナルヲ以テ馮カ国民軍ノ実権ヲ握リ居ル間ハ呉トノ妥協到底不可能ナルコト勿論ナルモ今日ノ如ク馮ハ全然官職ヲ放棄シテ遠ク庫倫ニ赴キ不日更ニ露国ニ赴ムカントシツツアルヲ以テ若シ現在ノ国民軍幹部カ全然馮玉祥ト關係ヲ断絶シタル形式ト成レハ呉トノ一時的交合ハ必スシモ不可能ニアラサルヘシ

殊ニ曾テ山海関以内ニハ断シテ手ヲ伸ハサスト声明シ居タ

スヘキ時機ニアラストテ之ヲ拒絶シタル趣ニテ同人等ハ更ニ張家口ニ赴キ張之江ニ面会シ張ノ希望ヲモ聴キタル上保定ニ還ル管ニテ国直合作ハ尚ホ距離アリトノ趣ナリ

(二) 前記第一項及第二項ノ兩節中孰レカ真相ヲ穿テ居ルヤ明ナラサルモ(時ニ姚震ハ自身ノ立場ヨリ判断スルコト多

シ) 昨今当地新聞ハ国直合作カ宛モ成立セルカ如ク特筆大書シテ之ヲ報シ居ルハ国民軍側ノ宣伝ニシテ反国派ノ新聞例ヘハ黃報ノ如キハ之ヲ冷笑シ居ル有様ニテ国直提携ナルモノノ成否ハ全然今後ノ發展ニ微スルノ外ナシ、他方唐之道ノ軍隊ハ一營ハ親衛隊ト共ニアリ一營ハ朝陽門方面ニアリ其他ニモ一營アル趣ニテ尚連合軍ハ北京ノ東北順義方面ニ集中シ居ルトノコトニモアリ国民軍ノ北京撤退ハ実現スルモノナリトノ説多キモ前項(一)ノ合縦連衡促進ノ關係モアリ今後ノ發展ハ固ヨリ俄ニ断定シ難シ

(三) 二日以来連軍飛行機カ連日北京ニ爆弾ヲ投下シツツアル次第ハ累次ノ東方電報ニ依リ御承知ノ通ニシテ之カ為人心極度ニ動揺シ公使館区域ハ各方面ヨリノ避難者ヲ以テ充滿シ右区域付近最安全ナリトシテ此処ニ避難所ヲ求メントスル者日ニ増大シツツアリテ人心ハ益々恐怖觀念ニ囚ハレツ

ル張作霖カ近来関内ニ陸續出兵シ今後如何ナル態度ニ出スルヤ量リ難キ状態ナル上呉派トシテハ奉派ノ跋扈ヲ牽制スル見地ヨリ此際国民軍側ト或種ノ連絡ヲ採ル如キ態度ニ出スルコト又訝ムニ足ラス又呉トシテハ或程度迄孫伝芳ヲ操縦スル必要アル処孫ハ從來ノ行懸上張宗昌及楊宇霆等トハ到底妥協不可能ナル關係アリ從テ呉トシテハ万事無条件ニ奉派ノ意志ニ從ウモノニアラサル事ヲ仄メカス必要モアリ旁国民軍呉佩孚ノ接近ハ倍々可能性ヲ帯フルニ至リタルモノナリシトノ趣ナル処

(二) 他方姚震等ノ林出ニ語ル処ニ依レハ国民軍側カ呉佩孚ニ接近セントシツツアルハ事実ナルモ国民軍ハ北京其モノノ警察権ハ之ヲ呉派ニ譲リ又曹錕ヲ釈放シ法統ヲ恢復スルコトニ對シテモ異議ヲ差シ挾サマサレ共京兆ハ飽迄国民軍ノ手ニ置カンコトヲ主張シ居リ唯涿州迄ノ呉佩孚側ノ進出ヲ容認スルニ過キス

他方呉佩孚側ニ於テハ国民軍ニシテ先ツ京兆ヲ撤退スルニアラサレハ妥協ノ余地ナシト主張シ居ルモノノ如ク現ニ四日来燕セル田維勤ノ代表王効武、王文振等ハ単ニ国民軍側ノ希望条件ヲ聴クニ止マリ呉側ヨリハ未タ何等条件ヲ提出

ツアリ一般商舖ハ夜七時半頃ニ至レハ早ヤ門扉ヲ閉シ市面極メテ不況ノ狀況ニアリ目下ノ包圍状態ニシテ尚長ク繼續スルニ於テハ重大ナル食糧問題ヲモ生スヘク一般ニ憂慮セラレ居ル有様ナリ
天津、漢口、濟南、奉天、上海へ転電セリ

六七 四月六日 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖・呉佩孚關係ニ関スル張志潭談話報告

ノ件

第一〇〇号 (四月七日接受)

四月六日張志潭本官ヲ來訪シ自分ハ一兩日中ニ内密天津ヘ赴キ奉天軍側ト打合ヲ遂ケ再ヒ当地ニ引返ス管ニテ呉佩孚ハ北京ノ狀勢如何ニ依リ自分帰漢後保定迄進ム事ニ決シ居レリ目下北京方面ニテハ呉佩孚、張作霖ノ關係ニ付類ニ惡評ヲ伝ヘ呉モ国民軍トノ妥協進行中ナリトノ説ヲ為スモノ有レトモ何レモ事實無根ニテ張呉ノ關係ハ今尚結束堅ク但シ其周圍トノ連絡幾分欠クル処アルカ為自分カ出向ク訳ナルカ国民軍ヨリハ此程代表ヲ当地ニ遣ハシ呉ニ對シ妥協ヲ申入レタルハ事実ナルモ呉ハ既ニ赤化セル軍隊ト調和ヲ保

ツ事ハ到底不可能ナリ要ハ速ニ全軍ノ武装ヲ解キ解散スヘキ旨ヲ主張シ物別レトナリタル次第ニテ何等従来ノ方針ヲ変シタル事ナシト云ヘリ
在支公使 天津、奉天へ転電セリ

六八 四月十日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍クーデターニヨル段執政監禁、曹錕釈

放ニツキ報告ノ件

第二六三号(大至急)

十日払曉北京ニ於テ政局ノ変動アリ段ハ国民軍ノ為監禁セラレ曹錕ハ自由ヲ回復シ執政政府前初メ市内ハ鹿鍾麟軍ノ下ニ戒厳令ノ下ニ置カレ居レリ

六九 四月十日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(軍用電報)

国民軍ノ段執政監禁等クーデターノ状況報告

ノ件

第二六四号

往電第二六三号ニ関シ

旧張紹曾内閣國務院秘書長張廷諤王毓芝ト共ニ来訪シ国民

法案及多數学生銃殺事件等其ノ顯著ナルモノニシテ国民ノ最モ痛恨スル処ナリ其ノ左右ノ親近悉ク安福ノ余孽ニシテ姦悪ヲ恣ニシ戦事ヲ挑発シ生靈ヲ塗炭ニ苦シマシム罪状枚挙ニ遑アラズ我軍玆ニ国家民生ノ計ノ為己ヲ得ス兵ヲ派シ之ヲ監視シ公決ニ付セシメ一面總統曹錕ヲ保護シ其ノ自由ヲ回復シ同時ニ呉將軍(佩孚)ニ即日入京方ヲ電請セリ京師地方ノ秩序ハ尚軍警ニ依リ責任ヲ以テ之ヲ維持ス濫ニ謡言ヲ發シ治安ヲ害スルモノアラハ逮捕シ法ニ依リテ処弁ス

七一 四月十日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(軍用電報)

鹿鍾麟ハ吳佩孚トノ合作ヲ意図シ北京ノ治安

ニ任ズル旨ノ鹿軍代表談話報告ノ件

第二六六号

十日午前鹿ノ代表ト称スル西北辺防督弁公署外交署科長徐輔德(脱)ヲ伴ヒ本使来訪段執政ハ刻下ノ時局ニ顧ミ辭職シ(其ノ身辺ハ国民軍ニ於テ保護シツツアリ)親衛隊ハ改編セラレテ鹿鍾麟ノ配下ニ帰シ鹿ハ吳佩孚ト合作スルコトトナリ今後ノ内閣問題等ニ付テハ吳ノ指揮ヲ待チツツアリ一時遮断セル交通通信ハ全部旧ニ復シ北京ノ治安ハ鹿ニ於

軍ハ九日夜十二時過ヨリ市内ノ電話電信及交通ヲ遮断シ突如執政政府ヲ包圍シ同府所屬ノ衛隊ヲ強制的ニ移転解散セシメ鹿鍾麟指揮ノ下ニ門致中ノ軍隊ト入換ヘ段祺瑞ヲ私邸ニ監禁シ同時ニ曹錕ヲ釈放セシメタルカ十日早朝鹿以下国民軍將領ノ名義ヲ以テ吳佩孚ニ対シ「先般來屢々代表ヲ派シ教ヲ請ハント企テタルモ交通阻断セラレ未タ其ノ意ヲ果ササルカ時局ノ危急ニ鑑ミ玆ニ曹錕ノ自由ヲ回復シ段祺瑞ニ監視ヲ加ヘ同時ニ国民軍全部ヲ拳ケテ完全ニ貴下(吳)ノ指揮ニ從フコトセリ速ニ入京シ善後ヲ処理セラレタシ」トノ意味ノ電報ヲ發セル趣ヲ語レリ尚首席公使ハ右張及王毓芝カ十日早朝同公使ヲ訪問シテ大体同様ノ事ヲ陳述セル旨通知シ來レリ王カ我公使館ニ住居シ乍右ノ如キ表立テタル行動ニ出ツルハ面白カラサルニ付可然注意ヲ与ヘ置キタリ

七〇 四月十日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(軍用電報)

段執政彈劾ノ国民軍公告報告ノ件

第二六五号

段祺瑞執政就任以來国家国民ヲ禍スルコト至ラサルナク金

テ責任ヲ以テ之ニ任シツツアレハ安心アリタシト申出テタリ尚人心極度ニ緊張シ不安ニ満サレ居ルモ目下ノ所兵變等ノ微候無ク市内ハ嚴重ナル警戒裡ニ在リ

七二 四月十日 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

沅江丸事件ニ関シ日清汽船側ノ意向參酌ノ上

急速解決ニアタリタキ旨具申ノ件

第一〇三号 (四月十一日接受)

本官發長沙宛電報第二〇号
貴電第一六号ニ関シ

当地日清支店長ノ意向ヲモ質シタル処(三)ノ損害ハ僅カニ百弗足ラスニシテ強テ要求スルノ意思ナク支那側ノ誠意アル陳謝ト今後ノ保障サヘ得レハ充分ナリトノ事ニシテ(六)ノ弔慰金ハ委細郵報セル拙信付屬乙号写シニテ御承知ノ通三月三十一日付書面ヲ以テ本官ヨリ後日ノ為メ当地交渉員へ宛テタル抗議ノ末段ニ「本件死傷者ニ対スル弔慰金医薬料等ハ汽船ノ損害ト共ニ貴国側ニ於テ完全ニ其責ヲ負フ可キモノナリ」トノ旨ヲ送り右ノ書面ヲ其儘貴地交渉員へ移牒セル旨回答ノ次第モアリ我方トシテハ支那側ニ於テ直接

其責ニ任シ累ヲ会社側ニ及ホサストノ保障ヲ得ルニ於テハ
其実行ノ如何ハ彼ニ委セ強ヒテ貴官經由ヲ主張セラルルニ
及ハサルヘク卑見ニ依レハ本件ハ支那側ニ於テ(一二四
五)ノ実行ヲ承諾セハ(二)ハ日清ノ申出ヲ理由トシテ要求ヲ
撤回シ(六)ハ会社ハ絶対無關係ノ旨ヲ承認セシムルニ止メ然
ル可キカト存ス尚曩ニ吳佩孚ヨリ唐生智ニ宛テタル電報ニ
對シテハ其後唐ヨリ委細了承セリ今後ハ充分注意ヲ払フ旨
返電アリタル由就テハ目下貴地ニ於テハ唐生智排斥運動モ
起リ吳佩孚モ亦北上セントシツツアル折柄同人等ノ地位ニ
動揺ヲ来ササル前形式ヨリモ實質ヲ主トセラレ成ル可ク急
速解決ヲ告ケラルル方望マシキ儀ト思考セラル当地日清支
店長ニ就テハ貴官ノ御尽力ニ對シ深く感謝ノ意ヲ表シ居レ
リ

外務大臣、北京へ転電セリ

七三 四月十日 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

沅江丸事件解決交渉ニ関シ中国側ノ意向報告

ノ件

第一〇四号

(四月十一日接受)

々混沌ヲ極メ真相ヲ捕捉スルハ至難ニ属スト雖モ鹿ノ「ク
ーデータ」ハ唐突ノ間ニ行ハレタル窮余ノ策ト見ルモノ多
ク鹿ノ地位モ何時迄現状ヲ維持シ得ヘキヤハ大ニ疑問ナリ
ト観測セラレツツアリ

(二)張之江ノ總參議柯逸カ九日夜船津ニ語リタル所ニ依レハ
鹿ハ昨今田維勤ニ京師警備ノ任ヲ引渡シ退却スル計画ナリ
シトノコトナルカ他方十日朝許卓然カ林出ニ語レル所ニ依
レハ実ハ近頃国民軍ニテ三千余元ヲ費シ執政府ノ電信暗号
写ヲ買取セル為メ執政府ト外部トノ往復密電ハ悉ク国民軍
ノ知ル所トナリタル処一昨日独乙病院ニ滞在中ノ曾毓雋ヨ
リ奉天ニ對シ唐之道軍トノ諒解着キ居レルニ付奉天軍ハ通
州方面ヨリ即時北京ニ迫ルヘントノ電報ヲ發シタルヲ知り
急ニ今回ノ舉ニ出テタルモノト思ハル又国民軍ハ吳佩孚ニ
接近ヲ計ラントセルモ吳ハ冷淡ニシテ応スル模様ナク且國
民軍ノ心事ヲ疑ヒ若シ国民軍ニシテ直ニ吳派ト合作ノ意思
有ルモノトセハ先ツ国民軍ノ手ニテ馮玉祥トノ關係ヲ絶チ
且段祺瑞ヲ下野セシメ之ヲ天下ニ發表セハ初メテ誠意有ル
モノトシテ合作ノ交渉ニ応スヘシト主張シ居リシヲ以テ窮
余ノ策トシテ此ノ舉ニ出テ以テ吳ノ同意ヲ求メントセルナ

往電第一〇三号ニ関シ

長沙發本官宛電報第一六号

往電第一四号ニ関シ

本日交渉員ノ希望トシテ左記我方要求事項ニ付非公式ニ交
渉ノ結果ニ依レハ支那側ハ(3)ハ其額少ナルヘキヲ以テ之カ
撤回ヲ懇望シ(6)ハ当館經由ヲ拒絶セリ(1)省政府ノ陳謝(2)責
任指揮官ノ処罰(3)損害賠償(4)船長ニ對スル省政府代表ノ慰
問(5)将来ノ保障(6)死傷者ニ對スル弔慰金及医薬料ハ主義ト
シテ当館經由支払フコト但シ(1)及(5)ハ事件ノ性質上慎重ナ
ル方法(文書ヲ以テ)採ラシムルコト尤モ(3)及(6)ハ直接損
害額並ニ之ニ對スル日清ノ意向不明ニ付御取調ノ上他ノ事
項ニ對スル分ト共ニ貴見御回電ヲ請フ御回電ヲ待ツテ正式
交渉ノ答ナリ

七四 四月十一日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京政変ニ関スル観測ニツキ報告ノ件

第二六八号

(四月十二日接受)

往電第二六六号ニ関シ

(今次政局ノ急変ニ伴ヒ各種ノ風評行ハレ情報ノ如キモ区

リ
而シテ漢口ニ派セル鹿ノ代表者ハ今明日中ニ漢口ヲ出發シ
歸京ノ筈故同代表ノ帰着迄ハ現状ノ儘形勢ヲ見ルコトナ
ルヘシ然レトモ吳ト雖直ニ国民軍ノ行動ニ賛成シ合作ノ舉
ニ出ツヘシトハ思ハレス要スルニ国民軍側ニハ政治家少ク
武將モ多クハ兵卒出身者ニシテ政治的行動ハ拙劣極マレリ
云々
(三)尚初メ賈總理以下ノ閣員ヲ人質ニ連レ出サントスルノ氣
配有リタル為親衛隊ハ右ノ態度ニ出テタルモノニシテ執政
府内ニハ現ニ国民軍一個中隊ヲ以テ守備シツツアリ
唐之道ハ昨夜宴席ニ在リテ之ヲ知り逸速ク脱出シテ朝陽門
外ノ本部ニ逃レタル趣ナリ
在支各總領事へ転電セリ

七五 四月十一日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京政変ニ對スル賈德耀總理及ビ王毓芝ノ觀

測報告ノ件

第二六九号

(四月十二日接受)

往電第二六八号ニ関シ

(一)十日賈總理姚震ヲ同伴本使ヲ來訪昨夜來ノ政變ニ付實ハ鹿鐘麟ハ段ヲ拉致シテ西北ニ送ラントノ計画ナリシカ如ク然ルニ鹿側ニテハ周到ニ密謀ヲ運ラシ其計画ニ參画セルハ劉驥位ニシテ劉之龍、熊斌モ知ラサルカ如シ右ニ拘ラス内通者有リタル爲段執政ハ逃レ出テ執政政府ハ空家ト成レリト語り更ニ本使ノ問ニ答ヘ本計画ヲ遂行スル際鹿ハ張之江ノ了解ヲ得居ルトハ認メラレス又吳佩孚トハ勿論了解付キ居ラス吳ハ鹿ノ電報ニ對シ直ニ承諾スルヤ頗ル疑ハシク次第ニ依リテハ吳ハ自分ノ入京ハ差支無キモ唯鹿ニ先ツ退京ヲ希望スルヤモ計ラレス執政ハ尚現存ス自分モ今公使館區域ニ遁レ來レリ只今ノ形勢ニテハ執政政府ハ倒レタリト云フヲ得スト述ヘタリ要スルニ賈總理ノ答弁ニ依レハ奉天軍ノ進軍ノ程度及吳佩孚ノ態度如何ニ依リテハ鹿ノ「クーデター」ハ失敗ニ帰シ執政政府ハ暫ク居坐ルコトト成ルヤモ計リ難シトノ結論ニ到着ス

(二)其ノ後王毓芝カ往電第二六四号末段当方ノ警告ニ對シ弁解ノ爲メ來訪シタルカ本使ヨリ曹錕及貴下等カ自由ノ身トナルコトハ甚タ結構ナリト云ヘルニ對シ慎重ナル同人ノコトトテ決シテ右様ノ次第ニ非ス自分ノ觀測ニ依レハ鹿ハ輕

シ居タリ)昨夜ノ政變ニ付キ貴下ノ有スル情報ヲ承リタシ實ハ自分ニハ解ラスコトアリ国民軍側ヨリ聞クニ段ハ抑留セラレ居ル趣ナルカ反對派ハ逃レタリト云ヘリ何レカ真ナリヤト質ネタルヲ以テ本使ハ自分モ同様ノ情報ニ接シ居ル処要スルニ二、三日形勢ノ發展ヲ見サレハ到底斷案ヲ下シ難シ第一吳ノ態度及連合軍ノ進出ノ模様ヲ見サルニ於テハ觀測出來スト答ヘタルニ「カ」ハ李景林ハ天津ノ日本租界ニ逃レタリトノ情報アリ(張學良トノ關係ヨリ)又上海露國總領事ノ電報ニ依レハ孫伝芳ハ山東ニ進軍シ濟寧ヲ占領セリトノコトナリト語りタルニ依リ本使ハ右ノ如キ形勢ナリトセハ尚ホ更ラ速断ヲ許シ難シト応酬シ置キタルカ「カ」ハ情報カ多ク矛盾セルヲ訴ヘ自分ノ delegates ハ皆逃ケテ甚タ要領ヲ得ス等ト述ヘ居タリ右會談ノ際「カ」ハ時局カ自己ノ思フ様ニ行カサルニ痛ク失望セルカ如キ印象ヲ本使ニ与ヘタリ「カ」カ此ノ際俄ニ本使ヲ來訪セル真意カ那辺ニアリヤ後日ノ判斷ニ徴スルノ外ナキモ右不取敢何等御參考迄

挙ニ失セリト述ヘタル上大体賈總理ト同様ノ觀測ヲ爲シタリ尚ホ同人ノ觀測ニ依レハ吳佩孚ハ鹿ノ計画ニ付前以テ協議ニ応シ居ル次第ニ非サルヲ以テ鹿ノ電報ヲ見テ直ニ之ニ応諾スルコトハ到底想像シ得ス吳トシテハ之レ迄寧口張作霖ト交渉ヲ始メ居リシ次第ニ付張ノ意中モ考ヘサルヘカラス又張ニ至リテハ全然鹿ト没交渉ナルニ付鹿カ張及吳ノ二大頭目カ斯ノ如キ關係ニアル際予定ノ通り計画ヲ遂行スルコトハ寧口困難ト思フ從テ自分等ノ身上モ決シテ樂觀出來スト語りタリ

(右様ノ次第ニ賈總理及寧口反對側ニアル王毓芝ノ兩人トモ觀測ノ一致セル所ヨリ見レハ大体正鵠ヲ得タルモノト思考セラル方一吳カ鹿ノ挙ニ賛成シ來ラハ兎ニ角吳カ反對ノ態度ニ出ツレハ本計画ハ失敗ノ外ナカルヘク殊ニ鹿カ段ヲ取り逃シタルコトハ本計画ノ大失策ト稱セラレ居レリ

七六 四月十一日 在中國芳沢公使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

北京政變ニ関スルカラハントノ會談報告ノ件

第二七〇号 (四月十二日接受)

十日「カラハン」本使來訪(「カ」ハ曩日ヨリ會見ヲ希望

北京政情ニ對スル吳佩孚側要人談話報告ノ件

第一〇五号 (四月十二日接受)

吳佩孚側主要人物ノ談ニ依レハ昨今奉直連軍ノ發展ニ顧ミ北京ニ於テハ前大總統府秘書長等ヲ中心トシ国民党分子ノ策動ニ依リテ曹錕ヲ再ヒ大總統ヲシメント計画シ当地ノ賄選議員張伯烈等之ニ和シ頻ニ暗中飛躍ヲ試ミツツアリ而シテ的確ノ事實ハ未詳ナルモ李景林、張宗昌等ノ奉天系ハ段祺瑞失脚後主權者ヲ失フ不利益ト之二件フ各派ノ紛糾ヲ恐レ寧口曹錕說ニ傾キ秘密裡ニ國民黨ノ政客ト氣脈ヲ通シ居ルモノノ如ク張作霖亦曹錕トノ姻戚關係ヨリ必スシモ反對ナラスト伝ヘラル曹錕ノ復活ハ約法上当然ノコトニシテ愈々實現ノ曉職權ヲ以テ連軍ノ軍事行動停止ヲ命セラルルニ於テハ法理上服從セサルヲ得ス現ニ保定ノ靳雲鵬ヨリハ斯ル場合如何ニ進退スヘキヤヲ吳ニ請訓シ越セル事實アリトテ吳ノ周囲ハ目下其ノ對策ニ付苦心シツツアリト云フ北京、天津、奉天、濟南、上海、南京、九江、長沙ヘ転電セリ

七七 四月十一日 在漢口高尾總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

七八 四月十二日 在天津有田總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

李景林ノ動靜ニ関シ報告ノ件

第一〇九号 (四月十三日接受)

本官発在支公使宛電報

第一〇六号

往電第八五号ニ関シ

李景林ハ今次入津ト同時ニ日本租界ノ自宅ニ入りタルモノナルカ過般秦皇島ヨリ帰リテ以来病ト称シテ訪客ヲ謝絶シ廊房方面ノ前線ニ出陣スヘシト伝ヘラレタル事一再ナラサリシモ常ニ見合セトナリ同人麾下ノ兵ハ胡毓坤ヲシテ統率セシメ以テ今日ニ及ヒ居ルモノニシテ心中不満ノ結果タルハ掩フヘカラサル処蓋シ秦皇島ニテ張作霖ニ面会セル結果兩者ノ感情幾分融和セルハ事実ナルカ如キモ李トシテハ曩日ノ地位ヲ回復シ得サル不満アル際予テ不和ナル楊宇霆等ノ仕打面白カラサルモノ有ルカ為前途ヲ危フミ怏々タルモノアリト云フ李ニ親近セル張同礼ノ内話ニ拠レハ吳佩孚ト或程度ノ声息ヲ通シ居ルハ事実ナルカ如シ

外務大臣、漢口、奉天へ転電セリ

七九 四月十二日

在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

リ靳雲鵬内閣ノ如キハ問題ト成ラサル可シ

(三) 吳佩孚ハ湖南方面ノ形勢悪化ノ兆有ル為当分北上叶ハサル可ク万事ハ自分カ保定迄行キ形勢ノ如何ヲ突止メタルノ事ナリ

(四) 湖南ノ唐生智ハ近ク失脚ス可ク督弁ノ後任ハ吳ヨリ葉開鑫ヲ任命スル筈ナリ

(五) 譚延闓カ長沙ヲ狙ヒ居ルハ事実ニシテ葉ヲ任命ノ結果ハ一悶着免レサルヘシ

尚本日岡ヲシテ吳佩孚ヲ訪問セシメタル結果ハ東方電ノ通ナリ御参照ヲ請フ

在支公使、天津、奉天、濟南ニ転電シ上海、南京、九江、長沙ニ暗送セリ

八一 四月十二日

在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京政変ニ関スルイズヴェスチャ及ビプラウ

ダ論說報告ノ件

第一三五号

(四月十三日接受)

今回ノ北京政変ニ就キ当地新聞ハ執レモ特筆之ヲ報道シ一日ノ「イズベスチャ」及「プラウダ」ハ論說ヲ掲ケ「イ

奉天軍ノ急遽北京攻略決定ニ関シ報告ノ件

第一一〇号 (四月十三日接受)

張学良、張宗昌等ハ十一日夜會議ノ結果急遽北京ヲ攻略スル事ニ決セル由ニテ十二日兩人共廊房方面ニ出陣セリ今次北京ノ政変ハ必スシモ国民軍ト吳佩孚トノ間ニ完全ナル諒解アリテノ事ニ非ストハ当方面ニ於テモ其觀察ヲ同シフシ居ル処ナルカ奉天派ノ攻撃計画モ此点ヲ看取シ躊躇スル事ノ連合軍ニ取り不利ナル事ヲ察シタルカ為ナルヘシ

在支公使、奉天、南京、漢口、濟南へ転電セリ

八〇 四月十二日

在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京政変及ビ湖南省情勢ニ関スル斉燮元談話

報告ノ件

第一〇七号

(四月十三日接受)

北京政局ノ變動ニ関シ四月十二日斉燮元カ本官ニ語ル処左ノ通

(一) 鹿鍾麟ヨリ吳佩孚ニ北上ヲ求メタルハ事実ナルモ自分等ハ鹿トハ戦フノ要コソアレト提携スルノ意思毫モ無シ

(二) 曹錕大總統ノ復活ハ賛成出来ス要ハ合法政府ノ成立ニ在

ズベスチャ」ハ右政変ノ結果如何ハ報道簡單ニシテ判断困難ナルモ北京ノ国民自由運動抑圧ニ就テハ利害一致セル日英米モ戦況進ミ北京ヲ張吳何人ノ手ニ委スヘキヤノ問題ト(脱)一九二四年ノ状態ヲ繰返スモノニシテ日本ハ北京ニ於テ張ヲ利用シ吳ヲ手先トスル英米ノ勢力ト争ハサルヘカラサルコトナレリ尤モ北京民衆ノ間ニ国民運動盛トナリ張吳ニ反対ナル国民軍ノ存在スルコトハ一九二四年ト趣ヲ異ニスル処ニシテ張ノ失敗即チ吳ノ勝利日本ノ失敗即チ英米ノ成功ト即断スルコト能ハス要スルニ北京政争ハ茲ニ新ナル階梯ヲ辿ルモノト謂フヘシト論シ

「プラウダ」ハ今回ノ政変ハ国民軍ト吳トノ妥協ノ結果ニシテ支那ノ国民自由運動ヲ抑圧セントセル日英帝國主義者ノ失敗ナリ右政変ノ結果国民軍、吳、孫(孫伝芳)ノ「ブロック」張作霖、李景林ノ「ブロック」ニ対立スルコトトナリ今後暫ク北支那ニ於テハ反動勢力ヲ失ヒ国民自由運動擡頭スヘク從ツテ国民軍ハ同方面ニ大ナル役割ヲ演スルコトトナルヘク「ソ」連邦ト支那トノ關係ヲ阻害セントスル帝國主義國ノ陰謀ヲ阻止スル効アリ広東モ右ニ勢力ノ対立ニ依リテ静ニ勢力挽回ノ機会ヲ得ヘシ云々ト論セリ

在支公使へ転電セリ

八二 四月十三日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

政変以後ノ北京政情ニ関シ報告ノ件

第二七九号

(一)十日夜ノ政変以来政府首脳者ハ殆ト皆潜匿シ國務院ハ執務ヲ中止シ目下殆ト無政府ノ状態ナルカ十二日袁良ノ齋ス報道ニ依レハ鹿鍾麟ハ「クーデター」後前年ノ黄郛撰行内閣ニ則リ現閣員ノ多数ヲ以テ政務ヲ維持セシメタキ意向ヲ以テ賀得霖、盧信等ヲシテ奔走セシメ十一日胡惟徳ノ名ニ於テ閣議ヲ開カントセシモ来者無クシテ失敗シタルカ鹿ハ右三名ノ外屈映光及胡仁源ヲ集メ得レハ数ニ於テハ黄郛内閣ヨリモ多クナリ撰行内閣ノ面目ヲ維持シ得ルコトト信シ目下頗ニ病氣療養旁同仁病院ニ避難シ居ル屈映光ノ出馬ヲ促シ居ルモ屈ハ段トノ關係上出馬ノ意無ク体良ク断リ居ル次第ナリトノコトナリ

(二)今回ノ事件ニ付段ノ動靜ニ参画シタル前財政総長李思浩ノ有野ニ語ル所ヲ総合スルニ段ハ今回ノ鹿ノ「クーデター」ヲ承認セス飽迄下野セス当分觀望ノ方針ニテ奉天側ニ

第二八一号

(四月十四日接受)

四月十三日付賈總理ヨリ首席公使宛左記要領ノ来翰有リタル旨首席公使ヨリ回章有リタリ

四月九日深更鹿鍾麟ハ危害ヲ加フル目的ヲ以テソノ兵ヲシテ突如執政府及ヒ内閣ヲ取囲マシメタル結果政府ハ一時ソノ職務ヲ中止シタリ余ハ右ニ関シ次ノ二点ヲ説明セサル可ラス

(一)北京ノ一叛軍一時段執政ヲシテソノ職權遂行ヲ不可能ナラシメタリト雖モ右ハ同執政ソノ職ヲ辞シタルヲ意味スルモノニ非ス從テ全国ノ平和及ヒ秩序ノ維持ニ関シテハ執政ハ既ニ各省ノ民治及ヒ軍治官憲ニ対シ法及ヒ秩序維持ニ関シ特ニ意ヲ用フ可キ旨通電ヲ発シタリ同時ニコノ騷擾時期ニ当リ捏造セル署名ヲ以テ発セラレタル一切無稽ノ電報及ヒ公文書ハ無効タル可キ旨嚴重ナル警告發セラレタリ

(二)鹿ノ犯セル不法行為ハ何レノ方面ヨリモ承認セラレズ事態ヲ解セル他ノ一切ノ軍隊指導者及ヒ善良ナル軍隊ハ一斉ニ立チテ鹿ノ犯行ヲ匡正ス可シ而シテ極メテ短期間ニ於テ現在ノ難局排除セラレ以前ノ政府回復セラル可キ事ヲ期待ス

對シテハ速ニ作戰ヲ促進スヘキ旨電報シ天津張學良及張宗昌ニ對シテハ何人カヲ至急入京セシメ北京内部ヨリ策慮スル様十一日人ヲ派シテ依頼セリ他方國民軍側ノ吳佩孚請電ニ對シテハ未タ吳ヨリ何等ノ意思表示無キモ國民軍側ヨリハ吳ニ對シテ既ニ代表ヲ派シタル由ナルカ(京漢線ハ同鐵路局当局ノ談ニ依レハ十二日夜行ヨリ軍事行動ト關係無ク開通シ得ル見込ナリトノコトナリ)尚曹錕ヨリ直接吳ニ對シ入京ヲ促ス様發電方交渉シタルモ結局前秘書長張廷諤曹ノ意ヲ受ケタル形式ニテ發電セリ又同時ニ國民軍側ハ張廷諤ヲ通シテ天津ニ在ル張紹曾ニ對シ速ニ入京シ全^{セン}ノ指揮ヲ取ランコトヲ申出テタル趣ナリ

(三)北京周囲ノ戰鬪特ニ南苑外ニ於テハ相当烈シキ模様ニテ砲声盛ニ聞ヘ連合軍側ノ飛行機ハ頻リニ西直門外京綏線停車場付近ニ多数ノ爆彈ヲ投下シタリ
在支各總領事へ転電セリ

八三 四月十三日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

賈總理ノ北京政変ニ関スル首席公使宛書簡要旨報告ノ件

八四 四月十三日

在長沙野田領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

排外運動取締り実施ヲ条件ニ長沙事件ノ地方的解決実施方請訓ノ件

第一五号

(四月十四日接受)

三月二十九日付機密公信第七五号ニ関シ唐生智ノ新省政府ハ吳佩孚トノ關係ソノ他ノ理由ニ依リ過激運動ヲ取締ル意志有ルモノノ如ク最近漸進的ナカラ根本的取締ノ実行ニ着手シ又本官ヨリ嚴重交渉ノ結果新任交渉員ノ申請ニ依リ取締ノ責任ヲ怠リ私腹ヲ肥シ居タル戒嚴司令ヲ免職シ且雪恥会糾察隊ノ解散ヲ計画シ居リ戴生昌碼頭租借ノ件ニ對シテモ誠意解決ノ意志有ルモノト認メラルル処省政府ハ自然六・一事件^(編註)モ三週記念日タル六月一日以前ニ解決ヲ希望シ交渉員ヨリ外交部ニ對シ即決方電報シタルニ何等返電無ク北京政府ノ現状ヨリ見テ北京ニ於ケル即決ハ到底見込無キニ付本官ヨリ大臣及ヒ在支公使ニ電報シ地方的解決ニ尽力セラレ度キ旨交渉員ハ懇望シ居レリ右ニ對シ本官ハ排外運動ノ取締リカ十分実行セララルニ於テハ在長沙領事トシテ本件地方的解決方請訓シ得ルモ然ラスハ排

外運動ニ原因セル本件解決ニ関シ請訓スル事到底困難ニ付今暫ク取締振りノ実況ヲ見タル上ニテ何分ノ処置ニ出ツ可シト答ヘ置ケリ情勢右ノ如クコノ機会ニ於テ排外運動取締ノ実ヲ条件トシテ本件ヲ地方的ニ即決スル事ハ彼我双方ニ取り容易且ツ有利ナル可シト思考セラルルニ付前記機密信ニ対シ折返シ御電訓相成ル様致シ度シ

編註 大正十二年六月一日ニ起キタ我が伏見艦水兵ト中国群衆トノ衝突事件。『日本外交文書大正十二年第二冊』事項ニ「長沙事件」参照

八五 四月十四日 在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

国民軍・連合軍ノ戦闘状況等報告ノ件

第二八五号 (四月十五日接受)

往電第二七九号ニ関シ

(一)北京ヲ中心トスル奉直及国ノ勢力ノ消長及政局ノ変動ハ固ヨリ戦局ノ如何ニ係ルル処連合軍側ノ攻撃モ案外進捗セズ十二日夜ヨリ十三日ノ戦闘ニ於テ黄村付近ニ於テ国民軍優勢ヲ示シ連合軍ハ二、三十支里退却セリト云ハレ居ルモ連

処十二日午後田ハ鹿ノ請ニ依リ入城シ先ツ鹿ト面会ノ上更ニ曹錕ニ会ヒ後国民軍側主脳部ノ宴ニ列シタル後城外ニ引揚ケ其ノ変転自在ナル行動ハ頗ル世間ノ注目ヲ惹キタリ其ノ結果ニ就キ国民軍系ノ消息ニ通スル許卓然、史之照(第二軍ノ代表)及方夢超等ノ談話ヲ総合スルニ田ハ先ツ第三軍何遂ノ案内ニテ入城シ鹿トノ間ニ於テ

(イ)北京ノ治安維持ハ暫ク鹿ノ手ニ委ヌルモ国民軍ハ行々北京ヲ撤退スルコト

(ロ)呉ニ対シテハ鹿トノ交渉円満ニ成立シタルニ付呉ノ入京ヲ促シ及連合軍ニ対シテハ速ニ戦争ヲ停止シ飛行機ノ爆弾投下ヲ止メ代表ヲ派シテ北京ニ善後会議ヲ開クコトヲ勸告スルノ電報ヲ田ヨリ発スルコトトシ

(ハ)且ツ必要ノ際武力調停ノ準備トシテ南苑兵營ノ三分ノ二ヲ田軍二個師ニ引渡スコト(田ハ約八師ノ兵力ヲ有スト云フ)

ニ協定成立シ尚ホ曹錕トノ会見ノ際曹錕ヨリ田ニ対シ極力平和裡ニ時局解決ヲ希望シ双方ノ調停ヲ依頼シ且ツ曹ヨリ呉ニ対シ直接招電ヲ発スルコトトナリタルトノコトナリ(右田鹿ノ妥協ノ内容カ如何程迄ニ真相ニ当ルヤ不明ナル

合軍側ノ飛行機ハ連日城外ニ爆弾ヲ投下シ且ツ戦線ニ於ケル砲声尚ホ盛ニ聞ヘツツアリテ今後ノ戦局固ヨリ予測ヲ許サルカ他方鹿ト呉自身トノ連絡ハ今日迄何等成立シ居ラサルハ事実ナルモノノ如ク現ニ王毓芝ノ談ニ依ルモ和議協力申入ニ対シテハ「クーデター」ノ前後ヲ問ハス今日迄呉ヨリ何等返電ニ接シ居ラス呉ト奉天トノ間ハ鹿ノ「クーデター」ニ依リ却テ密接ノ度ヲ加ヘタリト思ハル張廷諤ノ如キハ若輩ニシテ国民軍側ニ利用セラレ居ル次第ニテ呉ヨリ見レハ直派ノ人物ト云フヨリモ寧ロ国民軍側ト見ルヤモ知レス云々トノコトナリ尤モ今日迄呉派第一路總司令トシテ最前線ニアル田維勳ノ態度ニ至リテハ自ラ異ナルモノアルカ如シ

(二)田ハ第二奉直戦争ノ際馮玉祥系トシテ胡景翼ノ国民第二軍ニ属セシ人物ニテ胡ノ死後岳維峻ノ下ニ山東(張宗昌)攻略出征中呉派ノ靳雲鵬ト連絡シ遂ニ却テ河南ノ国民軍ヲ攻略シ更ニ呉派ノ第一路總司令トシテ国民軍ニ当リ居リタ(脱)居ラス呉ト近親ナル為メ保定進出後国民軍トノ間ニ兎角ノ批評ヲ受ケ居リタルカ最近其ノ司令部ヲ瑠璃河ニ置キ其ノ前衛ハ既ニ北京ノ西便門外数哩ノ八里庄ニ達シ居ル

モ田ハ呉佩孚ノ指揮ノ下ニ行動シ居ルニ非スシテ自己ノ勢力樹立ニ対シ好機ヲ利用シ居ルモノト見ル者多ク從テ田ノ行動カ如何程迄ニ直国連合ニ資スルヤハ将来ノ發展ニ待ツ外ナシ

在支各總領事及南京へ転電セリ

八六 四月十四日 在漢口高尾總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

北京政局ニ対スル齊燮元内話報告ノ件

第一一〇号 (四月十五日接受)

四月十四日齊燮元本官ヲ訪問シ左ノ通り内話セリ

(一)北京ノ国民軍ハ全部南口ヘ向ケ撤退セルニ付天津ヨリ王懷慶ヲ入京セシメ治安維持ノ任ニ当ラシムヘク自分ハ今晚出發北京ヘ直行シ直ニ攝政内閣ノ組織ニ着手スヘシ

(二)内閣ハ顔惠慶内閣ヲ復活セシメ直ニ議會ヲ招集シ大總統ノ選舉ヲ行フ可シ

(三)閣員ハ多少入レ換ヘヲ行ヒ外交ニハ顧維鈞ヲ任命シ(顧ハ数日前ヨリ当地ニ来リ既ニ同意ヲ得タル由)次長ニハ孫潤宇ヲ當テ日本側トノ關係ヲ良好ナラシムル考ナリ

(四)曹錕ニ対シテハ依然辭職ヲ断行セシメ保定ニ赴カシメテ

保護ヲ加フル筈

(四)吳佩孚ハ南方トノ対策上当然当地ニ止マル可シ
在支公使 天津、奉天、広東、南京、濟南、上海へ転電シ
九江、長沙、重慶ニ暗送セリ

八七 四月十四日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

漢口英租界暴動事件ノ本邦人被害要償問題解

決ノ件

第一一一号(極秘)

(四月十五日接受)

昨年六月十一日ノ当地暴動事件本邦人損害要償ノ件ニ関シ
テハ九月三十日付並ニ機密第二八号貴信御垂示ノ通彼我ノ
主張全然相反シ正式交渉ニテハ到底解決ノ見込ナシト存シ
タルニ依リ御訓令ノ趣旨ニ從ヒ吳佩孚初メ文武官憲要路ノ
向へ隨時懇談ヲ試ミ極力諒解ヲ求メタル結果反対ノ急先鋒
タリシ鎮守使杜錫鈞迄モ好意ヲ表スルニ至リ四囲ノ狀況都
合宜ク運ヒタルモ何方ニモ要償額ノ巨額ナルト之ヲ実行セ
ハ民衆ノ反対ハ必然ニシテ而モ英國トノ交渉未解決ノ為一
層困難ヲ感シ殊ニ湖北ノ財政ハ愈々窮乏ノ極ニ達シ軍費調
達ノ為ニハ官吏ノ俸給不払ハ云フ迄モナク不法課税塩稅ノ

ニテ死者ノ吊意金ハ洋銀一千弗ニ見積リ此程度ニテ本件全
部ヲ解決致シタシ至急御詮議ノ上何分ノ儀折返シ御電訓ヲ
請フ

在支公使へ転電セリ

編註

『日本外交文書大正十四年第二册上巻』ノ「事項二中
國ノ排日排英運動狀況(3)揚子江流域及ヒ華南」参照

八八 四月十五日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京政局ニ対スル張作霖ノ意向ニ関シ報告ノ件

(四月十六日接受)

合第八二号

本官発在支公使宛電報

第五〇号

貴電第一六号ニ関シ

張作霖ハ吳國兩軍ノ妥協説ヲ耳ニシ先般張学良ニ対シ速ニ
北京ヲ攻略ス可キ旨ヲ電命セル次第第モ有リ楊宇霆及ヒ新任
省長莫德惠等ニ付ソレト無ク確メタルモ今俄ニ奉軍ノ進撃
中止ノ命令ヲ發シタルカ如キ形跡無シ尤モ奉軍ノ行動兎角
遅々タルハ事實ニシテ北京方面ニ出動スル奉軍ハソノ數約
三万ニ過キス又數日前國民軍ノ騎兵若干古北口ヨリ表ハレ

没収等凡百非常手段ヲ講シツツアル有様ニ付本官トシテモ
多額ノ要求ハ如何ニモ心苦シク又其可能性ハ絶対之無キニ
依リ改メテ當時ノ被害程度ヲ審査シ更ニ公平ナル第三者ノ
批判ヲモ求メタル結果遭難死亡者ノ分ヲ除キ実損額ハ高々
二三万円ニ過キストノ確信ヲ得タルヲ以テ引續キ支那側ニ
対シ

(一)本件ハ湖北当局ノ自発的誠意ニ依リ被害者ニ見舞金ヲ送
ル事

(二)右金額ハ洋銀五万弗位ニテ差支ナキ事

(三)支那側ノ希望ヲ容レ又大局ニ及ホス利害ヲモ考慮シ本件
ハ内外ニ対シ絶対秘密ニ付スル事

ノ主旨ヲ以テ交渉ヲ進メ蕭耀南モ之ニ同意シ陰曆年末殆ン
ト決定ノ管ナリシ処因ラスモ蕭死去ノ結果大頓挫ヲ来タシ
交渉行惱ミタルモ齊燮元等ノ尽力ニ依リ目下ノ財政状態ニ
於ケル最大限度トシテ軍費ノ内ヨリ内密一万五千弗ヲ捻出
シ急速解決シタキ旨相談アリ右ノ金額ニテハ元ヨリ不満足
ナルモ今日ノ場合支那側トシテハ寧ロ大出来ナリト心得本
省ノ承認ト被害者ノ同意ヲ条件トシ本日右ノ金額ヲ受領セ
リ被害者ニ対シテ篤ト叙上ノ主旨ヲ申含メ同意ヲ得ル見込

タル為メ幾分退去シ未タ通州ヲ占領スルニ至ラサルモ只京
綏方面ニ迂回セル奉軍騎兵到達ノ上國民軍ハ早晚北京ヲ撤
退ス可キモノト確信シ居ルカ如シ但シ楊宇霆ノ談トシテ聞
キ込ミタル処ニ依レハ北京陥落後ハ張作霖目下ノ考トシテ
ハ北京ハ之ヲ吳佩孚ノ手ニ委ネ撤兵スルノ方針ナルヲ以テ
奉郭戦當時ニ於ケルカ如キ反感ト熱誠ヲ欠キ自然軍費節約
等ノ關係ヨリ戦意薄キノ感有リ云々、吳佩孚トノ接触ニ努
メ一面吳ト國民軍トノ妥協提携ヲ牽制スルノ策トシテ前線
ニ出動セル靳雲鵬トノ連絡ヲ計リ之カ為メ靳雲鵬カ張学良
ノ勸メニ依リ組閣ノ希望ヲ有スルニ付込ミ再度彼ヲ当地ニ
招致シテ吳佩孚トノ接触ヲ密接ニセントシ一面張志潭ヲ呼
ビ寄セ赤化防止ノ運動ノ繼續ヲ理由トシテ反國民軍即チ吳
張連合ノ維持ヲ計リ國直ノ關係ニ付吳ノ部下多少心ヲ動か
セルモノ有ルヲ疑ヒ一ニ吳ニ依リテ張吳ノ關係維持セント
シツツ在リ又李景林カ病ト称シテ出テサルハ張作霖ニ対ス
ル不平トモ見ラル可キモ元來直隸ヲ張宗昌ニ讓ル可シトハ
濟南ニ於テ彼ノ申出セル処ニシテ李ハ天津及ヒ秦皇島ニ於
テモ再度之ヲ繰リ返シタルカ故ニ直隸ヲ得ストモ彼ニ於テ
苦情有ル可キ筈無ク若シ苦情有リトセハ張カ李ニ対シ直隸

ノ事ハ李景林及ヒ張作相ニ於テ決定ス可クト言ヒテ敢テ李景林ニ於テ之ヲ保有ス可シト言ハサリシ事カ李ノ不安ナルヤモ計ラレサルモノノ他ニハ李ニ於テモ苦情ノ種無キ筈ナリ云々

外務大臣、天津ニ転電セリ

八九 四月十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍ノ北京撤退及ビ市内治安維持ニ関シ報

告ノ件

第二八七号(至急)

四月十五日通州方面ノ戦況思ハシカラス遂ニ同地陥落シ同日午後ニ至リ形勢急変シ賀得霖ヨリ伝聞セル処ニ依レハ鹿鍾麟ハ十五日夕刻当地ヲ引揚ケ南口ニ赴キ鹿ノ参謀劉毅ハ公使館区域ニ竄入セル由之レカ為メ国民軍ハ続々西直門停車場ヨリ西北ニ引揚ケ中ナリトノコトナリ市中ハ只今迄ノ情報ニ依レハ保安維持会ヨリ吳炳湘ヲ警察総監ニ推薦シ又「ムンテ」將軍之レニ協力シテ目下治安維持ニ努メ居ルモノノ如ク各城門ハ閉鎖セラレ唐之道ノ軍隊ノ入門ヲモ許ササル由目下市内動揺シ的確ノコトハ判明シ難キモ治安ハ多

分維持セラルヘキカト観測セラル当館警察及歩兵隊ヲシテ警戒セシメツツアリ不取敢
奉天及天津へ転電セリ

九〇 四月十六日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉天軍、山東軍及ビ靳雲鶚軍北京ヲ包圍ノ状

況報告ノ件

第一三〇号

十五日夜総司令部着電ニ依レハ

奉天軍ハ十五日午前張家灣ヲ午後通州ヲ占領シ同日中ニ北京城ノ北側ニ到達スル予定ナルモ奉軍ハ北苑ニ集中シ入城ハセサル方針ナリ又山東軍ハ十五日午後完全ニ南苑ヲ占領シ靳雲鶚ノ軍ハ西苑に到着シ北京ハ全ク重囲ニ陥リ城内ハ頗ル混乱中ナリト

哈爾賓、長春、吉林、安東へ転電セリ

九一 四月十六日 在南京孫傳芳領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ノ動靜ニ関シ報告ノ件

第三四号

北京政変ニ関シ孫伝芳ノ態度ハ従来ト別段変化ナク今後共中央政局ニハ成ル可ク干与セサル方針ナルモ最近吳佩孚メキメキ男ヲ上ケタル為メ吳トノ接近ニ努メ時々小銃彈藥ヲ吳ニ供給シ且修好代表トシテ楊文愷ヲ過般漢口ニ派遣セリ尚孫ハ張作霖カ関内ニ手ヲ延ハスハ結局失敗ヲ繰返スモノニシテ山東直隸ハ其内奉天ト関係ヲ絶ツニ至ルモノト観測シ居レリ
北京、漢口、奉天、天津へ転電シ上海、濟南、青島へ暗送セリ

九二 四月十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍撤退ニ関スル許卓然及ビ孫宝琦談話報

告ノ件

第二八九号 (四月十七日接受)

往電第二八七号ニ関シ

十六日国民軍側ノ消息ニ通スル許卓然ノ談話ニ依レハ鹿鍾麟ハ昨夜十一時総司令部員全部ヲ引連レ南口ニ向ヒテ引揚ケタルカ国民軍ハ南苑方面ヨリ昨夜八時ヨリ今朝六時頃迄間断ナク撤退シツツアリタルヲ以テ最早城内ニ一兵モ残ラ

サルヘシ而シテ警察ハ吳炳湘(往電第二一七号ノ(二)及同第二八七号参照)ニ京兆尹ハ憚宝惠ニ渡ス筈ニテ(憚ハ王士珍カ國務總理時代及馮国璋副總統時代共ニ秘書長タリシ家柄ノ者ニテ王士珍トハ密接ノ関係アリ)京師ノ警備ハ唐之道之ニ当リ居レリ王士珍等ヨリハ奉天軍ニ対シ進撃中止方ヲ電報シタリ今回国民軍力失敗シタルハ通州方面ニ於テ唐ノ軍隊カ少シモ戦ハス為メニ鄭金声ノ一団ト門致中ノ一団トヲ頻ニ派遣シタルモ大勢ヲ挽回スルコト能ハス昨夜八時国民軍幹部ハ最後ノ会議ヲ開キタル処尚ホ城ヲ枕ニ戦フヘシトノ議論出テタルモ斯クテハ国民ノ反感ヲ受クヘシトノ議論勝ヲ占メ遂ニ総退却ニ決シタルモノナル趣ナリ許ハ右談話ノ際段ハ此ノ際潔ク下野スレハ声望ヲ繋キ得ヘキニ段派策士ノ取巻連ハ再ヒ段ヲ担キ上ケント計リツツアルハ惜ムヘシト語リタル趣ナリ

尚ホ十六日孫宝琦ハ船津ニ対シ往電第二八八号吳佩孚ノ鹿ニ対スル回電(鹿カ北京撤退後ニ非サレハ何等話出来ストノ趣旨)ニ依リ所謂国直合作ノ望ミ絶ヘ茲ニ戦局不利ニ伴ヒ急ニ退却ニ決シタル次第ナル旨述ヘタリ
奉天、天津、漢口へ転電セリ

九三 四月十六日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

段祺瑞ノ動靜等北京ノ狀況ニ関スル姚震談話
報告ノ件

第二九〇号 (四月十七日接受)

往電第二八八号ニ関シ

段派ノ代表的意見トシテ十六日姚震ノ談話要領左ノ通り
(一)段ハ明朝又ハ明後日執政府ニ帰り從來ノ通り國務ヲ見ル
コトトナルヘク唐之道ノ國民軍第九師ハ警備軍ト改称シ唐
ハ警備總司令トナリ北京ノ治安維持ノ任ニ当ルヘク既ニ一
箇旅団ノ唐軍北京ニアリ各城門ニ配置守備ニ当リツツアリ
尚ホ今十六日唐ハ自分等ト打合ノ上通電ヲ發シ先ツ鹿ノ不
法行為ヲ攻撃シ自己ノ軍隊ハ率先シテ通州ヨリ引揚ケ京師
ノ警備ニ当ル筈ニテ從來ノ如ク今後モ段執政ヲ擁護スヘキ
旨ヲ宣言シ京畿ノ治安ハ責任維持ニ任スヘキ旨ヲ声明スル
コトトナレリ

(二)保安会ナルモノハ一時ノ便法ナリシニ付十五、十六両日
限り之ヲ取消ス筈ニテ唐ノ軍隊ハ通州ニ於テ奉天軍ト接触
シ居リ奉軍ニ対シテ暫ク入城セサル様通シ置キタル筈ニテ

九五 四月十九日 齋藤閣東軍參謀長ヨリ
金谷參謀次長宛(電報)

段祺瑞ノ行動ニ関スル楊宇霆ノ批判報告ノ件

関電第二二三号(奉天報) (四月二十一日外務省接受)
十七日楊宇霆ハ中央政局收拾問題ニ就テ左ノ如ク語レリ
段祺瑞力從來無主義ニテ時ノ威力ニ随從スル態度ヲ極力非
難シ特ニ今次鹿鍾麟ノ「クーデター」ニ就キ一旦逃亡シナ
カラ危難去レハ再ヒ執政ノ事務ヲ見ルカ如キハ甚タ奇怪ト
スヘシ彼ハ最早政治的生命ヲ失ヒタルモノナリ又段力奉天
ノ推輓ニ依リテ執政トナリナカラ戰爭間奉天ニ対シ電報及
使者ヲ一度モ出ササルヲ以テ張作霖ト吳佩孚トノ關係保持
ノ為ニハ段ノ如キ敢テ願ル処ニ非スト
尚段、吳ノ間一致セサレハ段ノ失脚ハ已ムヲ得サルヘシ段
ニ対シテハ多少ノ好意ヲ有スルモ進ンテ段ヲ擁護スル意志
ヲ有セスト

九六 四月二十日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

護憲・護法ニ対スル張作霖及吳佩孚ノ動向
ニ関シ報告ノ件

一 北京政府ト一般政況 九五 九六

城内ニアル約二營ノ國民黨殘党異分子ノ兵ヲ全部城外ニ驅
逐スル筈ナレハ北京ノ治安ハ完全ニ保タルヘシ尚ホ奉軍モ
連合軍モ將又唐之道ノ軍モ國民軍ヲ追撃スルハ困難ナリ田
維勤ノ兵ハ目下長辛店ニアリ田カ入京セサルハ全ク吳ノ命
令ニ依ルモノナリ

九四 四月十七日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

段祺瑞復職ニ対スル段派ノ意向ニ関シ李思浩
談話報告ノ件

第二九七号

段力從來ノ通り復職シ従前ノ通り國務ヲ遂行スヘキヤ又ハ
一旦復職後下野ヲ宣明スヘキヤニ付段派ノ意向分レ居タル
由ナルカ十七日李思浩ノ談ニ依レハ段ハ当日ノ國務會議ニ
於テ一旦復職シ張、吳、孫、閻ニ対シ代表派遣方ヲ電報シ
其ノ代表ノ意見ヲ徵シタル上ニテ進退ヲ決スルコトニ決定
シ尚ホ段ハ本日鹿鍾麟ノ行動ヲ否認シ且ツ自己ヲ罪シ前記
趣旨ヲ加ヘタル通電ヲ發スルコトトナリタル趣ナリ
在支各總領事及南京ヘ転電セリ

第一一四号

一、曾毓雋十七日来津十九日吳光新等ト共ニ晋京シタリ潘
復、張孤等ノ談ヲ綜合スルニ在津中奉天派ニ対シ段ノ復職
ニ関シ意思ノ疎通ヲ求メタルカ如キモ張學良、張宗昌トシ
テモ何等態度ヲ表明スルノ地位ニアラサリシヲ以テ不得要
領ニテ帰京シタル模様ナルカ段周囲ノ一部ニ於テ此ノ際段
ノ為ニ奉天派ト連絡セント策シ居ル者アルハ明ラカナリ尤
モ奉天トシテハ此際段派ニ近寄ル事ノ危険ナルヲ慮リ居ル
モノノ如ク現ニ十七日北京方面ニ進發スヘキ張學良、張宗
昌等モ奉天ヨリノ電命ニ依リ疑惑ヲ避クル為其ノ進發ヲ見
合ハス事トナリタリト云フ

二、王懷慶ハ白井ニ対シ同人ハ先ニ吳佩孚及張作霖ヨリ北
京ニ來ル事ヲ勸メラレ居リシモ決心スルニ至ラサリシカ最
近王士珍、趙爾巽等ヨリモ勸告アリシニ付愈々晋京スル積
リナルモ現ニ一兵ヲモ有シ居ラサル情況ナルニ付北京ヘ赴
キテノ形勢次第ニテハ如何ニナルヤ不明ナリト語レル由ナ
リ

他方面ヨリノ情報ニ依レハ王懷慶部下ノ兵ハ山西、奉天、
吳佩孚ト云フカ如ク各方面ヨリ一部宛ヲ取りテ組織セシム

ル計画ナリトモ云フ

張孤ノ談ニ依レハ奉天派トシテ李景林ヲ衛戍総司令ニ李
三ヲ警察総監トナス積リナリシニ吳佩孚ハ今回戦争ニ關係
ナカリシ王懷慶ヲシテ此ノ重要ナル地位ニ就カシムル事ト
ナリタルヲ以テ不満ヲ感シ居レリ問題ハ既ニ王懷慶ノ任命
ニ対シテ具体的問題トナリツツアリテ十六日張學良等四人
連名ノ通電中ニ「歴年戦局循環一年ノ安定スルモノ無キハ
毎回軍事終息ノ際政治其ノ平ヲ得サルニ依ル就中地盤ノ得
失權利ノ多少ヲ按配スル事苟且ナレハ将来ノ禍根玆ニ伏在
ス云々」ト述ヘ居ルハ奉天派ノ不平ノ一表示トモ見ラルヘ
シ吳張間困難ノ問題ハ一ツハ護法護憲ノ問題ニシテ一ツハ
地盤ナリ云々

三、李景林ノ態度ニ関シ張孤曰ク二週間程前迄ハ吳佩孚ニ
傾キ居リシモノハ吳佩孚カ衛戍総司令ノ職ヲ王懷慶ニ与フ
ルコトトナリ吳ノ代表ハ王ヲ訪問シテ部下ノ振当等迄議シ
居ル現状ナルト二ハ奉天方面トシテハ李景林ヲ衛戍総司令
ニ擬シ最近吳カ之ヲ王懷慶ニ決スルヤ李ヲ直魯督練、行々
ハ直魯巡閱使ニ任命スルノ意気込ヲ示スニ至レル為メ李ハ
今ヤ何レカト云ヘハ吳ヲ離レテ張ニ近ツキツツアリト云フ

警備総司令ニ任命スルト共ニ安福派ノ逮捕ヲ命シタル旨新
聞紙ニ報道セラレ居ル所尙十九日孫宝琦カ船津ニ内話スル
所ニ依レハ唐之政治安会ニ来リ吳佩孚ヨリノ来電ナリトテ
示ス所ヲ見ルニ王ヲ総司令ニ唐ヲ副司令ニ任シ且ツ段ノ身
辺ヲ監視セヨトアリタル趣他方天津ニ派遣セル曾毓雋ヨリ
ハ奉天側ニ於テモ段擁護ノ意向ナシトノ来電アリタル由ニ
テ其後胡霖等ノ談話ヲ総合スルニ十九日吳光新、曾毓雋来
燕シ段ニ対スル右奉天側ノ態度ヲ報告シタル結果段祺瑞ハ
政務ヲ胡外交総長ニ委任スル命令ヲ發シ段宏業、許世英、
章士釗、姚震等ヲ從エ出迎ノ為来京シタル吳、曾兩人其他
陳文運、曲同豊等ト共ニ二十日午後一時五十分ノ臨時列車
ニテ天津ニ引キ揚ケタリ

九八 四月二十日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚・張作霖間ノ連携ニ関スル吳側要人談
話報告ノ件

一 北京政府ト一般政況 九八

ヘシ吳佩孚、張作霖ノ關係ヲ悪化セシムル病根ハ張志潭ニ
アリ張ハ早クモ顔惠慶、王懷慶等己ノ一派ノミヲ以テ政權
ヲ壟断セントシツツアリ

四、時局ノ收拾ハ吳佩孚ノ北上ニ依リテ決セラルヘキカ当
地奉天系ノ要人等ハ然ルヘキ地点ニ於テ直接兩者ヲ会合セ
シメ困難ナル問題ヲ商議セシムルヲ唯一ノ方法トシテ努力
シツツアルモノノ如シ政府ノ組織ニ付テハ護憲ニテ行クコ
トトナレハ顔惠慶、護法其ノ他ノ方法(護憲以前)ニテ行
クコトトナレハ靳雲鵬総理タルヘク何ノ途今回ハ張紹曾ノ
出ルコトハ絶対ニ之レ無シト観測セラレツツアリ

北京、奉天、濟南、漢口、南京ヘ転電シ上海、青島ヘ暗送
セリ

九七 四月二十日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

段祺瑞ノ天津引揚ゲニ関シ報告ノ件

第三〇二号(至急) (四月二十一日接受)

往電第二九七号ニ関シ

段ノ復職ニ対シテハ一般ニ余リ同情ナキ有様ナルカ吳佩孚
ハ段ノ復職ニ対シ頗ル不満足ニテ治安会ニ電報シ王懷慶ヲ

第一一二号 (四月二十一日接受)

其ノ後吳佩孚側主要人物ノ談ヲ総合スルニ左ノ通り

(一)四月十二日北京付近長辛店迄進ミタル田維勤ヨリ城内ノ
国民軍ハ十三日夜迄ニハ確實ニ撤退スヘク又段祺瑞既ニ其
ノ職ヲ去レリトノ旨電報アリタル為メ吳ハ予テノ計画ト張
作霖トノ諒解ニ基キ直ニ齊燮元ヲ代理トシテ北京ニ直行セ
シメ顔惠慶内閣ヲ復活シ王懷慶ヲシテ治安維持ニ当ラシム
ル筈ナリシ処田維勤ノ見込外レシト形勢ハ又復変化ヲ来シ
為メニ齊ハ前進不能トナリ目下保定ニ止マリ居レリ

(二)吳ト張トノ申合セハ曹錕ノ復活ヲ不可ナリトシ自ラ位ヲ
辞シ顔内閣ヲシテ暫ク大總統ノ職務ヲ撰行セシムル旨ノ通
電ヲ曹ヨリ發セシムルコトトシ其ノ案文ヲ齊ニ携帯セシメ
入城ト同時ニ親シク曹ト打合ヲ為サシムル筈ナリシ処之レ
亦齟齬ヲ来セル次第ナリ

(三)加之一度職ヲ退キタル段祺瑞ハ安福系ノ運動ニ依リ又復
復活スルニ至リ而モ安福系ト奉天派トハ既ニ或種ノ諒解成
リ段ノ復活ハ奉天派ノ援助ニ依ルモノト解セラル即チ監視
總監ニ安福系ノ吳炳湘ヲ当テ警備総司令ニ奉天派ノ唐之道
ヲ以テセルカ如キ段ノ復活ハ明ニ奉天派ノ策動ニ出テタル

モノト見ル外ナシ

四更ニ又張学良等ノ奉天軍主腦者ハ近ク兵ヲ率ヒ入城スヘシトノ情報モアリ軍隊ハ入城セシメストノ約ニ反スルモノニテ數ヘ来ラハ奉天軍ノ態度ニ疑問ノ点少ナカラス

(右)右ニ対スル呉佩孚ノ態度ハ飽ク迄平靜ヲ保チ努メテ張作霖ト連絡ヲ保チ今後ノ対策ニ腐心シツアルカ一方湖南方面ノ形勢思ハシカラサルタメ目下進退兩難ノ立場ニアリ北京ノ形勢見極メツカサル限リ北上ノ期日ハ未定ナリ

大要如上ノ通りナル処万一奉直間ニ再ヒ隙ヲ生スルトキハ呉佩孚側トシテハ斬雲鶚、田維勤ノ軍ヲ併セ保定方面ニ約十二万ノ兵力ヲ有スルモ大部分ハ河南軍又ハ元ノ國民第二軍ニシテ頼ムニ足ラス而モ南口ニ退却セル國民軍ハ其ノ數六万ニ近ク武器彈藥共ニ完備セリトテ前途ヲ氣遣フ者少ナカラサル模様ナリ

北京、天津、奉天へ転電シ上海、南京、九江、長沙へ暗送セリ

九 九

在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛

時局ニ関スル執政令送付ノ件

国締構本執政心力所存休戚与共内審時艱外崇国信且目覩赤化之禍流於首都不敢遽為無責任之放棄耳本月九日之乱所関於国家紀綱軍人職責者絶鉅遽茲奇变内疚尤深曩者臨時政府開始之日曾規定応弁者若干事一年之中事勢扞格今後是否按程進進聽諸公意邇來宗国元功方隅諸帥屢以大計相与詢謀国家之福有目共見当此乱極思治之秋不無貞下起元之会其速妥議善後俾国政不至中斬衆謀朝同初服夕具本執政從容修省得為海濱一民終其余年所欣慕焉此令

中華民國
國臨時
執政印

國務總理 賈德耀 外交總長胡惟德 內務總長屈映光
陸軍總長 海軍總長 司法總長

財政總長 教育總長胡仁源 農商總長 交通總長龔心湛

中華民國十五年四月十七日

一〇〇 四月二十一日 在中國芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

段執政下野ヲ含ム進退ニ関シ船津へ談話ノ件

第三〇二号

一 北京政府ト一般政況 一〇〇

付屬書 四月十八日政府公報發表ノ臨時執政令

機密第四四七号

(四月三十日接受)

大正十五年四月二十日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

時局ニ関シ執政令公布ノ件

時局ニ関シ執政令公布ノ件
トナリタル次第ハ往電第二九七号具報ノ通りニテ該公布文ノ内容ハ十七日東方通信ヲシテ大要電報セシメ置キタルカ為念政府公報發表ノ右命令全文別添送付ス

(付屬書)

四月十八日政府公報發表ノ臨時執政令

(別添)

(四月十八日政府公報)

命令

臨時執政令

民國成立十有五載紛乱迄無寧日本執政莅事以來兢兢以振導和平与民更始為念不図徳未足以感人才未足以濟變力不從心事俱違願迭経声述期於退休然猶不辭謗議忍辱至今者徒以民

十九日段執政カ船津ニ対スル談話要領左ノ通

(一)自分ハ今回下野ノ決心ヲナセル(数字分空白)既ニ去十七日発ノ通電(往電第二九六号及東方電参照)ノ通ナリ但從來ノ行懸上殊ニ対外關係上後継者ノ出来ル迄引続キ執政ノ職務ヲ見ルニ過キス今後政局収拾如何ハ張作霖、呉佩孚等ノ意見ヲ徵スルニアラサレハ万事不明也不取敢李景林、張宗昌、張学良等ト打合ヲナサシム可ク一昨夜曾毓雋ヲ天津ニ派遣シタルニ今朝接到ノ十八日付曾ヨリノ來簡ニ依レハ李景林、張宗昌、張学良ハ今十九日天津出發上京スルコトトナリタル由自分ノ懸念スル処ハ時局収拾上最モ有力ナル呉佩孚、張作霖カ漢口、奉天ノ如キ遠隔ナル南北両地ニアル為諸般ノ問題解決ヲ遷延セシム其間動モスレハ政客其他ニ種々運動ノ隙ヲ与ヘ政局ヲシテ却テ紛糾セシムルコトナキヤニアリ執レニシテモ政局ハ今暫クノ混沌タルヲ免カレス

(二)唐之道ノ軍隊ハ連軍ニ於テ充分信用セサル為全部城外ニ引揚シメ目下城内ノ警備ハ警察及從來ノ執政政府衛隊ニ於テ引受クコトナレリ

(三)現在ノ内閣ハ総辭職スルコトトナリ本日辭表ヲ提出シ來

リタルモ直ニ却下シ当分ノ間引続キ國務ヲ執行スル様命シ置ケリ云々

尚段ノ口吻ニ依レハ段ハ張、吳等ニ於テ引続キ留任ヲ希望スルニ於テハ敢テ固辭セサル如キ模様ナリシ趣也

一〇一 四月二十一日 在天津有田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

段祺瑞ノ出処進退ニ関スル朱深談話報告ノ件

第一一六号(至急) (四月二十二日接受)

段祺瑞ハ出迎ヘニ赴キタル吳光新、曾毓雋、曲同豊、梁鴻志等及姚震、段宏業等ヲ從ヘ二十日午後八時過來津直ニ日本租界内吳光新邸内ニ入レリ同日朱深ハ館員ニ對シ姚震等一派ノ執政擁護運動ハ却テ段氏ノ人格ヲ傷ケ其ノ前途ヲ過ルモノナリ段氏人物当代第一人者ナルハ中外ノ認メル処ナルヲ以テ此際出処進退ヲ明ニシ置クハ奉直提携ノ永續性無キニ顧ルモ極メテ必要ナリトハ吳光新、曲同豊ヲ始メ自分等ノ意見ヲ同シクシ居ル処ニシテ段氏出迎ニ赴キタルモ之カ為ナリ云々ト語リタリ

在支公使、漢口、奉天、上海、青島、南京、濟南ヘ転電セ

吳兩人談合ノ結果ニ俟ツノ外ナク四匪ノ狀況ハ寧ロ吳佩孚ノ勢力伸張ヲ示シツツアリテ顔惠慶若ハ靳雲鵬ノ摂行内閣ノ出現ヲ見タル上曹錕(仏国公使ノ談ニ依レハ曹ハ仏国病院ニ來リ居レリトノコトナリ)ヲ辭任セシメ正式總統ノ選舉ヲ見ル可シトスルモノ多シ

(二)右ノ如ク中央政局ノ前途ハ未タの確ニ見据エ付カサルモ國民軍ヲ徹底のニ撃破セントスル点ニ至リテハ奉直ノ一致スル処ナルカ如ク現ニ連合軍ノ一部ハ南口ニ向ヒテ國民軍ヲ追撃中ナルカ今後或ハ吳軍ハ山西ノ閻錫山軍ト共ニ陝西方面ヨリ奉軍ハ熱河方面ヨリ張家口ヲ挾撃スルコトトナル可シ張之江ハ予テ吳トノ連絡ヲ辿リ鹿ノ兵權ヲ奪ヒ熱河ヲ放棄スヘキヲ以テ察哈爾、綏遠及甘肅ハ國民軍ノ地盤トセラレタキ旨吳ニ交渉セルモ吳ハ之ニ對シ國民軍ノ無条件引渡及張之江、鹿鍾麟ノ下野並ニ馮ノ蒙邊使褫奪ヲ要求セル趣ナリ尚唐之道軍ハ既ニ南苑ニ移駐シ田維勤ハ靳雲鵬軍ト共ニ尚長辛店ニアリ目下頻ニ曩ノ国直合作力其ノ本意ニ出テタルモノニ非ルヲ弁明シツツアリ城内ハ王翰鳴軍ノ一部唐之道軍ニ代リテ警備ノ任ニ當リツツアリ

在支各總領事及南京ヘ転電セリ

リ

一〇二 四月二十一日 在中國芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

段退京前後ノ中央政局ニ関シ報告ノ件

第三〇八号 (四月二十二日接受) 往電第三〇五号ニ関シ

(一)二十日段祺瑞退京ニ先チ其ノ跡始末トシテ段ハ張、吳、孫、閻ノ四巨頭及各將ニ宛テ引退ノ通電及赤化防止ノ通電ヲ発スルト共ニ賈總理兼陸長ノ辭職ヲ許シ胡惟徳ヲ總理ニ兼任シ且賀財長、龔交通總長、湯國務院秘書長、曾外交次長及督弁姚国楨ノ辭職ヲ許シ又二十日ヨリ國務院ヲシテ臨時執政ノ職權ヲ摂行セシムルノ四命令ヲ出シ印璽ヲ胡惟徳ニ送リタル処胡ハ之ヲ王士珍等ノ治安維持会ニ送リ且外交事務以外ノ國務ハ之ヲ処理セサル旨ノ通電ヲ發シタリ王等ハ治安会ハ専ラ治安ノ維持ヲ目的トシ政治ニハ一切干与セストテ之ヲ拒絶セシモ胡ハ之ヲ受領スルヲ肯ンセス為ニ印璽ハ其ノ儘保管シ吳ニ對シ至急入京ヲ促カセル電報ヲ發シタル有様ニテ中央政局ハ依然渾沌無政府ノ状態ヲ続ケ居ル次第ナルカ(委細郵報)今後政局ノ收拾ハ要スルニ張、

一〇三 四月二十二日 在天津有田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

奉直兩派提携並ビニ中央政局ニ関スル張志潭意見ニ関シ報告ノ件

第一二〇号 (四月二十三日接受)

張志潭ハ去ル十九日來津セルカ同行セル王獻煒ハ張ノ意見ナリトテ左ノ通岡本ニ語レリ

(一)吳張兩派ハ張志潭、張景惠ヲ代表トシテ妥協ノ結果中央政府ハ總テ吳氏ニ委ネ張ハ容喙セサル約アリシニ最近奉派ノ遣口ニハ之ニ反スルモノアリ王懷慶ノ衛戍司令タルコトハ奉派ニ於テモ万異存ナカリシ筈ナルニ今回突然王翰鳴ヲ任命シタルカ如キ實ニ不都合ナリ(尤王懷慶ハ一兩日中ニハ兎モ角晋京スヘシ)

(二)張學良等カ兵ヲ携ヘ入京シタルコト又前約ニ反シタル行動ナレハ張志潭ハ之カ対策吳氏ニ電照スルト共ニ張景惠ヲ通シテ張作霖ニ嚴重抗議中ナリ

(三)直派ニ於テハ顔惠慶ヲシテ摂行内閣ヲ組織セシムル筈ナリ

(四)靳雲鵬ハ組閣ヲ画策シ居ル模様ナルモ之ハ問題トナラサ

ルヘシ斬ハ過般赴漢シ種々時局收拾策ヲ述ヘタルカ同氏ハ客年憲法無用論ヲ唱ヘ武力統一ヲ主張シテ吳氏ノ嗤笑ヲ買ヒタルヲ以テ同氏ノ組閣説モ問題トナラス

(四)齊燮元ノ入京乃至吳張兩巨頭会見ノ如キモ前頭對張抗議ニ對シ奉派ノ誠意アル回答ナキ限り話ヲ進ムル訳ニハ行カサルヘシ云々

在支公使、漢口、奉天へ転電セリ

一〇四 四月二十三日

高田(豊樹)支那駐屯軍司令官ヨリ
鈴木參謀總長宛(電報)

段ノ退京理由等時局ニ對スル姚震談話報告ノ件

天電第二四〇号

(四月二十六日外務省接受)

姚震ノ談

段ノ退京理由

一、段執政政府カ從來奉天派ノ擁護下ニアル關係上段、吳ノ意志疎隔カ延テ吳、張ノ確執トナリ一転シテ國民軍、吳佩孚ノ提携トナリ更ニ孫伝芳ノ協同トモナラハ赤賊討伐ハ勿論挫折シ奉派ハ三面敵ヲ受ケ全ク孤立ノ窮狀ニ陥ル可ク此ノ際段派逼塞スルモ全般ノ為下野ヲ適當トセルコ

的忠告ヲ試ミタルニ張ハ其好意ヲ謝シ奉天軍固ヨリ規律完全ナリトハ云フ能ハサルモ比較的正シト認メ居レリ但シ直魯連合軍軍隊中ニハ土匪出身ノ者鮮カラス且俸給ノ支給ヲ受ケサル兵モ有ル為往々不都合ナル所為ニ出スル者有ル也彼ノ行動ハ悉ク奉天軍ノ所為ナリト誣ヒラレ居ルカ如シ但シ自分等ニ於テ嚴重取締ル積ナル旨答ヘタリ尚奉天軍及連合軍今後ノ行動並ニ同人初メ張宗昌及李景林來京ノ目的ニ付テハ張宗昌ノ船津ニ語リタル処ト同趣旨ヲ繰返シ山西軍ハ既ニ大同府ニ進入セル旨ヲ語リタリ最後ニ本使ハ時局收拾ニ付具体的意見ヲ述フルハ内政干涉ノ嫌アルヲ以テ之ヲ避クルモ收拾ノ方法如何ハ極メテ重大事ナルニ付充分慎重處理スル事必要ト認ムル旨ヲ述ヘタル処同人ハ謝意ヲ表シ父作霖ニ電報スヘキ旨答ヘタリ予テ吉田總領事へ御訓令ノ帝國政府ノ御意見ニ付テハ他ニ列席者モ多カリシニ顯ミ之ヲ語ラス船津ヲシテ奉天側ノ東三省ニ引揚ケル事ノ大局上得策ナル旨ノ趣旨ヲ語ラシメ置キタリ

奉天へ転電セリ

一〇六 四月二十五日

在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

一 北京政府ト一般政況 一〇六 一〇七

ト

二、張之江及吳ノ接近並唐之道ノ内応ハ段派身辺ノ危険トナルノミナラス京師ニハ此等軍隊及直隸系軍ノ對立セルアリテ全ク自己ノ政策ヲ實施シ能ハサルヲ以テ遂ニ今次ノ退京ヲ見ルニ至レリ

段派將來ノ方針

一、吳ハ顔ヲ以テ摂政内閣トシ一時政權ヲ擁護ス可キモ張、吳ハ到底兩立セサルヲ以テ此間直隸系ニ對シテハ湖北省内部、陝西省、四川省、唐生智、鄧如琢等ヲ煽動シ孫伝芳ニ對シテハ浙江夏超、江蘇白宝山、安徽陳調元ヲ利用シテ牽制セハ三ヶ月ヲ出テスシテ吳派ヲ覆滅シ得ヘシ

北京濟

一〇五 四月二十四日

在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

時局收拾等ニ関スル張學良トノ會談要領報告

ノ件

第三一六号

四月二十三日張學良本使ヲ來訪シタルヲ以テ本使發奉天宛電報第一九号船津ノ張宗昌ニ述ヘタルト同趣旨ヲ以テ友誼

吳佩孚・張作霖トノ協議ニ関スル内田伯へノ

孫伝芳談話報告ノ件

第三九号

(四月二十六日接受)

昨二十四日孫伝芳カ内田伯ニ語レル処ニ依レハ内閣組織及善後方針ニ関シ目下吳張孫三名協議中ナルカ顔惠慶ヲシテ内閣ヲ組織セシムル方針ニテ外交總長ハ顧維鈞ニ決定シ他モ数日中ニ決定ヲ見ルヘシトノコトナリ尚副官長ノ本官ニ語レル処ニ依レハ孫ハ元來中央ノ問題ニハ余リ口出ヲ好マサルモ吳張兩人ヨリ頻々電報ニテ孫ノ意見ヲ徵シ來レルニ依リ深入リセサル程度ニ相談ニ応スルコトニセリトノコトナリ

在支公使へ転電セリ

一〇七 四月二十六日

在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚側ノ中央政局ニ對スル態度ニ関スル張

志潭内話報告ノ件

第一二一号

四月二十四日張志潭カ内密トシテ船津ニ語リタル時局談大要左ノ通り

(一)今回自分カ漢口ヨリ当地ニ来ル途中上海ニテ恰モ張廷諤及耿迺熙等カ極力国民軍直隸派ノ提携ヲ実現スヘク奔走シ且ツ耿ハ呉ノ代表者ナル旨新聞紙上ニ宣伝セラレタルカ右ハ国民軍カ形勢愈々不利ニ陥リツツアルヲ以テ窮余ノ一策トシテ呉張ノ離間ヲ試ミタルニ外ナラス折角今日迄呉張カ極力一致シテ国民軍ニ対抗シ来リタルニ若シ兩者ノ間ニ隙ヲ生スル如キコトアリテハ由々敷キ一大事ナリト考ヘ直ニ呉佩孚ニ打電シテ其ノ注意ヲ喚起シ且ツ前記張及耿ノ如キ人物ハ呉ト何等關係ナキモノナルコトヲ(張志潭ハ事實其ノ通りナリト付言セリ)奉天側ニ通告スルト同時ニ中外ニ向ツテ其ノ旨声明スルコト必要ナル旨ヲ付言シ置キタル処呉ハ早速其ノ通り実行シタリ今ヤ国民軍ハ愈々北京ヨリ西北ニ退却セリ此ノ際呉トシテハ保定迄来リ善後措置ニ関シ奉天側ト篤ト協商ヲ遂クヘキ時期ニ達シタルカ生憎湖南ノ形勢未タ充分安定ノ域ニ至ラサル為メ遽ニ漢口ヲ離ルル能ハサルモ何レ遠カラス北上スルコトナルヘシ尚ホ中央政府ニ関スル呉佩孚ノ大地方針ハ憲法擁護ニアリテ

(i)曹錕ハ大總統ニ復職スルノ形式ヲ採ラスシテ直ニ大總統辭職通電ヲ発スルコト

度シト付言セリ)

(ii)外間ニテハ直隸派カ愈内閣ヲ組織スル場合顔惠慶及靳雲鵬ヲ候補者ト看做シ居ルカ自分ノ覬ル所ニテハ靳カ管テ總理タリシ際内外ノ氣受余リ宜シカラサリシ為メ呉ハ靳氏ニ向ツテ組閣ヲ依頼スル如キコトナカルヘシト思料ス

奉天、漢口へ転電シ北京へ暗送セリ

一〇八 四月二十七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

約法問題等中央政局安定策二関スル顔惠慶ト

ノ会談報告ノ件

第三一九号

二十六日顔惠慶本使来訪現下ノ不定事態ヲ何時迄モ放置スルハ面白カラス然レトモ之ヲ安定セシムルニ付極メテ重大ナル支障アリ夫レハ呉佩孚ハ曹錕大總統就任後直ニ公布セラル新約法ニ準拠セントシ張作霖ハ旧約法ニ依ラントシ兩者間ニ重大ナル意見ノ相違アル為困リ居ル次第ナルカ貴下ハ何レヲ可トセラルルヤト尋ネタルニ付本使ハ之ニ対シ支那内部ノ問題ニ付可否ノ意見ヲ述フルコト能ワサルモ単ニ友人トシテノ御尋ネニ対シ友人トシテ御答ヘスレハ一見シタ

(ii)顔内閣ヲ復活スルト同時ニ(其ノ期間ハ僅カニ一日位ノ積リナリ)直ニ新ナル内閣ヲ造ラシム(此ノ点不明ナルモ多分撰政内閣ノ意味ナランカ)而シテ此ノ新内閣ハ或ハ顔惠慶若クハ他ノ適當ナル人物ヲ以テ組織セシム

(i)山東ハ依然張宗昌ヲ以テ督弁トシ李景林ニ直隸督弁若クハ適當ナル地位ヲ与フルコト

右ハ孫伝芳ト既ニ協議済ミ而シテ目下奉天派ト交渉中ナルカ張ハ中央政局ニ関シテハ成ルヘク呉ノ意見ニ一任スル方針ナル由ニ付多分円満ニ纏マルナランカト思考ス

(ii)新内閣成立ノ際外交総長トシテ顧維鈞ノ呼声高キ為メ日本側ニテハ余リ歓迎セサルヤニ聞キ及ヒ居ルカ近来呉ハ余リ願ヲ喜ハス却テ呉トシテハ顧ヲ任命スルカ如キコト万之レナカルヘキモ近来顧ハ孫伝芳ニ取り入り大ニ孫ノ好感ヲ博シ居ルノミナラス最近彼ハ漢口ニ赴キタル由ナレハ若シ孫ノ推薦ニ加フルニ呉ニ向ツテモ極力運動スル如キコトアラハ或ハ再ヒ彼カ外交総長ニ任命サルル如キコトナシトモ云ヒ難キニ付此ノ際高尾総領事ヨリ孫潤宇ヲシテ顧ノ外交総長タルハ日本ノ好マサル所ナルヲ夫レトナク呉ニ感知セシムル様取計ハレテハ如何カト存ス(此ノコトハ極秘ニ願

ル処純理論ヨリ云ヘハ呉佩孚ノ又新約法ニ基キ現下ノ時局ヲ処理スルコトハ實際上比較的容易ナランカトモ思ワルルカ曹錕ノ発布セル新約法ハ段祺瑞、張作霖、孫文共ニ當時不承認ヲ表明セルヲ以テ今更張ヲシテ之ヲ承認セシムルハ困難ナラン現下ノ時局ハ張ノ態度ヲ無視シテハ解決困難ナラント答ヘタルニ顔ハ誠ニ然リトシ今自分ノ考ヘタル方法ニアリ第一ハ曹錕ノ新約法ニ基キ自分カ國務總理ニ復活シ撰行内閣ヲ組織シテ一旦大總統ノ職權ヲ行ヒ得ル地位ニ立チタル上元来自分ハ國務總理ニ恋々タラサルヲ以テ新ニ自分ヨリ他ノ適任者ヲ國務總理ニ任命スルコトトシ内閣ヲ組織セシムルコトトスルカ第二、張、呉、孫、閻等ノ巨頭ヲシテ適當ナル人物ヲ推挙セシメ國務總理トナシ其ノ總理ノ下ニ新ニ議員選舉ヲ行ヒ国会ヲ召集スルカノ二方法ニテ右二案ノ一ニ出ツルヨリ外致シ方ナキ次第ナルカ第一案ハ實際的ニシテ容易ニ実行シ得ルモ第二案ハ現ニ段執政ノ下ニ於テ経験セル通新ニ議員ノ選舉ヲ行ヒ国会ヲ召集スルハ何時出現シ得ルヤ計リ知ル可カラス旁基タ困難ナル可シ就テハ貴見如何ト尋ネタルニ付本使ハ同感ノ意ヲ表シ何レニスルモ張呉両大巨頭ノ隔意ナキ意見交換ニ決スルノ外ナカル

可シト述ヘ置キタリ右顔ノ来訪ハ同氏出馬ノ瀬踏ト認メラ
レタリ

一〇九 四月二十七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中央政局收拾策ニ関スル齊燮元談話報告ノ件

第三二三号 (四月二十八日接受)

往電第三一三三号ニ関シ

二十四日夜齊燮元来京以来王懷慶、李景林、張宗昌、張学
良及王士珍等治安維持会方面ト会議ヲ重ネツツアリ軍事問
題ニ付テハ略々決定ヲ見タルモ中央政局ノ收拾ニ就テハ法
統回復問題ニ付張呉間ニ重大ナル意見ノ相違アリ妥結困難
ナル模様ナリシカ曹錕ヲシテ直ニ辭職セシメ法統問題ニ触
ルル事ナク顔ヲシテ摂政内閣ヲ作ラシムル事ニ双方折合ヒ
タルモノノ如ク顔内閣ノ出現ハ漸次目鼻ツキツツアルヤニ
観測セラレツツアリシ処二十七日齊燮元カ林出ニ語レル処
ニ抛レハ

(一)曹錕ハ辭職シ顔ヲシテ摂政内閣ヲ組織セシメ總テ法ニ依
リテ処理スルコトニ決定シ右ノ次第ヲ張学良ニ云ヒ含メ帰
奉ノ上張作霖ニ報告セシムル事ト為レリトノ事ナルカ尚齊

心配ナシト付言シタル趣ナリ

在支各総領事、南京ヘ転電セリ

一一〇 四月二十八日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖・呉佩孚關係等ニ関スル王懷慶談話報

告ノ件

第三二五号 (四月二十九日接受)

往電第三二三三号ニ関シ

二十八日王懷慶本使ヲ来訪シ兩三日中ニ衛戍總司令(警備
總司令ヲ解任シ旧名ニ復シタルモノナリ)ニ就任スル旨ヲ
述ヘ更ニ数日前張学良、張宗昌、李景林ト齊燮元及自分会
見ノ上将来ノ時局善後策ニ関シ意見交換ノ結果張以下充分
諒解シ張学良ハ一昨日発歸奉シタル次第ニテ何レ遠カラス
張作霖ヨリ意見ヲ表示シ来ルヘク目下ノ処双方ノ結合堅実
ナリ呉佩孚ハ湖南方面ノ時局安定セサル為メ暫時来京スル
コトナカルヘキモ呉ニシテ其ノ内来京セハ張ハ何時ニテモ
上京スル管ナリト語レリ

在支各総領事及南京ヘ転電セリ

ハ林出ノ問ニ対シ

(一)北京ノ治安問題ニ付テハ王懷慶ヲ警備總司令トシ薛之珩
(三四年前警察總監タリ又清室警察署長タリシ事アリ)ヲ
警察總監トシ兩者共呉佩孚ノ任命ニ係ルモノナリ尚王ニ対
シテハ毅軍及管テ北京ニアリシ軍隊併セテ三旅ノ兵ヲ与ヘ
テ内外治安ノ維持ニ当ラシメ戦争ニ参加セル軍隊ハ全部之
ヲ城外ニ撤退セシメ

(二)国民軍ニ対シテハ飽ク迄妥協ヲ避ケ之ヲ武装解除セシム
ル迄徹底ス(但シ新聞紙上ニハ張作霖側ハ(イ)鹿鍾麟ノ生命
ヲ保全シ自動的ニ下野セシム(ロ)国民軍ハ共產主義ニ反対ナ
ル事ヲ声明シ軍隊中ノ赤化分子ヲ驅逐ス(ハ)綏遠、察哈爾ヲ
国民軍ノ地盤ニ保留ストノ三条件ニテ国民軍ノ和議ヲ容ル
ルノ意有リト伝ヘラル)和議条件等ハ問題トナラス何トナ
レハ馮ハ反覆常ナク之ヲ相手方トスル交渉ハ到底信用出来
サレハナリ

(四)温世珍ハ呉ノ高等外交顧問ノ名ニ於テ東京ニ駐在セシメ
常ニ出淵次官ニ接近シ万事日本トノ疎通ヲ計ラシム呉ハ湖
南方面ノ關係アリ当分北上スル事無カルヘシ自分ハ呉ヨリ
全權ヲ委任セラレ居ル次第ナリト語り今後ノ政局ニ付テハ

一一一 四月三十日 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

沅江丸事件大体解決ノ旨報告ノ件

第一三二号 (五月一日接受)

長沙発本官宛電報第二四号

往電第一六号及貴電第二〇号ニ関シ

交渉ノ結果二十四日付ヲ以テ交渉員ヨリ(一)省政府ハ公文ヲ
以テ陳謝ス(二)発砲ヲ命シタル指揮官ヲ処罰ス(三)損害ハ共同
調査ノ上協議処理ス(四)省政府代表者船長ヲ慰問ス(五)将来ヲ
保障ス(六)弔慰金及医薬料ハ支那官憲ニ於テ処理スヘク日清
ニハ何等ノ責任ナキ事ヲ声明スル旨ノ回答文並ニ省長ヨリ
(一)(二)ニ対スル公文ヲ接受セリ(四)ニ関シテハ二十八日交渉
員沅江丸船長ヲ慰問シ(三)ニ関シテハ同日日本官交渉員ト共同
調査ヲ了シ追テ協議ノ上適宜処理スル管ナルニ付本件ハ之
ヲ以テ大体解決セル次第ナリ

一二二 五月五日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

曹錕退位実現後ノ政局ニ関スル齊燮元、潘復
ノ談話報告ノ件

第三三八号

(五月六日接受)

往電第三三三三号ニ関シ

(一)四日齊燮元本使來訪談レル処ニ抛レハ曹錕ノ退位実現後ニ起ル組閣問題ニ付テハ所謂護憲ニ依ルヘキ事ハ呉張協力ノ当初張景惠奉天側ヲ代表シテ漢口ニ來レル時呉佩孚自分張及十四省代表會議ノ上既ニ決定シ取極ヲ取交シ居ル問題ナルカ三日帰京シタル張學良ハ奉天側ハ万事公決ニ俟テタシトノ意向ナルモ(往電第三三〇号参照)若シ十四省ニシテ皆護憲ニ賛成ナラハ自己ノ主張ハ此際犠牲ニスルモ差支ナシ但シ右護憲賛成ノ意見ハ此際発表セシメラレタシトノ意向ニテ張作霖ノ公明ナル態度ニハ敬服ノ外ナシ斯ノ如ク顔内閣ノ成立ハ既ニ既定ノ事実ニシテ大總統ノ選挙及国会ノ召集ハ右摂行内閣ニ於テ行フ事ト為リ居レリ云々

(二)右ノ如ク齊ハ時局ニ付頗ル樂觀の口吻ヲ漏シ居タルモ同日本使ヲ來訪シタル潘復ハ時局仲々右ノ如クスラスラト取運フ見込ナシトノ趣旨ヲ語リタルカ張作霖カ一度法律問題ハ公決ニ問フトノ意見ヲ発表スルヤ旧約法回復ノ声ハ益々優勢トナリツツアル狀況ニシテ前記十四省モ此際護憲ノ主張ヲ明確ニ表示スルヤ否ヤ疑問ナルノミナラス目下各派ノ

ネ過問セス海内賢豪ノ意見ニ依リ共同解決シ共和ノ真理ヲ求メムト努力セシハ軍人ノ政治干渉ハ之レ從來ノ最大弊害ナレハナリ專制独裁ハ亦民主最大ノ障碍タリ近來中央政府ハ統一ヲ欠キ各方面ニ於テ右ニ對スル政策論究ノ飛電輻轉セリ曰ク約法ノ恢復、黎黃陂ノ復職曰ク憲法ノ恢復、曹仲珊ノ復位曰ク革命ニ依ル段合肥ノ繼續有効曰ク曹錕退位セハ黃郛ヲシテ攝政セシメヨ曰ク胡惟德、顏惠慶ヲシテ政務ヲ摂行セシメヨト斯ハ表面ヨリ觀察セハ各々理由アリ然ルニ内容ニ付テ考察セハ無職ノ政客ハ之ヲ奇貨トシ或ハ傀儡武人ノ權威ヲ復活セムトスルニ在リ作霖ハ政治法律ニ関スル研究淺ク其究竟ヲ測ル能ハサルモ惟國家ノ大事ハ公開討論シテ專断独裁ニ依ル可カラス区々ノ心終始之ニ一ニス累年ノ戦乱ニ依ル民生ノ困苦ニ鑒ミ実ニ再ヒ紛擾ヲ重ヌルニ堪ヘス作霖ハ國家崩壊ノ憂ヲ抱キ軍人ノ政治干渉ノ弊ヲ恐ルルモノナリ尤モ右ハ各人識見ノ別ルル所敢テ論議ヲ為ササルヘシ希クハ國人ノ諒察アラムコトヲ云々

本信写送付先 在支公使

一一四 五月九日 在中国芳沢公使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

策士連相競フテ自派ニ有利ナル画策ニ腐心シ居ルヲ以テ中央政局ノ安定モ容易ニ期待シ得サルモノノ如シ 在支各領事へ転電セリ

一一三 五月五日 在奉天吉田総領事ヨリ 幣原外務大臣宛

張作霖ノ軍人ノ政治不干渉ニ関スル通電ニツ

キ報告ノ件

公第三四九号 (五月十一日接受)

大正十五年五月五日

在奉天

総領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

張作霖ノ政治不干渉ニ関スル通電ノ件

張作霖ハ本月一日付ヲ以テ國家ノ政治ニ干渉セサル旨通電ヲ発シタルカ其大要如左

今回討赤ノ役ニハ兵十数万ノ多ヲ用ヒ鏖戦数月ニ亘リ人民ハ惨苦ヲ被リ國家ハ重大ナル犠牲を払ヒタルカ之レ固ヨリ政局ノ永久安寧ノ為ニシテ個人一身ノ權利ノ為ニ図リタルニアラス故ニ作霖ハ屢次通電ヲ発シ法律政治ニ對シテハ概

顔内閣成立予定及ビ呉佩孚張作霖ノ合作ニ関

スル齊燮元ノ談話報告ノ件

第三四二号

五月八日齊燮元ノ本使ニ對スル談話要領

呉佩孚側消息ノ一端迄左ノ通電報ス

顔内閣ハ本日頃實現ノ予定ナリシモ多少手間取り今後三四日中ニ成立スル見込ナリ呉張ノ合作ハ益々好都合ニ進ミ今回呉佩孚ト張作霖ト義兄弟ノ契ヲ結フコトトナリ双方ヨリ使者ヲ派シテ誓約ノ書キモノヲ送り何レモ之ヲ受理セリ張ハ本年五十二歳呉ハ五十三歳ニテ兄弟分トナリタリ

右ハ齊ト張志潭兩人ノ計ヒニ基クモノナリ齊ハ内閣ノ成立ヲ俟テ保定ニ赴キ吳軍ノ諸將ヲ會シテ國民軍討伐ノ方略ヲ議シタル上北京ニ引返ス積リナリ南口方面ニ向ヒタル直營連軍ハ南口ヲ封鎖シタル儘對陣シ側面攻撃ノ準備成リ次第總攻撃ニ出ツル管國民軍ハ從來山西省ヲ取り其ノ地盤ト為サントノ野心有リ之ヲ感知セル閩督軍ハ兵力ノ充実ヲ計リ今ヤ八ヶ師団八ヶ混成旅ヲ有スルニ至リタレハ國民軍モ容易ニ山西ヲ取り得サルヘシ國民軍ハ從來耶蘇教信者ノ迷信ヲ利用シ其ノ團結相当堅固ナリシモ元來命令ニ依リ信者ト

成リシ者ナルカ故近来兵士ノ精神状態ニ動搖ヲ来シ從來ノ如キ一致ヲ欠キ居リ攻撃ヲ加フルニ好適ノ時機ナレハ飽迄討伐方針ナリ云々

在支各総領事、南京、張家口へ転電セリ

一一五 五月十三日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

顔内閣成立シ懷仁堂ニ於テ就任式挙行ノ旨報

告ノ件

第三五二号

(五月十四日接受)

往電第三三八号ニ関シ

齊燮元張學良等ノ五月八日ノ會議ニ於テ顔内閣成立ニ決シ十三日午後懷仁堂ニ於テ就任式ヲ挙行シタリ顔内閣復職後顔、李鼎新、張國淦ヲ除キ旧閣員全部辭職シ外交施肇基、内務鄭謙、財政顧維鈞、陸軍張景惠、農商楊文愷、交通張志潭及國務院秘書長楊熊祥ノ任命ヲ見ル答

右顔内閣ノ復職カ果シテ奉天側ノ完全ナル支持ヲ得ルヤ否ヤハ尚疑問ノ余地アルカ如シ

在支各領事へ転電セリ

一一六 五月十三日

在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

協力国難ニ当ラントノ張作霖ヨリ吳佩孚へノ

電報ニ関スル新聞報道ノ件

公第三六八号

(五月十八日接受)

大正十五年五月十三日

在奉天

総領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

張作霖ヨリ吳佩孚ニ対シ協力国難ニ膺ラムト勸説

セシ電報ニ関スル件

張作霖ハ去九日吳佩孚ニ対シ国難ヲ匡助シ現下ノ紛糾セル政局ヲ維持セムニハ張吳兩人ノ同心協力ニ待タサル可カラサルコト並近ク吳ノ上京ヲ希望スル旨電報ヲ発セシ由本十二日当地支那新聞ニテ散見セリ其要領如左

記

国事擾乱シテ今日ニ至ル此際国民ノ信用厚キ有力者出テテ国事ニ膺リ民苦ヲ安スルヲ得ハ寔ニ幸ナリ惟比年政局ノ破壊セラレタルハ法律ノ良否ニ非スシテ人心ノ向背ニ在リ政ハ共和ナルモ執政者ニ於テ專制ヲ事トセハ必ス災禍踵ヲ接

シテ起ラム近ハ段氏ノ如キ遠ハ項城ノ如キ皆此弊ニ陥レリ国体ハ共和ヲ稱シ護法護憲ヲ叫フ厥言ヤ皆成理アル如シ然ルニ其ノ内幕ヲ探究セハ人ニ語ル可カラサル隠アリ故ニ群言百出、拳國曉々、到底一二人ノ能ク籠絡シ得ラルル所ニアラス余ノ屢々公開ヲ主張セシ理由ハ爾來群雄ノ失敗ナルモノハ政客専ラ私圖ヲ事トシ国計ヲ顧ミス專制独裁ノ致ス所ナルニ依ル国事ノ艱難既ニ此ノ如シ矣ニ再ヒ紛擾ヲ起スヘカラス吾兄ハ克ク此憂患ノ源淵ヲ洞察セラレ居ルヲ以テ吾等二人共ニ時世ヲ救フヘキ義務アリ尤モ此ノ重大ナル難事ニ対シ余ハ決シテ個人ノ意見ヲ以テ責任ノ衝ニ当ルヲ好マス亦吾兄ヲシテ衆矢ノ的タラシムルヲ欲セス實際吾輩ハ軍人ナリ法律ヲ論談シ為ニ法律家ニ利用セララルルヨリモ寧

口天下ノ有志ニ於テ共同責任ヲ以テ折衷ヲ期シ再ヒ紛争ヲ生セシメサルノ計ニ出ツルニ如カス此ノ苦衷ヨリ推セハ個人ヲ愛スルハ實ニ國家ヲ愛スルモノナリ國家ヲ愛スルハ即チ吾兄ヲ愛スレハナリ余ト吾兄トハ手足同体ノ義理合ニアレハ互ニ意思ヲ披瀝直陳セサルヲ得ス

今回ノ「公開」主張ハ個人ニ執リテ毫モ利益ナク亦別ニ心ニ含ム所ナシ要之吾兄ハ今日天下ノ重ヲ負ヒ其ノ一言得失

ハ安危ニ関ス現下ノ時局対策ハ熟慮ノ末直ニ自ラ手ヲ下スヘキナリ而シテ發動ノ初ニ於テハ博ク衆議ヲ採リ事々公開スヘシ余ハ如何ナル犠牲ト雖必ス之ヲ贊助スヘク決シテ他ニ異見ヲ有セス余事ハ張錫九ヨリ吾兄ニ面陳スル所アルヘシ余ハ近ク吾兄ト会見セムコトヲ欲ス故ニ若シ南方ニ緊要事務無クンハ是非北来アラムコトヲ希望ス云々

右何等御参考迄報告申進ス

本信写送付先 在支公使 漢口

一一七 五月十五日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

顔内閣ノ復職及ビ閣員ノ就任拒否状況ニツキ

報告ノ件

第三五五号

(五月十六日接受)

往電第三五三三号ニ関シ

(一)顔内閣(前電海軍李鼎新ハ杜錫珪ノ誤リ)ハ報告ノ通り復職シタルモ張吳ノ諒解充分ナラス奉天系閣員ハ勿論直隸系ト雖モ躊躇シテ就任セサル者アリ張志潭ノ如キモ十四日夜出京吳佩孚ト緊急打合ノ為メ漢口ニ赴キタリ奉天派ニ至リテハ張宗昌張學良ヲ初メ殆ト皆退京シ顔内閣ハ総理一人

ノミニテ有名無実ノ有様ナリ又顔内閣復活ト共ニ各官庁ニ於テモ十三年当時ノ職員ニシテ勝手ニ復職スル者アリ現在職員トノ間ニモ悶着ヲ起シツツアル有様ニテ中央政府ノ混沌状態ハ何等改善ノ見込ナシ

(一)今後ノ政局ハ呉張關係ノ消長ニ依リ尚ホ幾多ノ曲折ヲ經ヘキモ要スルニ双方勢力ノ分野徹底的ニ定マラサル限り中央政府ハ大体混沌状態ヲ継続スルモノト観測スル者多ク殊ニ最近直魯連軍ハ孫伝芳方面ノ形勢ニ顧ミ南口方面ノ攻撃軍ヲ撤退セシメントシツツアリトノコトニテ国民軍ト雖モ何時再ヒ北京ヘ逆襲シ来ラストモ限ラス国民軍ヨリ既ニ田維勤ニ対シ田軍ニシテ南口攻撃ニ当ラサレハ之ヲ友軍トシテ取扱フヘキモ然ラスハ敵軍トシテ攻撃ニ出ツヘント電報シ来リタリトノコトニテ何レニセヨ国民軍側ニ取り有利ニ展開セルハ事実ニシテ結局時局ノ安定ハ只今ノ処見据付カス
在支各領事ヘ転電セリ

一一八 五月十八日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

顏惠慶ヨリ臨時外交総長ヲ兼任並ビニ總統職

又既ニ進行中ノ国際會議モ一日モ早ク円満ナル結果ヲ見ルヘキコトヲ希望ス云々

(三)十八日沈觀鼎本使ヲ来訪シ昨日在外公使ニ宛テ各駐在国政府ニ対シ前記第二次通告ト同様ノ趣旨ヲ申入ルル様訓電シ置キタルニ付何分ノ御助力ヲ仰キ度シ云々ト述ヘタリ

一一九 五月十八日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外交団會議ニ於テ顏惠慶ノ外交総長就任通告
ヲ了承スルコトニ評議一決ノ件

第三六〇号 (五月十九日接受)

往電第三五九号ニ関シ

五月十八日外交団會議開催首席公使ヨリ十七日顏惠慶ニ会见ノ際顔ハ内閣成立ニ至ル迄ノ経過ヲ語り同人ノ出馬ハ治安會各元老ノ懇願其他各方面ノ勸誘ニ依ルモノナルコト並ニ近ク顧維鈞、張志潭、杜錫珪及楊文愷相次テ就職ヲ見ルニ至ルヘキコト等ヲ述ヘ且顔ハ何レ数日中他閣員ノ出揃ヲ待チ閣議ヲ開ク心算ナリト語レル趣ヲ披露シタル上前記往電外交部ヨリノ両公文ニ対スル措置振りニ付各国公使ノ意見ヲ求メタリ

務撰行ノ旨通告越ノ件

第三五九号 (五月十九日接受)

(一)兼任外交総長顏惠慶ノ名ニ依リ五月十五日付本使宛テ公文ヲ以テ五月十三日付大總統令ニ依リ施肇基外交総長ニ任セラレタルモ同人着任以前ハ顔ヲ以テ臨時外交総長ヲ兼任セシムルコトトナリ顔ハ十五日就職執務スルコトトナリタル旨正式通告ニ接シタリ

(二)次テ同名義同日付ヲ以テ第二次ノ通告ニ接シタルカ其ノ要領左ノ通り

民国十三年十月二十三日曹大總統ハ政変ノ結果職務執行不可能トナリ依テ段祺瑞臨時執政トナリタルカ本年四月段執政職ヲ去リ五月一日曹大總統ハ通電ヲ發シテ職ニ倦ミタルヲ理由トシテ國務院ヲシテ法ニ依リ大總統ノ職務ヲ撰行セシムル旨宣言シタリ之ト同時ニ各省文武長官全国省議會連合會各団体及京師臨時治安會諸元老等前後シテ書面又ハ電報ヲ以テ直ニ國務院カ撰政センコトヲ要求シ斯クテ國務院ヨリ五月十三日法ニ依リ大總統職務ヲ撰行スヘキ旨ノ通告ニ接シタル次第ナリ抑々今回ノ撰政内閣ハ既ニ法ニ依リテ継続成立セルモノナレハ中外ノ邦交ハ必ス鞏固トナルヘシ

右ニ対シ伊仏公使ハ内閣ノ現状ニ顧ミ外交部来翰ニ対シ回答ヲ發スルハ些カ考慮ノ余地無キヤ承認問題モ含マルル次第ニ付兎ニ角暫ク今後ノ發展ヲ見ルコトトスルモ可ナラスヤトノ趣旨ヲ述ヘ米国公使ハ数日中閣議ヲ開ク運ヒトナルヘシトノコトナラハ其時期迄何分ノ措置ヲ差控フル方可然シトノ意見ヲ述ヘ其他種々ノ説出タルモ要スルニ直ニ顔ノ希望ニ副フヲ躊躇スル傾ナリシカ本使ハ本問題ハ之ヲ二段ニ分チテ考慮スルヲ可トス即チ第一ハ顔ノ就任通告ニ対シ「アクノレッジ」スヘキヤ若シ「アクノレッジ」スルトセハ其形式如何ノ問題ナリ而シテ右ニ関シテハ一昨年十月「クーデター」ノ後黃郛撰政内閣成立ノ際王正廷ヨリ外交総長就任ノ通告アリタルニ対シ外交団會議ニ於テ討議ノ結果之ヲ「アクノレッジ」スルコトトナリ如何ナル方法ニ依リ「アクノレッジ」スルヤハ各国公使ノ裁量ニ委スルコトトナレリ今回モ亦右ノ先例ニ依ルヲ可トス第二ハ政府承認ノ問題ナルカ右ハ今少シク事態ノ發展ヲ見タル上種々ノ見地ヨリ考慮スルヲ可トスト述ヘタル結果更ニ討議ノ末結局顔ノ外交総長就任通告ニ対シテハ右就任通告ヲ了承セルコトノミヲ差当リ回答スルニ止ムルコトニ打合せヲ遂ケ又十

九日首席公使顔ニ会見口頭ヲ以テ段執政政府當時ニ於ケル
外国トノ協定其他ノ關係承認方等ノ問題ニ付顔ノ注意ヲ喚
起スルコトニ評議一決セリ

一一〇 五月十八日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛

孫伝芳ノ東南「モンロー」主義宣言等ニ関シ報告
ノ件

機密送第一三四号

(五月二十八日接受)

大正十五年五月十八日

在南京

領事 森岡 正平(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

孫伝芳ノ東南「モンロー」主義宣明穩健ナル内治

外交方針並ニ在上海国民党右傾分子ノ孫伝芳接近

ニ関シ報告ノ件

孫伝芳ハ支那ノ政局ハ渾沌トシテ当分統一ノ見込ナキモノ
ト見限り四月二十八日付ヲ以テ「人我ヲ侵サズ我人ヲ侵サ
ス」トノ宣言ヲ發表シテ東南「モンロー」主義ヲ明白ニ声
明シ一面管内ニ於ケル内治外交ノ改善刷新ニヨリ中外ノ信

望ヲ博スル為メ最近着々齊燮元時代ノ省債ヲ償還シ居レル
ト同時ニ不良学生及過激派ニ對シ峻烈ナル取締ヲ行ヒ暨佻
浮薄ナル國權回收運動ニ對シテモ痛烈ナル警告ヲ与ヘ(上
海總領事發閣下宛往電第一二三号及本官發閣下宛往電第四
四号参照)殊ニ友邦日本ニ對シテハ特別ノ厚意ヲ表シツツ
専心自家勢力ノ扶植ト地盤ノ確保ニ全力ヲ傾ケ居レリ
右ノ結果当地及上海方面有力支那人間ニ於ケル孫ノ人氣ハ
極メテ宜シク当地總商會關係有力者ノ如キハ孫ノ政治的手
腕ハ民國以來南京ニ駐在シタル主腦政治家中第一位ニ在リ
ト評シ聲望隆々タルモノアルヲ以テ孫ニ敵意ヲ有スル江蘇
及浙江土着軍將領連モ昨今孫ノ威力ニ臣倒セラレ一時閉息
ノ状態ニアリ又孫ハ廣東国民党左傾派ノ跋扈ヲ牽制スル為
メ在上海国民党右傾派ト氣脈ヲ通シ且趙正平ニ資金ヲ給シ
テ上海法界貝勒路天祥里五〇番地ニ機關雜誌週刊太平導報
ヲ發行セシメ危險風潮防止穩健思想鼓吹ノ手段ニ利用シ居
レリ

右報告ス

追テ孫ハ廣東政府ハ輿論ノ反對ニヨリ遠カラズ消滅スベ
ク張作霖ハ出身ノ卑賤ト部下ニ人材乏キ為永ク現勢力ヲ

維持スルコト困難ナルベク吳佩孚ハ思想旧式ナルト直屬
軍隊ヲ有セザル為早晚失脚スルモノト高ヲ括リ窃ニ自ラ
大成ヲ期スルト同時ニ一時方便トシテ各方面ニ對シ不離
不即ノ態度ヲ取リツツアリ

本信写送付先 在支公使、奉天、天津、濟南、青島、漢

口、上海、福州、廣東各總領事、蘇州、杭州、蕪湖、

九江 長沙各領事

一一一 五月二十日 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

四川、貴州兩軍對峙ニツキ重慶日本租界ニ陸

戰隊揚陸等報告ノ件

第一四六号

(五月二十一日接受)

重慶軍艦比良発永野司令官宛無線電信ニ依レハ五月十八日
午後楊森系ニ屬スル四川軍約一旅ハ重慶ノ対岸ノ山地ヨリ
城内ニアル袁祖銘ノ率ユル貴州軍ノ攻撃ヲ開始シ銃声夜ニ
入ルモ熄マス翌十九日早朝貴州軍ノ援兵加ハリシ為四川軍
ハ約一哩退却シ目下日本租界ノ下流ニ於テ河ヲ挾ンテ兩軍
對峙中ニシテ比良ノ付近ニ多数ノ流彈アリ日本租界ハ十八
日夜ヨリ陸戰隊ヲ揚陸シ警戒中重慶ノ城門全部閉鎖セラレ

通行人ノ取調嚴重ナリ宜陽丸ハ兩軍ノ交戦中ヲ潜ツテ無事
下江セリト
尚重慶ノ戦況ニ付テハ後藤副領事ヨリ電報濟ト存スルモ當
方ニ転電ナキ為為念
在支公使、天津、上海へ転電セリ

一二二 五月二十一日 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張・吳会谈ヲ円滑ニスルタメノ吳側ヨリ張側

宛密電ヲ町野顧問取次ギニ関スル件

別電 五月二十一日在漢口高尾總領事發幣原外務大臣宛

電報第一四八号

右密電内容報告ノ件

第一四七号

(五月二十二日接受)

本官發奉天宛電報第四一号

五月二十日夜吳佩孚顧問江天鐸本官ヲ來訪シ奉直ノ關係ハ
最早張吳兩人ノ直接商議ニ依ルノ外行詰リトナレルニ依リ
吳ハ愈々十日以内ニ北京ニ赴キ同地ニテ張ト会见スル事ト
ナリ其旨奉天へ打電シ同時ニ張ノ上京ヲ求メタルカ尚右ニ
関シ一層進行ヲ円滑ナラシムル為秘書長張其鏗ヨリ楊宇霆

宛密電ヲ発シ度処直接同人ニ電報スルニ於テハ其内容ハ忽チ周困ノ者ニ知レ渡リ思ハヌ支障ヲ生スル虞アリ依テ右ハ町野顧問ニ宛テ同人自身翻訳ノ上楊ニ手交セシムル事トシ度右本官ヨリ貴官ヲ通シ取次願ハレマシキヤトテ暗号ニ原文(漢文)ヲ付シ電報方依頼アリ(暗号ハ特殊ノモノニテ電報局ニハ解ラスト云ヘリ)其内容ハ別電第四二号訳文ノ通ニテ時局ノ收拾ヲ目的トシ別ニ不都合ナシト認メタルニ依リ之ヲ承諾セリ暗号ハ別電第四三号ノ通ニ付貴官ヨリ其儘町野へ交付方御配慮アリタク御交付済ノ上ハ其旨電報ヲ請フ

外務大臣、在支公使、天津へ転電セリ

(別電)

五月二十一日在漢口高尾総領事宛幣原外務大臣宛電報第一四八号

町野顧問ノ取次ギラ依頼シタル呉側ヨリ張側宛密電内容ノ件

第一四八号 (五月二十二日接受)

本官発奉天宛電報

第四二号

張其鏗ヨリ町野顧問ヲ通シ楊宇霆ニ宛テタル電文訳文左ノ通

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

川黔兩軍交戦情況報告ノ件

本年二月川黔督弁袁祖銘ハ成都ニ於ケル軍事善後會議ヨリ離脱シ重慶地方ヲ其勢力下ニ収メタル結果在来ノ四川軍就中第二軍系即チ劉湘督弁系ノ反感ヲ買ヒ全省挙ツテ客軍タル黔軍即チ貴州軍ノ驅逐ヲ凶ルコトニ決定シ劉湘ハ上流ヨリ楊森軍ハ下流ヨリ重慶ヲ挾撃スベク軍事行動ヲ開始シタルハ既報ノ通りナルガ袁祖銘督弁ハ四困ノ情勢黔軍ニ不利ナルヲ觀破シ逸早く離川ヲ声明シタルニ不拘軍費ノ調達意ノ如クナラザルヲ口実トシ未ダ撤退ヲ実行セザリシ処劉湘軍ハ上東討賊軍ト称シ王縉緒、費東明、許堯郷等各師長ヲシテ叙州、瀘州、合江、永川、江津等ヲ経テ重慶ニ迫ラシメ楊森軍ハ之ヲ下東討賊軍ト称シ唐式遵、潘文華、王陵基、李雅材ノ各師ヲシテ万県ヨリ梁山、忠州、涪州、墊江、長壽ヲ占領セシメ急激重慶ニ逼迫シタルヲ以テ黔軍ハ王天錫、呂鎮華、穆永康等各師旅ヲ上東軍ニ当ラシメ何厚光、吳傳心等ノ各師ヲ下東軍ニ敵セシメ一方商務總會及各法団ニ対シ銀毫百貳拾万弗ノ引揚軍費ヲ強要シ同時ニ塩務稽核処ヲ威圧シテ塩稅銀七十二万弗ノ交付ヲ強要シツツア

吳佩孚ハ張作霖ノ好意ヲ三謝シ旬日内ニ上京シテ大局ノ弁法ヲ協議スル事ヲ諾セリ右ハコウキハク(吳佩孚ノ代表ニシテ此度奉天ニ赴キタルモノ)ヨリモ貴下ノ主張ヲ力説セルニ依リ吳モ共鳴セル次第ナリ右ニ付吳佩孚ハ本日既ニ詳細ノ電報ヲ張作霖ニ致シタルヲ以テ貴下亦事態ヲ洞察シ斡旋ニ努メラレ双方ヲシテ永久ニ根本的合作ヲ為サシメ力ヲ尽シテ国家ヲ支持スルヲ得ハ幸甚ナリトス鄭謙張景惠両氏ハ張作霖ニ從ヒ上京シ直ニ就職セシメラレン事ヲ切望ス若シ顔惠慶ニ対シ不満有ラハ張吳両者協議ノ上適當ノ人物ヲ物色シテ之ニ替ヘ直ニ發表セハ問題ナシ貴見如何分ノ儀詳細回電アリタシ

外務大臣、在支公使、天津へ転電セリ

一三三 五月二十一日 在重慶後藤領事代理ヨリ 幣原外務大臣宛

四川、貴州兩軍ノ交戦情況報告ノ件

機密第一〇六号 (六月九日接受)

大正十五年五月二十一日

在重慶

領事代理 後藤 祿郎(印)

リタルガ斯ル巨額ノ軍費ハ一朝ニシテ調達シ能ハザルノミナラズ下東軍(楊森軍)急遽江北鼎城(重慶ノ对岸)ニ進撃シ十八日来猛烈ナル戦鬪開始セラレ殷々タル砲声ハ夜ヲ徹シテ轟キタルガ聽テ黔軍ノ旗色不利ナルノ報伝ハルヤ重慶城内外ノ交通連絡全ク杜絶シ市民ハ飲料水其他食料品供給ノ途ヲ絶タレ越ヘテ十九日払晔濃霧ニ乘ジ四川軍ハ遂ニ江北鼎城ヲ占領シ黔軍算ヲ乱シテ敗退シタガ江上一隻ノ民船ナク敗兵ハ已ムナク嘉陵江々岸ニ沿ヒテ北方ニ走り香國寺付近ノ軍用浮橋ニヨリ辛フジテ重慶城ニ帰還シタルモ此戦鬪ニヨリ吳師長ヲ初メ多数ノ将卒戦死ヲ遂ゲタル趣キナリ一方在重慶各機關各法団ハ緊急會議ノ上北京ノ例ニ倣ヒ臨時治安会ナルモノヲ組織シ清郷督弁鄧錫侯代表參謀長彭誠孚ヲ主任ニ推戴シ商団、警察及江防軍ヲシテ城内ノ秩序維持ノ任ニ当ルコトナリ夫々嘉陵江ヲ隔テテ十九、二十日ノ兩日ニ亘リ晝夜ヲ分タズ盛ニ砲火ヲ交ヘ弾丸ハ重慶城内ニ雨飛シ危険極マリナク各商賈ハ黔軍ノ掠奪ヲ懼レ悉ク門戸ヲ鎖シ路上到ル処幾多ノ負傷者ヲ見タリ、当領事館ハ恰モ嘉陵江ニ面セル關係上四川軍ノ発射セル彈丸十數發執務中ノ事務室並ニ各官舎、食堂等ニ命中シ二日間ハ全ク危

險極マリナカリシモ幸ヒ一人ノ負傷者ヲモ出サザリシナリ
 袁督弁ハ形勢刻々黔軍ニ不利ナル実況ヲ觀取シ最初ノ要求
 ヲ讓歩シ田辺塩務官ヲ威庄ノ上六月分塩稅銀二十四万弗ニ
 相当スル稅票ニ署名セシメ之ヲ商務總會ニ担保トシテ銀三
 十五万弗ヲ強徵シ二十日午後二時頃江ヲ渡リテ南川方面ニ
 引揚ゲ黔軍督弁王天培等亦同五時頃退出シタルニ依リ玆ニ
 四川軍前敵總指揮王陵基師長所屬部隊ヘ民船ヲ徵發シ同日
 午後七時頃重慶城内ニ入レリ然レドモ各所ニ於ケル交戦尚
 ホ熄マズ折柄起ル暴風雨ニ轟々タル砲声ヲ加ヘ一時ノ騷擾
 名状スベカラザルモノアリシガ其間黔軍ハ続々撤退シ二十
 一日払曉ニハ重慶城内ニ貴州軍ノ影没シ大部隊ノ四川軍統
 ヲ入城シ玆ニ蜀ノ渝城モ全ク川軍ノ手ニ復帰セリ、尚当地
 ヲ撤退セル多數ノ黔軍ハ江ノ南岸銅元局付近ニアリテ間斷
 ナク重慶城ヲ砲撃シツツアルヲ以テ未ダ危險ノ域ヲ脱シ得
 ザルモ貴州軍ハ最早挽回シ能ハザルベシ
 因ニ本朝來統々入城シタル軍隊ハ左ノ如シ
 第三十二師長 唐式遵
 第三十三師長 潘文華
 第三師長 王陵基

第二師長 李雅材
 第十師長 鮮英
 第十六師長 藍文彬
 上東第二路副指揮 許堯鄉ノ各部隊ナリ
 右何等御參考迄ニ報告申進ス
 本信写送付先 在支公使、上海、漢口、成都、広東各總
 領事、長沙、沙市、宜昌、雲南各領事、万県出張員

一二四 五月二十二日 在濟南藤田總領事ヨリ
 幣原外務大臣宛(電報)

奉天派ノ国民軍対応策等ニ関スル張督弁ノ談
 話報告ノ件

第八五号

(五月二十三日接受)

五月二十一日張督弁ノ談ニ拠レハ
 (一)国民軍ハ最近露国ヨリ小銃十五万挺彈藥二百万金留ニ相
 当スル數ノ供給ヲ受クル事トナリ右ノ内小銃五万挺ハ既
 ニ接受シタル由ナリ
 (二)馮玉祥ト国民第一軍(約十万)トノ關係ハ極メテ密接ニ
 シテ馮ハ俄令十年外国ニアルモ其關係ハ變ルモノニ非ス
 從テ馮ノ將來ノ勢力尚侮ルヘカラス

(三)故ニ連軍トシテハ此際国民軍ヲ徹底的ニ討伐スルカ又ハ
 同軍ト妥協シ之ヲ各方面ニ分配シテ出來得ル限リ其軍力
 ヲ殺クカノ二方法ヲ執ルヨリ外ナシ

(四)奉天派トシテハ張之江軍ヲ現在ノ儘殘シ他ノ国民軍ハ之
 ヲ分解シテ奉天直隸山東湖北江蘇等各方面ニ分配スル事
 ヲ条件トシテ国民軍ト妥協シ度意向無キニ非サルモ呉佩
 孚閻錫山カ徹底的ニ国民軍討伐ヲ主張シ居ル關係上之ヲ
 飽ク迄主張シ得サル状態ニアリ

(五)張宗昌等ノ北京退去ハ内閣問題ニ関シ奉天派ハ内閣ニ確執
 ヲ來シタルニ基因スルモノニシテ現在奉天派ハ内閣ノ
 成立ニハ傍觀ノ態度ヲ取リツツアルモ而シ事實現在北京
 一帶ハ奉天派勢力ノ下ニアルヲ以テ顔内閣ノ閣員ハ容易
 ニ就任セサルヘシ

(六)孫伝芳ハ機會有ラハ山東ニ侵入セントシツツアルカ如キ
 モ孫ノ勢力ハ浙江及江蘇ノ二省ニ過キス而モ江蘇内ニハ
 齊燮元ノ勢力尚存シ浙江ニハ盧香亭有ルモ一朝事有ル場
 合他省ヘノ出兵ハ困難ナリ尚孫ト連盟關係ニアル江西ハ
 吳佩孚派一分孫派二分ノ状態ニシテ安徽ノ陳調元ハ利害
 ヲ見ルニ敏ク且張ト連絡アルヲ以テ孫ニ加担セサルヘク

又福建ノ周蔭人モ地理的關係上容易ニ出兵セサルヘク從
 テ孫ノ山東攻撃モ容易ニハ出來サルヘシ云々トノ事ナル
 モ而シ孫ノ來攻ニ関シテハ余程警戒シツツアル様見受ケ
 ラレタリ
 在支公使、奉天、天津、杭州、南京ヘ転電セリ

一二五 五月二十六日 在中国芳沢公使ヨリ
 幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚ノ北上ト政局トノ關係ニ関シ報告ノ件

第三七一号

往電第三五五号ニ関シ

(一)二十五日孫潤宇ヨリノ通報ニ依レハ吳佩孚ハ愈々二十六
 日漢口発北上スル事トナリ途中洛陽ニ二日保定ニ四日位滯
 在ノ上北京ニ來ル趣ニテ張作霖ニ對シテモ既ニ出馬ヲ促ス
 ノ電報ヲ發シタル由ナリ

(二)吳カ愈々北上ニ決シタルハ内閣問題ニ對スル奉天側ノ不
 満ハ国民軍討伐ニ對スル協調ニ龜裂ヲ生シ国民軍ハ漸次勢
 力ノ回復ヲ策シ主力ヲ山西方面ニ向ケタルモノノ如ク直隸
 派ニ大關係ヲ有スル同方面ノ形勢逆睹シ難キ狀況ニシテ他
 方顔内閣ハ只今迄ノ所前記往電所報ノ状態ヨリ由々敷大事

タル可キヲ以テ愈々吳張ノ直接交渉ニ依リ此ノ難局ヲ切リ抜ケ政局ヲ收拾セント決心シタルニ依ルモノノ如シ
在支各領事へ転電セリ

一二六 五月二十六日 在中国公使館付本庄武官ヨリ
金谷參謀次長宛(電報)

吳佩孚ト張作霖トノ会见予定ニ関スル孫潤宇

ノ談話報告ノ件

支第三七〇号

(五月二十八日外務省接受)

孫潤宇ノ談ニ依レハ吳佩孚ハ愈々本二十六日朝漢口発開封、洛陽ニ於テ軍隊ノ檢閲ヲ行ヒ為シ得レハ石家莊ニ於テ閻錫山ト会见ノ上先ツ保定ニ至リ次テ北京或ハ天津ニ於テ張作霖ト会见シ時局ノ安定ニ就キ直接討議ノ予定(吳ハ往復約二週間ノ予定)又張志潭ハ本日着京ノ管
尚当地吳佩孚派要人ノ談ヲ綜合スレハ吳佩孚ハ張作霖ノ意見ノ如ク元老會議ヲ開クコトニ異存ナカルヘキモ唯顔内閣ヲ此儘葬ルコトハ到底同意シ難キヲ以テ一時的タリトモ事實上ノ内閣トシテ元老會議ニ於テモ之ヲ承認スルコトヲ希望シアリ又奉天側ヨリ閣員ヲ出スコトヲ得ストセハ次長タケニテモ推薦センコトヲ熱心ニ希望シアリ

テモ縝密ナル御注意ヲ希望ス

在支公使、奉天、上海、漢口、天津へ転電セリ

一二八 五月三十一日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

五・三〇事件記念大会ノ模様報告ノ件

第一五九号

(六月一日接受)

五三〇事件記念日当日タル昨三十日武昌側ハ午前九時市民学生労働者約二万人集合シ国恥記念大会ヲ開キ排日英反帝國主義ノ演説教番ノ後軍隊及警察隊ノ嚴重警戒ノ下ニ秩序正シク遊行シタルカ漢口側へ渡来スルコトハ禁止セラレ午後二時頃散会セリ漢口側ニ於テハ正午市民学生労働者約二千名参集シ記念大会ヲ開キ同様ノ演説教番アリ散会シタルカ支那側ハ万一ヲ慮リ特ニ日英両租界ノ入口ニ軍隊ヲ派遣シ嚴重ニ警戒ヲ加ヘタル為メ遊行ハ支那街ニ限ラレ秩序ハ割合ニ整然トシテ行ハレ幸ニ何等ノ事故發生セス午後二時頃解散セリ

尚同日学生国民党員労働者ニ依テ撒布セラレタル排日英帝國主義軍閥反対広東国民政府擁護ノ宣伝ビラ約八十余种アリ中ニハ頗ル詳細ヲ極メタルモノアリ最近武漢ニ於テハ國

閩東、天津、奉天済

一二七 五月三十日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚ト孫伝芳ノ感情疎隔及ビ孫ノ政治革命

思想ニツキ報告ノ件

第五一号

(五月三十一日接受)

(極秘取扱)

機密往信第一四四号ニ関シ

齊燮元カ孫伝芳ノ地盤ヲ狙ヒ居ル事孫ノ感付ク処トナリ同時ニ張作霖ヨリモ本件ニ関シ最近孫伝芳宛電報シ来レル趣ニテ吳佩孚ト孫トノ感情益々疎隔スルニ至リ孫カ本日本官ニ内話セル処ニ依レハ新内閣ハ成立ノ見込無キ趣ナリ尚本日ノ宴席ニテ孫ハ夫トナク本官ニ対シ支那ハ到底共和政治ノ鞏固ヲ期スル事困難ニシテ結局立憲君主制ヲ可トスルカ如キ口吻ヲ漏シタルカ過般上海ニ於テ康有為カ内田伯ニ漏シタル意見ト对照シ本件政治革命ハ或ハ今回ノ時局ヲ機トシテ展開ノ機運ヲ見ルニ至ル無キヲ保セス右ノ判断ハ本官相当ノ根拠ヲ有スルニ付当方ニ於テハ孫ノ態度ニ充分ノ注意ヲ払フヘキモ吳佩孚及張作霖ノ真意ニ関シ關係領事ニ於

権回復ヲ目的トスル排外運動及軍閥反対ノ民衆益々深刻ヲ加ヘツアルヤニ認メラル

在支公使、上海へ転電シ長沙、南京、汕頭、宜昌へ暗送セリ

一二九 六月一日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国ガ早晚立憲君主國ニ逆転スル運命ニアリ

トノ孫伝芳ノ内話報告ノ件

第五四号(極秘)

(六月二日接受)

往電第五一号ニ関シ

孫伝芳本日極秘ノ相談アリトテ本官ヲ招キタルニ付往訪セル処絶对他言ヲ憚ルト冒頭シ左ノ通内話セリ

最近溥儀擁立ヲ目的トスル復辟派暗中運動ヲ起シ吳佩孚トノ關係ハ不明ナルモ張作霖トハ確カニ連絡ヲ取り居ル形跡アリ元来支那ノ共和ハ変態ニテ早晚君主立憲ニ逆転スヘキ運命ヲ有シ日本トシテモ支那ノ共和カ永続スルコトハ恐ラク不便ナリヤニ推察セラルル処右革命ハ断シテ前清溥儀ヲ戴クコト無ク全然別個ノ英雄現ハレ断行スルニ至ルヘシト察セラルルモ其ノ時期ハ予想出来ス但シ今日ヲ一機トシテ

一応有力ナル地方分権ニ移リ然ル後展開ヲ見ルヘク余ハ此ノ確信ニ基キ大統領制ニ依リ中央政府ニ対シテハ今後単ニ形式的御付合ヲ為スカ若ハ全然傍觀的態度ニ出テ地盤ノ確保實力ノ養生ニ努メ對外關係ニ於テモ信ヲ列國殊ニ日本ニ得ル様心掛クル積リナリ尚余ハ吳佩孚ニ對シテハ近来相当好意ヲ表シ来レルモ吳ハ腹ニ一物ヲ藏シ到底完全ナル諒解成立ノ見込ナシ云々

在支公使、奉天、漢口へ転電シ上海、天津へ暗送セリ

一三〇 六月四日 在奉天吉田総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ノ天津出向ノ見通シニツキ報告ノ件

第一八一号 (六月五日接受)

本官発在支公使宛電報第六〇号ニ関シ

当地特務機關ノ言フ所ニ依レハ斬雲鶚、田維勤ノ態度明白ナラス京津ノ形勢混沌タルヲ以テ仮令吳佩孚既ニ北上セルモ張ノ赴京ハ見合セ奉天側尙暫時形勢ヲ觀望シ不取敢鄭謙ヲ派シテ吳佩孚トノ接觸ヲ計ラシムルノミニテ政局ノ安定策一ニ吳佩孚ニ一任スル名ノ下ニ彼ヲシテ難局ノ処理ニ当ラシメント予テ決心ノ処吳ニ對スル關係ト奉天財政上モ関

涉セス從テ其閣員ヲ推薦セス然レ共多分永持出来サルヲ以テ其時ハ奉派ヲ以テ組閣スル考ナリ

(三) 関稅會議ハ延期スルコト

(四) 國民軍ハ徹底的ニ撲滅ヲ期スルコト

等ノ腹案ヲ以テ折衝スル筈ナリ

二、奉露會議ハ露國側ニ欺カレタルヲ以テ中止スル考ナルモ進ンテ決裂ヲ表示セサル方針ナリ

一三二 六月九日 高田支那駐屯軍司令官ヨリ 鈴木參謀總長宛(電報)

吳、張兩派代表者ニヨル會議内容ニツキ報告

ノ件

天電第二八二号 (六月十一日外務省接受)

張作霖入津後奉天側ヨリハ鄭謙、張景惠吳ヨリハ張志潭、張其鏗、孫潤宇代表トナリ連日会見セルカ軍事問題ニ就キテハ兩者異存ナク内閣問題ニ至テハ吳側ハ依然漢口會議ヲ固守シ奉天側ノ矛盾ヲ述ヘ若シ吳ト提携シテ顔内閣ヲ救済スルトスルモ奉天側カ從來ノ如ク沈黙ノ反對ヲ続クルコトナク此際進ンテ具体策ノ提出ヲ求メ居レリ之ニ對シ奉天側代表ハ悉ク責任アル回答ヲ避ケ張志潭モ責任アル楊宇霆ト

稅會議ノ消滅ヲ防ク為北京政府組閣ヲ急クノ事情アリテ張作霖頻リニ天津ニ出向ハントアセリ居リ遂ニ其意ノ儘ニ今夜ニモ出発ノ準備ヲ整ヘ居ルモ楊宇霆等ハ尙京津ノ形勢ヲ見極メタル上ニテ出発スル様疑メ居ルニ依リ張ノ出発ハ尙兩三日延期スルヤモ知リス仮令出発スルモ張作霖ヲシテ成ル可ク急速ニ吳佩孚トノ會談協議ヲ終了セシメ往復一週間位ノ予定ヲ以テ奉天ニ引キ返サシムル手配ナリ

一三一 六月七日 齋藤閣東軍參謀長ヨリ 金谷參謀次長宛(電報)

吳佩孚トノ會見ニ臨ム張作霖ノ態度ニツキ楊

宇霆ノ談話報告ノ件

関電第二九六号 (六月九日外務省接受)

奉天電、楊宇霆ノ談

一、張作霖ハ六日天津ニ着ク予定ニシテ晋京ハ三、四日後トナル可ク吳佩孚トノ會見ニ於テ

(一) 吳トハ絶対ニ衝突ヲ避クルコト

(二) 内閣ニハ吳派カ飽クマテモ護憲ヲ主張スル時ハ之ニ干

會見セサレハ妥協困難ナルヲ感シ楊ヲ督促シ九日楊ノ入京ヲ待チテ會議ヲ続行スヘク目下ノ処政治問題ニ就キテハ何等具体的ノ進展ヲ見ス

一三三 六月九日 高田支那駐屯軍司令官ヨリ 鈴木參謀總長宛(電報)

張作霖ト張志潭トノ會談等ニツキ報告ノ件

天電第二八二号 (六月十一日外務省接受)

孫潤宇ノ談

一、張志潭ト張作霖會談ノ席上ニ於テ作霖ハ軍事問題ニ就キテハ飽クマテモ吳張提携シテ討赤ヲ實施シ度此件ハ吳ニ異存ナカルヘク政治問題ニ就キテハ悉ク吳ニ一任スヘシ唯若干奉天ノ面子ヲ立テハ可ナリトテ兩者ノ提携ニ奉天側ノ誠意ノアル所ヲ示セリ

二、吳、張代表會見モ政治問題ニ関スル兩者ノ意見未タ接近セス吳ノ決意モ漢口會議ニ基キ今日ニ及ヒタルモノニシテ此際奉天カ若干折レ出ツルノ必要アルヘシ

三、漢口會議ニ於テ張景惠ノ資格問題ハ既ニ明瞭ナル事實ニシテ張景惠ハ張志潭ト奉天ノ間ニ在リテ自己ノ立場ニ苦ミ居レリ

四、楊文愷、顧維鈞、杜錫珪ノ就任ハ孫伝芳カ予テヨリ奉天側ニシテ若シ護憲ヲ云々シ顔内閣ヲ承認セサルコトアラハ自派前記閣員ヲ直ニ就任セシムヘシト稱シアリシヲ以テ吳、張会见前此運ヒトナルモノニシテ孫ハ事毎ニ奉天ニ反対セントシ張志潭モ之カ為提携運動ノ破レンコトヲ虞レアル位ナリ

關東、北京濟

一三四 六月十一日 在天津有田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

楊宇霆、張志潭等ノ會議ニヨリ奉・直間ニ了解成立ノ旨報告ノ件

第二三九号

楊宇霆ノ来津ニ依リ十日張志潭宅ニ於テ張吳兩方面ノ代表者(張志潭、張其鏗、楊宇霆、鄭謙)ノ会合アリ(一)西北軍事ハ吳佩孚側ニ一任スルコト(二)中央政治ハ一切吳佩孚ニ一任スルコト顔内閣ト雖十三年内閣復活ノ形式ニ依ルニ非レハ奉天側トシテハ之ニ異議無ク若シ吳佩孚ニ於テ顔内閣若ハ其他ノ内閣組織ニ付奉天側ニ相談アラハ好意的ニ之ニ応スルニ吝ナラサルコト(三)法律問題ハ護憲護法ノ何レニモ固

執セス単ニ法ニ依リテ処分スルコト等ニ付円満ナル了解出来タリト云フ尤奉天派カ此際政治一切ヲ吳佩孚ニ任スコトトナリタルハ或ル期間ノ後ニ於テ奉天派独力ニ依ル内閣ヲ組織スルコトヲ希望シ其ノ際円満ニ吳佩孚側ヨリ政權ノ授受ヲ受ケントスルニ出テタルモノノ由ニテ從テ其ノ際ノコトニ付予メ了解ヲ遂ケ置クコトヲ必要ト認メ本十一日引続キ代表者間ニ会见シ居ルハ右政權授受ニ関スルモノナリト言フ本日ノ会合終リ次第張其鏗ハ自動車ニテ報告ノ為保定ヘ赴ク筈ナル由ナリ当地直隸及奉天側トモ前途ヲ樂觀シ此ノ儘進行セハ張作霖ノ晋京ハ十五六日頃ナルヘシト觀側シ居レリ

在支公使、奉天、漢口、濟南、上海、青島ヘ転電セリ

一三五 六月十一日 高田支那駐屯軍司令官ヨリ鈴木參謀總長宛(電報)

顔内閣ノ任期ニ関シ奉天側ト吳佩孚側ノ協議

ニツキ報告ノ件

天電第二八四号 (六月十四日外務省接受)

顔内閣ノ任期ニ関シテハ奉天側ハ臨時内閣ト認メ直ニ通電ヲ発シ總辭職ヲ為サシメ後継内閣組織ノ為若干日事務ヲ施

行スルハ不可ナラスト為シ吳佩孚側ハ顔内閣トシテ一時ニテモ之ヲ任用セシメントシ兩者ノ間多少ノ懸隔ヲ存シ本日更ニ之ニ関シ楊宇霆、張志潭会见ノ予定ナルモ大体奉天案ニ從ヒ円満ナル解決ヲ見ルモノト觀測セラル

關東、北京濟

一三六 六月十八日 在上海矢田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

總商會主催ノ赴日實業視察團一行帰國歓迎會

ノ模様報告ノ件

第一六五号

(六月十九日接受)

支那實業視察團一行ハ十五日何レモ上機嫌ニテ盛大ナル歡迎禮ニ帰滬團長虞洽卿ハ出迎ノ新聞記者ニ対シ日本朝野ノ歡迎至ラサルナク殊ニ人民側ヨリ示サレタル誠意ハ日本國民覺醒ノ証拠ト見ルヘク日支兩國間ノ諒解ハ既ニ踏出シタリトテ極メテ満足ノ意ヲ表シタルカ十七日夜總商會主催ノ同視察團帰國歓迎會有リ参加者一千名ニ達シ本官外我方官民多數招待セラレタリ余與トシテ渡日団員ノ素人芝居及本邦歡迎ノ模様ヲ撮セル活動写真モアリ又演說ハ「ラジヲ」ニ依リ放送ノ仕掛ニナリ居リ近来未曾有ノ盛大ナル招待會

ナリキ席上包副會長ハ主催者側ヲ代表シ一行渡日ノ任務ハ兩國間ノ真正ナル諒解ヲ計ルニアリテ總商會ノ歴史上空前ノ事ナリトテ歡迎ノ辭ヲ述ヘ眞會長ハ視察報告演說ニ於テ各地歡迎ノ狀況ヲ語リ日比谷公園ノ歡迎會ニ於テハ日本國民ノ熱誠ニ動かサレ覺ヘス落涙セリ日本ノ一部大資本家及政府ハ未タ全ク覺醒スルニ至ラサル感アルモ大多數ノ國民ハ我等ト同様ヨク日支連絡ノ必要ヲ覺リ居ル事ヲ知り得タレハ今回ノ旅行ハ國民外交上裨益スル処鮮カラス日本政府モ遂ニハ多數國民ノ意見ニ從ヒ離ルヘカラサル關係ニアル兩國ノ經濟提携ノ妨害タル不平等條約ノ取消等ニモ漸次歩ヲ進ムルニ至ルヘシト云ヘリ

尚同氏ハ本官ニ対シ日本ニ於テ日支經濟提携問題ヲ後ニシ先ツ外交問題ヲ論シタルハ自國學生等ニ対スル關係ノ為ナリ二十一ヶ条ト雖モ今日直ニ何ウシテ具レトノ意味ニ非ス支那國民ノ要望ヲ諒トシ漸次實現ヲ計ラレ度シトノ眞意ナリト述ヘ渋沢子爵等カ余リニ眞面目ニ受取ラレタルニハ却テ困リタルトノ意ヲ漏シ經濟問題ハ兩三日内ニ貴下(本官)ヲ往訪シテ具体案ヲ提示スル考ナリ日本ニテ經濟提携ヲ交渉センカ一部ノ支那人ハ種々ノ疑惑邪推ヲ為シ自分等

ハアラヌ攻撃ヲ受ケテ万事打毀シタルハ明カナレハ上海ニテ徐ニ貴下ヲ通シテ真面目ノ相談ヲ為サン底意ナリ云々尚今回ノ視察団ニ対シテハ常習の排日家ニ於テ多少ノ反感ヲ示スモノ有ルニ鑑ミ前記虞ノ演説ハ大ニ「リザーブ」セラレタル点ハ有ルモ尚充分親日的気分ヲ吐露シ居リ同氏以下団員カ受ケ来レル印象ハ極メテ良好ナリシ事ハ彼等カ同夜羽目ヲ外シテ浮レ喜ヒ居ル光景及前記活動写真ニ対スル喝采振ニ徴シ明ナリ其他各団員ノ感想ニ依ルモ右視察団ノ渡日ハ大成功ナリシト認メラル

尚虞ハ帰省当日帝國政府ニ対シ謝意伝達アリタシトテ鄭重ナル書面ヲ本官ニ寄セタリ

在支公使、奉天、上海、青島、濟南、漢口、蕪湖、南京、蘇州、杭州、福州、厦門、広東、香港へ暗送セリ

編註 右視察団一行ハ虞洽卿團長他四十八名、加藤副領事方同行、五月二十日上海丸ニテ日本ニ出發シタ。

一三七 六月十八日 在中國公使館付本庄武官ヨリ 金谷參謀次長宛(電報)

吳佩孚ガ政治問題ニ関スル奉天側ノ干渉ヲ喜バザル旨ノ某要人ノ内話報告ノ件

贊同ノ來電アリタル件

天電第二九二号 (六月二十一日外務省接受)

十六日吳佩孚ヨリ張作霖ニ宛テ天津予備會議ニ於ケル決議事項贊同ノ意味ソ來電アリ三、四日ノ後晋京ノ運ニ至ラン浜面、町野顧問十七日発帰奉ス 関東、北京、奉天済

一三九 六月十九日 在中國芳沢公使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

ソ連ノ国民軍ニ対スル借款及ビ武器供与ニ関スル情報報告ノ件

第四〇四号

張家口發貴大臣宛電報第二二号(十三日前)

(極秘)

鹿鍾麟ト共ニ大同ニ出張シタル松室少佐ノ談ニ抛レハ松室カ密カニ瞥見シタル參謀ノ書類中ニ在莫斯科馮玉祥ヨリ国民軍ニ宛テタル電報大要左ノ通

馮玉祥、劉毅等ノ運動ニ依リ今回赤露ヨリ尅(千)萬元ノ借款成立セリ其一半五百万元ハ武器ニテ受領シタリ其種類概略(充分記憶ナシ)

支第三九四号 (六月二十一日外務省接受)

吳佩孚側某要人ノ極秘トシテ漏ラス処ニ依レハ吳佩孚側ハ天津會議ノ結果ニ依ル張其鏗ノ報告ヲ受クルヤ大ニ怒リ一時ハ漢口ニ歸ルト迄拗ネタルモ全權代表タル張其鏗ニ対シ其義理合上洩々ナカラ承諾スルコトトセリ吳ハ飽クマテ漢口會議ノ決議ヲ信用シ政治問題ニ関シ奉天側ノ干渉ヲ喜ハス殊ニ一旦成立セシ顔内閣ヲ一ヶ月位ニテ之ヲ倒スコトハ到底忍ビサル処ナリト為シ結局張作霖ニ誠意ナシト思惟シアリ故ニ吳張会见ニ於テハ単ニ軍事問題ノミヲ議スル管ナリ之カ為直隸派側ハ時局ノ前途ヲ悲觀スルモノ多ク張志潭ノ如キハ断シテ後繼内閣ニ入ラサルコトニ決心シアリ 尚数日前奉天側ヨリ交通、財政、陸軍ニ次長ノ名前ヲ列記シ推薦シ来レル為更ニ直隸側ノ感情ヲ害シアリ又曰ク後繼内閣ノ總理ハ未タ全然確定シアラス顧維鈞總理ハ絶対ニ実現ヲ見ス云々

関東、天津、奉天済

一三八 六月十八日 高田支那駐屯軍司令官ヨリ 鈴木參謀總長宛(電報)

吳佩孚ヨリ張作霖宛天津予備會議ノ決議事項

(一)十二「サンチ」重砲五門及榴霰彈個數不詳(五月下旬既ニ大同ニ到着シ松室実見セリ赤露教官四名付随ス)

(二)十五「サンチ」重砲四門、彈丸三千發(六月初旬平地泉ニ到着ノ予定)

(三)自動装甲車(タンク)五台(既ニ庫倫ヲ發送)

(四)小銃若干及彈丸尅千發

(五)飛行機若干、其他詳カナラスト云フ

右ハ最近北京各新聞記事ノ根拠有ル事ヲ語ルモノニシテ例ノ新聞ニ伝フル蒙古縱横ニ大鉄道、露蒙契約成立ノ如キモ或ハ右借款ト何等カ關係有ルモノナランカ、兎ニ角国民軍ト赤露トノ接近ヲ裏書スル例証ナリ、借款カ遠東銀行カ或ハ他ノ経路ニ依リ元金ヲ受領スルカ不明ナルモ未タ当地ニハ其一部モ到着セサルモノノ如ク督弁署ハ端午ノ節旬ニ際シ中央、交通兩銀行ト塩稅局ニ強要シ辛ウシテ三萬元ヲ得タル実況ナリ 在支公使へ暗送セリ

一四〇 六月二十一日 在上海矢田總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

赴日実業視察團長虞洽卿ノ日中經濟提携問題

二 関スル談話報告ノ件

第一六九号

(六月二十二日接受)

往電第一六五号ニ関シ

二十一日虞洽卿来訪シ「日支経済提携問題ニ関シ洪沢子爵ヨリ提議アリタル際自分モ其ノ必要ヲ充分認メ居タルモ商務總會員中ニハ赴日団ヲ出スコトニ付異論ヲ唱ヘ自分ニ対シ兎角ノ説ヲ為ス者アリシトテ熟知シ居タルニ付右ハ帰國ノ上是等反対者ヲ説得シタル後ニ非サレハ具体化シ得スト信シタルヲ以テ敢テ「コミット」スル能ハサリシカ帰滬後自分ニ対スル疑念ハ既ニ氷解セルニ付各方面ノ重要人物ヲ參同網羅スル為折角苦心中心ナリ何レ成案ヲ得次第持参スヘキニ付伝達方取計ハレタシ云々」ト語り又赴日団ニ参加セル余日章ニ関シ「当人ハ学生間ニ信望勢力有ル者ナルニ付同人ヲ同行スルコトハ学生ヲ啓発スル上ニ効果有ルヘキヲ信シ同人同行セスハ自分ハ青年會ニ対スル援助ヲ打切ルヘシト述ヘ熱心ニ説キタル結果出發間際ニ至リ漸ク参加ヲ承諾セシメタル次第ナルカ滯日中ハ素ヨリ帰滬後モ学生団ヨリ種々ナル質問或ハ難詰等アリシカ余自身ノ考モ余程日本ニ傾キタルヲ以テ進ンテ彼等ヲ説破鎮撫シタルハ今次渡

川省鄧督理田幫弁楊省長ニ対シ本件ハ成都日本總領事ト商議ノ上速ニ妥當弁理スヘク其ノ結果返電スヘキ旨電命セル由回答ニ接シタリ御参考迄尚今後貴官ヨリ当方ヘノ電報ハ当分ノ間電報ト同時ニ暗送アリタシ

外務大臣、在支公使ヘ転電セリ

一四二 六月二十六日 在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ノ入京ト吳佩孚入京遅延ノ理由ニ関スル情報報告ノ件

第四二二号

(六月二十七日接受)

張作霖二十六日入京セリ吳佩孚ハ遅クトモ二十八日迄ニ入京ノ筈ナリト云フ右吳遅延ノ理由トシテハ(一)吳カ保定ニ於ケル山西及対南方用務ノ終ラサルコト(二)最近入京セル張宗昌及張学良カ北京郊外西苑方面ニアル李景林軍(武器ヲ有スル兵約一万アリ李ハ現ニ天津ノ病院ニアリ)ノ態度曖昧ナルヨリ同軍ヲ解散セントセルニ同軍ハ飯令戦フトモ不法解散ニ応セスト憤慨セルヨリ王懷慶調停中ナルモ未ダ解決ニ至ラス張作霖ノ入京ヲ俟テ解決セントセルヨリ吳ハ李景林軍ノ成行ヲ見定メタル上入京セントスルモノナリト観測

日団ノ一收穫トシテ自ヲ誇ル所ナリ云々」ト
北京、奉天、天津、青島、濟南、漢口、蕪湖、南京、蘇州、杭州、福州、厦門、広東、香港ヘ暗送セリ

一四一 六月二十五日 在漢口高尾總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

成都總領事館被害事件ニ関シ円満解決方吳佩孚ニ申入レノ件

第一六五号

(六月二十六日接受)

本官発成都宛電報

第九号

貴館暴動事件ニ関シ貴電第五号ニ依レハ大臣ヨリ訓令ノ解決案五ヶ条ハ既ニ接到シ引続キ御交渉中ト認メラルル処貴官ヨリノ来電ハ欠号及誤字脱字多ク(勿論電報局ノ責任ナリ)事態明瞭ナラサルモ大臣發貴官宛電報第八号訓令ノ次第モアリ不取敢本官ヨリ吳佩孚ニ対シ本件暴動ノ顛末ト支那側当局責任ノ事実ヲ指摘説明シ本件ヘ我政府ニ於テモ極メテ重大視シ速ニ我方ノ要求ヲ容レ円満解決方ヲ希望シ居ルニ付貴下ヨリ四川当局ヘ然ルヘク訓令アリタキ旨当地總司令代理ヲ經テ要求ニ及ヒ置キタル処吳佩孚ヨリハ早速四

スルモノアリ

天津、奉天、濟南、漢口、南京、上海ヘ転電セリ

一四三 六月二十八日 在中国公使館付本庄武官ヨリ金谷參謀次長宛(電報)

吳佩孚入京及比吳、張ノ会見ニツキ報告ノ件

支第四一四号

(六月二十九日外務省接受)

吳佩孚ハ本二十八日午前六時入京セリ吳、張ハ本日懷仁堂ニ於テ会見ノ筈

關東、天津、上海、奉天濟

一四四 六月二十八日 在中国公使館付本庄武官ヨリ金谷參謀次長宛(電報)

吳、張ノ会見終了及比会見ノ内容ハ軍事問題ナル旨報告ノ件

支第四一八号

(六月三十日外務省接受)

吳、張ノ会見ハ本日ヲ以テ終了セリ
吳佩孚ハ今夜三家店ニ赴キ二泊ノ後保定ニ帰ル筈張作霖ハ二十九日夜中ニ天津ニ赴キ一応會議ヲ開キ約二日滞在ノ上奉天ニ帰ル筈
尚本日ノ会見ハ主トシテ軍事問題ノ解決ナリ

閩東、奉天、天津、上海済

一四五 六月二十九日 在中国公使館付本庄武官ヨリ
金谷參謀次長宛(電報)

吳佩孚ト張作霖トノ会见ハ新ナル發展ナキ模
様ナル旨報告ノ件

支第四二〇号(坂電) (七月一日外務省接受)

昨二十八日張、吳会见ノ結果ニ就キ探聞スル処左ノ如シ
政治問題ハ一切吳ニ一任シ軍事ハ徹底的ニ協同シ奉天ハ
東北多倫方面ヲ担任スヘク南方面ハ吳軍自ラ之ニ当リ国
会及法律問題ハ軍事解決後ニ譲ルト謂フコトヲ以テ骨子
トナスモノノ如ク何等新局面ノ發展ヲ見ルニ至ラスシテ
吳ハ昨夜張ハ本日午後離京セリ吳佩孚側秘書ノ言ニ依レ
ハ張ハ魏益三、唐之道軍ノ復帰、已ムナクハ兵器ノ還付
ヲ要求セシニ吳ハ事実其不可能ナルヲ知ルモ之ヲ拒ムニ
由ナク協同作戰中暫ク借用シ置キ度トノ言辞ヲ以テ纒ニ
張ノ承諾ヲ得タリト謂フ

閩東、天津済

一四六 六月二十九日 在彈春田中分館主任ヨリ
幣原外務大臣宛

(東三省討伐ノ意) 司令部ヲ組織シ馮玉福ヲ總司令ニ支
那匪賊首領崔德齡ヲ副司令ニ任シ其部下匪賊ヲ以テ敢死
隊一団(約千五百名)ヲ編成シテ露支国境重要地帯二分
居時機ヲ狙ヒ所要武器彈藥ハ同政府ヨリ無条件供給ヲ受
クルコトニ密約成立シタルカ若シ愈々該団組織ニ当リ相
当条件ヲ以テ募員スルトセンカ西比利亞一帯ニ散在セル
露支鮮ノ不穩分子ハ直ニ蝟集スヘク其ノ行動ハ注意ヲ要
ス云々

尚東三省官憲ハ馮ノ行動ニ関シ深甚ノ注意ヲ払フト共ニ国
境軍隊ニ対シ嚴重警戒方類々ト訓令シ来ルモノノ如ク最近
当地方ヲ巡視セル延琿鎮守使ノ任務モ又右ニ関連シ此際国
境増兵ヲ実行スルモノト見ラレツツアリ

右報告ス
本信写送付先 在支那公使、間島、奉天、吉林、哈爾
濱、天津総領事、局子街、頭道溝、百草溝分館主任

一四七 六月三十日 高田支那駐屯軍司令官ヨリ
鈴木參謀総長宛(電報)

張作霖ガ大兵ヲ帶同シテ入京セル理由ニツキ
報告ノ件

一 北京政府ト一般政況 一四七

馮玉祥ノソ連ニ於ケル行動ニ関スル情報ニツ
キ報告ノ件

機密第二一六号 (七月八日接受)

大正十五年六月二十九日

在彈春

分館主任 田中 作(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

馮玉祥ノ行動並国境増兵計画ニ関シ報告ノ件

国民軍ノ總將馮玉祥カ曩ニ敗兵ヲ率ヒテ入露總司令部ヲ設
置シ同国政府ヨリノ武器、彈藥、軍隊、鉄道ノ供給利用等
ノ背援及外蒙トノ提携ニ依リ東三省ヲ侵襲シ一方在露鮮人
暴力団ヲ買収シテ三省要路大官ノ暗殺、各機關ノ破壊ヲ敢
行スヘク暗中飛躍シツアルヤノ情報昨今頻リニ露領ヨリ
齎サレツツアリ而シテ右同様情報ハ当地支那側ニモ達シ居
ルモノノ如キ処更ニ馮ノ行動ニ関シ当地朝鮮總督府派遣員
ノ在露支那側諜報者ヨリ当地官憲ニ達シタル報告トシテ本
月二十八日入手セル情報左ノ如シ

露都滞在中ノ馮玉祥ハ馮玉福ヲ使者トシ部下十数名ト共
ニ六月中旬「ハバロフスク」極東政府ニ赴カシメ刺東

天電第二九九号 (七月二日外務省接受)

吳、張ノ北京滞在中ノ来往ニ関シ其後探聞スル処ニ依レハ
張作霖カ今次大兵ヲ帶同シテ晋京セル理由ハ一ニ李景林軍
ノ叛逆ニ備ヘル為ニシテ晋京後直ニ李軍ノ武装解除ヲ企圖
セシモ李ニ好意ヲ有スル王懷慶ノ仲裁ニ依リ其ノ意ヲ達セ
ス吳モ亦軍隊檢閲ノ名ヲ以テ李軍ノ駐屯地タル門頭溝方面
ニ赴キ李軍ヲ懐柔シ奉天側ノ企圖ニ対シ明ニ妨害ノ態度ヲ
採ラントセシカ奉天側ニテハ一先ツ作霖ハ天津ニ引揚ケケ
良及張宗昌ヲ北京ニ残シ李軍ヲ監視シ其後ノ情況ヲ傍觀ス
ル事トナシ斯クハ急遽ニ天津ニ引揚クルニ至リタルモノナ
リ吳佩孚ハ既ニ魏益三、唐之道ノ軍隊ヲ改編シ今亦李軍ヲ
収編スルハ其実力養成ニ汲々タルモノニシテ吳、張之カ為
決裂スルコトナキカ吳、張ノ会见ハ一種ノ暗雲ニ閉サレタ
ル結果トナレリ

李ト親交アル張宗昌カ李軍ノ武装解除ヲ主張スルニ至リタ
ルハ本月初メ直魯軍ニ収編シ而テ李ニ三十万円ヲ与フル約
束ニテ七日十三万円ヲ手渡シタルニ拘ラス吳ニ付隨スルコ
ト明瞭トナリシニ因ルモノナリト

閩東、北京、奉天済

一四八 七月一日 斎藤関東軍参謀長ヨリ
金谷参謀次長宛(電報)

吳佩孚、張作霖ノ会见ガ好結果ヲ得タル旨ノ

楊宇霆ノ談話報告ノ件

閔電第三二五号(奉天電) (七月二日外務省接受)

楊宇霆ノ談

一、北京ニ於ケル張、吳会见ハ三度四時間ニ亘リ頗ル好結果ヲ得タルカ其内容ハ对国民軍問題、色彩不明軍隊ノ処分問題、对南方問題等ナリ

吳ハ門頭溝ニ至リ田維勤ニ敵命ヲ下シテ其態度ヲ確メ張宗昌、張学良ハ二十九日夜以来李景林軍ヲ三ヶ所ニ於テ包囲シアルカ既ニ其一団ハ奉軍内ニ編成セラレタリ多分二、三日内ニ無事改編ヲ終ル見込ナリ張作霖ハ奉軍ノ片付キ次第帰奉ノ予定ナリ

二、吳俊陞軍ノ最後尾ニ前進中ナリシ王樹常軍ノ先頭ハ既ニ赤峰ニ到着セルヲ以テ吳モ二、三日中ニ赤峰ニ入ルヘク主力軍ノ多倫ニ入ルモ近キニ在リ

三、奉露會議ハ「セレブリヤコフ」ノ態度強硬トナリアルル今

リ監視中ナリ右改編断行ノ主タル近因ハ李カ最近頻ニ田維勤ト連絡シ張作霖ニ対シ背反ノ計画ヲ為シタルコト発覚シタルカ為ニシテ一時種々ノ謠言伝ハリ張作霖特ニ多数ノ軍隊及武器ヲ携ヘ入京シタルモ吳ノ入京一日遅延シタルモ之カ為ナリ云々

尚李十一ハ張、吳ノ会见ニ於テ内閣問題ハ一時現状ノ儘トシ或機会ニ代理総理杜錫珪ヲ新総理トシ閣員ノ一部ヲ変更スルコトニ打合セタルカ如シト語リタリトノコトナリ

奉天、天津、濟南、上海、漢口、南京ヘ転電シ張家口ヘ暗送セリ

一五〇 七月十六日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

張作霖ノ天津ヨリ帰奉談要領送付ノ件

機密公第五五四号 (七月二十一日接受)

大正十五年七月十六日

在奉天

総領事

吉田

茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

帰奉後邦人ニナシタル張作霖談話要領送付ノ件

一 北京政府ト一般政況 一五〇

日再開至難タルヘキモ国民軍ノ失敗近ツキ「セレブリヤコフ」ノ態度軟化スル時ハ再開スルヲ得ヘシト考フ云々右談シ終リテ近来ニ無キ喜色満面ニ盈チアリ

一四九 七月二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ニヨル李景林軍改編ノ事情等情報報告

ノ件

第四三五号 (七月三日接受)

往電第四二二号ニ関シ

李景林軍ハ二十九日張宗昌及張学良ノ手ニ依リ改編セラレタルカ右ニ関シ李十一カ七月一日館員ニ語りタル処ニ依レハ右改編ハ張作霖落京ノ日直ニ張宗昌ニ命令シ万ノ場合ニ対スル手配ヲ為サシメ翌二十七日午前三時半奉軍ノ代理司令榮臻ニ改編命令ヲ伝ヘ同時ニ張宗昌自ラ奉軍所屬ノ五名ノ旅長ヲ招集シ各旅長トモ命ニ服スヘキヲ誓ヒタルカ之ヨリ先右改編説伝ヘラルルヤ李景林ハ逸速ク北京近郊ノ軍隊ニ意ヲ含メ反抗ノ態度ニ出テシメント試ミタル形跡アリタルモ幸内部ヨリ張作霖ニ密告アリ夫々防備ノ手段ヲ施シタル為事無キヲ得タルカ目下尚一旅丈態度曖昧ナルモノア

本月十一日天津ヨリ帰奉シタル張作霖ハ往訪シタル当地滿鉄公所長鎌田氏ヲ引見シ大様別紙写ノ通り談話シタル趣同公所長ヨリ入手シタルニ付御参考迄此段送付ス

本信写送付先 在支公使

哈爾賓、吉林、安東、牛莊、長春、齊々哈爾

(別紙)

張作霖氏ノ帰來談

(鎌田公所長報告)

十一日天津ヨリ帰奉シタル張作霖氏ハ余裕ヲ示シツツ稍得意ノ面持ニテ次ノ如ク語ル

今回天津滞在ハ一箇月ト数日ナルカ其間入京シタルハ僅カニ二日間ナリ之ハ単ニ吳佩孚トノ顔繋キニ過キス軍事ノ打合せヲ除キ他ハ一切吳佩孚ニ一任シタル為余ハ勿論一言半句モ言及シナカツタ然シ軍事的方面ノ臆立ハ天津テ行ツタ今度ノ旅行中最モ不愉快テアツタノハ李景林軍ノ処分問題テアツタ幸ヒニ彼ノ軍隊モ悉ク解散シテ帰郷スルモノハ帰郷シ奉天ニ合併スルモノハ合併シテ漸ク一段落ヲ告ケタ李景林ハ目下日本租界ニ蟄居シテ居ル模様テアル

吳佩孚側テハ張志潭等ノ策士カ略選議員等ト策心シテ切リト躍起運動ヲ行ツテ居リ顧維鈞モ外国方面ヘ渡リヲ付ケテ

居ルラシイカ要スルニ彼等ハ自己ノ実力ヲ省ミス徒ラニ声ヲ大ニシテ無闇ニ蠢動シテ居ルカ果シテ完全ナル内閣力成立シ得ルヤ否ヤ大ナル疑問テアル

軍事方面ノ事ハ非常ニ順調ニ運ンテ既ニ南口方面ハ攻撃ヲ開始シ一部ハ懷米ノ線ヲ占領シタ成程南口ハ要得堅固ノ地テハアルカ其ノ防備タルヤ極メテ旧式テ殊ニ大砲ノ如キハ曾テ日本カ露軍ニ供給シタ元旅順口アタリニアツタモノヲ更ニ勞農側カラ国民軍カ手ニ入レタモノラシク着弾距離モ極メテ短カク射撃モ不正確ナ為砲ノ威力ハ更ニ無イ隨テ此方面ハ別段懸念スル程ノ事ハナイ奉軍カラハ張宗昌カ其ノ指揮ヲ採ツテ居ル国民軍ハ結局滄江甘肅方面ニ退却スル事ニナルテアラウ

本日ハ未タ電報モ電話モ来ナイカ只一ツ氣懸リナノハ呉俊陞ノ軍隊テアル赤峰カラ多少ハ進出シテ居ルニ相違ナイカ全然戦報ヲ齎ラサナイノテ今日モ敵シク電報テ小言ヲ言ツテヤツタ山西軍ノ方ハ閻錫山カ十数年築キ上ケタ地盤タケアツテ軍隊モ非常ニ良ク一致シ殊ニ彼ノ軍隊ニハ多数ノ日本留学生カアル為ニ度々国民軍ノ襲撃ヲ受ケテモ容易ニ之ヲ撃退シ最近テハ多数ノ捕虜モ有ツタト云フコトテアル又

ト褒メテ居ツタカ其間ノ消息ニ付テ總督カ果シテ芳沢公使トノ間ニ何か懇談シタコトカアツタカ其辺ハ余トシテハ分ラナイ總督ハ滿州經由「シベリア」線テ帰国シタカラ余ハ「ハルピン」迄道中ノ世話ヲ楊給參議ニ命シテ置イタ總督モ当方ノ款待ニ対シ非常ニ感謝ノ意ヲ表シテ居ツタ余モ其内一度児玉長官ヤ白川軍司令官安広社長ニ答礼ノ意味テ敬意ヲ表シタイト思フカ愈行ク場合ニハ大袈裟ナ歡迎ナトハ止メテ貰ヒタイ余ハ斯ルコトカ一番苦痛ニ感スルカラ予メ当事者ニ伝ヘテ置イテ貰ヒタイ云々

欄外記入一 「ウイリンドン」卿ナリ

二 張モ甘イ単純ナ奴ナリ

一五一 七月二十四日

在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

奉天軍政會議ニ於ケル張作霖ノ意見ニ関シ報

告ノ件

公第五七四号

(七月二十九日接受)

大正十五年七月二十四日

在奉天

總領事

吉田 茂 (印)

一 北京政府ト一般政況 一五一

(欄外記入一) 天津滞在中最モ愉快テアツタノハ「カナダ」總督「ウエーリントン」トノ会见テアツタ彼ハ十数年印度ノ總督ヲシテ居タ事カアリ夫人ハ英皇室ト關係カアルソウタカ至ツテ活発テ總督ハ又人格モ高ク皇室ノ信任モ極メテ厚イト云フ事テアル此度總督ノ帰朝ヲ俟ツテ解決スヘキ問題カアル為遽カニ旅装ヲ整ヘ帰国シタ訳テアル余ハ特ニ一日天津ニ招待シテ篤ト話ヲ聞イタカ總督ハ

之迄英國ノ出先ノ外交官ヤ領事等ハ常ニ報告ヲ誤ツテ居タ為ニ政府ノ方針モ之カ為誤ラレ勝チテアツタ現ニ上海事件ノ如キハ領事ノ措置カ妥当テナカツタト思フ早晚更迭スヘキモノテアル香港ノ如キ今日迄受ケタ損害ハ約五億ニ達スル自分ハ今回親シク此方面ノ實際ヲ視察シテ大イニ得ルカカアツタ英國政府ハ從來呉佩孚ヲ過信シテ居ツタ傾カアルカ今後ハ他ニ対スル態度ハ大イニ改メル必要カアル貴下(張作霖ヲ指ス)カ今後表面ニ立ツテ時局收拾ノ衝ニ当ラルル場合ニハ英國ハ貴下ヲ援助スルニ於テ決シテ吝ナラス之ニ付テハ充分日本側ト諒解ヲ得ル必要モアル又貴下ノ軍隊ニ対スル報告ハ總テ誤リ多ク自分カ今回見タ処テハ真ニ規律アル軍隊テ外國ノ軍隊ニ比シテ毫モ遜色ハナイ

(欄外記入二)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

奉天軍政會議開催ノ件

本件ニ関シ當館警察ノ諜報ニ拠レハ本月十三日張作霖ハ楊宇霆莫省長等政界ノ巨頭ヲ將軍公署ニ召集シ軍政會議ヲ開キタルカ張作霖ハ大要左ノ意見ヲ述ヘタリト右何等御參考迄此段報告ス

記

這次本上將軍入関シ呉佩孚ト奉直提携ニ関シ諸種条件ヲ定メタルカ甚タ複雑ニシテ一時ニ述ヘ難キモ簡略ニ一言セハ即チ今後奉直ハ如何ナル場合モ攻守同盟ヲ破ラス赤軍討滅大局平定ヲ以テ目的ト為ス事トシタリ今日此ノ會議ヲ開キタルハ此後東三省ノ軍事財政金融政治ノ整理ノ為メニシテ願クハ諸君ハ所見ヲ述ヘ我カ東三省ニ貢獻セラレタシ今本上將軍ノ意見ヲ述フ

一、軍事善後策

奉軍ノ赤軍討伐ハ呉佩孚ト十分協議ヲ為シタルカ攻撃ニ参加セサル軍隊及駐屯ノ必要ナキ地方ノ奉軍ハ全部山海関秦皇島一帶ニ撤退シ以テ軍費ヲ節減スヘシ
一、財政善後策

奉軍入関討赤以来軍費巨額ニ上リ為メニ東三省ノ財政ヲ困難ナラシメタルモノナレハ須ク清算シ正式内閣成立ヲ俟ツテ中央ニ之ヲ要求スヘシ

一、金融善後策

金融ハ人民ノ血脉ニシテ今日ノ如ク奉天票暴落シテハ殆トルールブル官帖ト異ラス之レカ為メ物価騰貴シ人民生活益々困難トナリタリ若シ如斯ニシテ推移セハ将来甚々憂フヘキナリ金融ノ整理トシテハ奉票ヲ回收シ現洋票ヲ発行シ現洋ト兌換ノ方法ヲ採ラサルヘカラス

一、政治善後策

年来戦争ノ為メ政界ノ人物扠底シ政治ノ成績挙ラサルハ甚タ遺憾ナリ今後ハ官吏ノ整理ヲ為シ有能者ヲ登用シ政治ノ実績ヲ挙クヘシ云々
本信写送付先 在支公使

一五二 七月二十六日 在中国堀臨時代理公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

馮玉祥帰国ニ関スル情報報告ノ件

第四七二号

(七月二十七日接受)

七月十九日張家口発本使宛機密第五〇号

情報ヲ綜合スルニ国民軍ニ於テハ南口方面ノ總攻撃モ声ノミ大ニシテ実行件ハサル狀況ト田ノ部下ヨリ更ニ三団ノ投降兵ヲ三家店方面ニ於テ收容シタルモノノ如ク攻勢ニ転シ北京方面ニ進出セントスル計画ヲナシ頻ニ部隊ヲ前進セシメツツアリ

右計画ノ成否ハ直ニ時局ノ転機ニ大変化ヲ来ス可キモノト観測セラル

最近庫倫ヨリ張家口ニ帰リタル支那人ノ内話ニ依レハ赤露兵約五百ハ多倫方面ニ行キ大同以西綏遠関内ニ約五百ノ赤露兵到着シタルコトヲ聞キタリト
右ハ赤露ヨリ派遣シタル警備兵ナル可シト思量ス又庫倫ヨリノ途中烏得ニテ負傷赤露兵約百名ヲ庫倫ニ送還スル狀況ヲ目撃セリト云フ七月以降商人ヲシテ貨車ニ積込マシメタル儘当地ノ停車場ニ放置セル貨車三日以内ニ積卸スヘク国民軍ヨリ敵命シ昨十八日以来其ノ荷卸ニ着手ス右ハ進ムカ退クカ何レニシテモ輸送ノ準備ナル可シ
右ニテハ各駅ヲ通シ差詰メ百貨貨車ヲ得ントスルモノノ如シ

一五四 八月四日 在杭州清野領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

馮玉祥帰国ノ件

松村少佐カ秘密ニ得タル報道ニ依レハ馮帰国ノ電報督弁署ニ到着セリ馮ハ既ニ莫斯科ヲ出発(時日不明ナルモ十日前後)シ一週間後ニハ平地泉ニ到着ノ予定ナレハ張及鹿等ヨリ一兩日中ニ出迎トシテ庫倫へ使者ヲ派遣スル筈馮帰国ノ上ハ包頭ニ於テ国民政府ヲ組織シ自ラ其ノ首腦者タルヘシ支那人ノ内話スル処ニ依レハ左ノ通り

(一)馮ノ去リタル後兎ニ角国民軍將領カ一致ノ行動ヲ欠キ是カ為統一指揮ノ必要アルコト

(二)吳、張等反動派ノ擡頭セル為赤露カ支那ニ於ケル政策施行ニ不便ヲ感シタレハ馮ニ積極的援助ヲ与ヘ其ノ形勢挽回ニ資セント計画シ馮トノ間ニ或ル種ノ諒解(不明ニ付内偵中)成立セルモノナリト

大臣へ電報有度

一五三 七月二十六日 在中国堀臨時代理公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

南口方面ノ戦況ニ関シ報告ノ件

第四七三号

(七月二十七日接受)

七月二十六日張家口来信機密第五一号

江西方面ノ情勢ニ関スル夏浙江省長ノ内話報告ノ件

告ノ件

第二〇号

(八月五日接受)

盧香亭ハ三十日南京ニ赴キ二日帰杭セリ右ニ関連シ四日夏省長カ小官ニ内話セル要領左ノ如シ

(一)盧ノ南京行ハ軍事會議ニ出席ノタメナリ

(二)右會議ノ結果孫伝芳ハ周鳳岐、孟昭月及王普ノ所屬部隊各一旅ニ九江經由江西入りノ準備ヲ命シ又盧香亭ノ一旅ヲ時機ヲ見テ江西ニ入ラシムヘク錢塘江上流ニ移駐セシムルコトニ決セル趣ナリ

(三)然レトモ孫ハ右出兵中張宗昌カ其機ニ乘シテ南下セサルヤヲ懸念シ目下杜錫珪ヲ介シテ張ト了解ヲ遂ケントシツツアリ故ニ張宗昌ノ態度ヲ確メサル限リ右出兵ヲ断行セサルヘシ

(四)出兵ノ目的ハ表面広東軍侵入ニ対スル江西軍援助ヲ標榜スヘキモ内実ハ鄧如琢ヲ驅逐シテ自家系ノ者ヲ据エントスルニ在リ蓋シ張、吳ノ連合軍カ国民軍打破ニ成功セハ必ラスヤ其連合ノ勢力ヲ以テ孫伝芳ヲ圧迫スルニ至ルヘキニ付今ニ於テ江西ヲ完全ニ入手シ置クヲ得策ト考ヘタルニ依ル

モノナルヘシ

(5) 吳佩孚モ鄧如琢モ右孫ノ底意ヲ知レルカ故ニ其ノ出兵ヲ望ミタルコトナキノミナラス其出兵ノ阻止ニ苦心シ居ルモノノ如シ

(6) 孫伝芳ト蔣介石間ニハ或種ノ約束アルニ付キ孫カ出兵準備ヲ了セル際ニハ蔣ハ或ハ孫ニ入兵ノ口実ヲ与フルタメ江西南部ヲ脅カスニ至ルヤモ知レシ

(7) 孫伝芳ト馮玉祥間ニモ亦連絡アリ現に馮ハ張家口ニ在リ無線電信ヲ以テ南京ト相通信シツツアリ

(8) 前頭ノ通り孫ハ周鳳岐及王普ノ旅団ニモ出動準備ヲ命セル所右兩人ハ鄧如琢等ト連絡アルニ付其江西入り後ノ態度ニモ疑問アリ

夏超ハ常ニ吳佩孚ヲ崇拜シ孫ニ対シテハ寧ロ内実敵意ヲ抱キ居ルモノナルニ付キ談話ノ全部ハ信シ難キモ為念

在支公使、濟南、九江へ転電シ上海、福州、漢口、南京、蘇州、蕪湖へ暗送セリ

一五五 八月五日 在奉天吉田総領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

北京政況ト英・ソノ動向等張作霖ノ談話報告

ネ吳自ラハ南支ヲ治ムル事ニカヲ用ヒヨト勸メタルモ彼ニ難色アリ当時余リニ之ヲ彼ニ強要スレハ彼ノ誤解ヲ招ク虞アリタレハ止メタリ組閣ニ就テモ熱望一代ニ冠タル者ニ託シテ政局收拾ヲ図ルニ非ンハ不可ナリトシ王士珍ヲ吳ニ勸メタルカ吳ハ陽ニ同意シテ遂ニ我言ヲ容レス而シテ政情ノ紛糾今尚依然タリ吳ハ人物ハ良キモ元來政治ヲ解セス大言壯語ヲ喜ヒテ實際ニ疎シ彼ノ周囲ニハ顧維鈞、顏惠慶派張其鏗等及張其鏗ニ反対ノ張志潭一派アリ此ノ三派吳ヲ中心トシテ互ニ相争ヘリ吳ハ之等自派ヲモ統御スルノ術ヲ知ラストテ吳ノ前途知ルヘキノミトナスモノノ如カリシニ付吳張提携ノ前途ヲ問ヘルニ張ハ何等答ヘス北京來電第三六号東三省交渉總署ノ自由活動權ニ付テ質セルニ張ハ曰ク近年東三省ノ政治ニハ總テ北京ノ命令ヲ俟タス独斷擅行シ來レリ独リ対外交交渉ニツキ中央ノ指令ヲ仰ク謂ナント云ヒ放テルヲ以テ本官ハ北京政府ト云フモ結局貴下ノ傀儡ニて組閣ハ吳張提携ノ下ニ出來タルニ非スヤト云ヘルニ今回ノ組閣ニハ何ノ關係ヲナス吳ニ全部一任シ奉天ヨリハ僅ニ外交次長及財政次長ヲ入レタルノミトテ現内閣ニ対シ冷然タル態度ヲ示シ更ニ顏惠慶トノ關係ヲ云ヒ出シ自分ハ顔ニ対

ノ件

第二二七号

(八月六日接受)

昨日張作霖往訪先ツ南口方面ノ戰況ニ付テ訊ネタルニ張ノ曰ク奉軍ハ老虎臣ヲ砲撃シ激戰ノ後完全ニ之ヲ占領シ山頂ヨリ尚攻撃ヲ続ケツツアリ一面吳俊陞ハ多倫ヨリ沽源方面ニ向テ進撃ス前線ノ情報ニ拠レハ国民軍ハ庫倫方面ニ退却準備中トアリ何故ニ甘肅方面ニ走ラサルヤ疑問トスル処ナルカ庫倫退却ヲ事實トスレハ馮玉祥之ニ投スルニ至ルヘク北京仏国公使館付武官ノ談ニ拠レハ馮ハ莫斯科亜細亞「ホテル」ニアリト云フモ右ハ幾分旧聞ニ屬スヘク「ウェルフネウジンスク」ニアリト云フカ真ナラン吳佩孚ハ今ヤ南北ニ事ヲ構ヘ進退谷マルノ窮境ニアリ湖南方面ノ狀況既ニ捨テ置キ難キモノアレハ近ク南下スヘシ

孫伝芳ハ吳ト固ヨリ相好カラス然レトモ今ヤ広東軍江西ヨリ浙江ニ入ラントシツツアレハ自然吳ト連絡ヲ保タント欲スルナラン吳ニシテ兵ヲ湖南ニ用フルニ止マラハ兎ニ角若シ江西ヲ争ハントセハ孫吳ノ決裂ハ必然ナリト云ヒ甚タ上機嫌ニテ北京政局ニ談及シ吳ノ今日アルハ自分ノ夙ニ予測セル処自分ハ吳ニ向ヒ北支ノ事ハ自分ト山西ノ閻錫山ニ委

シ恩怨有ル訳ニ非ルモ行懸リ上顔ノ組閣ニ反対スルニ至リタルカ顔モ自分トノ諒解ヲ作ルノ必要ヲ痛感セリト見エ過日自分ノ旅大訪問ノ節顔ハ大連ニ待チ受ケ鮑貴卿ヲ通シテ面会ヲ求メ來リタリ之ニ対シ今回旅大訪問ハ郭松齡事變ノ際日本側ニ迷惑ヲカケタルカ為其ノ挨拶ノ為ニテ之ニ關係ナキ中央ノ政治ヲ旅先ニテ論スルハ好マシカラス強ヒテ面会ヲ希望セハ奉天ニ來ルヘシト答ヘ遂ニ面会ヲ謝絶セリト云ヒテ吳幕下ノ政客モ張ノ勢力ヲ重要視シ來レルヲ暗示シ更ニ吳ニ対スル英米ノ感情漸ク異リ來レル事實トシテ「ロド・ウエリントン」トノ天津ニテ会谈ノ模様ヲ語り從來英米ハ吳ノ勢力ヲ過信シ二千万元ノ融通ヲ約十年ニ六百万元迄交付セルカ近來英國政府ノ吳ノ遂ニ為ス無キヲ漸ク氣付キタリト見エ卿(ウ)氏ノ事)ハ頻ニ奉天軍ヲ稱揚シ從來張ニ対シテ英國政府ハ全ク諒解シ居リ眼ニ一丁字モ無キ武人トノミ考ヘ居リタルカ將來支那ニ於ケル實權者ハ張ヲ措イテ他ニ無キノ意ヲ述ヘタリト語り本官ニ対シ英國政府ノ北京政府ヘノ提議ニ付貴君知レリヤト訊ネタル後広東軍ノ為ニ香港政庁ノ蒙レル損害既ニ六億ニ上リ英國モ最早此上忍ヒ難ケレハ陳炯明ニ三百万ヲ与ヘ之ヲ支持シテ広東政

府討伐ヲ為スヘク敢テ支那ノ内政ニ關係スル次第ニ非サルモ「ボロディン」等勞農派ヲ廣東政府ヨリ追払フ為ニ外ナラストテ北京政府ノ諒解ヲ求メ来レリ右ハ外交次長ヨリノ内報ナレハ事實ナルヘシ

然ルニ目下蔣介石ノ代表楊某奉天ニアリ自分ヨリ武器ヲ與佩孚ニ供給セサル様類ニ要望シ陳炯明モ亦黃大偉ヲ派シ自分ノ諒解ヲ求メ来レリ只トノ關係モアレハ彼等ニハ面談セサルモ楊宇霆ヲシテ応接セシメツツアリトテ内外共ニ其ノ諒解ヲ求ムルニ急ナルモノアリ形勢張ニ向テ好転シツツアリト云フモノノ如シ（郭松齡事変中張名義ニ改メタル正金、朝鮮銀行等ノ預金ヲ本年三月中官銀号名義トセル事アルモ近ク張ノ云フカ如キ事無シト云フ）一面上海方面ノ為替売出額ヲ増加シ又銀貨鑄造ヲ開始シ既ニ四万三千元ノ鑄造ヲ終リ尚五萬元ノ鑄造力ヲ有スヘシ（鑄造原料ノ出途ヲ質セルモ張明答セス）資金ノ準備既ニ成リタレハ奉票幾分ニテモ時価ニテ引換フヘシ暴落セル奉票（脱）大洋ニテ引換フルモ秋ノ收穫期ニ至レハ奉票ハ必ス騰貴スヘケレハ省財政トシテ何等ノ苦痛ナシ然レトモ實ハ奉票ヲ買取セントスルモ売出スモノナク回収ニ困難ヲ感シ居レリ又各地ヨリ

平勸告ノ最適時機トシ其ノ理由トシテ左ノ如ク述ヘタリ

一、連合軍側ニ於テ戰意ナキハ勿論ニシテ南口スラ先ノ声明ニ拘ハラヌ未タ陥落セス奉天側トシテ京畿方面ニ長ク大軍ヲ止ムルコトハ士氣及軍費ノ關係上困難ナルノミナラス又内ニハ奉天票暴落シ内部ノ結束乱ルル等ノ憂アリ東三省ノ安定即日本ノ利害ヨリスルモ奉天側ヲシテ大打撃ヲ受ケサル前ニ兵ヲ引カシメ内部ノ結束ヲ固メシムルコト最大急務ト認メラルル処之カ為ニハ何等カノ兵ヲ引クヘキ口実ヲ与フル要アル次第ナルカ右ハ實ハ從來ノ吳張連盟ノ赤軍討伐ニ關スル声明ニ鑑ミ自ラ進ンテ之ヲ言出スコト困難ナルヘク從テ外部ヨリ和平ノ勸告ヲ為スコト可然サスレハ奉天側ニ於テ体面ヲ傷ケスシテ兵ヲ引クコトヲ得ヘシ

二、吳佩孚側ハ振ハサルコト甚シク南湖南ニハ唐生智軍ト廣東政府トノ連絡ニ依ル侵入ノ憂アリ北ニ於テハ吳張連盟ノ破綻等アリテ為ニ進退谷マルノ窮状ニアル処和平勸告ニ依リ体面ヲ保チ自己ノ根拠地ニ帰ルコトヲ得ルヲ以テ右勸告ハ吳佩孚側ニ於テ最モ喜フ所ナルヘシ

三、西北軍ニ対スル赤露ノ援助ハ徒ニ声ノミ大ニシテ實之

ハ奉票回収余リニ急激ナルニ於テハ地方金融上難澁ストノ歎願アリ其辺ノ事情モ酌ミ取ラサルヲ得サル次第ニテ始末ニ困リ居レリト答ヘタルニ付本官ハ奉票及財政整理上何等困難ナシトセハ整理方法及官銀号ノ財政状態ヲ公表シテハ如何之ニ依リテ人心ノ安定人氣ノ回復ヲ得ヘシト云ヘルニ張ハ公表スルモ惡カラス又其一部ヲ明日公表セシムル様命シ置キタルカ財政金融ノ事ハ一言ニ尽シ難ク何レ齒痛止リタレハ貴館ニ到リテ篤ト御相談致シタシト語レリ在支公使ヘ転電シ哈爾濱、長春、吉林、安東、牛莊、齊々哈爾、天津、濟南、漢口、上海、南京ヘ暗送セリ

一五六 八月九日 外務省局部長會議要録

中國各軍ニ対スル和平勸告ニ關スル件

付記一 八月二日付中國時局對策ニ關スル松井參謀本部第一部長意見

二 八月十二日付中國時局對策ニ關スル松井參謀本部第二部長意見

支那各軍ニ対スル和平勸告ニ關スル件

大正十五年八月九日亞細亞局長室ニ於ケル局部長會議ニ於テ松井參謀本部第二部長ハ現在ヲ以テ支那各軍ニ対スル和

ニ伴ハサルカ如ク又軍ノ統制ハ良好ナルモ兵器彈藥財力ノ欠乏甚シク為ニ山西、熱河、直隸方面ニ於テ退嬰的態度ニ出テサルヲ得サル次第ナルニ付此際少クトモ停戰休養ハ其希望スル所ナルヘシ

右和平勸告ハ英米仏ト協同シテ之ヲ為スコト最モ妙ナルモ日本単独ニテモ強ヒテ庄迫ヲ加フルコトナク単ニ上述ノ口実ヲ与フル意味ニ於テ輕ク勸告スレハ可ナルヘシ云々

右ニ對シ木村局長ハ左ノ如キ趣旨ニテ反對セリ

一、和平勸告ナルモノハ從來屢試ミラレ而モ最モ各方面ノ首肯シ得ル好時機ヲ捕ヘタリト認メラレタル場合ニ於テモ其効果ナカリキ各軍閥ハ或ハ内心此上ノ戰意ナシトスルモ所謂外國ノ干渉ニ對シテハ民意迎合ノ為勸告ヲ拒絕スル傾向アルカ為外國側ヨリスル輕キ勸告ナルモノハ其効果甚タ疑ハシク又拒絕セラレタル場合ニ於テ列國ハ其面目ヲ失墜スルコト大ナルモノアリ之相當庄迫ヲ加フルノ覺悟ナクシテ輕々ニ和平勸告ヲ試ムヘカラサル所以ナリ

二、今日ノ情勢ヲ見ルニ列國殊ニ英米仏ノ如キハ混沌タル

支那政局カ如何ニ其終熄ヲ告クルカヲ冷静ニ傍觀セムト
スル方針ナルカ如ク関稅會議ノ終末ハ明ニ列國ノ此態度
ヲ示スモノト謂フヘク從ツテ今日列國ニ對シ協同和平勸
告ノ提議ヲ為スモ之ニ応セサルコト明白ナリ

次ニ日本カ单独ニ和平ノ勸告ヲ為スコトトセハ何等カノ
圧迫ヲ加フル丈ノ決心ナクシテ之ヲ為ス場合ニハ一、ニ
述ヘタル外日本ノ勸告ナルモノハ奉天側ノ窮境ヲ救ハン
トスル底意ニ出テタルモノニシテ右以外ニハ從來ノ不干
涉政策ヲ急變シテ和平勸告ニ出ツル理由ヲ發見スルニ苦
シムトノ邪推ヲ為スモノアルニ至ルヘシ加之日本ノ单独
勸告ナルトキハ仮ニ奉天側ハ容易ニ之ニ從フヘキモ吳佩
孚ハ却ツテ疑惑ノ眼ヲ以テ之ヲ見ルヘク西北軍ニ至リテ
ハ真向ヨリ之ニ反對スヘシ

故ニ苟モ和平勸告ヲ為ス以上ハ日本ノ誠意ヲ徹底セシム
ル為右勸告ニ從ハサルモノニ對シテ圧迫ヲ加フルコト必
要ナルヘシ

三、更ニ和平勸告ニ付根本的障害アリ即和平勸告ヲ為スモ
ノハ各方面ヲ満足セシムルニ足ル和平ノ条件ヲ考慮スル
必要アル処單ニ現状維持ノ儘ニテ停戦ヲ勸告スレハ最モ

窮ノ状態ニ陥ルコト明ナリ

要之松井部長從來ノ意見書ノ如ク支那ノ赤化、馮玉祥、
張作霖ノ滿州ニ於ケル衝突惹テハ日露再戰マテヲモ予想
シテ之ニ基ク和平勸告ニ至リテハ同氏ノ為ニ採ラサル所
ニシテ松井部長一個人トシテモ之ヲ為サレサルコト可然
云々

右論戰ニ對シ小林海軍軍務局長ハ木村局長ノ述ヘタル具
体的条件即地盤確定ノ方針立タスシテ和平勸告ヲナスコ
トハ徒勞ニ了ルヘシト述ヘ阿部陸軍軍務局長ハ假令輕キ
勸告ニシテモ張吳馮力之ニ応スルヤ否ヤヲ予メ確メスシ
テ之ヲ為スハ危險ナリ故ニ各方面カ果シテ列國側ヨリノ
輕キ勸告ニ依リ停戦ニ応スルヤ否ヤヲ知ル要アリ今直ニ
勸告ヲ行フコトハ時機尚早タルヲ免レズト述ヘタリ

於是松井部長ハ大体木村阿部両局長ノ意見ニ同感ニシテ
兎ニ角各方面ニ於テ勸告ニ從フノ意向ナルヤヲ探ル要ア
ル処張作霖側ハ松井町野顧問等ヲ通シ之ヲ探リ得ヘク吳
佩孚側ニ對シテハ適當ノ人物ヲシテ其意向ヲ探ラシメ得
ヘキモ西北軍ニ對シテハ其方法ナキニ付領事方面ヨリ其
意向ヲ確カムルノ方法ナキヤト質シタルニ對シ

不利ナル地位ニ在ルモノ即現在ノ状態ニテハ西北軍之
反對スヘク又公正ナル具体的条件ヲ考慮スルコトナラ
ハ馮、張、吳、孫等ノ地盤問題殊ニ直隸、山東及内蒙古
方面ニ於ケル勢力範圍ノ確立ヲ考慮セサルヘカラサル次
第ナル処現在誰カ能ク各方面ヲ満足シ得ル勢力範圍ノ確
立ヲ為シ得ルモノソ

四、最後ニ果シテ松井部長ノ言ノ如ク各軍閥ニ戰意ナク何
人カカ和平勸告ヲ為サハ之ニ応スル意思アリトセハ寧ロ
支那側ニ於テ之ヲ為スヘキ適當ナル有力団体ヲ求ムルコ
ト可然例ヘハ曩ニ馮ノ「クーデター」前後ニ於テ治安維持
ノ責任ヲ負ヒ大ニ一般ノ信頼ヲ博シタル王士珍、趙爾巽、
熊希齡等ノ如キ元老政治家ノ不偏不党ナル通電ニ依リ
和平勸告ヲ為スコト最モ適當ナルヘシ列國側ノ勸告ニ非
レハ各軍閥之ニ応セズト謂フハ信シ難シ蓋シ外國側ノ勸
告ヲ必要トスル最大ノ理由ハ列國ハ実力ヲ擁シ各勢力ヲ
圧迫シ得ル点ニ在リ斯ル実力使用ノ決心ナキ輕キ勸告ニ
至リテハ却テ列國ノ底意ヲ見透カサルル虞アリ況ヤ日本
单独ニ和平勸告ヲ為サハ各方面ノ拒絕ニ遭ヒタル際如何
ニシテ之ヨリ手ヲ引キ得ルヤ我方ノ威信立場ヲ無用ニ困

木村局長ハ張家口領事ハ勿論松室顧問ト雖モ公ノ資格ヲ
有スルヲ以テ右西北軍側ノ意向探知方ニ関与スルコトヲ
得ス由來西北軍側ハ疑惑ヲ以テ日本側ヲ見ツツアルカ故
ニ公ノ機關ニヨリ之ヲ為ストキハ真意ヲ吐カサルノミナ
ラス却テ我方ノ思ヒモヨラサル陰謀ト思ヒ込ミ好結果ヲ
得難カルヘシト述ヘタル処

松井部長ハ更ニ然ラハ馬伯援ヲシテ張之江辺ノ意向ヲ探
ラシメテハ如何張ハ元來奉天側トノ妥協ノ意ヲ洩シ居ル
關係モアリ先ツ其意向探知ニ着手スヘシト言ヘルニ依リ
木村局長ハ松井部長個人トシテ馬ヲ利用スルコトニハ異
存ナキモ唯吳々モ前ニ述ヘタル通り西北軍ノ邪推ヲ避ク
ル様努メラレタシト答ヘ置キタリ

(大正十五年八月十日木村局長述 井口記)

(付記一)

八月二日付中國時局對策ニ関スル松井石根參謀本部第二部長
意見並ビニ付屬書「情勢判斷」

大正十五年八月二日

支那時局對策ニ関スル意見 松井私見

「ソウエト」露國ノ支那國民軍及広東ニ對スル援助ハ五六

(欄外記入一)

月ノ交以来特ニ積極的トナリ之ヲ現状ニ放置センカ両者ノ關係ハ愈々深刻密接ノ度ヲ加ヘ遂ニ之ヲ分離スルコト不可能ナルニ至ルヘキノミナラス国民軍及広東軍ハ次第ニ其勢力圏ヲ拡張シテ支那全国ノ赤化の革命ヲ誘起シ其影響ハ必スヤ滿蒙ニ波及スヘク遂ニ帝國ノ黙視シ能ハサルノ事態ニ立ち到ルコトアルヘキ状勢ニ在ルコト別紙判断ノ如シ

対策

一、帝國政府ハ单独又ハ英米諸国ト協同シテ支那各方面軍憲ニ対シ和平の時局收拾ニ付好意的勸告ヲ行フ
二、帝國政府ハ非公式手段ニ依リ特ニ張作霖ニ警告ヲ与ヘ張ヲシテ一面具及閻等トノ了解ヲ求メタル上對国民軍攻勢作戰ヲ中止シ概テ現位置ニ於テ守勢ヲ執リ只管東三省ノ内政整理民力休養ニ専念セシメ他面速ニ国民軍中ノ穩健分子ニ対シ妥協ヲ策セシムルコト之カ為我出先文武官民ヲシテ非公式ニ斡旋セシム
尚上記政策変換ヲ条件トシ帝國ハ東三省ノ内政整理ヲ援助スル為吉会鉄道或ハ索倫鉄道若ハ右阿鉄道ノ敷設費ト共ニ若干ノ条件ノ下ニ千萬元乃至二千萬元程度ノ借款ニ

(欄外記入二)

事実ト認ム

今春国民軍ノ北京撤退以後露国ノ同軍及広東ニ対スル援助頗ル積極的トナリ殊ニ国民軍ニ対シ約一千万留程度ノ資金ト重砲ヲ含ム多数ノ兵器彈藥ヲ供給シアルハ事実ト認ム
露国軍隊ノ援助ニ関スル多数情報中少クモ二千ノ露兵カ六月中旬山西北部ニ到着シアリタルコトハ事実ナリ又露国騎兵二旅団(極東軍管区中ノモノナルカ如シ)カ外蒙古ニ到着シアリトノ情報ハ尚ホ疑問ヲ存スルモ寧ロ否定ノ資料ニ乏シ

二、国民軍ハ張、吳ノ北京會議後山西方面ノ攻勢作戰ヲ中止シ該方面ニ守勢ヲ取り七月初旬以来兵力ヲ懷來、宣化(南口陣地ノ後方)ニ集結中ナリ主戰派タル鹿鍾麟ハ精兵五万ヲ以テ機ヲ見テ北京方面ニ出撃スルノ意圖ヲ有ス綏遠甘肅方面ノ雜穀ヲ用フルハ軍隊ノ供養ニ差支ナキコト事実ナルカ如キモ物資ノ欠乏ニ苦ミアルコトハ争ハレズ又各將領間ノ意見一致ヲ欠キ軍隊ハ北京撤退當時ノ嚴肅ナル軍紀漸次弛緩ノ兆アルカ如ク部將中ニハ奉天ト妥協スルヲ可ナリトスルノ意見ヲ有スル者多シ是レ国民軍

応スルコト

三、帝國政府ハ英米諸国ヲ從憑シテ張吳連盟ノ議決ニ基キ速ニ堅固ナル政府ノ成立ニ協力シ其新政府ヲ承認シ關稅會議ノ再開其他ノ手段ニ依リ新政府ニ対シ精神的及物質的ノ援助ヲ与フ

(欄外記入三)

四、露国ノ国民軍援助ヲ困難ナラシムル為庫倫ニ日支(要スレハ英国其他ノ列強ヲ加フルモ可ナリ)兩國文武官ヨリ成ル連合視察員ヲ派遣シ少クモ半年乃至一年間駐在セシムルコト

(欄外記入四)

其他支那側ニ於テ露国ノ国民軍ニ対スル各種ノ援助ヲ杜絶スヘキ手段ヲ採ラシムルコト

(欄外記入五)

(付屬書)

情勢判断

一、「ソウエト」露国ノ對外政策ハ先ツ支那ヲ自国ト同一組織ニ革命シ然ル後徐ロニ世界革命ヲ企圖スルニ在リ從テ支那ノ革命ニ対スル決意ハ確乎不拔ノモノナリト判断ス外蒙古カ露国ノ画策ニヨリテ全然「ソウエト」式独立共和國トナリ殆ント其保護國ニ等シキ状態ニ變化シアルハ

(欄外記入六)

ト露国トノ關係一般支那人ノ反感ヲ買ヒ延テ支那一般ニ於ケル国民軍ノ立場ヲ悪化スルヲ患フレハナリ

三、露国ノ国民軍及広東援助ハ頗ル鞏固ナル決意ヲ有スルコト明白ニシテ馮玉祥、蔣介石ノ如キ自ラハ露国ヲ利用スルト考ヘアルモ時日ヲ重ヌルニ從ヒ關係益々密接トナリ將ニ離脱不可能ナルニ至ラムトス

馮ヲシテ或ル保障ノ下ニ露国ト關係ヲ断絶セシメ從テ国民軍ヲ露国ヨリ分離セシメントスルノ考案ハ馮及其部將ノ多クカ縱令之ヲ肯スルモ露国ノ執拗ナル政策ノ遂行ハ容易ニ之ヲ防止シ難シ

四、国民軍討伐ニ関スル張吳ノ諒解ハ相当鞏固ナリト認ムルモ兩者ノ命令ニ基ク部下軍隊ノ作戰行動ト相互ノ協同動作ハ頗ル不徹底ニシテ国民軍ヲ擊破スルノ能力ナキモノト判断ス

吳佩孚部下軍隊ノ軍紀及結束此上益々弛緩スルニ於テハ国民軍ノ一部方面(就中直隸軍方面)ニ対スル出撃ハ成

功ノ可能性ニ乏シカラス

湖南ニ於ケル唐生智軍ノ長沙占領ハ吳佩孚軍ヲ南方ニ牽制シテ国民軍ノ形勢ヲ有利ナラシメムトスル露国ノ企圖ノ実現ニ外ナラサルモ現状以上ノ發展ハ容易ナラサルヘシ

然レ共露国ノ財政的援助如何ニヨリテハ広東北伐軍ハ江西次テ福建方面ニモ活動スルニ至ルモノト見ルヲ至當トス

五、奉天票暴落ノ結果ハ東三省ノ下層民及下級官吏ニ苦痛ヲ与ヘ其程度甚シキニ至レハ遂ニ政治的危機ヲ胚胎スルノ危険アルモノト認ム然レ共今日ノ処奉天支那当局ハ奉票ノ下落ヲ以テ奉天財政ノ危機ヲ招来スルモノトハ思考シアラス

関内ノ戦事ニ今日以上直接間接ノ經費ヲ費消スルカ如キハ明ニ財政上ノ危機ヲ招来シ東三省内部ノ結束ヲ破壊スルノ危険少カラサルヲ認ム但シ現在直隸及多倫並熱河方面ニ駐屯シアル奉天軍ヲ東三省内ニ撤退セシムルコトハ必スシモ奉天財政ヲ救済スル所以ノ途ニアラス

(付箋)

乙、露国ノ支那ニ於ケル政治上ノ地位勢力ノ増進ヲ意味スルナラハ露国カ大戦前バルカン諸国ニ試ミタル陳腐ノ政策ニシテ其ノ結果ハ大戦ニ於テ示サレタル所ナリ

第二ニ和平勸告ハ武力干渉ノ覚悟ナキ限り不徹底ニ了ルヘシ Plus royaliste que le roi ノ譏ヲ受ケサルコト肝要ナリ

(欄外記入六)

破滅ノ要ナシ寧ロ京津方面ニ出テナバ所謂赤化ハ排色化スヘシ張馮呉孫四鼎立ノ状態トナラハ或ハ却テ勢力平衡相互牽制ニヨリ一時の安定ノ政情ヲ出現セム支那ノ統一ヲ急焦ニ策セムトシ終ニ外国ノ干渉援助ニ頼ラムトスルハ最危険ニシテ且功果最少シト信ス

(欄外記入七)

此ノ推定ノ基礎如何

(欄外記入八)

之レカ病源ナリ

編註 欄外記入一々四、六々八ハ木村亜細亞局長ノコメントニシテ、欄外記入五ハ幣原外務大臣ノ意見ト思料サレ

(付記二)

八月十二日中国時局対策ニ関スル松井參謀本部第一部長意見

支那時局対策意見

大正十五年八月十二日

松井少將

一 北京政府ト一般政況 一五六

大臣ノ意見御覽アリタシ

木村局長

勝(出淵次官サイン)

(欄外記入一)

上局ノ高見ヲ予メ承リタシ

局長會議ノ議題トシテ討論ノ積リナリ

木村亜細亞局長(印)

(欄外記入二)

和平勸告ハ一定ノ条件ヲ要ス其ノ基礎ハ各勢力ノ地盤問題決定ニアリ外国ノ忠告ニヨリテ決シ得ルヤ此ノ問題解決ノ機運ヲ問ハサルニ先チ勸告ハ一片ノ辭令ニ止マルヘシ輕々ニ断行スヘカラス

(欄外記入三)

張呉ノ連盟自昧カ初メヨリ不安定ナリ是又地盤問題カ禍根タリ

(欄外記入四)

之レハ既ニ実行中但シ真相ヲ調査ノ為

(欄外記入五)

右ハ支那ノ赤化の革命ノ虞アルカ故ニ之ヲ防止セムカ為支那ニ和平勸告ヲ為スヘシトノ議論ト認メラルル処
第一ニ赤化の革命トハ何ヲ意味スルヤ

甲、軍閥倒壊勞農等無産階級ノ政權篡奪ヲ意味スルナラハ西北边境ニ於テモ広東ニ於テモ未ダ斯ノ如キ革命ノ徵候見エス理想論トシテハ軍閥倒壊ハ支那国民一般ノ福祉ヲ増進スヘシ又事実ニ於テハ無産階級ノ政權篡奪ハ急ニ実現セラルルノ機会ナキニ似タリ

(欄外記入)

張作霖、吳佩孚等連合軍ノ国民軍攻撃ハ縦令南口陣地ニ於テ若干ノ成功ヲ収メ得ルトスルモ到底徹底的打撃ヲ与ヘ得ルノ見込ナク対峙久シキニ亘レハ東三省内部ニ於テ或ハ憂フヘキ形勢ヲ現出シ延テ帝國ノ対滿蒙政策上ニ重大ナル影響ヲ及ホスノ危険アルヲ以テ奉天側ヲシテ国民軍ト妥協シ保境安民、民力休養ノ消極政策ニ轉換セシムル如ク指導スルト共ニ支那各方面軍權トノ間ニ諸種ノ手段ニヨリ妥協ヲ促進セシムルヲ要ス

理由

一、国民軍ハ露国ノ有力ナル援助ヲ得テ相当ノ戦鬪力ヲ有シアリ其主力ヲ懷来宣化付近ニ集結シ機ヲ見テ攻勢ニ転スルノ企圖ヲ有ス然レトモ連合軍(張、呉、山東、山西ノ連合軍ヲ言フ以下同シ)ニ比シ兵力著シク劣勢ナルヲ以テ南口陣地ノ戦況不利トナリ又張家口平地ニ於テ攻勢ヲ取ルコト能ハサルニ於テハ恐ラク綏遠特別区及其以西ノ地区ニ退却スルナラン

二、連合軍ハ目下国民軍ヲ南口ノ陣地ニ攻撃中ニシテ奉軍方面ニ於テハ既ニ若干ノ成果ヲ収メアルカ如キモ吳佩孚軍及山西軍ニ至リテハ今後特別有利ナル形勢ノ展開シ来

ラサル限り真面目ナル攻撃実行ヲ期待シ難ク從テ各軍相互ノ戰術的協同動作不充分ニシテ能ク国民軍ノ主力ヲ張家口平地ニ捉ヘテ之ニ殲滅的打撃ヲ与フルコト至難ナルノミナラス国民軍ニシテ一度綏遠以西ニ退避スルトキハ徹底的打撃ヲ与フルコト愈々困難ナルヘシ

三、国民軍ハ綏遠以西ノ地区ニ退却シタル後ハ綏遠特別区、甘肅一帶ノ西北地区ニ於テ比較的安全ナル地盤ノ基礎ヲ固メタル後更ニ露國ノ援助ニヨリテ其勢力ヲ挽回シ広東、湖南方面ト相策応シ河南若ハ直隸方面ニ進出ヲ企図スルナラン

右ノ如キ場合ニ於テハ新疆省モ亦国民軍ノ勢力下ニ歸シ前記西北地区ト共ニ外蒙古同様「ソウエト」露國ノ屬領化スル可能性少カラス

四、以上ノ觀察ニ基キ奉天側ト將來ヲ考察スルニ同軍カ西北地区ニ於テ国民軍ニ徹底的打撃ヲ与ヘタル後保境安民ノ消極政策ニ移ラムトスル予テノ腹案ハ容易ニ之ヲ実行スルノ機會ヲ得ルコト能ハス斯クテ関内用兵期間ノ延長ハ東三省官民ヲシテ益々財政上ノ危険ヲ感セシメ或ハ露國ニ暗中活躍ノ機會ヲ与ヘ張ノ人氣ヲ愈々不良ナラシメ

防止スルヲ得ン乎

七、連合軍ト国民軍トノ妥協就中奉國兩軍ノ妥協ハ今日ニ於テハ左ノ如キ理由ニヨリ尚相当ノ可能性アリト判断ス

1、国民軍内部ニ於テハ露國トノ關係アルカ為國民一般ヨリ公敵視セラレ列國ノ同情ヲ失ヒ其立場漸次不利トナルノ状勢ニ鑑ミ奉天側ト妥協スルヲ有利トスル意見多キコト

2、連合軍ト国民軍トノ間ニハ既ニ或程度ノ連絡アリテ内密ニ妥協条件ヲ交換シタル形跡アルコト

尤モ呉佩孚ハ馮玉祥個人ノ怨仇ハ容易ニ融和シ難ク張作霖トシテハ呉佩孚トノ公約ヲ顧慮スル必要アルモ国民軍ニシテ露國トノ關係ヲ断絶スルニ於テハ国民軍討伐ハ其理由一応消滅スルコト

3、安福派一派ニハ馮玉祥及蔣介石ヲシテ露國トノ關係ヲ絶タシメタル上段祺瑞ノ傘下ニ馮、張、孫、蔣等ヲ連衡シ時局ヲ收拾セントスルノ画策アリ

国民党中穩健派ハ大体ニ於テ馮、張ノ妥協ヲ可能ナリト觀察シアルノミナラス右等一派中ニハ國奉妥協ノ為利用シ得ル人物少カラス

延テ東三省政權動搖ノ端緒トナルノ憂少カラス

山東軍ノ如キモ永ク對国民軍作戰ニ没頭シテ内ヲ顧ルノ邊ナキニ於テハ省内軍民兩政ノ刷新ハ容易ニ其緒ニ就カス元來未タ基礎鞏固ナラサル張宗昌ノ人氣ハ益々省民ノ間ニ失墜シ或ハ南京孫伝芳等ヲシテ乘スルノ機會ヲ得シムルコトナシト言フヘカラス

要スルニ對国民軍作戰ノ永續ハ奉天側ニ取リテ大ナル危険性ヲ有シ我對滿蒙政策上大ニ注意ヲ要スルモノト認ム

五、若シ夫レ国民軍ニシテ奉天軍ヲ擊破シテ北京付近ニ進出スルコトモアランニハ支那中原ノ形勢ハ頓ニ變化シ爾後ノ推移如何ハ遽ニ測リ知ルヲ得ス赤露ノ活動ハ此ニ一段ノ度ヲ加ヘ支那各方面ニ於ケル政治的社会的運動ニヨリ遂ニ極東ノ平和ヲ擾乱スルニ至ランコトヲ虞ル

六、故ニ東三省ノ立場ニ就テ觀レハ最近ノ機會ニ於テ全国民軍若クハ其一部ノ穩健分子ト妥協シテ作戰ヲ中止シ山東省ト共ニ可成速ニ民力休養保境安民ノ消極政策ニ轉換シ徐ロニ後図ヲ謀ルヲ得策トシ帝國ハ之ニ因テ滿蒙ニ於ケル利権ヲ安固ニシテ徐ロニ滿蒙政策ノ遂行ヲ図リ得ヘク由テ亦一時的ニモ支那ノ禍乱ヲ極限シテ赤露ノ侵略ヲ

4、国民軍ト露國トノ分離ハ事實容易ナララスト觀察セラ

ルルモ奉天、山西等ト妥協ノ見込立チ日本側ノ斡旋アルニ於テハ今日ノ所尚分離不可能ニアラスト考ヘラルルコト

5、国民軍カ南口陣地ヲ撤退シ奉天軍之ヲ占領シ得ルトキハ奉天軍トシテハ一先ツ当初ノ目的ヲ達スルコトトナリ此ニ消極政策ニ移ルノ好機會ヲ得ヘク又若シ南口陣地ノ攻撃成功セサル場合ニ於テハ奉天側ハ自ら作戰中止ノ必要ヲ覺ルナラン

(欄外記入)

先回ノ局長會議後改訂セル意見書

編註 本意見書ハ八月十三日松井少將ヨリ木村重細重局長ニ

送付サレタモノデア

一五七 八月十一日 在中國掘臨臨時代理公使ヨリ

多倫・南口方面ノ戰鬪二閱シ報告ノ件

第五一〇号 (八月十二日接受)

八月六日付張家口領事發本官宛機密第五八号

(一)多倫ハ四日午後國民軍ニテ奪還シ五日ハ多倫ノ東方三十支里ノ地点迄追撃セリト右ハ兵力充分ナラサル奉天軍カ

容易ニ多倫ヲ占領シタル勝ニ乗シテ南方攻撃軍トノ連絡
ナク深入リシタル結果ニ依ルモノノ如シ

(一) 南口方面ハ三十日以来強攻撃ヲ開始シ非常ノ激戦ニテ国
民軍此ノ一週間に約千人ノ負傷兵ヲ綏遠、包頭方面へ後
送シ死者ハ現地ニ埋葬セル模様ニシテ損害多大ナリ張家
口現在ノ部隊ハ衛兵ニ至ル迄繰リ出シ残り千人内外ナリ
諸種ノ情報ヲ綜合スルニ目下ノ状況持続スルニ於テハ向
フ二週間位ニシテ何等カ変化ヲ来スモノト観測セラル
(二) 七月二十三日庫倫発三十一日張家口ニ帰来セル運転手ヨ
リ得タル情報左ノ通り

自動車十四台中十二台ニハ機関銃用弾丸約三十六万發後
二台ニハ小銃三百五十挺ヲ積載シ来レリ目下庫倫ト平地
泉及当地間ノ交通ニハ西北官辺ノ自動車八十台之ニ当リ
主トシテ国民軍側ノ往來武器ノ輸送ニ從事シ一般商用ト
シテ使用殆トナシ

(四) 国民軍側ノ内話ニ依レハ南方全体ノ戦線ニ於テ敵ノ死傷
三千味方ノ死傷二千多倫方面一帯ニ於テ敵ノ死傷ハ無慮
三千捕虜七百我方死傷千五百ト称ス

第五三九号

往電第五一二号ニ関シ

(一) 西北ノ戦況ハ湖南方面ノ形勢ニ刺激セラレ最近急転ヲ見
ルニ至リ奉連軍ノ砲撃効ヲ奏シ十四日南口陥落ニ次テ懷
来モ田維勤軍ノ手ニ帰シ更ニ十七日張家口モ亦長驅セル
奉天軍ノ占領スル処トナリ国民軍ハ豊鎮ヨリ平地泉方面
ニ退却シ平地泉ヲ以テ第二ノ防禦陣地タラシメムトノ意
向ナルカ如シ

(二) 西北ノ戦争ハ奉連軍ノ為メ有利ニ展開シタリト雖南方ノ
形勢ハ頗ル重大トナリ呉ノ南下ヲ余儀ナクスルニ至リタ
ルヲ以テ呉ハ終ニ張家口占領ヲ以テ北方軍事ノ一段落ト
認メ二十一日中央問題並西北軍事ハ張作霖ニ一任シ呉軍
ハ之ヲ齎變元ノ統制ニ帰セシメタル上長辛店ヲ發シ保定
ニ向ヒ同地並鄭州ニ兩三日中滞在后帰漢ノ予定ニテ北伐
軍討滅後ニアラサレハ再ヒ北上セスト称シ居レリトノコ
トナリ

(三) 西北ニ於ケル今次ノ戦勝カ主トシテ奉天軍及直魯連軍ノ
功績ニ依リタル關係上奉天側ノ中央ニ対スル勢力ハ益々
顯著且露骨トナリ二十一日杜錫珪ノ辭職通電ヲ見ルニ至

一五八 八月十九日

在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ハ江西省ニ自己ノ勢力ヲ扶植スルコト
ヲ目途トシ保境安民ニ終始スル考ナル件

第七五号

往電第七〇号ニ関シ

孫伝芳ハ鄧如琢ノ要求モアリ一面呉佩孚ニ対シ協力ノ誠意
ヲ示シ其実此機ヲ利用シテ江西省ニ対シ完全ニ自己ノ勢力
ヲ扶植スル政治的意味合ヲ以テ愈々江蘇、安徽兩軍一部ヲ
兩日中九江ニ送ルニ決シ輸送ノ為招商局汽船二隻ヲ徵發
シ昨日当地ニ回航セシメタリ

猶孫ハ広東北伐軍ハ戰略上断シテ主力ヲ江西ニ向クルコト
能ハサルモノト高ヲ括リ從テ江西方面ニ於テハ結局戦争起
ラサルモノト觀察シ飽迄保境安民主義ニ終始セムトスル考
ナリ

北京、上海、奉天、漢口、九江、蕪湖、長沙、雲南、広東
へ転電シ杭州、天津、濟南、青島、福州、蘇州へ暗送セリ

一五九 八月二十四日

在中国堀臨時代理公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉天軍・直魯連軍ノ戦勝ニ関シ報告ノ件

リタルカ奉天側トシテモ目下ノ形勢ニ於テ内閣ヲ乗取ル
ハ徒ニ重責ヲ負フノミニシテ得ル処ナシト認メ潘復一派
ノ策動ヲ除キテハ其態度寧ろ消極的ニシテ鄭謙、于国銓
カ最近張其銜ト共ニ保定ニ急行シテ呉ニ面謁シタルハ此
間ノ消息ヲ伝フルモノノ如ク内閣ハ一部ノ改造ハ免レス
トスルモ南方戦局ニ急変ナキ限り大体当分居座ワルモノ
ト一般ニ観測セラレツツアリ
在支各領事へ転電セリ

一六〇 八月二十五日

在中国堀臨時代理公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍ノ敗勢濃厚ナル情勢報告ノ件

第五四一号

十四日張家口發本官宛電報第五七号

情報第一四号

国民軍側ヨリノ情報ニ依レハ貴地「ソヴェット」大使館
内ニ於テハ最近無線電信機ヲ設置シ当地無線局ト通信ヲ為
シ居レリト言フ当地国民軍大官連ノ家族ハ近日來統々西方
ニ避難シ近ク一週間に於テ国民軍勝敗ノ決スルモノノ
如ク何レニスルモ大変化アル見込

多倫ハ十二日奉軍ノ為ニ再ヒ占領セラレ宋哲元ハ十三日張北県迄引下リ副司令王鎮淮ハ逃亡シ大敗北ヲ演シタリ十二日以来沽源ハ激戰東方竜門、延慶モ同様ニシテ国民軍ハ兵數ノ不足ヲ感シ大体ニ於テ不利ナルモノノ如シ尤モ南口方面ハ優勢ニシテ殊ニ田維勤ノ部下ハ最近又投降シタル旅團アル模様ニシテ不利ナリト十三日督弁署ニ於テ非常會議ヲ開キ万一ノ場合ハ当地ヨリ緩遠ニ下ル決議ヲ為シタル趣ニシテ市民ハドサクサ紛レノ掠奪ヲ怖レ手蔓ヲ求メテ外国人家庭ニ避難ノ準備ヲ為スモ多シ官吏モ十三日以来動揺ヲ始メタリ当地停車場ハ十二日以来車輛ヲ集メ北京出發ヲ揚言シ居レルモ現在ノ狀況ニ於テハ退去準備ト觀測セラル

一六一 八月二十五日 在中國堀臨時代理公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張家口ハ奉天軍ノ到着ト共ニ平和回復セルモ

ナオ物情騒然タル旨報告ノ件

第五四五号

(八月二十六日接受)

二十一日付張家口発本官宛電報第六一号

数日間継続的ニ脅威ヲ感シタル掠奪難ハ十九日早朝奉天軍ノ到着ト共ニ過去リ同日午後ヨリ弗々開店ノ準備ヲ為スモ

派ノ活動ハ万里丸事件其他ヲ口実トシテ次第ニ熾烈ヲ加フル見込ニモアリ此際本官ヨリ孫伝芳ニ対スル取締要求上ノ参考トシテ日本紡績關係重要煽動者ノ氏名及住所至急御取調ノ上御郵送アリタク猶打合済ノ貴信ニ通大至急御送付ヲ請フ
大臣、北京へ転電セリ

一六三 八月二十八日

在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

丁士源ノ勸告ニヨリ張作霖方北京行ヲ再考ス

ル旨語リタル件

第二五九号

(八月二十九日接受)

往電第二五三号ニ関シ

張作霖ハ北京行ノ意有ルハ既電ノ通りナル処一昨二十六日鎌田ニモ張ハ同様来月十日頃北京行ノ意ヲ洩シタルカ目下在奉中ノ丁士源ハ痛ク張ノ北京行ハ不可ナリトナシ国民軍ノ潰走セルハ第二軍第三軍ニシテ鹿鍾麟等第一軍ハ軍ヲ完ウシテ平地泉方面ニ退却集団シ居リ奉軍側カ良ク彼等ヲ掃蕩シ得ルヤ疑無キ能ハス吳佩孚ハ勢極マレリト雖北京付近ニアル直軍ノ向背計リ難シ張今北京ニ至リテ論功行賞ヲ為

ノアリテ大イニ平和気分ヲ増シタルモ今後ハ戦勝ヲ誇ルル規則ナル兵隊乱暴時代トナリ些細ノ事ヨリ殴打無償徴発ニ類スル行動ニ出ツル難題或ハ廉売強制等ノ事態頻発シ或ハ捜査ノ名義ニテ乱暴スル等ニ依リ再ヒ随所ニ避難スルモノアリ加フルニ補給等ヲ異ニスル各種ノ軍隊ナレハ取締困難ナル事情モアリ当地内外人ハ一日モ速ニ新都統ノ就任ヲ希望セリ

二十日午後迄ニ当地ニ到着セル軍隊ハ郭ノ騎兵隊ヲ先頭トシテ陳歩兵旅王維城ノ師本部及譚慶林ノ部下一營等ニシテ万福麟(脱)到着ノ予定

一六二 八月二十六日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ニ対シ過激派取締要求ノタメ上海ニ於

ケル煽動者資料送付要請ノ件

第八三号

本官発在上海総領事宛電報第四九号

広東軍ノ北伐ハ軍事行動及赤化宣伝ノ両方法ヲ併用シ目下湖南ニ於ケル赤化宣伝ノ如キハ巧妙ヲ極メ居レリトノ情報モアリ北伐軍ノ成功ト否トニ拘ラス今後上海ニ於ケル過激

サハ張ニ対シ先ツ軍費ヲ要求スルモノハ味方ヨリモ直軍ナルヘク其ノ要求ニ応セサレハ背キ心セントスルモ資金無カル可ク故ニ北京ニ行クトスルモ十二月総稅務司ヨリ関稅余款一千万元ノ納入時期ヲ待チテ決行スルコト然ル可ク以上ハ段派タル自分ヨリ云フモ不便ナレハ町野ヲシテ張ニ云ハシムル手筈ニシタリ云々ト鎌田ニ洩シタル趣右ノ結果ナルカ昨日町野ハ張作霖ニ北京行ヲ思ヒ止ムル様説キタルニ張モ一応再考スヘント云ヘリト本官ニ語レリ
在支公使ニ転電セリ

一六四 八月二十八日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

大藏滿鐵理事ヘノ王永江ノ談話送付ノ件

付屬書 大藏公望ニ為シタル王永江氏ノ談話(八月二十日)

機密公第六七五号

(九月二日接受)

大正十五年八月二十八日

在奉天

総領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

王永江談話ニ関スル件

首題ノ件ニ関シ滿鉄大蔵理事ノ報告別紙写ノ通り何等御参考迄送付ス

本信写送付先 在支公使

(付屬書)

大蔵公望ニ為シタル王永江氏ノ談話(八月二十日)

(大正十五年八月二十六日付吉田総領事宛大蔵理事

来信別紙)

東三省ト張作霖ノ將來ニ関シテ曰ク、南口カ陥落シタ今日ハ、張作霖ニ取ツテ最モ重大ナ時期テアル。南口陥落セハ、国民軍ハ、張家口ヲモ支ヘ得スシテ綏遠方面ニ退却スルテアラウカ、之ニ対シ、張作霖ハ如何ナル方針ニ出ルテアラウカ。余ノ見ル所テハ、奉天軍ハ勝ニ乘シテ、綏遠攻略ヲ企ツルヤモ知レヌ。何トナレハ、奉天ノ軍部要人ハ、軍事の見解ヨリ、東三省ノ存立上、熱河、張家口及ヒ綏遠ノ三個ノ軍事特別区域ヲ、東三省ノ掌中ニ収メ置カネハナラヌト主張シテ居ルカラテアル。奉天軍カ張家口マテ進出シ、夫レ以上ノ追撃ハ行ハナイト言フコトニナツテモ、決シテ安心ハ出来ナイ。何トナレハ、夫レハ、張作霖カ他ノ

ノコトニ就イテハ、余ノ在職中、張作霖ヨリハ何等ノ話モナカツタカラ、之ハ恐ラク、某要人一人ノ計画テアツテ、張作霖ハ、或ハ此ノ問題ヲ全然知り居ラヌカモ知レヌ。洮昂鉄道ヲ齊々哈爾省城ニ延長スル件ニ関シテ曰ク、東支

ハ最モ必要ナコトテアル。露西亞ノ防害ニ遭遇スルコトハ勿論覚悟セネハナラヌカ、我ニ決心サヘアラハ、必ラス遂行シ得ラレル管テアル。敷設ノ方法等ニ就イテハ已ニ、吳俊陞氏ニ申シ含メ居リ、吳モ亦其ノ氣テ居ルカラ、必ラス実現出来ルモノト思フ。洮昂線敷設ノ際モ、再三露西亞側ヨリ抗議カアリ、奉天駐在ノ露国領事ノ如キハ、数回余ニ面会シテ苦情ヲ申入レタカ、余ハ自国ノ資金テ、自国ノ鉄道ヲ敷設スルノニ、何モ問題カナイテハナイカト云フ一点張リテ押シ通ウシタワケテアル。

日本ノ東三省開發ニ関シテ曰ク、日本トノ協力ニ依ツテ、東三省ヲ開發スルコトニハ全然同感テアルカ、只問題ハ、其ノ実行方法テアル。日本側トシテハ、鉄道ノ敷設ニセヨ、其ノ他ノ産業開發ニセヨ一時的ノ実権者ヲ相手トスルヨリモ、民意ニ重キヲ置キ、公正ナル弁法ニ依ツテ、貴我

方面ニ野心ヲ向ケ変ヘンカ為テアルカラテアル。即チ北京ノ政權ヲ奉天派ノ掌中ニ収メ、張自ラ大總統タランカ為テアル。

張作霖カ、若シモ、此ノ邪道ニ踏ミ入ルナラハ、彼ノ寿命ハ恐ラク一年ヲ出テヌテアラウ。張作霖及ヒ左右ノ者ハ、専心自己本位ノ行程ヲ進マントシ、他ヲ顧ミナイノテアルカラ南口陥落ヲ機会ニ、保境安民ニ入ルナトト言フコトハ、殆ント、有リ得ナイコトテアル。

奉天省ノ財政ハ、軍事行動ヲ中止セサル限り、救済ノ方法ハナイカ財政ハ如何ニ窮乏スルトモ、奉天票カ如何ニ暴落スルトモ、之カ為ニ、馬賊ノ横行ハ免レ難イトシテモ、叛乱的ノ事変カ起ルヤウナコトハナイト思フ。何トナレハ、最モ危険ナ、軍隊カ出払ツテ居リ巡警ハストライキ位ハヤツテモ、夫レ以上ノコトハヤリ得ナイカラテアル。若シ、張作霖カ、失脚スル場合カアリトスレハ、夫レハ、内部的ノモノテハナク、輕率妄動ニ依ル外部的ノモノテアラウ。張作霖ノ滿鉄平行線敷設計画ニ就イテノ新聞記事ニ関シテ曰ク、打虎山ヨリ洮南方面ニ鉄道ヲ敷設スルト言フ話ハ、昨年七月頃耳ニシタコトカアル丈テ、詳細ハ分ラヌカ、此

共同ノ利益ヲ増進スルコトカ必要ナリト思フ。日本側トシテハ、此ノ点ヲ特ニ注意スルコトカ必要テアルマイカト思ハレル。

一六五 九月一日 在南京森岡領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

北伐軍ニ対スル孫伝芳ノ態度ニ関シ報告ノ件

第九二号 (九月二日接受)

北伐軍ニ対スル孫伝芳ノ態度最近次第ニ硬化シ来リ居リタル処一兩日来吳佩孚ノ形勢愈不利トナリ武昌ノ守リ到底困難ト認メラルルニ至ルヤ孫ノ態度再ヒ軟化シ飽迄保境安民ヲ標榜シテ北伐軍カ江西省内ニ入ラサル限リ孫ノ軍隊ハ一兵ト雖湖北湖南ニ入ラサルニ決セリ劉參謀長カ本日本官ニ語レル処ニ依レハ武昌ノ陥落ハ単ニ時間ノ問題ト思ハレ呉佩孚ハ河南ニ退クニ至ルヘク赤化軍討伐ハ全国ノ問題ニテ独リ孫伝芳ノミカ此任ニ当ルヘキ筋合ニアラサルト同時ニ赤化軍ハ結局輿論ノ反対ニ依リ自然消滅スヘキ運命ナレハ東南五省トシテハ飽迄保境安民ニ終始スヘントノコトナリ北京、上海、漢口、九江、広東、奉天、長沙へ転電シ天津、濟南、青島、福州、蘇州、杭州、蕪湖へ暗送セリ

一六六 九月一日 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚武昌死守ノ為メ孫伝芳ニ援助懇請トノ
杜鎮守使ノ内報報告ノ件

第二三四号

(九月四日接受)

只今鎮守使ヨリノ内報ニ依レハ南軍愈々武昌ニ肉薄シ来レ
ル為吳佩孚ハ漢口ニ退却スルニ決シ直ニ実行ノ筈ニシテ今
後ハ河南ヨリノ増援軍ヲ以テ依然武昌ヲ死守シ南軍撃退ノ
方略ナリト

猶吳ヨリハ今夕趙恒惕ヲ南京ニ派遣シ孫伝芳ニ対シ積極的
援助方ヲ懇請セシムト

北京、南京、九江、長沙、広東へ転電セリ

一六七 九月二日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

武漢情勢ニ対スル孫伝芳ノ消極的態度ニ鑑ミ
劉宗紀ニ赤化取締方要求シタル旨報告ノ件

第九三号

(九月三日接受)

吳佩孚失敗シ武漢危険トナリタル折柄孫伝芳ノ態度愈々消
極ニ傾キ他人ノ勢力範圍ニハ一切干渉セサル事ニ決セル為

ムル能ハサルモ何レニセヨ時日ノ問題アラハ自分ノ考ニ
テハ露国ハ南方ニ日本ハ北方ニ友人ヲ有スル処英米ハ真
ノ友人ヲ有セサルニ依リ今回ノ如キ時局ノ發展ニ際シテ
ハ定メシ途方ニ暮ルヘキモ日本ノ實際的援助ナクシテハ
英米ハ何事モ為シ得サルヘシ南軍ハ長江筋迄出テ来ラハ
其上ハ積極的軍事行動ヲ執ラサルヘシ此際奉天系勢力ト
南方勢力ト直接境ヲ接スル結果南方カ反奉天政策ノ一手
段トシテ排日ノ行動ニ出ツルヤモ知レストノ杞憂ニ就テ
ハ南方カ大体自重シテ輕舉スルコトナシト信スルモノナ
ルカ若シモ張作霖側カ余リ不理解ナル態度ニ出ツルナラ
ハ南方モ如何ナル行動ヲ執ルヤモ測リ難キニ付日本ハ其
勢力ヲ利用シテ張ニ相当自制セシムルコト必要ナルヘク
是日本ノ利益ナリ

猶自分ハ今日ノ支那ハ南北両方ノ軍閥カ鋒ヲ収ムルコト
絶対ニ必要ナリト確信スルモノナルカ広東ト奉天トノ間
ニハ既ニ種々意見ノ交換行ハレツツアルモノノ如クナル
ニ依リ結局何等カノ形ニ於テ勢力ノ均衡ヲ保チ鋒ヲ収ム
ルコトトナルニアラスヤト思考ス

(二)自分ハ今度帰国シテ「チチェリン」ノ代理ヲスルコトト

メ今後国民党左傾派益々増長スヘク長江一帯ニ赤化運動ノ
火ノ手拳ル見込ミナルヲ以テ本官ハ今回上海總領事ノ供給
ニカカル在上海赤化機關及四罷業煽動者ノ「リスト」ヲ劉
宗紀ニ手交シ此上共敵重取締リヲ要求シタル処劉ハ東南五
省ノ関スル限り全責任ヲ以テ赤化取締リヲ敵ニスル考ヘナ
レハ今後共此種ノ情報ハ刻々提供アリタキ旨申出テタリ尚
孫ハ本二日限り当地軍官学校ヲ解散シテ学生全部ヲ隊付ト
ナシ一面江西防備ノ為メ江蘇ヨリ五万ノ兵ヲ送ル計画ヲ立
テ目下統々輸送中ナリ

北京、上海、漢口へ転電セリ

一六八 九月四日 在中国堀臨時代理公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国政局及ビ対日策ニ関スルカラハンソ連大

使談話報告ノ件

第五六八号

(九月五日接受)

往電第五六三号ニ関シ

三日「カラハン」往訪ノ際ニ於ケル同氏談話中御参考トモ
ナルヘキ諸点左ノ通り

(一)武昌陥落ニ就テハ自分ノ有スル報道ハ区々ニシテ未タ確

ナレリ然シ右ハ駐支大使ノ現職ノ儘ニテ行フヘク從テ北
京ニハ正式ノ後任者ハ来ラサルヘク差当リ「ピットナ
ー」又ハ在上海總領事カ代理大使ノ職ニ就クコトトナル
ヤモ知レス自分ハ船便アリ次第来週中ニ天津又ハ大連ヨ
リ上海ニ渡リ夫レヨリ浦潮ニ向フ心算ナルカ此機会ニ於
テ或ハ日本ヲ經由シ芳沢公使ニモ面会シ同時ニ日露兩國
ノ北滿州ニ於ケル利害調和問題及最近自分ニトリ不可解
ナル日本ノ組織的ナル反「ソヴィエット」宣伝問題ニ関
シ日本当局ト腹藏ナキ意見ノ交換ヲ行ヒタキ希望ヲ有セ
サルニアラス本国及日本ノ事情ニシテ之ヲ許スアラハ上
海着ノ上日本渡航ノ件ニ関シ在上海總領事ニ御協議スヘ
キヤモ知レス云々

猶「カラハン」ハ右会见ノ際滿州問題ニ言及シ露国ノ不平
ハ支那側カ北滿(東支)ヲ南滿ト同様ニ取扱ハサル点ニ在
リ且南滿モ早晚北滿ト同様ノ「トラブル」ヲ受クヘシ云々
ノ趣旨ヲ述ヘ居タルハ注意ヲ惹カレタリ
奉天、上海へ転電セリ

一六九 九月六日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛

在中國ソ連大使館宛本國政府ノ送金ニ関シ調

査方ノ件

機密第二四五号

在支露國大使館宛本國政府ヨリノ送金ニ関スル件

本件ニ関シ本年八月十四日在支帝國公使館付武官發參謀次長宛電報支第四八〇号ニ依レハ最近露國大使館ニ於テ本國政府ヨリ七十五萬弗ノ送金ヲ受ケ更ニ其ノ一半ヲ天津ニ送付セルコト確實ナル趣ナル処同大使館カ北京ノ如何ナル銀行ヲ經由シテ本件送金ノ受領並發送ヲ為シタルモノナリヤ等事情詳細当方参考迄承知致置度ニ付右可然御取調ノ上結果回報相煩度

一七〇 九月七日 在濟南藤田總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

國民軍及北伐軍ニ対スル張宗昌ノ意向ニ関

スル曲同豐ノ談話報告ノ件

第一〇七号 (九月八日接受)

九月五日天津ニ於テ張宗昌ト面談シ六日当地ニ帰來セル曲同豐ノ談ニ依レハ今回ノ西北方面ノ戰爭ニ於テモ連合軍側ニ於テハ小銃約六萬機関銃約三百其他多數ノ大砲彈藥等ヲ

揮トシテ九江ニ赴キ当分汽船生活ヲ為ス管ニテ岡村顧問モ同行ニ決セリ

右ニ関シ安徽、浙江、江蘇軍殆ト總動員ヲ行ヒ(陳調元モ孫ト同一行動ニ決セリ)留守守備トシテ陳儀、孟昭月及其部隊ヲ止メ其他ノ幹部ハ全部(以下脱)

北京、上海、奉天、天津、濟南、広東、漢口、九江へ転電シ蕪湖、蘇州、青島、長沙へ暗送セリ

一七二 九月九日 在南京森岡領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

革命軍トノ戦關ニ列強ノ不干渉ヲ希望スル旨

ノ孫伝芳ノ談話報告ノ件

第一〇四号 (九月十日接受)

孫伝芳本日本官ニ対シ自分ハ支那統一ノ第一歩トシテ各地有力者カ何レモ保境安民主義ニ依リ有力ナル地方分権制度ヲ確立セムコトヲ希望シ先ツ自ラ今日迄東南五省ノ保境安民ヲ実行シ來リタル処意外ニモ広東側ヨリ襲撃シ來リ不本意ニモ戦ヲ開クコトナレリ聞ク処ニ依レハ英米側ニ於テハ支那ノ時局不安定ヲ口実トシテ日本ヲ誘ヒ外交上或種ノ干渉ヲ試ミントノ議論有力トナリ居ル由ナルカ日本領事ハ

鹵獲シ國民軍ニ対シテハ殆ト徹底的ニ打撃ヲ与ヘタルヲ以

テ少クトモ茲二年間位ハ國民軍ノ再起難カルヘシトノコトナリ又広東軍ノ湖北進撃ニ関シテハ張宗昌モ之ヲ重大視シ若シ呉佩孚カ武漢ニ敗ルルニ至ラハ自ラ直魯連軍約十二萬位ヲ率ヒテ広東軍討伐ニ赴クヘク夫レカ為ニハ先ツ予メ孫伝芳ト充分意思ノ疏通ヲ計ル必要アルヲ以テ都合ニ依リテハ張自身孫伝芳ト会见シテ諒解ヲ遂クヘク此等ノ事情詳細張作霖ト協議ノ為張ハ五日天津發奉天ニ赴キタルトノコトナリ

猶張ハ張作霖ト協議終リ次第当地ニ帰り当分当地ニ於テ南方ノ形勢ヲ觀望スルコトトナルヘシト

一七一 九月八日 在南京森岡領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

北伐軍ニ対スル孫伝芳ノ宣戰布告ニ関シ報告

ノ件

第九九号 (九月九日接受)

昨七日北伐軍突然江西省萍鄉ニ侵入シタル為本八日孫伝芳ハ広東軍ニ対シ宣戰布告ノ通電ヲ發シ兩三日中孫自ラ總指

本件ニ関シ何等公式ノ情報ニ接シ居ラルルヤト申出テタルニ付本官ヨリ何等情報ナシト告ケタル処此際列強ハ飽迄無干渉ナラムコトヲ希望ストノ意ヲ仄カセリ

北京へ転電セリ

一七三 九月十日 在南京森岡領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳軍ノ作戰計畫ニ関スル岡村寧次軍事顧問ノ談話報告ノ件

第一〇五号

(九月十一日接受)

岡村顧問ノ談ニ依ルニ広東軍ノ先鋒少數萍鄉ニ侵入セル為メ五省軍ハ戦略上一時退却シ援軍ノ集中ヲ待チツツアリ修水方面ニ於テモ既ニ兩軍ノ間小衝突アリ孫ノ作戰ハ五省軍五万カ全部江西西部へ到着スルヲ待チ密集部隊ヲ作り萍鄉ヨリ鐵道線路ニ沿ヒ湖南黎陵ニ進出セントスル計畫ナルカ如ク大決戦ハ一ヶ月後ノ見込ニシテ孫ハ四川ヨリ劉湘北方ヨリ張宗昌ノ來援ヲ熱心ニ希望シ居レリトノコトナリ

北京、上海、漢口、濟南、奉天、天津へ転電シ、福州、九江、広東、青島、蘇州、杭州、長沙、蕪湖へ暗送セリ

一七四 九月十日

木村亜細亞局長會談
在本邦汪公使

中国政情ニ関スル木村亜細亞局長ト汪中国公

使トノ會談要領

支那時局ニ関スル汪公使木村亜細亞局長會談要領

(大正十五年九月)

大正十五年九月十日午後在本邦汪支那公使木村亜細亞局長ヲ来訪シ先ツ支那現在時局ノ甚重大ナルヲ伝ヘ万一広東軍カ勝利ヲ占メ北進シ終ニ北京ヲモ乗取リ中央政府ヲ組織スル様ノコトトモナラハ支那ノ事態ハ甚タ困窮スヘク其結果ハ列国就中日本ニトリ決シテ有利ノ事態ヲ發生スヘシト思考セラレス然ルニ最近確カナル筋ヨリノ報道ニ依レハ張作霖ト孫伝芳トノ間ニ充分話合付キ目下政局收拾ノ為先ツ鞏固ナル中央政府ヲ樹立スル要アル処從來支那ニ元首ヲ欠キ居リシヲ以テ現在ノ如キ紛糾事態ニ於テ如何ナル内閣出現スルモ常ニ動揺シテ定マラス現杜錫珪内閣ノ如キモ元首ノ存在セサル一種ノ委員制度ニ過キス而モ現内閣ハ吳佩孚ノ力ニ依ルモノナレハ其ノ倒潰ハ今ヤ時ノ問題トナレリ從テ此際張孫ノ結合力ニ依リ先ツ段祺瑞ノ出慮ヲ促シ之ヲ元首

ト定メ其下ニ孫宝琦又ハ梁士詒ノ内閣ヲ組織スルコトトシ右成立ノ上ハ四方ニ号令シテ時局安定ヲ計リ殊ニ広東討伐令ヲ發シテ人心ヲ統一スル計画アルモノノ如シ斯ル事態出現ノ場合日本政府ニ於テハ右段ノ出慮ニ對シ同情ヲ有セラシルヤ更ニ進ンテ民国十三年當時ノ如ク段ノ執政ヲ列国ニ於テ承認スルヤ右ニ関シ幣原大臣ノ意見ヲ問ハムト考ヘ居ル次第ナルカ其ノ前ニ友人トシテ木村局長ノ忌憚ナキ意見ヲ伺ヒタシト述ヘタルヲ以テ

木村局長ハ第一ニ伺ヒタキハ汪公使ノ所謂段政府擁立ノ計画ナルモノハ奉天ヨリ電報アリシモノナルヤ又ハ孫伝芳側ヨリ報道アリシ次第ナリヤト反問シタルニ

汪公使ハ奉天側並孫側ヨリ報道アリタルモ何レモ間接ニ来リタルモノナリト答ヘタルヲ以テ

木村局長ハ更ニ然ラハ自分ハ右報道ノ直接ノ「ソース」ハ天津ニ在リト想像スル処如何ト述ヘタルニ公使ハ然リト答ヘ局長ヨリ更ニ果シテ然ラハ右ハ從來屢々政變ノ度毎ニ暗中飛躍ヲ試ミタル安福派ノ計画ト思考セララルカ如何ト述ヘタルニ公使ハ正ニ然リト答ヘタリ茲ニ於テ木村局長ハ言ヲ更メテ

右ノ「ソース」ヨリノ計画ナラハ自分ハ友人トシテ汪公使ニ忠告シタシ今大臣ニ右ノ次第ヲ話スハ早計ナリ自分一個ノ考ヲ友人トシテ申上クレハ汪公使ノ話ハ原因ト結果トヲ顛倒シタルモノナリ支那ニ先ツ中央政府ヲ樹立シタル上時局ヲ安定セシムルコトハ不可能ニシテ大体ニ於テ時局安定ノ見込付キタル上即実力ヲ有スル二三者ノ間ニ一連合出来シ其カ相当ノ勢力トナリタル後其ノ擁護ノ下ニ鞏固ナル政府ノ樹立ヲ見ルカ順序ナリ然ルニ段カ出慮スレハ直ニ時局安定シ支那ノ有力者ノ結合ヲ齎スヘシトハ想像スル能ハス自分ノ見ル処ニ依レハ支那ノ時局ニシテ現在程混沌タルハナシ果シテ孫伝芳ト広東軍トハ真面目ニ戰爭スルヤ全ク不明ニシテ或ハ支那軍閥ノ慣用手段タル妥協ニ出ツルヤモ計ラレス又孫伝芳ト奉天側トノ間ニモ決シテ鞏固ナル結合ハ存在セスト察セラレ殊ニ從來ノ經過ニ徴スレハ張宗昌及孫伝芳即兩軍閥ノ先鋒ノ間ニハ勢力扶植上感情ノ衝突アリ又吳佩孚ト雖全然滅亡シタルニ非ス何時復活シ来ルヤモ計ラレス他方蔣介石軍モ其盛ナル宣伝ニ係ラス稍急進シ過キタル傾向アリ湖南広東間ノ連絡モ爾ク鞏固ナリトモ思ハレ

正ニ浮動的時代ナリ斯ル形勢ニ於テ如何ナル勢力ノ下ニ鞏固且永続性アル政府出来スルヤ最モ疑シ若シ夫レ段祺瑞ニ對シテハ自分ハ同情ヲ有シ支那ノ雜然タル政客中最モ人格英レタリト認メ居リ他日政局安定ノ場合ニハ衆望ノ歸スル処ハ段ナラスヤトモ考ヘ居レリ將來時局收拾セル場合少クトモ中央政府ノ上ニ看板トシテ成立ツルハ只今ノ所段ヲ措テ他ニナカルヘシ然ルニ形勢ノ變化全ク見付カサル現在ノ事態ニ於テ殊ニ未タ北京ニ於ケル失敗ノ瑕癥ニサルニ段ヲ擁立スルハ輕挙ト謂ハサルヘカラス段氏一個ニトリテモ右ハ取ラサル所ニテ自分カ仮ニ天津總領事ノ位置ニ在リ且吉田前總領事ノ如ク段ト昵懇ノ間柄ナラハ必スヤ幕下ノ小策士ノ言ニ動かサレズ此際最モ自重スヘキ時機ナルコトヲ忠告スルニ躊躇セサルヘシト縷説シタル処

汪公使ハ貴説御尤モナリ自分モ實ハ今段カ動クハ輕挙カト考エ居タル次第ナリ就テハ右貴局長ト談話ノ次第ハ只局長ト自分トノ友人間ノ私談トシテ此場限りノ事トセラレタク大臣並次官ニ對シテモ右伝達方御差控願度ト述ヘ談話ヲ終リタリ

(大正十五年九月十一日木村局長口述 土田記)

欄外付箋 大正十五年九月十一日汪公使幣原大臣ヲ來訪シ在支公使宛往電第... 号会谈ノ序ヲ以テ段祺瑞出慮ニ関スル大臣意見ヲ求メタルニ對シ幣原大臣ヨリ段出慮ノ如キハ現下ノ状勢上其機ニ非スト思考スル旨ヲ述ヘタリ

一七五 九月十一日 在奉天吉田總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

江南ノ狀況ニ對スル張作霖ノ意向ニ関シ報告ノ件

第二七七号

昨日夜張作霖ハ急ニ鎌田ヲ呼出シ実ハ松井ヲ東京ニ急派シ直接日本政府ニ相談センカトモ考ヘタルカ過日總領事ト江南ノ形勢ニ付話セル次第モアレハ一応其意見ヲ徵シ日本政府ニ電照方依頼ストテ左ノ要領ヲ以テ本官ニ伝ヘンコトヲ命セリ

本日英仏領事ハ北京駐在本国公使ノ電命ヲ齎ラシ前後シテ來訪、余(張)ニ對シ「目下呉佩孚軍ノ形勢非ニシテ漢口既ニ陥落シ揚子江一帯刻々ニ危險ニ瀕シツツアルヲ以テ至急入京シ今後ノ方針ヲ決定セラレタシ武器彈藥其他財政的援助ハ決シテ吝ム所ニアラス云々」ノ談話ヲナシタルカ余

第二七八号

往電第二七七号ニ関シ

十一日峰谷ヲシテ英仏領事ニ就キ尋ネシメタル処英國領事ハ右会见ハ事實ナルカ其ノ節張ヨリ最近漢口ニ於ケル広東軍ノ外国船攻撃ヲ指摘シ其ノ際外国側共同ニテ赤化軍ノ排斥行為ニ備フルノ正当ナルヘキヲ説キタルモ自分ヨリ積極的張援助ニ付話シタルコトナシ又北京ヨリ別段其ノ種ノ訓令ニ接セスト又仏國領事ハ昨日張ノ希望ニ依リ英國領事ト共ニ張ヲ往訪シタル処張ハ最近漢口方面ニ於ケル事態ヲ諒解ノ上此レカ收拾方ニ付北京公使ニ於テ奉軍側ニ助力ヲ与ヘラレンコトヲ同公使ヘ取次方希望シタルヲ以テ右ハ北京公使ヘ取次クヘシトテ分レタルカ察スル処右ハ奉天軍ノ南方討伐ハ赤化討滅以外他意ナキヲ示サントスルモノナルヘク別段具体的援助ニ付キ申出テタルコトナク仏國トシテモ為シ得ヘキ所ニアラス云々ト

一七七 九月十一日 在九江大和久領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

革命軍ノ外国艦船射撃ニ関シ領事団会議ニテ

一 北京政府ト一般政況 一七七 一七八

(張)トシテハ日本トノ關係最モ密接ナルヲ以テ予メ日本政府カ本問題ニ對シ如何ナル意向ヲ有スルカヲ確カムル必要アリ寧ロ此際芳沢公使カ主動者トナリ英仏兩國公使トノ間ニ商議セラレンコトヲ希望ス就テハ至急總領事ニ依頼シ日本政府ノ意向ヲ電照セラレタシ、余(張)ハ其結果ヲ待ツテ入京セン不取敢英人顧問「サットン」ヲシテ明日入京セシムル筈ナリ、愈々討伐ニ決定セハ武器彈藥ハ格別不自由ナキモ少クトモ千五百萬元乃至二千萬ノ軍費ヲ要ス但シ広東ヲ合併セ討伐スルコトナレハ四千万ノ準備ハ必要ト思フ兎ニ角之等ハ入京ノ上相談スル積リナリ若シ中央ニ於テ借款成立セハ担保ハ固ヨリ相当ノモノヲ提供スヘシ右ニ付梁士詒天津ニ在リテ余ノ入京ヲ待チ合セ居レリ目下英國商人ニテ借款ニ応スヘシト申込ミ來レルモノアリ嚮ニ仏國公使來奉ノ際ニモ借款云々ノ談話出テタリ云々

一七六 九月十一日 在奉天吉田總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

張作霖トノ会见ニ関スル英・仏領事ノ談話報告ノ件

協議ノ上、劉保安總司令ノ注意ヲ喚起スルニ

決シタル件

第二二二号

漢口發貴大臣宛電報

第二五一号

往電第二四九号(脱)セリ目下当地ト外間ノ電報全ク不通ナリ)ノ末段ニ関シ当方面ニ於テ外国艦船カ南軍ヨリ射撃ヲ受クルコト甚タシキニ依リ九月九日領事団會議ヲ開キ大要別電第二五二号ノ通保安總司令劉佐龍ヘ宛テ首席總領事ノ名ヲ以テ注意ヲ喚起スルコトトセリ委細公信本電モ無線ト九江經由ト二様ニ發電ス

一七八 九月十一日 在九江大和久領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

永野司令官唐生智ヲ訪問シ外國艦船射撃ニ對シ警告ヲ与エタル件

第二二六号(至急)

漢口發貴大臣宛電報第二五六号

(九月十二日接受)

一 北京政府ト一般政況 一七九 一八〇

上流各地ノ事態ニ顧ミ永野司令官本官ト協議ノ上九月十日唐生智ヲ訪問シ(副領事同伴)外国艦船射撃ノ不当ヲ説キ警告シタルニ唐ハ日本ニ対シテハ注意スヘキモ英国ニ対シテハ已ムヲ得ストノ口吻ヲ洩ラセリ(委細公信)当地ニ於ケル排英運動愈々露骨トナリ排日モ亦油断ナリ難シ英国ノ態度甚タ強硬ニシテ東洋艦隊旗艦「ホーキンス」本日入港セリ

本官ハ貴電第五八号御電訓全部ノ到着ヲ待チ行動致ス筈

一七九 九月十二日(着) 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外国艦船射撃ニツイテノ領事団ノ抗議覚書ニ

対シ劉保安總司令回答ノ件

第二五五号(至急)

往電第二五一号ニ関シ

劉ヨリ首席領事宛大要左ノ通回答アリタリ

自分ハ保安總司令ニシテ軍事行動ニ就キ責任ナン覚書ノ趣ハ移牒ノ手續ヲ執ルヘキモ交戦地帯内ニ於テ貴方ノ要求承認セラルルヤ否ヤ明言シ得ス
北京、上海へ暗送セリ

一八〇 九月十四日 在濟南藤田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉天軍ノ対北伐軍作戰計画ニ関スル張宗昌ノ

談話報告ノ件

第一〇八号 (九月十五日接受)

張督弁ハ九月十三日帰濟セリ十四日本官督弁往訪其談ニ依レハ(一)漢口方面ノ南軍討伐ニ対シ吳佩孚ヨリ援軍派遣ノ請求モアリ約八万ノ軍隊ヲ派遣スル予定ナリ褚玉璞ハ先鋒隊ヲ指揮シテ前線ニ赴ク可ク更ニ軍事上必要モアラハ自分(張)自ラ全軍ヲ指揮スル為出發ス可シ該軍隊ハ凡テ京漢線ニ依リ南下スヘク吳佩孚軍ノ殘軍及京漢線ノ交通状態ノ整理ヲ俟ツテ漸次出發スル事ナル可キモ出發ノ時日ハ未定ナリ(二)奉天ヨリ孫伝芳ノ許ニ赴キタル靳雲鵬ハ本日当地着孫伝芳ノ意見ヲ齎ラシタルカ右ニ依レハ孫ハ奉天派ト同一ノ行動ヲ執ル可ク(三)張作霖ハ不日入京スヘキモ内閣問題ニ関シテハ現在吳佩孚ノ不遇ノ際ニテモアリ暫ク手ヲ触ルル事ヲ見合ス可シ(四)本日ノ電報ニ吳佩孚ハ鄭州迄返却シタリトノ事ニテアリ又孫伝芳ノ軍隊モ果シテレタケ広東軍ニ対シ実力アルヤモ覺束ナキヲ以テ奉天側トシテ将来何レ

ニシテモ広東軍ト相對セサルヲ得サルニ至ル可シトノ事ナリ(在支公使、青島、奉天、天津、南京、漢口へ転電セリ)

一八一 九月十六日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳・張作霖關係ニ関スル靳雲鵬ノ談話報

告ノ件

第一六四号 (九月十七日接受)

南京ヨリ赴奉ノ途次当地ニ下車シタル靳雲鵬ハ十六日実相寺ヲ介シ奉天ト南京トノ諒解ハ充分出来タルニ付テハ張作霖及孫伝芳両方面ヨリノ勸告モアリ或ハ自分トシテ此際出馬ヲ決心スルコトアルヘキ処右様ノ場合日本政府ヨリ物質上ノ援助ハ固ヨリ期待セサルモ精神上ノ援助ヲ得ラルヘキヤ否ヤトテ本官ノ意向ヲ尋ネ来レルニ付政府ノ意向ハ固ヨリ承知セサルニ張、孫、吳等ノ提携ヲシテ誠心誠意行ハルルモノトスレハ日本トシテハ之ニ同情スヘキコトト想像スルモ張吳ノ連盟ナルモノモ甚タ怪シキモノナリシノミナラス今回ノ孫張ノ提携モ果シテ幾何ノ程度ニ信用スヘキモノナリヤヲ知ラス

一 北京政府ト一般政況 一八一 一八二

一八二 九月十六日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

時局ニ関スル黃郛ノ談話報告ノ件

機密第四五〇号 (九月二十三日接受)

大正十五年九月十六日

在天津

總領事 有田 八郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

黃郛ノ時局談

九月十五日黃郛ハ岡本副領事ニ対シ左ノ通り語レリ

一、國民軍トハ久シク交通ヲ絶チ居ルヲ以テ事情判明セサルモ馮玉祥ハ既ニ平地泉ニ帰来シ居ル旨伝聞セリ同軍ト

北伐軍トノ連契ニ基キ西北軍既ニ陝西ニ入込メリト伝ヘラルルモ事実ハ然ラス陝西ニハ国民第三軍駐屯シ居ルヲ以テ同軍トノ間ニ何等カノ連絡ヲ生シタルモノト思料ス西北軍諸將ノ人格高潔ニシテ苟モ侵ササル点ニ於テ蔣介石ト相通スルモノアリ蔣ハ自分ヨリ二期後ノ日本留学生ニシテ其為人ヲ熟知セリ彼ハ決シテ偉大或ハ有能ト称スヘキ種類ノ人物ニアラサルモ其清廉潔白ナル点ニ於テ学生等ノ渴仰ヲカチ得タリ将来モ相当ノ成功ヲ為スヘシト信スルモ武漢ヨリ更ニ黄河ヲ越ヘ北上スルカ如キ実力ナシト信ス

聊カ奇矯ニ類スト謂ハレンモ自分ハ将来適當ナル介在者アラハ蔣介石ト奉天派トハ相提携スルノ可能性充分アリト信ス何トナレハ曹錕、吳佩孚專横ヲ極メタル当時孫文、張作霖、段祺瑞三角同盟ヲ形成シタル当時ノ主張ハ依然蔣介石ニ於テ之カ衣鉢ヲ踏襲シ居リ彼ノ赤化乃至共產主義施行等ノ如キハ反对者ノ宣伝ニ過キス他方張作霖亦政治ノ公開ヲ主張シ連盟當時ノ主張ト何等カ格スル処ナキヲ以テナリ

援吳ノ件ニ就テハ単ニ声ヲ大ニスルニ過キスシテ奉天派

至急来訪シ呉ル様申来レルニ付同日午後三時仏國領事同道往訪セル処張作霖ハ漢口方面ノ形勢重大ニシテ赤化ノ勢侮ルヘカラス英仏ハ日本ヲモ誘ヒテ此際北伐軍ニ対シ干涉ヲ試ミラルル様希望スル旨申出テタリ依テ英國総領事ハ万県事件發生ノ為事端ヲ構ユルニ至リシモ右ヲ以テ広東事件若クハ支那赤化問題ト混同スヘカラス万県事件ハ全ク一地方問題ニシテ之ヲ以テ直ニ英吉利カ支那ノ内政ニ干涉スル意志ナリト解スヘカラスト言ヘルニ張ハ支那内政干涉ト云ハンヨリモ当面緊急ノ問題トシテ列國カ対策ヲ講スヘキモノト考フ兎ニ角在北京公使ニ自分ノ意見ヲ報告スル様希望スル意ヲ述ヘ尚 Sutton ヲシテ北京ニテ公使ニ直接談セシムヘシト云ヘリ右ニ付英國総領事ハ本官ニ一個ノ考ヘトシテ云ヘル広東軍ノ勢力發展ハ厄介至極ナル結果ヲ生スヘキカト憂フル次第ナリ此点ノミヨリスレハ張ヲ援ケテ広東軍ヲ抑ユル要アリトモ感スルカ目下張作霖ニ対シ在満干係問題ニ付テ苦情不勘第(一)京奉鐵道ニ関シ British China Corporation ハ約六百万以上ノ受取勘定滞リアリ自分ハ張作霖ニ対シ其全部ヲ直ニ支払ヘトハ言ハサルモ毎月百万弗内外ノ収入ヲ京奉鐵道ヨリ得居ル今日其幾分ニテモ債務支払ニ

トシテハ此好機ヲ利用シテ吳佩孚ヲ再ヒ起ツ能ハサルニ至ラシムルノ方針ヲ取ルモノト確信ス孫伝芳ノ連盟空中樓閣ニ等シキハ衆人ノ一致スル処既ニ江西ノ方本仁去リ浙江ノ夏超亦態度曖昧ニシテ到底北伐軍ノ敵ニ非ス云々

写送付先 在支公使、奉天、漢口、濟南、南京

一八三 九月十七日 在奉天吉田総領事ヨリ 幣原外務大臣宛

英國総領事ト張作霖トノ会谈内容ニ関シ報告

ノ件

機密公第七三二号 (九月二十二日接受)

大正十五年九月十七日

在奉天

総領事 吉田 茂 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

英國総領事ト会谈ノ件

往電第二七八号ニ関シ蜂谷領事当地英國総領事ト会谈後九月十四日英國総領事ヲ往訪シ張作霖トノ会见始末ヲ尋ネタル処去九月十日朝張作霖ヨリ Sutton ヲ以テ仏領事ト共ニ

充当セサヤト云フモ張之ヲ聴カス

第(一)、監稅差押ハ周知ノ事実ナルカ之ヲ抗議スレハ広東ノ例ヲ引キテ応諾セス

第(二)、開濼炭坑ハ其所有貨車ヲ以テ運炭シ居レルカ近時京奉鐵道ハ運賃ヲ引上ケタル結果開濼炭坑ノ運炭料金ヲ値上ケ要求シツツアリ同炭坑ノ運賃料金ニハ取極メアリ値上ハ右取極違反ナレハ目下交渉行惱中ナルカ British China Corporation ニ対スル債務ノ支払ニ運炭料金値上ニヨル鐵道増収ヲ充当スト云フナレハ炭坑側モ亦讓歩ノ余地アルヘキモ支那側ハ之サヘ考慮スル意向モナシ

第四、英米トラスト煙草会社ハ之迄月々七万弗以上ノ収入ヲ上海ニ向ケ輸送シ居リタルカ例ノ現大洋ニ対スル奉票公定相場ヲ定メタル為忽チ同会社ノ煙草売行ニ影響シ今日ハ上海ニ送金スヘキ収益ナキニ到レリ依テ張作霖ニ抗議セル処先ツ其内何等カノ方法ヲ講スヘシトノミ云ヒテ本件未解決ナリ

奉天ノ財政ハ何トカセサルヘカラス全ク自分一己ノ考ヘニテハ英國資本家ハ奉天側ニ屬スル山海関以東奉天間ノ鐵道ヲ放棄スルモ可ナリトナスヘケレハ之ヲ抵当トシテ日本カ

借款ニ応シ奉天財政整理ニ当リテハ如何ト思フ云々
以上ハ本官ヘノ打明話ナレハ其一部ハ公文報告トシテニ非
ラスシテ御含迄ニ申進ス

本信写送付先 在支公使

一八四 九月十八日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

独力デモ北伐軍ニ対シ勝算十分ナリトノ孫伝

芳軍作戦主任ノ岡村顧問ヘノ談話報告ノ件

第一一一号

(九月十九日接受)

目下五省連軍及北伐軍対陣並ニ交戦状況ヲ見ルニ陳調元、
王普等ノ安徽軍ハ湖北省武穴及興國ニケ所ニ集中シテ葉開
鑫ノ残兵ト合シ武漢ニ進軍ノ勢ヲ示シ修水方面ニ進入シ来
レル北伐軍約一万ニ対シテハ盧香亭、謝鴻勳、顏景崇等ノ
部下ノ一部分ヲ以テ去ル十日以來要撃ヲ加ヘ北伐軍敗退中
ナルト同時ニ萍鄉ヨリ進軍シ来レル北伐軍二万ニ対シテハ
鄧如琢ノ江西軍ヲ袁州ニ集中シテ之ヲ防禦シ五省軍ノ主力
ハ目下九江南昌間ニ配備シテ来ルヘキ大決戦ニ備ヘツツア
ル処江西南部方面ハ遠隔険僻ノ地方トテ全然度外視スル方
針ナリ五省軍側ノ策戦主任ハ曾テ吳佩孚ノ參謀長タリシ蔣

在九江領事発本官宛電報

第七号

外務大臣ヘ転電アリタシ

本日夕方当地交渉員来訪内話ニ依レハ朱培德ノ南軍猛撃シ
テ高安ヲ占領シ修水亦南軍ニ占領セラレタリト連軍側ハ鄧
俊彦ノ軍隊ヲ本日千名南昌ニ派遣シ猶該軍九江ニ着次第南
昌方面ニ輸送ノ筈
南潯線ハ本日ヨリ全然軍隊輸送ニ専用セラレ南軍カスモ輿
地ニ侵入シタルニ拘ラス南昌以南ニ在ル江西軍ニ激戦シタ
ル模様ナキヨリ察スルニ彼ハ戦意ナキモノト思ハル
北京、漢口、南京、大臣ヘ転電セリ

一八六 九月二十日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ハ独力北伐軍ニ当タリ主力ヲ武昌ニ向

ケルニ決シタル模様ナル旨報告ノ件

第一一四号

往電第一一三号ニ関シ

岡村顧問ノ談其ノ他ノ情報ヲ総合スルニ形勢刻々切迫シ孫
伝芳ハ独力ニテ北伐軍ニ当ルノ余儀ナキニ至リタルト劉玉

一 北京政府ト一般政況 一八六 一八七

方震ニシテ南京ニ於テ画策中ナルカ、今後五省軍ノ主力ヲ
武昌援助ノ為湖北ニ送ルヘキヤ將又萍鄉方面ヨリ湖南ニ押
出ス可キヤノ問題ニ関シテハ奉天側トノ合作交渉未解決ナ
ル為方針決定ヲ見ルニ至ラス蔣方震カ岡村顧問ニ語りタル
処ニ依レハ万県事件ニ関シ英國側カ此上強硬ナル態度ニ出
ルニ於テハ広東軍ノ利スル所トナリ長江一帯ニ於ケル排英
ト広東軍ノ宣伝トカ結合シテ孫伝芳ニ不利ナル形勢ヲ誘致
スルニ至ルナキヲ保セサルモ単ニ軍事的見地ヨリスレハ五
省軍ハ仮令奉天側ノ援助ナクトモ単独ニテ勝算充分ナリト
ノコトナリ尚孫ノ九江行ハ此際總司令カ南京ヲ離ルル事ハ
奉天側ト合作交渉其他内部ノ統御上不利利益ナリトノ議論有
カトナリ当分無期延期トナレリ

北京、奉天、天津、濟南、漢口、上海、広東、福州、九江
ヘ転電シ長沙、青島、成都、杭州、蕪湖ヘ暗送セリ

一八五 九月十九日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

江西軍ニ戦意ナク北伐軍ノ進撃急ナル旨報告

ノ件

第二七二号

春ヨリ再三悲痛ナル武昌救援ノ要求アル為メ五省軍ハ従来
ノ戰略ヲ一変シ江西ニ於テハ消極的ニ九江南昌及南潯鐵道
ヲ保持スルニ止メ此ノ際速ニ主力ヲ纏メテ武昌ニ向ケ突撃
スルニ決シタルカ如ク自然兩軍ノ大戦争ハ湖北ニ行ハルル
見込ニテ其ノ時期ハ月末頃ノ予想ナリ

北京、上海、漢口、九江、蕪湖ヘ転電シ奉天、天津、広
東、福州、蘇州、杭州、長沙ヘ暗送セリ

一八七 九月二十日 在漢口高尾總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚ハ捕虜トナリ敗残軍ハ武装解除サレタ

ル旨ノ郭沫若ノ談話報告ノ件

第二八二号

(九月二十一日接受)

革命軍總司令部宣伝科長郭沫若(上海ニ於テ雜誌「創造」
ノ主幹ナリシコトアリ)直話ニ依レハ十九日当地来着ノ河
南樊鍾秀ノ参議及副官長ノ報告ニ吳佩孚ノ軍隊中一師一旅
信陽ニ於テ建国予軍樊鍾秀ノ革命軍ニ内応シ吳佩孚ハ捕虜
トナリ敗残軍隊ハ武装解除セラレ約三百輛ノ車輛及二十台
ノ機關車ヲ鹵獲セリトノコトナリ

北京、上海、南京、広東、濟南、天津、奉天ヘ転電シ九

江、長沙、沙市、宜昌、重慶へ暗送セリ

一八八 九月二十四日 在上海矢田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ニ対シ中央政治ニ関与セザルヨウ警告

方王正廷ヨリ申出ノ件

第二八三号 (九月二十五日接受)

往電第二八二号ニ関シ

右会见後帰宅シタルニ王正廷本官ヲ待チ受ケ今回崔士傑ヲ
東亞興業ノ森氏ト共ニ東京ニ遣ス事トナリタルカ其ノ際出
淵次官ヲ訪問セシメ国民党ニ対スル日本政府ノ誤解ヲ釈カ
シムル考ナルカト前提シ張作霖カ郭松輪謀叛ノ際関東庁ヨ
リ露骨ナル援助ヲ与ヘタルハ一般支那人ノ疑ハサル処ニシ
テ日本政府カ如何ニ弁明スルモ此印象ヲ拭ヒ去ル事ハ不可
能ナリ今ヤ国民党カ国民多数ノ「サツポート」ヲ得テ支那
統一ノ革命ヲ企ツル際張作霖カ関内ニ出シヤバルニ於テハ
国民党ト水炭相容レサル以上必ス其ノ衝突ヲ免カレサルヘ
シ右ハ支那ノ為ハ勿論日本ノ為ニモ將又張自身ノ為ニモ極
メテ不本意ナル結果ヲ生スヘキハ予想ニ難カラサルニ付此
際日本政府ヨリ張ニ対シ今東三省ニ落付キ同地方ノ開發

九月十九日趙爾巽ハ西田書記官ニ対シ左ノ通り内話セリ

(一) 平和運動ニ関スル件

上海ニ於ケル唐紹儀等ノ発企セル平和運動ニ就テハ当地及
天津ニ於テ夫レ夫レ運動セルモノアルモ目下北伐軍ハ武漢
ヲ占領シ北ハ武勝関ニ迫リ東南ハ江西省ニ侵入シ頗ル優勢
ナルニ反シ吳佩孚軍益不利ナルヨリ孫伝芳モ愈北伐軍討伐
ノ態度ヲ決シ北方ニ於テハ張作霖張宗昌等カ声丈ケニテモ
吳佩孚孫伝芳ヲ援助スヘシト力キミ南北共双方内部ニ複雑
セル事情アルモ未タ戦闘中止ノ意思ナキ際ニ何等実力ヲ有
セス単ニ平和ノ通電ヤ議論ヲ發表シタリトテ何ノ役ニモ立
タス平和ハ一般国民ノ希望ニシテ自分ノ如キモ民国以来十
五年間内乱継続ノ紛擾ニ飽ケルヨリ元ヨリ翹望スル所ナル
モ平和ヲ唱フルニハ其時機アリ且平和ヲ主唱スル以上何レ
カ一方聞カサル場合ニ之ヲ制裁スル丈ケノ実力アル背景ヲ
要ス然ルニ今日ノ平和運動ニハ其実力ナシ依テ自分ハ今日
唱フルカ如キ平和運動ニハ俄カニ賛成セス平和通電ニ署名
方屢勧誘アルモ王士珍トモ相談ノ上之ヲ拒絶シ居レリ南北
双方カ戦争ニ疲カレ双方戦闘中止自覚ノ時機ニアラサレハ
平和運動ハ無効ナリ

繁榮ニ全力ヲ注キ中央政治ニ関与セサル様警告スル事ハ出
来ヌモノニヤ若シ張ニシテ右様ノ態度ヲ採ランカ国民党ハ
滿州迄其勢力ヲ伸張セント企ツル事ハ万ナカルヘシ云々ト
述ヘ大体「カラハン」ノ在支公使並ニ本官ニ対スル談話ノ
一節ト同一趣意ヲ布行セルカ右ハ「カラハン」ノ意見ニ基
クカ或ハ「カラハン」カ王正廷一派ニ動カサレタル結果ナ
ルヤ明ナラサルモ国民党ノ一部ニ此ノ運動ノ擡頭シツツ有
ルハ注目ニ値ス

在支公使、奉天へ転電セリ

一八九 九月二十四日 在中國堀臨時代理公使ヨリ
幣原外務大臣宛

和平運動、内閣問題、復辟ノ謠言等ニ関スル

趙爾巽ノ内話報告ノ件

機密第一〇九三号 (十月五日接受)

大正十五年九月二十四日

在支那

臨時代理公使 堀 義貴(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

時局ニ関スル趙爾巽ノ内話要領報告ノ件

北伐軍カ湖北ヲ占領シタリトテ蔣介石ノ実力ニハ限りアリ
現時ノ状態ハ細腕ヲ伸ハシテ指先ノミヲ頻リニ拮ケ居ルノ
ミ若シ北方ニシテ真ニ吳佩孚張作霖孫伝芳等カ十分ニ誠意
協力セハ北伐軍ノ討伐ハ差シテ難事ニアラサルモ中央政府
ハ単ニ形式ノミニテ実力ナク且北方ニハ統一スル首領ナキ
ト北方軍閥カ各自己ノ勢力擴張計リヲ念頭ニ置ケルヨリ各
自ノ軍隊内部已ニ数派ニ分カレ遂ニ自身ノ地盤スラ倒壊ス
ルノ運命ヲ来シ吳佩孚ノ如キモ何等自己ノ基本軍隊ナキニ
高言ヲ為スノミニ付遂ニ吳派軍隊ハ四分五裂トナレリ孫伝
芳張宗昌張作霖モ今日迄ノ如キ遣リ方ニテハ早晚吳ト同様
ノ運命トナルヘシ但シ蔣介石トテモ實際政治ヲ行フニ当リ
從來ノ如キ軍閥政治ヲ行ハンカ直ニ反对者起リ倒壊セラル
ヘキハ北方軍閥ト同様ナリ

(二) 内閣問題ニ関スル件

現時ノ内閣ハ名ノミニテ軍閥ノ傀儡ニ過キス杜総理ハ何等
ノ責任ヲ取ラス又責任ヲ取りタリトテ実行ノ能力ナキヨリ
早晚辭職ノ外ナキモ戦局ニ一段落ヲ告ケサル限り何人カ内
閣ヲ組織スルモ現在ノ状況ニテハ改善ノ望ナシ最近靳雲鵬
ハ張作霖張宗昌ト吳佩孚孫伝芳トノ連絡援助ニ尽力セルヨ

リ仲秋後ニハ靳總理タルヘシトノ説アリ靳自身ニ於テモ其色氣アルモ目下ノ如キ状態ニテ靳カ總理タリトテ何事カ出来ルヤ靳ハ嘗テ徐世昌大總統時代ニ總理トナリテ其ノ無能ヲ發揮シタル人物ナリ只奉天派トシテハ内閣ヲ組織スル人物ナキノミナラス吳佩孚ノ不遇ニ際シ突如トシテ奉天彩色濃厚ノ内閣ヲ組織スルコト不得策ナルヨリ杜總理辭職シテ不得止サル場合ニハ靳ニテモ可ナリ位ノ意向ナルヘシ又靳ノ次キニ梁士詒奉天系ヲ代表シテ總理タルヘシトノ説モアリ梁士詒自身ニ於テハ靳ノ總理トナリテ無能ヲ示シタル上ニテ自分カ其後任トナルヘシトノ考位ハ有スルナランモ梁ノ人物ニテハ俄カニ南北ニ声望ヲ保ツコト至難ナラン從ツテ戦局ニ一段落ヲ告ケサル限リ靳出テ次テ梁出テ内閣ヲ組織シタリトテ何等期待スルヲ得去リトテ何人カ適任カト云ヘハ全ク人物ナシト云フ状態ニ付杜愈辭職セハ暫時ノ間ハ現閣員中ニテ何人カカ總理代理トシテ殘影ヲ留ムルノ外ナク之ヲ要スルニ現時ハ未タ真正ナル内閣問題ヲ談スル時機ニアラス

(三)復辟ノ謠言ニ就テ

過般來一時何処トモナク京津間ニ復辟説ノ如何ニモ事實ノ(旧王都慶軍隊)ハ沙市方面ニ進出シタル第十軍(毅州軍長王天培)ノ一部カ龍華、興國ノ南軍ト二十三日沙市南方斛湖提及黄金口付近ニ於テ交戦シ終ニ之ヲ公安方面ニ撃退シテ湖南省境ニ庄迫シツツアリ沙市ハ目下北軍ニ依リ完全ニ治安維持セラレ居ル由

猶江西方面ノ孫伝芳ノ連軍其後何レモ有利ニ展開各地トモ南軍ヲ庄迫シ居ル模様ニシテ二十七日日本官ハ鄧演達ヲ訪問シタルニ同人モ夫レトナク南軍ノ不利ヲ物語リ假令今回ノ北伐ハ失敗ニ帰スルトモ主義ニ於テ成功ヲ収メ得ヘク今後トモ救国済民ノ為孫文ノ委託ニ依リテ最後迄努力スル心算ナリト幾分悲觀的口吻ヲ洩ラシ居タリ

一九一 九月二十八日(着)

在上海矢田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

温宗堯、孫伝芳ノ立場ニ関スル許交渉員ノ談

話報告ノ件

第二八八号

往電第二六七号ニ関シ

其後温宗堯日本政府ノ態度確メ方再三申出テ五月蠅カリシ

一 北京政府ト一般政況 一九一 一九二

如キ流言アリタルモ右ハ何等ノ根拠ナキ謠言ニ過キス蓋シ此ノ謠言ノ生シタルハ復辟ヲ常ニ主張セル康有為カ京津間ヲ往来シ且過日康カ張宗昌ト前後シテ奉天ニ赴キタルコトヨリ所謂旧軍閥ニ反対セルモノカ一寸復辟ノ風船玉ヲ吹キタルヲ世人ハ其風船玉ヲ見テ何等カ根拠アル説ノ如クニ感シタル迄ノコトナリ若シ今日ニ復辟ヲ断行スルカ如キ真ノ軍閥アラハ清朝ハ前ニ退位シ居ラス滿人ニ人物ナシ北方軍閥ニ人物ナシ何ニヨツテ復辟ヲ為シ得ルヤ要スルニ復辟説ハ北方旧軍閥倒壊ノ一種謠言策戦ノ一端ノミ云々

尚復辟説ニ就テハ蒙藏院總裁喀爾沁王モ何等根拠ナキモノニシテ今日ニ於テ復辟ハ全然不可能ナリト内話セリ

本信写送付先 天津、奉天、上海、漢口、南京、各總領事及領事

一九〇 九月二十七日

在漢口高尾總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

武昌、沙市、江西方面ノ戦況ニツキ報告ノ件

第二九九号

(九月二十八日接受)

其後革命軍ハ断続的ニ武昌砲撃ヲ繰返シ居ルモ城兵頑強ニ死守シテ今ニ開城セス上流方面モ北軍ニ属スル湖北第七師

ニ付本官ハ物質的援助云々ハ到底問題トナラサル可シト明答ヲ与ヘ歸シタルカ二十七日交渉員許沅來訪ノ際同人ノ人格信頼スヘキモノアルノミナラス其ノ地位比較的中立ノ立場ニ在ルヲ以テ立入り質問シタルカ其ノ回答次ノ如シ

(一)温ハ淞滬警察厅长ノ叔父ニ当ルモ孫伝芳ノ旨ヲ受ケタリトハ信セラレス多分彼自身ノ利益ノ為若ハ国民党(彼ハ広東人ナリ)其他第三者ノ利益ノ為日本政府ノ方針ヲ探ラントスルモノナルヘシ武器彈藥ハ潤沢ニ用意サレ居ル管ナリ(二)孫伝芳ノ財政モ亦窮乏セス孫ハ前以テ用意セルモノノ如ク其ノ出発前財政厅长カ五十万弗ヲ提供シタルモ孫ハ今其ノ必要無シト斥ケタリト聞ケルノミナラス浙江省ヨリ未ダ軍資金ヲ取り居ラサル事實ニ徴シ坊間伝フル処ノ英國側ヨリ借款云々ハ何等根拠無シト信ス

在支公使、天津、奉天、漢口へ転電シ南京、蘇州、杭州へ暗送セリ

一九二 九月二十九日

在中国堀臨時代代理公使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

中国各地ノ戦況、政状等報告ノ件

第六二七号

(九月三十日接受)

往電第五三九号ニ関シ

(一)今次広東北伐軍ノ長江進出ハ支那革命運動ノ具体的表現トシテ独リ軍事的ノミナラス政治的及思想的ニ支那全土ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキハ申迄モナク一時破竹ノ勢ヲ以テ長沙ヲ屠リ漢口ヲ占領シ湖北一帯ヲ其手ニ収ムルト共ニ江西ニ侵入シ来タリタル北伐軍ハ武昌ノ力守ト孫伝芳援昌軍ノ南下ニ伴ヒ稍挫折ノ感アリ広東軍内部内訌ノ醞釀ト袁祖銘、劉湘、頼世瑛等異分子ノ向背如何ニ依リテハ蒋介石ノ地位ニ如何動揺ヲ生ス可キヤ予測シ難キ状態ナルト共ニ他方孫伝芳ト雖内部ニ幾多ノ異分子ヲ包含シ居リ南昌ノ奪回修水方面ノ戦勝亦必スシモ樂觀ヲ許ササル処蔣孫決戦ノ結果如何ハ支那将来ノ時局一般ニ重大ナル影響ヲ齎スモノトシテ内外人共ニ格段ノ注意ヲ払ヒ居レリ

(二)漸次視聽ヲ集メ来タレル他ノ方面ハ河南、陝西ノ国民軍側ト呉佩孚側トノ關係ナリ漢口ノ本拠ヲ失ヘル呉佩孚ハ田維勤、魏益三及王為蔚等ノ軍隊ノ主力ヲ信陽方面ニ集中シ靳雲鵬及田維勤ノ統帥ノ下ニ北伐軍ノ侵入ニ備ヘ其他ノ軍隊ハ京漢沿線及鄭州方面ニ配置シ河南ノ土匪及国民軍ノ陝西方面ヨリノ侵入ニ備ヘツツアルモ山東ヨリ京兆及直隸

談ヲ受ケサリシノミナラス實質上衛戍總司令ノ職務ハ空名トナリタルヲ以テ王ハ家人ノ病氣ニ事寄セ数日前請暇帰郷中呉軍ハ二十七日奉天軍ノ為メニ改編又ハ武装解除セラレ衛戍總司令トシテ于珍ノ就任ヲ見此処ニ京兆ハ完全ニ奉天軍ノ手ニ帰シタリ

他方幾度カ改組ヲ伝ヘラレタル杜内閣ハ仲秋節季ニ直面シテ他ニ引受手ナキ為辛シテ余命ヲ保チ顧維鈞等必死ノ努力ニ依リ漸ク約二三十萬元ヲ調達シテ節閔ヲ過シ居タルモ中央財政ハ全ク涸渴シ加之孫伝芳ノ対北伐軍宣戦ニ依リ此方面ヨリノ政費輸送ノ望絶ヘ且奉派裏面ノ庄迫益々甚シキヲ以テ杜ハ再ヒ二十日張作霖、呉佩孚、孫伝芳、閻錫山及張宗昌ノ五巨頭ニ宛テ辭職ノ通電ヲ發シタルカ張作霖ハ政治問題ハ呉ニ一任シアリトテ取合ハス呉ヨリハ戦事多難ノ際引續キ維持ノ任ニ當ラレタシトテ返電アリ孫閻ヨリモ慰撫セラレ閣員モ多クハ態度消極的ニテ代理總理ヲ引受クルモノナク閣議モ開カレス殆ト空虚ノ状態ニ在リ他方張、孫合作ニ奔走中ナル靳雲鵬ノ總理說、王士珍ノ臨時大總統說又ハ段祺瑞六ヶ月攝位說等伝ヘラルルモ目下ノ処固ヨリ問題トナラス而シテ奉天側ノ態度ハ上述セル如ク表面ハ飽迄中

ニ勢力ヲ伸張シ来タリタル張宗昌ノ直魯連軍ハ先ツ保定大名ヲ其手ニ収メントシ褚玉璞ハ既ニ同方面ノ知事ヲ任命シ且最近南口攻撃ニ於ケル戦功アリシ王棟ヲシテ呉佩孚援助ノ名目ノ下ニ京漢北段沿線ノ守備ニ當ラシメントシツツアル趣ナルヲ以テ直隸全省ハ結局奉天派ノ勢力下ニ歸スルノ形勢ヲ示シツツアリ他方西北方面ニ於テハ国民軍ノ後衛部隊タリシ韓復榘ハ山西軍ト妥協的降伏ヲナシテ綏遠ニ止マリ其他ノ国民軍ハ第一軍ハ甘肅ニ走リテ馮玉祥ノ統帥ニ歸シ第二、第三、第五ノ敗残部隊ハ陝西ニ入り目下于右任之カ指揮ニ當リ河南ノ樊鐘秀ト呼応シ呉軍牽制ト河南奪回ノ目的ヲ以テ北伐軍ト呼応シ河南ニ侵入セントシツツアルカ如シ而シテ靳ハ尚呉ニ衛ム所アリ靳、田間ノ關係亦不和ノ微アルヲ以テ今後ノ形勢如何ニ依リテハ兩者ノ向背亦計リ難ク呉ノ命令必スシモ其遵奉スル処ニ非サルヲ以テ呉ノ実勢力ハ甚タ薄弱ナル有様ナリ

(三)呉佩孚ノ声望右ノ如キヲ以テ中央ニ於ケル直隸派ノ勢力日ニ衰退シ居ル次第ニシテ王懷慶ハ奉天派特ニ張宗昌ノ為全然無視セラレ過般ノ戒嚴司令及副司令トシテ李壽金及王祺ノ任命ヲ見タル際ノ如キ衛戍總司令タル王懷慶ハ何等相

央政局不干涉ノ態度ヲ装ヒ居リ軍事上ノ実権ヲ其掌中ニ収メ裏面ニ於テ直隸派ヲ庄迫シ静ニ呉佩孚ノ没落ヲ待チ着々其勢力ヲ長江筋ニ伸ハサムトノ野望ヲ有シ目下中央ニ對シテハ表面何処迄モ放任主義ヲ執リ居ルヲ以テ結局杜内閣ハ有名無実ノ状態ニテ其不本意ナル存在ヲ統クル外ナカルヘク戦局大体結末ヲ見サル限り正式内閣ノ如キハ到底成立ノ見込ナシト觀察セラレツツアリ
在支各領事及香港ヘ転電セリ

一九三 十月一日 在南京森岡領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

孫軍ノ大治上陸ニヨリ南軍不利トナレル旨ノ

岡村顧問ノ内報報告ノ件

第一二三号 (十月二日接受)

二十九日付ヲ以テ岡村顧問ヨリ極秘トシテ本官ニ左ノ通内報アリタリ

孫軍ノ大治上陸ハ南軍ノ意外トセル処ニシテ南軍ハ為ニ重要ナル兵站線ヲ遮断セラレ自然陽新方面ノ戦争モ目下南軍ニ不利トナリ一面南昌、西南方面モ盧香亭ノ主力ヲ以テ三十日ヨリ南軍ニ對シ總攻撃ヲ開始スル筈ニテ各方面トモ孫

軍ノ勝利絶対確実トナレル為蔣介石ハ前途ヲ悲觀シ二十八日迄ニ二回電報ヲ以テ孫ニ和議ヲ申込ミ来レルカ孫ハ之ヲ許サス江西、湖北ヨリ北伐軍ヲ一掃スル決心ナリ吳佩孚ハ既ニ復讐ノ実力ヲ失ヒ奉天軍ノ出動又当分見込ミツカサルモ現在ノ形勢ニテハ孫ハ一切他ノ援助ヲ必要トセス

北京、上海、奉天、天津、濟南、漢口、福州、廣東へ転電シ杭州、重慶、宜昌、長沙へ暗送セリ

一九四 十月一日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

英国ガ孫伝芳ニ対シ軍需品ヲ供給シ居レリト
ノ風説ヲ劉宗紀ガ否定シタル件

第二二五号

(十月二日接受)

最近英国カ孫伝芳ニ軍需品ヲ供給シ居レリトノ風説盛ナル処右ニ関シ本日劉宗紀ハ本官ニ対シ孫ハ塩稅及準備金其他支那商ノ献金トニテ軍資金ニ不足無ク一厘一文ト雖モ外国ヨリ借款スル必要ナク右宣伝ハ北伐軍カ排英ト排孫トヲ結ヒツケントノ魂胆ヨリ捏造流布セル次第ナレハ誤解無キ様御承知ヲ乞フ旨申出タリ尚劉ハ蔣介石ヨリ南軍江西撤兵ヲ条件トシテ和議ヲ申込ミ来レルモ今トナリテ講和テモナカル

へク連軍ハ此ノ勢ニ乘シ徹底的ニ廣東赤軍ヲ撃破スル決心ナリト付言セリ

在支公使、上海、漢口、廣東へ転電シ奉天、天津、福州、杭州、汕頭、九江、長沙、濟南、青島へ暗送セリ

一九五 十月二日 在雲南中野領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

武漢方面ノ戦局ニ対スル唐繼堯ノ態度等ニ関

シ報告ノ件

機密公第一五〇号

(十月二十九日接受)

大正十五年十月二日

在雲南

領事代理 中野 勇吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

武漢方面戦局ニ対スル唐繼堯ノ態度ト張市政公所

督弁ノ中北部支那方面旅行ノ使命ニ関スル件

客月二十七日小官唐繼堯ヲ往訪ノ際用談ノ済ミタル序ヲ以テ武漢方面ノ戦局ニ対スル彼レノ意見ヲ敲キタルニ彼レハ蔣介石ノ戦勝ハ彼レノ力ニ因ルニ非スシテ宣伝ノ巧妙ナルト湖北省其他長江沿岸一般人カ吳佩孚ニ対シ反感ヲ抱ケル

ルヘント語りタル彼レノ肚裡ハ何ントカシテ武器ヲ手ニ入レ蔣ノ不在ニ乘シテ貴州及兩広方面ニ進出シタキ希望ヲ有スルヤニ解セラレタリ

仍テ曩日唐ノ秘書タリシコトアリ現在市政督弁ノ職ニ在リテ唐ノ信任浅カラスト称セラルル張維翰カ上海、南京、漢口、北京、奉天、等ニ市政視察ノ途ニ上ルコトナリタル内面ノ用向ハ孫伝芳、張作霖等トノ間ニ何等カノ密約ヲ遂ケシメントスルニ非スヤト揣摩セラレタルヲ以テ張督弁カ最近各地市政視察ノ命ヲ受ケテ出發スル由ナル処督弁ノ出張ハ市政調査以外更ニ重要ノ使命ヲ帯ヘル次第ナルヤト探ヲ入レタルニ唐ハ全然市政調査ニシテ時局トハ没交渉ナル旨ヲ答ヘタリ

然ル処昨一日夜諜報者ノ来レルヲ幸ヒ一昨三十日出発シタル張督弁ノ裏面ノ用件如何ヲ尋ネタルニ彼レハ「断言シ難キモ唐公ハ孫伝芳ト結ヒ吳佩孚ヲ敬遠シ孫ヲ介シテ張作霖並ニ閻錫山等ト連合シ赤化軍討伐ノ大旗ヲ翻シ廣東、江西、貴州方面ヲ併セテ技ニ覇ヲ唱ヘントスル宿望ヲ遂ケンカタメ信任厚キ張ヲ代表者トシテ派遣シタルモノナルヘシ」ト語レリ

ニ拘ハラス與自身ハ之ヲ悟ラス英国ノ後援ヲ頼リニシテ自己ノ力ヲ過信シ廣東北伐軍ヲ侮リタル結果ニ外ナラス去レハ蔣ハ自己ノ力ニヨリテ今日迄ノ勝利ヲ得タリト自信シ進ンテ孫伝芳ヲ討タント夢見ルニ於テハ再ヒ立ツ能ハサル破目ニ陥ルヘシ又吳カ蔣ヲ倒シ得ルヤハ疑問ナリ吳ト云ヘ蔣ト云ヘ將來大事ヲ遂ケ得ヘキ人物ニ非ス之ニ反シ孫ノ保境安民主義ハ遠慮ニ出ツルヲ以テ彼ノ地盤ハ堅固ニシテ拡大スヘシ張作霖ハ馮ヲ追ヒ勢力ヲ得ツツアルモ好運ニ幸ヒセラレツツ今日ニ及ヘル一介ノ武弁ナリ然ルニ自己ノ力ヲ過信シテ中央ノ政權ヲ収メントセハ必ス失墜スヘシ要スルニ武漢方面ノ戦局ハ今後幾多ノ曲折ヲ経サレハ已マサルヘシ云々ト述ヘタルニ付小官ハ聞ク所ニ依レハ閣下ノ許ニハ各方面ヨリ援助ヲ求ムル代表者又ハ電信等到着シ居レル由ナル処結局貴見如何ト尋ネタルニ雲南タケハ人望アリ吳、孫、蔣及国民党右傾派等ヨリ代表者又ハ電報ヲ以テ援助ヲ求メラレ居ルモ兵力モ少ク武器モ亦少数ニシテ財政豊カナラサルヲ以テ当中立ヲ守ル外ナキモ仮リ二十万ノ精兵ト五万ノ銃器ヲ入手スルヲ得ハ時局平定ノ為メ出動ヲ躊躇セサルヘシ去レト如何ナル場合ト雖モ赤軍援助ノ挙ニ出テサ

既述唐ノ談話ト右謀報者ノ談話ヲ綜合スルニ唐ハ或ハ右謀報者ノ想像スルカ如ク企ラミ居ルニ非サトモ臆測セラルルニ付右何等御参考迄報告申進ス

本信写送付先 在支代理公使、在奉天、漢口各總領事、在廣東總領事代理、在南京領事

一九六 十月十五日 在ソ連邦田中大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

中国情勢ニ関スルカラハントノ会谈ニツキ報告ノ件

第四四二号

(十月十六日接受)

十五日「カラハン」来訪種々談話ヲ交へタル内参考トスヘキ点左ノ通り

「カ」ハ支那ノ時局ハ予言困難ナルモ広東ト奉天トハ妥協可能ナルヘシ支那ノ急務ハ平和ニアリ内乱モ此辺ニテ一段落ヲ告ケ然ルヘシ広東軍ハ馮ト連合シ更ニ奉天側ヲ攻撃スヘシトノ説有ルモ之以上北方ニ進出スルノ意無キカ如シト述フ又蒙古問題ニ付テハ露國ノ同方面ニ於ケル勢力ハ數年前軍隊駐屯シ居タル時代ニ比シ劣レリト言ヒ本使カ日本カ視察員ヲ派遣セントスルモ蒙古ニテ承認セス自分トシテハ

ハ最早沢山ナリト述へ居タリ

一九七 十月十八日 在杭州清野領事代理ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

浙江独立ニ関スル夏超ノ態度報告ノ件

第三〇号

(十月十九日接受)

夏超ハ未タ其宣言ヲナササレトモ独立的態度ヲ執リタル次第ハ往電第二七号以下ノ通ナル所

(一)夏超及ヒ汪鎬基共ニ「今回ノ挙ハ単ニ浙江ノ利益保護ノ為ニ出テタルモノナレハ上海其他ノ地ヲ侵サントスル考ヘナク又未タ楓涇以東ニ一兵ヲモ出ササレトモ孫軍ハ当地上海間ノ交通ヲ阻止スル久シキニ亘レハ内外人及ヒ自己ノ利益防禦上武力ノ処置ヲ執ル必要モ来スヘシ」ト述へ而シテ孫系ノ軍隊ハ現ニ莘莊付近ニ防禦陣地ヲ敷キ居ルニ付上海付近ニ於テ砲火ヲ見ル可キ可能性アリ

(二)今回ノ挙ニ出ツル上ニ於テハ各方面ト如何ナル打合せアリタルヤトノ旨ヲ無遠慮ニ尋ネタルニ夏超ハ「呉佩孚張作霖トノ連絡關係ハ從來ノ通ナルカ孫ノ命ヲ奉スル軍隊ハ今ヤ五六千ニ過キササルニ対シ我ハ周鳳岐軍ヲ合スレハ約三万ト軍器彈藥豊富ナルカ故ニ何レノ援助ナクトモ事足ルトナ

常駐者ヲ置キテモ然ルヘシト考へ居レリ蒙古ノ鎖國的態度ハ日露國交ノ為不利ナリト述へタルニ對シ蒙古ハ外人ノ来ルヲ恐レ居レリ二三ヶ月前独逸新聞記者「ザルツマン」カ入蒙ヲ希望セルニ依リ紹介状ヲ与へ斡旋シタルモ同人ハ「ウェルフネウジンスク」ヨリ「キヤフタ」ニ至リタルモ遂ニ蒙古ハ入國ヲ阻止シ自分トシテモ甚タ迷惑シ蒙古側ニ聞キタルニ一人ノ外国人ヲ許サハ他ヲモ許ササルヘカラス目下一切外国人ノ来ルヲ欲セストノ回答ヲ得タリト言ヘルニ依リ本使ハ露國人ハ自由ニ来往スルニ非サト述へタルニ露國トハ經濟的其ノ他密接ノ關係有リ他ノ外国人ノ如ク露國人ヲ嫌ハスト弁解ス又張作霖ニ對シ日本政府ノ態度ハ批難スヘキ点無キモ日本ニ於ケル或分子ハ張ヲ援ケテ露國ニ對抗セシメツツアリ之レ日露國交ノ禍根ナリトテ曾テ「チチェリン」ノ述へタル如キ事ヲ述フ本使ハ疑惑ハオ互ニ存在スヘキモ張ノ為ニ利益ヲ享ケ居ルモノカ張ノ意ヲ迎ヘテ進言スル事ハ有勝ノ事ニテ斯ル事ヲ日本一般ノ意志ノ如ク誤解セサルヲ要ストノ意ヲ以テ応酬セリ

尚「カ」ハ「チチェリン」ハ健康上休養ヲ要スルニ付暫時当地ニ留マル事トナルヘク其ノ後ノ事ハ不明ナルモ支那行シ「山東軍ハ必ス此機會ニ南京ヲ奪フヘシ」ト言ヒ又「呉佩孚ヲ売レリ」トノ事ヲ其罪惡ノ一ニ數ヘテ孫ヲ罵リ其他呉佩孚崇拜的ノ言辞今尚彼ノ口ヨリ出ツルニ鑑ミ彼ハ現在ニ於テモ呉及ヒ奉天側ト何等カノ諒解アルモノト思考セラ

ル (三)夏超ノ呉佩孚ニ對スル態度右ノ如ク且ツ彼ハ嘗テ劉玉春ヘノ通信取次方ヲ小官ニ依頼セシ事(婉曲ニ拒絕シ置ケリ)又彼ハ「呉佩孚モ最近河南武昌間ニ南京アルコトヲ悟レル模様ナリ」ト語リタル事其他ノ消息ヨリ推察スルニ今回ノ挙ニ関スル彼ノ決心ハ既ニ武昌陥落シタル以上ハ孫ヲ助クル必要ナシ然モ一方江西ノ戰況ニ鑑ミ今ニ於テ孫トノ關係ヲ絶タサレハ南軍ヲ敵トシテ浙江ニ迎フル事トモナルヘク孫ト蔣トヲ相闘ハシメ我等ハ圏外ニ於テ之ヲ傍觀スルニ如カストノ考ヘヨリ出テタルモノノ如シ

(四)但シ夏ハ蔣介石ト国民党ノ勢力拡大セル場合ヲ考へ其惡感情ヲ買フハ得策ニアラストシ相当苦心シ居ルモノノ如ク嘗テ孫伝芳ノ命ニ依リテ封鎖シタル当地国民党支部ハ昨日ヨリ又其ノ看板ヲ掲ケタルモ之ヲ黙過シ居リ國民黨第十八軍々長ニ任セラレタルニ對シテハ其返答ニ困リ居ル模様ニ

テ此ノ点ニ関シ汪參謀長ハ「夏超ハ吳佩孚トノ從來ノ關係モ有ルニ依リ蔣介石ノ申込ヲ諾スヘキヤ否ヤ頗ル迷ヒ居ル次第ナルカ浙江ノ利益ヲ保護シ徳安ヲ維持スル上ニ於テハ心ナラスモ広東側ト握手シ或ハ其ノ軍隊ノ当省通過ヲ許サルヘカラサル事モ亦已ムヲ得サルヘシ」ト語り夏超自身モ「蔣介石トハ面識無キモ同郷ノ關係ヨリシテ協議纏ルヘシ」トナシ又「彼ハ決シテ共產主義者ニ非ス彼ハ英國ニ對シ恨ヲ抱キ居ルモ日米ニ對シテハ寧ロ好感情ヲ有ス」ト小官ニ對シテ弁護セリ故ニ結局右軍長ニ就任スル事トナルヘキモ而モ未タ広東側ノ政策ニ共鳴セルモノトナスヘカラサルニ似タリ

(四)夏超カ未タ浙江獨立ノ宣言ヲ為ササルハ前頭軍長ニ就任スヘキヤ否ヤニ依リテ其ノ宣言ノ内容ヲ異ニスル必要有ルニ依ルモノナルヘシ

(六)今次中支動亂ハ從來ノ軍閥ノ争鬪ト其ノ性質ヲ異ニシ居ルモノト思考セラルルモ之ニ對スル我方ノ態度ニ関シテハ未タ何等ノ御訓令ヲ拜セサルカ在上海矢田總領事ノ意見(閣下宛第二六〇八号後段)ニ同意セラルル処幸ニシテ夏超及汪鎬基トハ數年ノ親交有リ夏超ハ軍長就任ノ可否ニ関

已ムヲ得サルニ至ル迄ハ現制度ヲ維持シ「保安總司令」ノ名義モ用ヒス省長ノ名ニ於テ万事ヲ処理シ若シ必要有ラハ「浙江ノ自治」ヲ宣布スル決心ナル旨ヲ内話セリ然レトモ広東政府ノ特派員ト称スル馬叙倫許宝駒等其ノ他国民党員ハナルヘク早く青天白日旗ヲ掲ケシメント焦リ夏超ニ對シテハ種々ノ威脅ヲ試ミ居リ昨日右軍長就任延期ノ口実トナサンカ為地方紳士連ヲシテ省議會ニ於テ「自治」ヲ決議セシメントスルヤ彼等ノ煽動ニ依ル学生労働者數千名ハ同会場ニ殺到シテ右集會ヲ解散セシメ而モ夏超ハ彼等ヲ取締ル能ハサルカ如キ始末ナレハ地方人心ニモ動搖有リ何時青天白日旗ノ掲揚ヲ見或ハ城内ノ騷擾ヲ来スヘキヤヲ計ラレサル状態ニアリ

在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛
一九九 十月十九日

浙江獨立問題ト張紹曾ノ談話報告ノ件
機密第五二七号 (十月二十七日接受)

大正十五年十月十九日

在天津

シテ小官ノ考ヲ聞キタシトノ旨ヲ遠廻シニ述ヘ汪鎬基ハ就任ト同時ニ軍医科長ヲ代理トシテ当館ニ派シ来リテ其ノ就任ヲ報スルト共ニ差支無キ限り援助ヲ請フ旨ヲ述ヘタルカ如キ關係ナルニ付露骨ナル援助ハ固ヨリ慎ムヘキ事ナカラ帝国ノ利害^(益)ノ為ニ彼等ヲ指導スル覚悟ヲ以テ益々接觸セン所存ナルニ付テハ此際心得置クヘキ事柄モ有ラハ御電訓相成様致シタシ

北京、上海、漢口へ転電シ、南京、蘇州へ暗送セリ

一九八 十月十九日 在杭州清野領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

夏超ノ革命軍軍長就任延期ニ関スル内話及ビ
国民党員ノ庄迫ニツキ報告ノ件

第三二号 (十月二十日接受)
往電第三一号ニ関シ

今十九日朝夏超ハ小官ニ對シ自分等ノ根本目的ハ浙江ノ利益保護ニアル処大局ノ定マラサル今日輕々シク態度ヲ公表シテ将来ノ行動ヲ自ら拘束スルハ愚ナルニ付蔣介石側ニ對シテハ地方人心ヲ動搖セシムル虞有リトノ理由ノ下ニ且ツ謝意ヲ添ヘテ軍長就任延期ノ已ムヲ得サル次第ヲ回答シ万

總領事 有田 八郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

浙江獨立問題ト張紹曾ノ談話報告ノ件

浙江獨立ハ或ハ蔣介石方面トノ連絡ノ結果ナリト云ヒ或ハ張宗昌等カ江蘇進出ノ機會ヲ作ラムカ為ニ誘発シタルモノナリト称セラレ何レモ多少ノ因ヲ為シ居ルモノナルヤモ知レサレト当地方ニテ觀察シタルトコロニテハ同方面自治ノ氣運カ孫伝芳ノ失意ニ際シテ勃発セルモノナリトノ見方ハ最モ有力ナルカ如シ黎元洪一派ノ機關誌ト称セラルル当地漢文タイムス(十八日)ノ浙江獨立ニ関スル報道ノ如キハ之ヲ以テ楮輔成一派ノ五省自治運動ノ一端ナリト解釈シ居ルモノノ如シ右真偽ハ別トシ御參考迄別紙^(省略)ノ通り訳報ス尚十月十八日張紹曾ニ會見ノ際時局ニ関スル意見ヲ叩キタルニ同人ハ大要左ノ如ク語レリ「浙江ノ獨立ハ浙江自治多年ノ宿望ヲ實現シタル迄ニテ他意ナシ将来ノ時局ハ一ニ繋リテ張作霖ノ決意如何ニ在リ自分ハ武力統一ノ不可ヲ信シタルヲ以テ先ツ吳佩孚ヲ説得スルニ力メ爾来七カ年ノ力ヲ為ニ心血ヲ瀝キタルモ吳ノ無理解ナル遂ニ自分ノ所説ニ傾聴セス遂ニ今日在ルヲ致セリ蔣介石ハ国民党ノ信条実行ヲ声

言シ居ルモ彼ト雖モ專制ヲ夢ミ居ル一介ノ武弁ニ過キスシテ奉直ノ軍閥カロニ赤化ヲ呼号スルモ其肚裏專制ヲ熱愛セラルト何等選ムトコロナシ南北ノ軍閥対立シテ近ク一大戦争有ルハ避ケ難キトコロナルヘシ從來自分ハ機会有ル毎ニ和平通電ヲ発シ来レルモ今日ニ至リテ其ノ何ノ効果モ無之ヲ知リタレハ今回ハ從來ノ例ニ反シ手ヲ拱シテ觀望スル積ナリ前清時代八旗駐防ニ依リテ地方人心ノ反感ヲ唆リタルコト幾干ナルヲ知ラサルカ民国以來戰事相次キ軍閥起伏ノ繁キヲ見ルモノ又一省ノ軍兵ヲ以テ他省ニ臨マントスル根本的ノ誤謬ニ基クモノト云フヘシ云々

右張紹曾ノ談電ニハ新奇無キモ浙江ノ独立ヲ以テ自治運動ノ一ノ現ハレニ過キスト解釈シ居レルコト及ヒ從來ノ例タリシ和平通電ノ無益ナルヲ覺リ軍閥ノ迷夢容易ニ醒ムルコト無シト諦ムルニ至リタルコト之ナリ

写送付先 在支公使、奉天、上海、漢口、濟南、廣東、各總領事、南京、杭州各領事

二〇〇 十月二十日 在上海矢田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

タリト言フ以外兵ヲ江蘇省内ニ進メ孫伝芳ノ後方ヲ脅カサントスル実力モ意圖モ之無キカ如ク既ニ省境方面ヨリ兵ヲ撤退セリトモ伝ヘラレツツアリ他方孫伝芳側ニ於テモ今尚慰撫ノ態度ヲ改メス丁文江ノ如キモ相互軍隊ノ駐屯地ヲ取極メ和平ノ策ヲ講スルモ可ナリトノ口吻ヲ洩ラシ居ル有様ニテ茲当分ハ現狀ヲ繼續スヘク孫伝芳ノ南京帰還後ニ於テ初メテ和戰ノ問題決定スルモノト觀測セラル

尚昨今当地ニ於テハ江蘇省内五十県ノ代表連名ニテ孫ノ下野要求ノ電報ヲ発シタリトカ奉天側カ当方面ニ勢力擴張ノ為画策中ナリ等取沙汰行ハレ其他国民党側ノ宣伝策動又甚タ盛ンシテ虞洽卿、殷汝驤、褚輔成等浙江系人物ト相提携シ反孫伝芳ノ氣運醸成ニ力メツツアルヲ以テ当地通信員等ニ依リ大袈裟ナル報道伝ヘラルル事アルヘシト存ス念為北京、奉天、天津、南京、漢口、杭州、九江、濟南、青島ヘ転電シ、廣東、福州、長沙、蘇州、蕪湖ヘ暗送セリ

二〇一 十月二十一日 在南京森岡領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ノ思想及ヒ地位ニ関スル觀察報告ノ件

第一四〇号 (十月二十二日接受)

一 北京政府ト一般政況 二〇一 二〇二

孫伝芳ノ勢力ハ依然トシテ動搖ヲ見ズ夏超トノ關係ハ当分現狀ヲ繼續スルト見ラルル件

第三二六号 (十月二十一日接受)

往電第三二三号ニ関シ

其ノ後ノ情報ニ依レハ夏超今回ノ挙事ハ孫伝芳ノ失敗ヲ過信シテ何等思想ノ共鳴ナキ国民党ノ煽動ニ乗セラレ周鳳岐等浙江系將領ト氣脈ヲ通シ周ノ部下タル南京留守部隊ノ任意引揚ケヲ切懸ニ自主的態度ヲ表明シ杭州ニ於ケル孫伝芳勢力驅逐ノ手段ニ出テ同時ニ省境ノ防備ヲ固ムルニ至リタルモノナルカ之ニ対シ孫伝芳ハ極力夏超慰撫ノ方法ヲ講スルト共ニ上海駐屯ノ部隊ヲ出動セシメ滬杭鉄道ヲ破壊シテ万一ニ備ヘ他方滬寧線ニ依リ鎮江、南京方面ヨリ多数ノ応援隊ヲ急派シタルカ右軍隊ノ移動ハ大体昨十九日迄ニ行ハレ夫々配備ヲ終リ一ト安心ノ形トナレリ

然ルニ夏超ニ於テハ当初ハ国民軍ノ宣伝モアリ清野領事ニ大言壯語シタルカ如ク前途ヲ樂觀シ居リタリモノナルヘキモ其後九江、徐州方面ノ情報ハ彼ノ断言ヲ裏切り孫伝芳側勢力ハ依然トシテ動搖ヲ見ス杭州ニ於ケル国民党派ノ跳梁ヲモ抑圧シ得サルカ如キ有様ニテ単ニ孫伝芳ノ支配ヲ脱シ

孫伝芳ハ張作霖、呉佩孚ト思想ヲ異ニシ当代軍閥中ノ新人トシテ自由平民主義ヲ基調トシ内治外交共ニ優秀ナル成績ヲ収メ奉直兩派ノ軍國主義ト廣東側ノ社会主義トノ中間ヲ辿リツツ独自ノ天地ヲ開拓セント試ミ来タリタル処今回蔣介石トノ交戰中意外ニモ浙江獨立問題ニ逢著シ戰爭ニハ勝チタルモ内部ノ動搖ニ依リ地位ノ困難ヲ加フルニ至レル孫ニハ尚形勢挽回ノ見込アリテ必スシモ悲觀スルヲ要セサルカ如シ但シ大勢ヨリ觀察スルニ今回ノ時局ニ依リ長江以南ハ大体廣東ヲ中心トスル急進思想ノ普及ヲ見ルニ至リ今後列強ノ对支政策上一新紀元ヲ画スルニ至リタルモノト察セラル

在支公使ヘ転電シ、奉天、上海、漢口、廣東、福州、天津、濟南、青島ヘ暗送セリ

二〇二 十月二十二日(着) 在南京森岡領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ノ浙江ニ対スル態度積極化ノ情報報告

ノ件

第一四二号

江蘇側ノ浙江ニ対スル態度昨今俄ニ積極的トナリ昨二十一

日張國威カ淺質ニ語ル処ニ依レハ孫伝芳ハ二十日付ヲ以テ陳儀ヲ浙江省長ニ任命シ江蘇軍ヲ統々浙江ニ進ムル手筈ナリトノコトナリ

情報ヲ総合スルニ江西戦争カ長引キ浙江問題カ現状ノ儘ニテハ陳調元モ離反スル虞アルヲ以テ孫ハ此際夏超ノ放逐ヲ急クト共ニ広東側ニ対シテモ和議ヲ申込ムニ至リタル趣ナル処一般ノ觀測ニ依レハ夏超ハ絶対ニ抵抗ノ実力ナキヲ以テ孫ハ平和裡ニ浙江ヲ奪回スルヲ得ヘク広東トノ講和モ過日南昌ノ役ニ於テ蔣介石カ主力ノ大半ヲ失ヒ再挙困難ナル場合ナレハ結局江西省ヲ緩衝地帯ト為ス条件ニテ平和克復スル見込ナリト

北京、上海、漢口、杭州、濟南、青島、奉天、広東、福州、天津へ転電シ蕪湖、蘇州、九江、長沙へ暗送セリ

二〇三 十月二十三日 在杭州清野領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳軍ノ浙江奪回ニ関スル件

第三八号

(十月二十四日接受)

昨朝迄ニ夏超及ヒ其軍隊ハ富陽方面ニ去リ其後市中ヲ徘徊シ居レルモノ約三千ハ周鳳岐ノ留守隊ニ依リテ技ニ武装ヲ

芳ヨリハ別ニ自分ニ対シ閣下ニ伝言方詳細依頼アリタルヲ以テ右茲ニ貴閣ニ達シ度次第ナリトテ大要左ノ趣旨ヲ述ヘタリ

一、揚子江沿岸ニ於ケル日本ノ商業上ノ利益ハ莫大ナルモノアリ孫伝芳トシテハ從來極力之カ保護ニ努メ来リ今後トモ同一ノ方針ヲ執ル決心ナル処最近日本民間ニハ蔣介石ニ同情スル者ナキニ非ス然ルニ蔣介石ハ未タ赤化セリトハ言ヒ難カルヘシト雖モ言動頗ル過激ニシテ其ノ赴ク所ハ随処工人ノ跋扈ヲ見ツツアリ蔣カ勢力ヲ得ルコトハ前記日本ノ利益保護ノ上ヨリ見ルモ決シテ得策ニ非スト思考セラルルニ付テハ日本トシテハ此ノ際少クトモ蔣介石ヲ支持セサルノ態度ニ出ツルコトトセラレ度又

二、山東ノ張宗昌ハ稍モスレハ江蘇安徽方面ニ進出ヲ企テ孫伝芳ノ地盤ヲ覬覦スルノ傾アルニ付テハ此ノ際日本政府ニ於テ張ニ「モーラル、インフルエンス」ヲ加ヘ其ノ長江地方侵入ヲ阻止スルノ方法ヲ講セラルル様致度

右ニ対シ幣原大臣ハ

一、支那政局ノ推移ヲ大觀スルニ今後ノ政局ニ処シテ成功スヘキ人物ハ目下支那ニ於テ徐々ニ進ミツツアル国民的

解除セラレタルト孫伝芳ヨリ当地ノ各団体宛陳儀ヲ省長ニ任セル旨並ニ夏超ノ他ノ者ノ罪ヲ問ハサル旨入電アリタルニ付人心漸ク治マリ孫軍ハ今朝来入城中ニテ張載陽ハ総司令部及省長公署ヲ引渡セリ右ニテ今回ノ事變ハ当地ニ関スル限り結了セルモノノ如シ

往電第三六号ノ通り十一公館ニ転電セリ

二〇四 十一月四日 幣原外務大臣 会談要領
汪中国公使

孫伝芳ノ意図及ビ書簡伝達ニツイテ

付屬書 幣原外務大臣宛孫伝芳書簡

大正十五年十一月四日幣原大臣、汪公使会談要領

大正十五年十一月四日在本邦支那公使汪榮宝幣原外務大臣ヲ来訪シ自分ハ元来支那全国ノ代表者ニシテ一二軍閥ノ代表者ニ非サルコト勿論ナルカ本日ハ公使トシテノ資格ヲ離レ全然個人ノ資格ニテ御話致ス次第ナリト前置シタル上孫伝芳ノ政績ニ言及シ江蘇浙江方面ノ人民カ如何ニ孫ノ施政ニ悦服シツツアルカニ付テハ屢々自分ノ郷里(江蘇)ヨリ音信ニ接シ居リ旁孫ノ将来ハ頗ル有望ナリト思考セラルル旨ヲ述ヘタル後別添幣原大臣宛孫伝芳書簡ヲ提出シ尚孫伝

自覺ノ趨勢ヲ巧ミニ察シ之ニ順応スルモノナルヘク右潮流ニ逆行スルモノハ勿論之ヲ超越シテ急進ニ失スルモノモ亦成功ノ望乏シカルヘキヤニ認メラルル処(此ノ時汪公使言ヲ挾ミ蔣介石ハ即夫ノ急進ニ失スル人物ニ屬ストノ御趣旨ナルヘシト述フ)自分ハ特ニ人ヲ指示シテ彼此批評ヲ試ムルモノニハ非サルモ右ノ見方ヨリ言ヘハ孫伝芳ノ如キハ将来有望ノ人物ナリト言フヲ得ヘク又孫カ能ク日本ノ商業上ノ利益ヲ保護スルニ努ムルハ我居留民ノ一般ニ認識シ感謝スル所ナリ尤モ自分ハ日本トシテ支那ノ何レノ勢力ニ対シテモ之ニ偏スルカ如キコトハ絶対ニ避クルノ要アリト信スルモノニシテ支那ノ一党一派ヲ支持スルコトハ或ハ我目前ノ利益ニ資スルコトアルヘキモ日本並支那ノ永遠ノ利益ノ為メニハ斷シテ不可ナリ將又蔣介石ニ対シテモ日本トシテハ敵視スルノ理由ナキト同時ニ武器彈藥其他ノ援助ヲ与フルカ如キコト亦絶対ニ之無次第ニ付右ノ点充分御諒解アリ度当国民間ニハ孫文カ亡命ノ当時同氏ト親近交遊セルモノ少カラス其ノ因縁ヨリ国民黨員ニ対シ個人的ニ同情ヲ有スルニ至リタルモノト思ハルルモ本邦ニ於ケル此等ノ一派カ思想ニ於テ反動

的傾向ヲ帯ヒ特ニ赤露ヲ蛇蝎視スルハ一ノ奇観ナリト語
リ又

二、山東張宗昌ノ態度ニ付テハ目下ノ所何等貴説ノ如キ様
子無キヤニ認メラル

ト答ヘタル処
汪公使ハ

先般夏超カ独立ヲ企テタル際上海方面ニ於テ反孫運動盛ニ
行ハレタルカ右運動ノ背後ニ張宗昌ノ在リタルコトハ事実
ニシテ從テ孫伝芳側ニ於テ張ノ野心ヲ疑フハ無理ナラヌ次
第ナリト述ヘタルニ依リ

幣原大臣ハ

何レニスルモ自分ハ日本トシテハ前記ノ方針ニ顧ミ張ニ對
シ「モーラル、インフルエンス」ヲ加ヘ其ノ行動ヲ阻止ス
ルカ如キ立入りタルコトハ為シ難キ所ナルモ他方日本カ張
ニ對シ其ノ侵略的行動ニ付直接間接トヲ問ハス一切声援ヲ
与フルカ如キコトナキハ言フヲ俟タスト答ヘタルニ
汪公使ハ

貴意諒解セリ自分ハ孫トハ旧知ノ關係モアリ旁々今後モ個
人ノ資格ニテ孫伝芳ト連絡ヲ続ケ度意向ニ付孫ニ對シ何等

リ掃討ノ希望ヲ抱クモ鎮定ノ効ナキハ慚愧ノ次第ニ有之候
想フニ長江流域ハ貴國ノ商業ト關係甚大ナルヲ以テ特ニ使
者ヲ派遣シ鄙意ヲ達セント存居候ヘトモ人選困難ニテ未タ
果ササリシカ茲ニ特ニ汪公使ニ託シ一切ヲ面陳スルコトト
致候ニ付御接見ヲ賜リ度伝芳ノ意見ハ完全ニ汪公使ヨリ代
達可致候間御高察被下度願上候此段得貴意候 敬具

十月二十日

孫 伝 芳 拜啓

幣 原 外 相 閣下

編 註 本會談要領及ビ孫伝芳書簡訳文ハ十一月十日機密合一

二二八号ヲ以テ在中國芳沢公使ノ他奉天、漢口、上
海、南京ノ各總領事、領事ニ送付サレタ

二〇五 十一月五日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

對北伐軍作戰計畫ニ關スル孫伝芳ノ談話及ビ

關連情報報告ノ件

第一八三号

(十一月六日接受)

佐分利局長ト共ニ本官昨日孫伝芳ニ會見シタルカ孫ハ腹
藏ナキ意見ヲ吐露シ同局長漢口視察ノ後今一度南京立寄ヲ
望ム旨申出テタリ其際孫ハ自分ハ今回ノ失敗ニ依リ下野セ

一 北京政府ト一般政況 二〇五 二〇六

伝フヘキコトアラハ腹藏ナク御申出アリ度ト述ヘ辭去セリ

(付屬書)

幣原外務大臣宛孫伝芳書簡

(大正十五年十一月四日汪公使持參)

幣原外相閣下往者曾回岡村顧問致函

左右辱承

裁答葡萄荷

獎飾日月其邁馳系為勞伝芳治軍揚子下游愧無綏靖之方徒抱
澄清之願窃念長江流域於

貴國商業關係至鉅久欲派遣專員藉以將意艱於人選卒未果

茲特由 汪公使面陳種切乞

賜接洽所有伝芳意見完全請 汪公使代達

扶桑在望不尽依依々敬候

助祺諸維

亮誓

孫伝芳拜啓

十月二十日

(右訳文)

拜啓陳者曩ニ岡村顧問ヲ經テ拙翰ヲ呈シ候処優渥ナル御回
答ヲ辱フシ感謝ノ至ニ奉存候伝芳ハ揚子江下流ノ軍事ニ當

ムト考ヘタルモ張作霖、張宗昌及部下ノ切ナル勸告ヲ容レ
留任スルコトトナリタルカ天津會議ノ結果ニ依リ即時軍事
行動ヲ起シ奉天、山東ト連合シテ北伐軍ニ攻撃ヲ加フルコ
トニ決定セリト語レリ

右ニ關シ張宗昌モ今明日中來寧スヘク陳調元ハ既ニ昨日當
地ニ來リ三四日中軍事會議ヲ開キ作戰計畫ヲ討議スル筈ナ
ルカ劉宗紀ノ談其他ノ情報ヲ綜合スルニ河南方面ハ張學
良、韓麟春之ヲ担当シ安徽、江蘇方面ハ張宗昌山東軍ヲ率
ヒ前線ニ立チ江西ニ向ケ攻勢ニ出ツルト同時ニ孫軍ハ主ト
シテ留守守備ニ當ル計畫ナルカ如ク地盤問題ニ關シテハ奉
天、山東側ハ慎重考量ノ結果此際之ニ触ルルヲ不利益ナリ
ト認メ當分孫伝芳從來ノ地位ヲ尊重シ飽迄客分トシテ行動
スルモノノ如シ

北京、上海、漢口、奉天、天津、濟南、廣東へ転電シ青
島、福州、蘇州、杭州、蕪湖、九江、長沙へ暗送セリ

二〇六 十一月六日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北伐軍ノ九江占領並ビニ市民一般ニ平靜ニシ

テ我ガ居留民一同無事ナル旨報告ノ件

一七三

第三四五号

九江発本官宛電報

第三四号

四日夜間当地ニ於テ逃ケ遅レタル連軍一部ト南軍ノ間ニ交戦アリ連軍ハ大砲ヲ以テ交戦シ相当激烈ナリシカ五日払暁ニ至リ砲声終熄シ十一時南軍撃退セラレタリト伝ヘラレタルモ実ハ連軍ノ敗北ニシテ今ヤ南軍二千確實ニ九江ヲ占領シ連軍ノ影無シ南軍ハ賀耀祖ノ独立第二師ノ一旅ナリ周鳳岐ハ昨日開戦当初一部ノ手兵ト共ニ逃亡シ其部下三千ハ南軍ニ投降セリ孫伝芳搭乘ノ江新号ハ一時上流ニ向ケ出帆シタルモ昨夜半軍艦ニテ南京ニ帰還セリト伝ヘラル徳安ハ陳銘枢ノ南軍ニ占領サレタリトノ情報アリ南軍ノ手ニ帰シタル九江ハ市民ノ気受ケ良ク一般ニ平靜ニシテ我居留民一同無事ナリ尤モ南潯線各地ニ配置ノ連軍ハ九江奪回ノ為沙河方面ニ進出一両日内ニ更ニ激戦アルヘシトノ見込ニテ日、英、米ノ陸戦隊ハ嚴重警戒中ナリ

大臣、公使ヘ転電ヲ請フ

二〇七 十一月七日

在蕪湖藤村領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

本日漢口ヨリ下航ノ藤村男及土肥原中佐ヨリ当方面ノ時局ニ対シ今後ノ見込ミヲ尋ネラレタルニ付本官ハ昔晋ノ王濬カ沙市ヨリ下リテ呉主皓ヲ南京ニ破リタル経過並ニ長髮賊カ長沙、武漢及九江ヨリ下リテ南京ヲ占領スルニ至リタル前例ニ鑑ミ且軍事専門家ノ意見ヲ徴スルニ此際奉天側カ早キニ臨ミテ積極的援助ヲ与ヘサル限リ孫カ江蘇、浙江ヲ維持スルコトハ困難ト思考スル旨話シタル処同男ハ北伐軍ハ宣伝巧妙士気旺盛ニシテ侮リ難キモノアルト同時ニ現ニ漢口ニ於テハ各種ノ労働運動及「ストライキ」続発シ商人資本家ノ信用ヲ失シツツアル事実ヲ見聞シタルカ万一北伐軍カ南京、上海ヲ占領スルニ至ラハ上海ノ紡績其他本邦人ノ事業ハ必ス惨憺タル影響ヲ蒙ルルニ至ル可ク事態極メテ重大ナリト認ムト語レリ御参考迄

二〇九 十一月十五日

在上海矢田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

反孫伝芳、奉天及ヒ山東軍南下阻止運動ニツ

キ報告ノ件

第三五一号

九江敗戦後ノ五省連軍ノ動向ニ関スル件

第三四号

(十一月八日接受)

孫伝芳ハ湖口ヲ第一線トシ親シク湖口ニ止マリ安慶ヲ第二線トシテ楊振東、^{バヤニ}顏景崇、馬濟ノ各軍ヲ之ニ集中シ其ノ陣容ヲ樹テ直ス計画ナリシカ湖口ノ第一線ハ六日朝周鳳岐軍ニ占領セラレテ自ラ下江ヲ余儀ナクセラレタルモノノ如ク七日午前迄ノ安慶情報ニ依レハ前記各軍ノ収容容易ナラス小部隊宛民船ヲ微発シテ勝手ニ下江シ全ク再戦ノ意氣ヲ失ヒ顏景崇軍ハ当地ニ来ル準備ヲ整ヘ居レリト尚ホ六日南京ヨリ徒歩多数ノ軍隊ヲ当地ニ向ハシメ其先発隊ハ今朝当地ニ於テ食料ノ準備ヲ整ヘ居ルニ其ノ先発隊ハ突然今七日夕刻南京ニ向ケ当地ヲ引揚ケタルニ見レハ安慶ノ防備モ撤退セルモノト認メラル

北京、南京、上海ヘ転電シ濟南、九江、漢口ヘ暗送セリ

二〇八 十一月十三日

在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北伐軍南京、上海占領ノ際ハ本邦人ノ事業ガ

打撃ヲ受クベキ旨ノ藤村男ノ談話報告ノ件

第一六四号

(十一月十四日接受)

其後一時屏息シ居リタル鈕永建等画策ノ孫伝芳反対氣勢ハ孫軍ノ江西引揚後再ヒ擡頭シ来リ同時ニ奉天軍南下ノ阻止運動ヲ見ルニ至リタルカ其概観左ノ通り

- 一、官憲側ノ取締嚴重ナルニ拘ラス支那街ニ於ケル孫攻撃ノ伝單撒布盛ニシテ九日以来之カ為逮捕セラレタルモノ四十名ニ達ス
- 二、十一月各路商会總連合会カ(イ)上海ニ軍隊ヲ駐屯セシメス市政ヲ人民ノ自治ニ委ヌルコト(ロ)国是解決ノ為國民會議ノ召集(ハ)奉天及山東軍ノ南下拒絶ノ主張ヲ発表スルヤ國民黨江蘇省党部、総工会其他ノ団体ニシテ之ニ賛成ノ宣言ヲ発スルモノ続出シ又江蘇、安徽、浙江ノ連省自治ヲ主張スル三省連合会ノ出現ヲ見此等ニ関スル伝單ノ撒布セララルアリ孫ノ没落ニ依リ当地方カ軍閥ノ手ヨリ解放セララル日近キニ在ルカ如キ空氣ヲ濃厚ナラシメツアリ

三、過般九江ニ於テ孫軍ノ軍需品積載中失火沈没セル江永号遭難者遺族救助費問題ヲ理由トシ海員工会ハ十二日招商局所有汽船乗組員全部ノ罷業ヲ宣言シ為ニ広東行広利号ハ出港不能トナリ学生労働者ノ団体等盛ニ之ヲ声援シ

ツツアリ右ハ孫ノミナラス從來孫ニ接近シ居リタル同局
總董事傅筱庵(現總商會長)反対ヲ表示シタルモノニシ
テ其要求条件中ニハ孫カ徵発中ナル同局汽船五隻ノ軍事
使用ヲ解クヘシトノ条項ヲ含ミ巧妙ニ孫ノ活動ヲ牽制ス
ル目的ニ出ツルモノト解セラル

北京、奉天、天津、濟南、青島へ転電シ南京、漢口、九
江、蕪湖、蘇州、杭州、広東、福州へ暗送セリ

二二〇 十一月十六日 在奉天吉田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

馮玉祥軍、吳佩孚軍ニ対スル張作霖ノ方針ニ

関スル楊宇霆ノ談話報告ノ件

第三四九号

(十一月十七日接受)

昨十五日楊宇霆ノ談ニ張作霖ハ天津ニ於テ各方面ノ代表其
他ニ対シ目下ハ軍事ノ時代ニシテ政治ノ時代ニ非ス從テ暫
ク軍事ニ専ラニシテ先ツ政情ノ安定ヲ計ルヲ要ス可ク政治
ニ付キテハ何等関与セサルノ意ヲ明ニセリ又閻錫山ニ対シ
テハ馮玉祥軍ヲ其ノ儘ニシテ置キテハ勢力挽回ノ惧アレハ
閻ト協同シテ之ヲ掃蕩スルノ共同策戰ヲ講シツツアリ將又
広東軍ハ江西、福建、浙江奪取ニ主力ヲ注キ其ノ結果孫伝

シムル事ニ決シ之カ前敵司令トシテ李景林ノ起用説アリ河
南方面ハ依然吳佩孚奉兵ノ通過ヲ容認セサル処近ク齊燮元
来津ノ筈ナレハ此方面モ近ク何トカ決定スヘシ尚極秘ナル
カ東北艦隊、渤海艦隊相率ヒテ広東ヲ襲ヒ敵ノ根拠ヲ覆ス
ノ計画進行中ナリ云々
在支公使、奉天、上海、漢口、濟南、南京、広東へ転電セ
リ

二二二 十一月二十日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫ハ病氣引籠リ中ト称スルモ實際ハ天津方面

ニ向ヒタル形跡アル件

付記

十一月二十日漢字紙記事抄訳
孫伝芳ノ赴津、張作霖訪問ノ模様ニ関スル件

第一六七号

(十一月二十一日接受)

天津発閣下宛電報第一七六号ニ関シ
当地ニ於テハ孫ノ旅行ヲ絶対秘密ニ付シ目下当地滞在中ナ
ル荒城司令官ニ対シテモ病氣引籠リ中ナリト称シ面会ヲ謝
絶シタルカ實際ハ去ル十七日当地発天津若クハ鄭州ニ向ヒ
タル形跡有リテ要件ハ張作霖及吳佩孚ト南軍討伐ニ関シ共

芳軍ハ江西ニ破レ残軍ノ收拾ニモ困難ナル情アリ孫ノ敗退
ハ吳佩孚ノ湖北侵入ノ尚緩慢ナルカ為ニシテ広東軍ノ力ヲ
江西方面ニ注キ居ル折柄自然湖北ハ手薄ナルヘク吳佩孚軍
南下ノ勢盛ナレハ広東軍江西侵入ノ力自然牽制セラルヘシ
依テ奉天軍ハ吳佩孚軍ヲ支援シテ湖北侵入ヲ計画セシメツ
ツアリ吳佩孚ノ勢力ハ既ニ大ナラスト雖モ河南ハ尚其ノ勢
力下ニアリ而シテ河南ハ直隸、山東ニ接シ奉天側トシテモ
相当之ヲ固ムル必要アルヲ以テ吳佩孚ヲ南下セシムルト共
ニ河南ノ治安維持ニ付テハ奉天側ニ於テ相当ノ力ヲ致シタ
キ次第ナリ云々

在支公使、天津へ転電セリ

二二一 十一月二十日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ノ出兵援助申入レニ対シ奉天軍ヲ南下

セシムルコトニ決定セル件

第一七七号

李十一ハ岡本ニ対シ左ノ通り語レリ

孫伝芳ハ十八日来津セル張作霖、張宗昌ニ対シ出兵援助ヲ
申入レタル結果奉軍ハ不取敢津浦線ニ依リ十五万ヲ南下セ

同作戰打合せノ為ナルカ如シ尚荒城司令官ノ内談ニ依ルニ
漢口、九江方面ニ於ケル南軍ノ幹部ハ無礼横暴ニシテ且ツ
過激ナル政策ヲ行ヒ斯ル連中カ南京、上海方面ニ迄出シヤ
ハルカ如キ事有リテハ危険千万ナリトノ事ニテ右ハ各有力
者ノ意見一致セル処ナレハ此ノ際張、孫、吳三人カ地盤問
題其ノ他小利害ヲ離レテ精神的ニ一致団結スル事支那ノ為
ニモ列強ノ為ニモ極メテ必要事ト思料セラル右極秘扱ヲ請
フ

在支公使、上海、漢口、奉天、天津、濟南、青島、広東へ
転電シ福州、九江、蕪湖、蘇州、杭州へ暗送セリ

欄外記入 本電ノ動機感心セス(勝)

(付記)

十一月二十日漢字紙記事抄訳

孫伝芳ノ赴津、張作霖訪問ノ模様ニ関スル件

孫伝芳天津ニ張作霖訪問状況

(十一月二十一日支那新聞抄訳)

孫伝芳ハ九江敗戦ノ後楊文愷ヲ濟南、天津ニ派シ援助ヲ求
メタルモ具体的結果ナキニ因リ十一月十八日夜幕僚二名ト
從者二名ヲ随ヘ極メテ秘密ニ南京ヲ出發シ浦口ヨリ乗車シ

十九日午前五時天津ニ到着シ仏租界ノ私邸ニ入り直ニ電話ヲ以テ楊文愷ヲ招キ協議ノ上直ニ自動車ニ同乗シ蔡家花園ニ赴キ張作霖ニ面会シタルカ其時張宗昌モ亦座ニ在リ一座孫ヲ見テ大ニ驚キ互ニ挨拶ヲナシ居ル中張家良、韓麟春モ亦来会シ奉天派ノ重要者集合シタルヲ以テ孫伝芳ハ一同ニ対シ極メテ沈痛敵格ナル態度ヲ以テ起立シテ曰ク

今回対南ノ戦争数月ニ亘リ心力交々疲レ戦略ノ錯誤ニ因リ不幸多大ノ損害ヲ被リ内ハ諸將士奮闘ノ忠誠ニ対スルナク外ハ北方諸同志囑望ノ厚意ニ対スルナク一己処置ノ不善ノ為ニ全局ヲ牽動セルハ衷心慚愧ノ至リニ勝ヘス事今日ニ至リ党軍ノ勢猖獗ニシテ北方軍隊生死存亡ノ機トナス苟モ一致団結シテ党軍ニ対セサレハ時機ヲ失ヒ悔フルモ及ハサルヘシ今回ノ北上ハ一方ニハ諸公ニ対シ大局ヲ誤リタルノ罪ヲ謝シ一方ニハ諸公ノ徹底ノ解決ヲ請ハンカ為メナリ某不敏ナルモ余ス所ノ部隊ハ尚ホ一戦スルニ堪ユルヲ以テ士卒ヲ督励シ諸公ノ後ニ從ヒ党軍ト一死戰ヲ決セントス願クハ諸公之ヲ謀レ云々

孫伝芳演説ノ時涙声ニ從テ下リ一座之カ為ニ感動ス言畢リテ一同本問題ヲ討論シタルカ翌日ニ至リ奉魯軍出兵問題ハ

ナルヲ見越シタル折柄予テ奉天軍カ機会有ル毎ニ津浦線ニ依リ南下セムトスル野心アルヲ(脱)為自ラ天津ニ至リ張作霖ニ対シテ若シ奉天側カ誠意ヲ以テ孫ヲ援助シ討赤ヲ実行スルニ於テハ津浦南段ノ収入並ニ安徽ノ地盤ヲ割讓スルモ苦シカラスト提議シ交渉大体円満ニ進行中ナルヲ以テ奉天軍ノ南下決定次第陳調元ヲ江蘇ニ呼戻シ江蘇總司令ニ任命スル管ナルト同時ニ浙江ハ蔣介石ノ原籍ニテ南軍ノ使曠ニ依ル獨立運動昂マリ来リタルヲ以テ今後ハ浙人治浙ノ方針ニ依リ周鳳岐(二十一日当地発杭州ニ向ヘリ)ヲ總司令トシ陳儀ト共同シテ適當ニ統治セシムルコトトナリ既ニ徐州ニ在ル陳儀ノ軍隊及周鳳岐ノ部隊ハ昨今統々杭州ニ引揚ケツツアリ又孫ノ腹臣タル盧香亭ハ再ヒ浙江ニ帰ルコト無ク今後上海、南京及滬寧線ノ守備ニ當ラシムル管ナルカ孫ハ大勢ノ去レルヲ察シ過般楊文愷ニ托シテ家族ヲ天津ニ送りタル次第モ有リ今後形勢有利ニ展開セサル限り再ヒ帰寧セサルヤモ知レス留守中事務ハ盧香亭、劉宗紀、陳陶遺ノ三名ニテ処理スル管ナリトノコトナリ

右ノ次第ニテ孫ハ今後一ニ張作霖ノ援助ニ依リ当方面ノ赤化侵入ヲ防止セントスルニ至レリ

急転直下ノ勢ヲ以テ決定セリ其大体ノ方策ハ左ノ如シト云フ

- 一、張宗昌ハ直魯軍ヲ率ヒ速ニ江西ニ赴キ党軍ノ主力ニ當ルコト
- 二、孫伝芳ハ江蘇、浙江ヲ保守シ福建党軍ヲ防禦スルコト
- 三、渤海艦隊及東北艦隊ハ江西ニ赴キ一部ハ広東ヲ攻ムルコト

- 四、張学良ハ第三第四軍ヲ以テ京畿一帶ヲ防守スルコト
- 五、張作霖ハ北方軍隊ヲ總轄スルコト

又聞ク所ニ依レハ張作霖ハ張宗昌ヲ奉直魯討赤連軍總司令トシ褚玉璞ヲ後方總司令トシ程国瑞ヲ前敵總司令トナス管ナリト

二二三 十一月二十二日 在南京森岡領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ハ敗戦ノ結果張作霖ノ援助ニ頼ラザルヲ得ザル旨ノ張国威ノ談話報告ノ件

第一七〇号 (十一月二十三日接受)

本日張国威カ浅賀ニ語ル所ニ依レハ孫伝芳ハ戦争ノ失敗ト威信失墜トニ依リ最早独力ヲ以テ南軍ニ對抗スルコト困難

北京、上海、漢口、奉天、濟南、青島、天津、広東、杭州、蕪湖、九江、長沙へ転電シ蘇州へ暗送セリ

二二四 十一月二十四日 在濟南米内山總領事代理ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

奉天派ノ真意ハ孫伝芳、呉佩孚援助ノ名ノ下ニ長江一帶ニ勢力ヲ扶植スルニアルト見ラルル件

第一四七号 (十一月二十五日接受)

十一月二十四日曲同豊並ニ省長秘書耿錫齡等ノ内話ヲ綜合スレハ大要左ノ如シ

(一)天津會議ニ於テ約十五万ノ直隸、山東軍ヲ南下セシムル事ニ決定シ既ニ二十三日ヨリ出動ヲ開始セリ山東軍側ノ作戰計画ハ先ツ許琨、徐源泉、程国瑞、褚玉璞等ノ軍隊ヲ津浦線ニ依リ南下セシメ張宗昌自ラ之ヲ指揮シ更ニ畢庶澄ヲシテ海軍ヲ率ヒテ上海ニ向ハシメ海上ヨリ北伐軍ヲ牽制セシムル予定ニテ張宗昌ハ二三日中ニ濟南発南京ニ向フ可シ(山東軍南下ニ関シテハ既ニ孫伝芳トノ間ニ了解ヲ遂ケタルカ奉天派ノ真意ハ表面孫伝芳援助ヲ標榜シツツ其実江蘇ヲ奉天派ノ手ニ収ムル事ヲ目的トスルモノニシテ将来張カ

江蘇ニ居据ル事トナルヤモ知レス

(三)奉天軍ハ別ニ京漢線ヨリ漢口ニ向ケ南下スル予定ナルモ尚呉佩孚トノ間ニ協議未了ノ点アリ未タ実行スルニ至ラス奉天派ノ計画ハ呉佩孚ヲ陝西方面ニ向ハシメ奉天軍ヲ以テ武漢ヲ奪取セントスルモノナルモ此ノ点未タ呉ノ了解ヲ得ス云々

要スルニ奉天派ハ孫伝芳、呉佩孚援助ノ名ノ下ニ大軍ヲ南下セシメ其実孫、呉ノ両勢力ヲ無視シ奉天軍及山東軍独力ニテ北伐軍ニ当リ之ヲ機会トシテ長江一帯ニ奉天派ノ勢力ヲ扶植セシメントスルモノノ如シ(往電第一四六号孫伝芳南下云々ハ孫伝芳代理楊文愷南下ノ誤ナリ)

在支公使、青島、天津、奉天、南京、上海、漢口ニ転電セリ

二一五 十一月二十五日 在奉天峰谷總領事代理ヨリ幣原外務大臣宛

時局問題及比東三省財政ニ関スル某要人ノ談

話報告ノ件

機密公第八七〇号

(十一月三十日接受)

大正十五年十一月二十五日

ツテ張總司令ニ泣キヲ入レタ結果奉天派ノ最高幹部殊ニ張宗昌初メ張學良等ハ従来ノ感情ヲ一擲シテ此際積極的ニ援助シヤウト云フコトヲ極力主張スルニ至リ張總司令モ其措置ニ迷ヒ遂ニ電話ヲ楊總參議ヲ呼寄セルコトニナツタノテアル總司令ハ予テカラ總參議ト同一意見テアツテ呉佩孚ヤ孫伝芳ノ凋落カ眼前ニ展開サレテモ奉天トシテハ一切援助セス其成行ニ任セテ置カウト云フノカ今日迄ノ方針テアツタ總參議モ今トナツテハ命令如何ナル事情カアツテモ之迄ノ主張ハ決シテ枉ケヌテアラウ現在支離滅裂トナツタ孫伝芳ヲ援助シテ見タ所テ若シ応援軍カ奏効シタ場合ニハ孫伝芳トシテモ必ス浙江其他一、二省ノ地盤ヲ留保スルコトニ努力スヘキハ何人モ想像ニ難カラヌ所テアル
之カ為却テ将来ノ禍根ヲ残スコトニナル寧口孫伝芳ノ哀願ニ依ラスシテ奉軍カ独力ヲ以テ第一線ニ出動シ南軍ト一大決戦ヲ試ミルト云フコトニナラハ却テ意味カ徹底スル總參議ハ呉佩孚ニ対シテモ同様ニ飽迄援助シナイト云フ意見テアル之カ為總司令カ屢各要人ニ対シテ自分ハ赤賊討伐以外中央ニ何等野心カナイト言フコトヲ声明スル所以テアツテツマリ北京ノ治安ハ奉天ト密接ノ關係カアルト云フ理由

在奉天

總領事代理 領事 蜂谷 輝雄(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

時局問題並東三省財政ニ関スル某要人ノ談

首題ノ件ニ関シ当地滿鉄公所鎌田所長ヨリ入手シタル別紙情報写何等御參考迄此段送付ス

ユ

本信写送付先 在支公使 天津總領事

(別紙)

奉天情報第一〇八号(写)

大正十五年十一月二十四日 奉天公所長 鎌田彌助

蜂谷 總領事代理殿

写送付先 大藏理事 支社長 文書課長

調査課長 哈爾濱事務所長

某要人ノ談

昨日迄江蘇、安徽、江西、浙江、福建ノ五省盟主ト仰カレテ中央支那ニ覇ヲ唱ヘ来ツタ孫伝芳カ一敗忽チ地ニ塗レ自カヲ以テ到底取捨スルコトカ出来ナクナリ十九日天津ニ来

ノ下ニ警察及憲兵ノ權力ノミヲ自己ノ方ニ押ヘテ置キ内閣ハ呉佩孚ニ預ケテ置ク方カ得策テアル現在實力ニ乏シイ呉佩孚カ如何ニ頑張ツテ見テモ結局ハ奉天派ノ言ヒナリニナル時期カ到来スルモノト多寡ヲ括ツテ居ル訳テアル尤モ孫伝芳ニ対シテハ故姜登選カ安徽カラ追ハレ自分カ又江蘇省カラ驅逐サレタ怨モ含マレテイルテアラウ先日夏超カ孫伝芳ニ楯突イタ時總參議ハ案ヲ打ツテ快哉ヲ叫ヒ「彼ハ当然獨立ンテ孫伝芳ノ地盤ヲ根底カラ覆スモノテアル」ト云フコトヲ堅ク信ンテイタ然ルニ豈図ランヤ事案ハ全ク期待ヲ裏切ツテ夏超ハ何時ノ間ニカ其姿ヲ消シタ之カ總參議ニ反對スル連中ニ於テ「世ノ中ハ必スシモ楊參議ノ觀察通りニハ行カヌ」ト言フテ非常ナ良キ口実ヲ与ヘタ次第テ總司令カ援助論ニ聽従スルニ至ツタ原因テハナカラウカト想像サレル總司令ハ奉天ニサヘ居レハ勿論問題ハナイ是迄總參議ノ意見ヲ聞イタ上テナケレハ何事モ断定ヲ与ヘナイト總參議モ勿論斯ク信シテ居ル張學良ヤ張宗昌モ其辺ノ消息ハ百モ承知シテイルカラ態々口実ヲ設ケテ天津迄引張り出シタノテアル先頃韓麟春カ親ノ弔ヒニ帰奉シタ際彈藥ノ補給問題カラ両者ノ間ニ可ナリ激シイ議論ヲ闘シタコトモアルカ

ラ総参議トシテモ今度ノ天津入りハ大役カト思ハレル加之余リ強硬ニ自説ヲ主張スルト或ハ不心得者ノ為ニ暗殺サレル様ナコトカナイトモ限ラナイ自分ハ只其レノミヲ心配スル

総参議モ身ニ一兵ヲ有セス于珍位カ唯一ノ乾分テアラウ此様ナ次第テ奉天派ノ軍閥同盟ナルモノモ前途ハ頗ル暗澹タルモノテアル総司令カ果シテ今日ノ場合善処シ得ルカカ疑問テアツテ徒ラニ大總統ノ榮冠ノミニ眩惑サレ延イテ北支那一帶ニ戰鬪ノ展開ヲ見ルコトモナラハ民望ハ益々地ヲ弘ヒ呉佩孚ヤ孫伝芳モ自己ノ地盤ヲ支持スル上ニ於テ必ス報復的手段ヲ講シ其結果トシテ或ハ北支軍閥ノ分裂ヲ招来スルヤモ知レス総司令トシテハ三省タケノ地盤ヲ堅メ時期ノ熟スルノヲ待ツ方カトレタケ賢明ノ策カ分ラナイ人氣ノ糜ツタ奉天派カ態々北京迄乗り出シテ見タ所テ其結果ハ之迄ノ歴史カ雄弁ニ物語ツテイルテハナイカ疲弊シ切ツタ中央ノ財政ヲ切り廻シテ行クタケテモ仲々ノ骨テアル一部ノ衙門ヲ除イテハ一年近クモ官吏ノ俸給ヲ支払ツテイナイト云フ有様テアル其レテ内閣ヲ組織スルナリ又ハ大總統ニナルニシテモ其レ相応ノ準備カ必要テ尠クモ二、三千万元ノ

天票ニモ大洋アリ小洋アリ吉林ニハ永衡号ノ官帖アリ黒龍江省ニハ広信公司ノ発行スル紙幣カアリ其關係ハ非常ニ複雑ナモノテアツテ之ヲ統一スル等ハ言フヘクシテ行ハレルモノテナイ若シ真面目ニ統一ナトト言ヒ出シタラ其レコソ一騒動モ二騒動モ持上ツテ其結果ハ却テ恐ルヘキモノカアラウ結局奉天票ハ現在ノ儘推移シテ何時ニナツテモ整理ハ出来ナイモノト見タ方カ穩当カモ知レナイ云々

二二六 十一月二十六日 在天津有田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

在天津政客中北軍南下ニ消極的意見ヲ持ツ者

少ナカラザル旨報告ノ件

第一七八号 (十一月二十七日接受)

山東軍ノ南下ハ孫伝芳ノ来津ニ依リ一決セラレタルモ元来右ニ就テハ当地政客中其失敗ヲ予言シ又ハ時機尚早ヲ信スルモノ少カラサルノミナラス町野、楊宇霆ノ如キモ元々之ニ賛成シ居ラサリシ処ナルカ葉恭綽ハ二十五日北軍ノ南下ヲ評シ感情上南下ニ決シタルモ多少ノ時日ヲ経過シ感情冷却スルニ至レハ利害ノ打算ヨリ開戦ヲ躊躇スルニ至ルヘシト語り居リタリ

持参金ヲナス覚悟テナケレハ治ラナイカ其レハ奉天ノ現状カラハ到底不可能ナコトテアル話ハ余談ニ亘ルカ奉天票モ困ツタモノテアル今日ノ場合合令如何ナル手腕アル財政通ヲ拉シ来ツテモ整理ハ至難テアラウ

御承知ノ通り奉天省ニハ實際ノ予算トイフモノカナイ予算カナイノニトウシテ財政ノ整理カ出来ヤウカ其レニ省長ニハ官銀号ノ紙幣ノ発行高ヲ制限スル権能ヲ与ヘラレテ居ラヌテハナイカ今日迄ノ軍事費ニシタ所テ軍部ノ要求通りニ官銀号テ立替払ヒヲシ手持カ心細クナルト勝手ニ発行高ヲ増加シテ居ルテハナイカ随テ省ノ予算トハ別個ノモノトシテ取扱ハレテイル若シ予算ニ軍事費ヲモ明確ニ算入スルコトトナレハ其範圍タケシカ使ハレヌコトトナリ当局者モ予算ヲ楯ニ或程度迄直接間接其行動ヲ牽制スルコトモ出来ヤウカソウナルト総司令ト毎モ喧嘩腰テカカラナケレハ成功シナイカ之トテモ現在テハ事情カ許サナイ他日子算カ明確ニ編成サレ财政厅長トシテ権能ヲモ充分ニ認メラレ又官銀号ノ紙幣発行高ヲモ制限シ得ル時カ来タ場合ニ於テノミ始メテ東三省ノ財政カ整理サレルテアラウ日本ノ有力者達ハ誰テモ幣制ノ統一ヲ図レハ左程困難テナイト言ハレルカ奉

然ルニ二十六日町野ノ語ル処ニ依レハ山東軍モ浦口以南ニハ進出セシメス形勢ヲ觀望スルコトトナリ打合ノ為張宗昌ヲ呼寄スルコトトナリタレハ兩三日中ニハ来津スルコトトナルヘク(張宗昌ハ元来出兵南下論者ナレハ之ヲ納得セシムル要アルト江蘇、安徽方面ニ於テ如何ニ兵ヲ配置スルカノ問題ヲ議スル為ナルカ如シ)孫伝芳亦兩三日中ニ南京ニ帰ルヘシトノコトナリ

右ハ葉ノ言ヘルカ如ク一時的昂奮ニ依リ南下ニ決シタルモ京漢線方面意ノ如クナラサルヲ以テ危険ヲ伴フ虞アルト一方今ノ時機ニ於テ北軍ノ南下スルコトハ一般ノ氣受宜シカラサルヲ慮リタルニ出テタルモノニテ恐ラク楊宇霆来津協議ノ結果ナルヘシ從テ江蘇及安徽ノ一部ニ山東軍ノ勢力ヲ伸ハシタル儘南方ト対峙ノ姿トナリ再ヒ妥協問題ノ擡頭ヲ見ルニ至ルモノナルヘシ

又張作霖ハ五六日中ニ北京ニ赴クヘシトノコトナルカ右ハ内閣問題モ一段落ヲ告ケ世間ノ疑ヲ招ク虞ナキ時機ニ至リタルヲ以テ一度入京シテ学校ノ開設シ得ル様尽力スル為ナリト称シ居ル由ナリ

北京、上海、広東、奉天、漢口、濟南、南京へ転電セリ

二一七 十一月二十七日 高田支那駐屯軍司令官ヨリ
鈴木參謀総長宛(電報)

奉天軍ノ南下ニ対シ依然消極的ナル旨ノ楊宇
霆ノ談話報告ノ件

付記一 十一月二十九日四局二部長會議ニ於ケル松井
顧問ノ説明要旨
中国時局ニ関シ松井顧問ト楊宇霆トノ電報往
復ノ件
二 右會議ニ於ケル松室馮玉祥顧問ノ説明要旨
西北国民軍ノ現情

天電第三六一号 (十一月三十日外務省接受)

時局ニ関スル楊宇霆ノ談

一、奉天軍ノ南下ハ從來ノ消極主義ヨリ一變積極主義トナ
リタルモノニアラス依然消極ニシテ東三省保全ノ為山
東、直隸ノ地盤擁護ヲ第一トナシ今次ノ南下モ此目的ニ
外ナラス從テ山東軍ハ急遽江西又ハ南京ニ進軍スルコト
ナク之ヲ以テ長江以北ノ地位ヲ確保シ黨軍ニシテ南京又
ハ上海方面ヲ侵サハ機ヲ見テ江ヲ渡リ之ヲ擊破スル計画
ナリ

二、黨軍トテモ内部ノ結束堅固ナラス現在以上ニ勢力ヲ擴

(付記一)

十一月二十九日四局二部長會議ニ於ケル松井顧問ノ説明要旨
中国時局ニ関シ松井顧問ト楊宇霆トノ電報往復ノ件

本件ニ関シ大正十五年十一月二十九日四局二部長會議ノ席
上張作霖軍事顧問松井少將ハ大要左ノ通り語レリ
自分(松井)ハ数日前楊宇霆ニ対シ大要左ノ趣旨ノ電報ヲ
発シタリ

一、奉天派カ中央ノ問題ニ関シ何時迄モ不干渉ノ態度ヲ持
続スルハ無責任ノ感アルヲ免レス此際奉天派支持ノ下ニ
摂政内閣ヲ組織スルコト必要ナリト思考ス

二、奉天側ノ対南策ハ極メテ慎重ナルヲ要スル処所謂赤化
討伐ニ付テハ幾多ノ困難アルヘク殊ニ山東軍カ単独南下
シテ北伐軍ニ衝ルハ頗ル不利ナル故ニ此際奉天側ニ於テ
ハ赤化防止護国民ノ主義ヲ標榜スルト共ニ現ニ北伐軍
側ニ属スルモノト雖モ真ノ三民主義ヲ奉スルモノハ之ヲ
包容スヘキ旨ヲ宣言シ奉天派カ一般民衆ヲ敵トスルモノ
ニ非サルコトヲ明ニシ人心ノ収攬ニ努ムルヲ要ス

三、右目的達成ノ為ニハ国民党穩健分子ヲ奉天側ニ引き入
レ前記ノ趣旨ヲ宣伝セシムルコト可然

張シ難ク輕率セハ一撃ニテ瓦解スヘク又山東軍ノ南下モ
長江沿岸湖沼地帯ニテ戦鬪スルモノトシテハ現在ノ裝備
ニテハ勝算ナク南方ハ特種ノ空氣モアリ氣受患シキ奉天
軍ヨリ之ニ馴レタル南方軍ヲ以テスルヲ可トス即チ広東
ノ陳炯明孫ノ旧部下ヲ操縦セハ必スシモ奉天軍直接之ニ
当ルヲ要セサルヘシ

三、之カ為近ク張宗昌ヲ天津ニ招致シ彼ノ暴進ヲ戒ムル管
ナリ

四、京漢線方面ハ呉、靳ノ確執西北軍ノ西安占領劉鎮華ノ
潼關退却呉軍ノ実力ナキコト等寧ロ東南方面ヨリ重大ニ
シテ山東軍南下セハ何等カノ方法ニテ隴海線迄ハ確保セ
サルヘカラス

五、陳調元ノ黨軍内応説ハ彼トシテ又之アランモ現在ニテ
ハ大ナル問題ニアラス孫伝芳殘部ノ向背ハ注目ニ値スヘ
キモ黨軍ト一丸トナリ得ルヤハ疑問ナリ

六、孫伝芳トハ二十五日夜初メテ多数ノ宴会席上ニテ面会
セルモ言語ヲ交ヘス奉天軍トシテハ彼ヲ掃蕩セシメ旧部
下ヲ収束セシメタキモ彼ハ恐ラク復掃セサルヘシ

關東、北京、上海、奉天済

右往電ニ対シ本二十九日楊宇霆ヨリ大要左ノ趣旨ノ返電ア
リタリ

一、中央ノ問題ニ関スル貴見全然同感ニシテ現ニ奉天側ハ
王士珍ニ対シ組閣方ヲ懲瀝シタルカ王之ヲ固辭セル為未
タ新内閣ノ組織ヲ見ルニ至ラサル次第ナリ

二、自分(楊)ハ広東側ヲ一概ニ赤賊呼ハリシテ直ニ之ト
衝突スルハ面白カラスト認メ居ルモ他方南京、上海ヲム
ザムザ北伐軍ノ手ニ委スルコトハ奉天派トシテ忍ヒ難キ
所ナリ故ニ自分ハ孫伝芳援助ノ意味ニ於テノミ今次津浦
南段出兵ニ同意セル次第ナリ

三、目下奉天派ヲ中心トセル国民軍並広東側反対ノ大同団
結成立セントシ近ク安国軍組織セラルルニ至ルヘシ

(付記二)

十一月二十九日四局二部長會議ニ於ケル松室馮玉祥顧問ノ説
明要旨

西北国民軍ノ現情

(秘)

西北国民軍ノ現情

大正十五年十一月二十九日四局部長會議ノ席上馮玉祥顧問
松室少佐ノ語レル所大要左ノ通り

一、西北国民軍ノ現勢

国民軍現在ノ兵力ハ總計約八万（外ニ甘肅軍三万余及銃器ヲ有セサルモノ約二万アリ）ニシテ綏遠甘肅ノ大部分ヲ地盤トシ目下陝西ニ侵入シツツアル処右ニ対スル反国民軍ノ勢力ハ頗ル微弱ナリ

二、山西軍トノ關係

国民軍ノ山西攻撃ハ鹿鍾麟、宋哲元等ノ主張ニ基キタルモノニシテ馮玉祥、張之江ハ之ニ反対ナリキ又国民軍中ニハ山西出身ノモノ多キ事情モアリ閻錫山ト馮玉祥トノ關係ハ寧ロ良好ナル処他方閻錫山トシテハ国民軍追撃ノ奉天軍ノ為メ山西ヲ蹂躪セラルル事ヲ頗ル虞レ居ル次第モアリ旁々閻ハ態ト国民軍ノ全滅説ヲ流布シテ奉天軍ノ西進ヲ止メタリ又曩ニ山西軍ニ投降セリト称セラルル韓復榘、鄭金声等ノ部隊モ投降トハ名ノミニテ内部ノ統制等ハ依然国民軍式ナリ

三、国民党トノ關係

馮玉祥ハ大正十三年秋「クーデター」以来特ニ国民党要人ト親密ニ交リ来リシカ最近ニ至リ馮初メ国民軍ノ首領ハ徐謙ノ紹介ニ依リ国民党ニ入党シタリ

コト並馮ノ從來ノ遣リ口ニ顧ミ容易ニ予断スルヲ得サルモ同軍ハ軍資金ニ於テハ欠クル所アリト雖モ兵力及武器ハ相当充実シ居ルヲ以テ今後機會サヘアラハ再挙ヲ図ルニ至ルヘキ処其ノ時期ハ北方軍閥ト広東側即南北勢力衝突ノ時ト見ルヲ至当トスヘシ
尚国民軍今後ノ進出方向ニ付テハ京綏線ニ依リ直隸ニ出ツルト陝西ヲ經テ河南ニ出ツルト二途アルヘキモ広東軍並河南軍ノ一部トノ連絡ノ便宜上恐ラクハ河南ニ進出スルコトトナルヘク而テ西北国民軍広東軍並河南軍ヲ合計セル勢力ハ頗ル強大トナルヘシ

二一八 十一月二十七日 關東庁警務局長ヨリ
出淵外務次官宛

張作霖ガ天津ニ討赤總司令部ヲ設置シタル件

關機高収第二八、二三八号ノ一 (十二月二日接受)

大正十五年十一月二十七日

關東庁警務局長

内閣 拓殖局長 殿

外務 次官 殿

關東 軍參謀長 殿

一 北京政府ト一般政況 二二八 二一九

四、河南及山東方面諸部將トノ關係

馮ハ河南斬雲鶚ト氣息相通スルモノアリ又山東張宗昌部下ニハ旧国民軍第二、三軍ニ屬シタルモノ約六旅アリ他日国民軍カ河南方面ニ進出スルコトアル場合ニハ右兩者ハ何レモ国民軍ニ策応スルモノト認メラル

五、露国トノ關係

露国ハ頗リニ広東ノ赤化ヲ誇張宣伝シテ世界ノ視聽ヲ之ニ惹キ付ケ置キ実ハ外蒙新疆等辺疆地方ノ赤化並西北国民軍ノ援助ニ全力ヲ尽シツツアル次第ニテ露国カ馮ニ五百万元ノ金塊ヲ与ヘタリトノ説並平滂、包寧兩鉄道ノ敷設權ト交換的ニ或ハ牧場ヲ抵当トシテ借款ニ応シタリトノ説ハ何レモ事實ナルカ如キ処自動車便ニ依ル武器ノ供給亦多量ニ上リ居ルモノト認メラル尤モ馮玉祥自身ハ未タ赤化シ居ラサルカ如ク馮ハ郭松齡事件ノ際露国側ノ援兵申出ヲ拒絶シタリ

六、国民軍ノ将来

国民軍ノ将来ニ付テハ馮玉祥ノ性格カ安全第一主義ナル

關東 憲兵隊長 殿

關東州在勤北岡海軍武官 殿

児玉 關東長官 殿

張作霖天津ニ討赤總司令部設置

今回張作霖ハ各方面ヨリ推サレテ討赤總司令トシテ就任シタルヲ以テ近ク天津ニ討赤司令部ヲ設置スヘク其ノ内部ノ組織左ノ如シ

- 一、參謀処
- 二、軍務処
- 三、軍医処
- 四、秘書処
- 五、秘電処
- 六、軍需処
- 七、副官処
- 八、外交処
- 九、諜報処
- 一〇、偵探処

右ノ外參議顧問数名ヲ設ケ直隸・山東・奉天・吉林・黒龍・熱河・察哈爾各省区ヨリ選任スヘシト

二一九 十二月一日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ノ南京帰任延期並ビニ南京總司令部幹

部及ビ有力將領ノ間ニ意見マトマラザル件

第一七八号 (十二月二日接受)

昨日若ハ本日帰寧ノ筈ナリシ孫伝芳ハ張宗昌再ヒ天津ニ出

懸ケタル為暫ク帰寧ヲ延期シ共同作戰方針ニ関シ改メテ張作霖、張宗昌ト協議ヲ為スコトナレリ当地總司令部幹部及有力將領ノ間ニハ此際山東軍カ南下ヲ中止スルニ於テハ南軍ハ福建、安徽両方面ヨリ本年内ニ江蘇、浙江ニ進入シ来ルヘキヲ以テ是非共奉天側ノ反省ヲ促シ速ニ出兵援助ヲ請ハサルヘカラスト為ス説ト山東軍南下セハ却テ南軍進入ノ時機ヲ早メ而モ北方側ノ勝算乏シキヲ以テ寧ロ此際南軍ト一時的妥協ヲ遂ケ勢力ノ挽回ヲ計ルヲ得策トシ山東軍南下中止ハ却テ幸ナリト為ス議論トノ二ニ分カレ孫伝芳、楊文愷、盧香亭、劉宗紀等最高有力者ハ前者ヲ代表シ陳調元、陳儀、孟昭月等ハ後者ヲ代表スル趣ナルモ孫伝芳ハ此際一切ノ反對論ヲ排シ今一応張宗昌ヲ動かシテ山東陸海軍ノ急速南下ヲ求メムトスル考ナリト伝ヘラル

二二〇 十二月一日 在上海矢田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

ヲ協議スヘキ旨力説シ露骨ニ右英國人ノ強硬論ヲ声明セリ北京、漢口ヘ転電セリ

二二一 十二月一日 高田支那駐屯軍司令官ヨリ鈴木參謀總長宛(電報)

安国軍結成ニ関スル件

付記 十二月二日北京晨報記事文

安国軍ノ組織

天電第三六七号 (十二月三日外務省接受)

一、北方軍權ノ対南大同団結ハ其旗幟ヲ鮮明ナラシムル為昨三十日夜討赤軍ヲ安国軍ト称シ張作霖ヲ總司令ニ推シ各省督弁ヲ副司令トスル公電ヲ発シ作霖ハ本一日午後三時就任ノ筈ナリ

二、推戴者左ノ如シ

- | | | | |
|-----|-----|------|-----|
| 吳俊陞 | 張宗昌 | 孫伝芳 | 閻錫山 |
| 寇英傑 | 陳調元 | 張作相 | 商震 |
| 盧香亭 | 周蔭人 | 陳儀 | 劉鎮華 |
| 褚玉璞 | 高維岳 | 韓麟春等 | |
- 閩東、北京、上海、奉天濟

(付記)

十二月二日北京晨報記事文

一 北京政府ト一般政況 二二一

孫伝芳戰敗後ノ總工会及ビ英國人ノ動靜ニツキ報告ノ件

第三六二号

(十二月二日接受)

孫伝芳ノ失敗以来当方面政局依然不安定ナル結果支那官憲ノ威力漸次衰ヘツアルカコレト共ニ国民党系ノ活動、労働者側ノ運動ハ益々勢ヲ加ヘ先般孫ノ為閉鎖サレタル總工会ハ昨三十日ヨリ支那新聞紙上ニ大々的ノ広告ヲ掲載シテ執務開始ト山東軍ノ南下反對ノ声明ヲナシ居リ支那側紡績工場ニ近ク罷業ノ発生ヲ予想セラルトノ情報アリ他方漢口ヨリ不穩ナル報道頻ニ伝ヘラレ当地ノ人心ヲ刺激シツツアリ殊ニ英國人ニアリテハ同地稅関ノ南軍ノ手ニ占領サル虞アリト聞キ強硬論再ヒ熾ントナリ何トカ南軍ヲ屏息セシムル有効ナル手段ナキカト焦慮シ来レル模様ニテ例ヘハ工部局市參事會議長ノ名ヲ以テ極秘トシテ各国商社ノ主任ニ来ル三日会合シテ急遽義勇隊増員其他ノ上海防備案ヲ議セシムル事ヲ申出タルカ如キ其現象ト謂フヘク尚十二月一日ノ「ノース・チャイナ・デリー・ニュース」ハ社説ヲ掲ケ漢口ノ赤化ヲ高唱シ列国干涉以外支那ヲ混沌ヨリ救ヒ出ス途ナシトテ速ニ東京ニ於テ利害關係列国ノ會議ヲ開キ対策

北京晨報(十二月二日記事)

安国軍ノ組織

十一月二十八日天津蔡家花園ニ於テ北方派會議ノ結果張作霖氏ヲ擁シテ安国軍總司令ニ推戴スル事ニナツタカ当時議決サレタ安国軍ノ組織ハ大体次ノ如キモノテアル

(一)奉天軍及山東軍ハ今後改名シテ安国軍トナス

凡テ奉天、山東軍ト宗旨同シク共同動作ニ加入セント欲スルモノハ其軍隊モ亦安国軍ノ称号ヲ冠スル事

正式ニ宣布ノ時ニハ

奉天軍ヲ安国第一軍、山東軍ヲ第二軍、孫伝芳氏所屬ノ軍隊ヲ第三軍、閻錫山氏ノ部隊ヲ第四軍、寇英傑氏ノ軍隊ヲ第五軍トス

(二)張作霖氏ヲ總司令ニ推戴シ副司令ハ張作霖氏ヨリ任命ス此資格ヲ有スルモノハ張宗昌、孫伝芳、閻錫山ノ三氏トス

(三)安国軍第一、第二、第三、第四、第五各軍ノ司令ハ各軍最高長官カラ之ヲ任命ス

此晚大綱ヲ議決シテ孫伝芳氏ヨリ各省ニ推戴電報ヲ発シタ

三十日マテニ贊同ノ返電ヲ寄セタモノハ十五省区テアル一面孫伝芳氏韓麟春氏張宗昌氏等ヨリ將領全体ヲ代表シテ張作霖氏ニ即日總司令ニ就任方ヲ請ヒ、張氏ノ承諾ヲ得タ、十二月一日午後四時蔡家園ニテ就任式挙行後就職通電カ発セラレタ

二二三 十二月二日 在天津有田總領事ヨリ幣原外務大臣宛

張作霖ノ安国軍總司令就任ノ通電ニ関シ報告ノ件

付屬書一 孫伝芳等張作霖ヲ安国軍總司令ニ推戴ノ通電 訳文

公信第六二二二号 (十二月十四日接受)

張作霖ノ安国軍總司令就任ノ通電ニ関スル件 奉天派ニ於テハ広東軍及西北軍ニ對抗スル為奉天軍ヲ中心ニ一大團結ヲ為スヤノ噂アリ又天津ニ各省代表者ノ一委員会様ノモノヲ設置セムトスノ案サヘ有之タルトコロ(十一月十九日付機密第五九二号末段)十一月三十日ニ至リ孫伝芳外十五名ノ連名ニテ張作霖ヲ安国軍總司令ニ推戴スル通

本ヲ扶持セムコトヲ願フ伝芳等ハ自ラ所部ヲ統率スルヲ得サルカ故ニ命ヲ待テ前驅セム願クハ衆意ヲ酌ミ謙遜ノ徳ヲ抑ヘテ即日就職出師シ以テ人民倒懸ノ危ヲ解カハ国家ノ幸甚ナリ。 十一月三十日

- 孫伝芳 吳俊陞
- 張宗昌 閻錫山
- 商震 寇英傑
- 陳調元 張作相
- 盧香亭 韓麟春
- 高維嶽 周蔭人
- 陳儀 褚玉璞
- 湯玉麟 劉鎮華

(付屬書二) 別紙乙号 張作霖ノ安国軍總司令就任ノ通電

十二月一日發出

北京各部院各省軍民長官各報館各法団鈞鑒、近來国政弛ミ暴民紀ヲ乱シテ宣伝悪化シ外援ト勾結ス年余以来争奪ヲ事トシ残暴至ラサルナク国ハ国ナラス頃日孫馨師等ハ時局ノ

電(別紙甲号訳文)ヲ發出シ張作霖ハ十二月一日總司令就任ノ通電(別紙乙号訳文)ヲ發スルト共ニ蔡家花園ニ於テ其就任式ヲ行ヒタリ 右ハ新聞通信等ニ依リ既ニ御承知ノコトト信スルモ通電大意識出ノ上御参考迄報告ス

南京

(付屬書一) 別紙甲号

孫伝芳等張作霖ヲ安国軍總司令ニ推戴ノ通電 十一月三十日發出

天津鎮威上將軍鈞鑒、赤逆猖獗ニシテ人民ノ艱難甚シク紀綱失墜シ邪說横行ス凡ソ良知有ルモノハ憤激セサルナシ伝芳等義ニヨリテ賊ヲ討ツ義トシテ辞スルヲ得ス只大衆一致スト雖モ指揮ノ統一ヲ計ルニ非サレハ提綱契領ノ効ヲ収メ難シ伏フニ上將軍ハ国ニ忠ニシテ民ヲ憐ミ威ハ四海ニ普ク万民ノ均シク欽仰スルトコロナリ今效ニ集議攻究ノ結果同人ノ贊同ヲ得テ我公ヲ安国軍總司令ニ推戴シ諸師ヲ統馭シテ一致天誅ヲ加ヘ以テ頽波ヲ既倒ニ挽ヘシ逆氣ヲ掃蕩シ国

艱危ト暴徒ノ肆虐ニ当ラムカ為安国軍總司令ノ名義ヲ以テ同志ヲ統率シ国家ヲ保安セムコトヲ連名電請セラル作霖非オニシテ豈此重任ニ堪エムヤ依テ屢々電辭シタルモ諒許ヲ得サリシヲ以テ此危急存亡ノ秋敢テ匹夫有責ノ義ニ則リ爰ニ十二月一日天津ニ於テ安国軍總司令ノ職ニ就ケリ江湖仇敵ヲ同クシ共ニ国難ニ当リ我国家ノ安寧ニ危害ヲ加フルモノハ同人ト共ニ之ヲ逐ヒ以テ我安国軍國家保安ノ素志ヲ全セムコトヲ冀フ近年暴徒騷擾シ全国兵ニ苦シム凡ソ安国軍師ノ到ル所ハ軍紀ヲ整齐シ風紀ヲ嚴肅ニシ唯救国ヲ知リテ決シテ民ヲ擾ササラム作霖ハ兵馬ノ裡ニ半生ヲ送り既ニ此憂患ニ飽ケリ唯國家永久ノ安泰ヲ計リ決シテ自己一身ノ利害ヲ顧ミサルナリ事平クノ日国内名士ト共ニ国是ヲ商議シ以テ真ノ法治共和国ヲ造成セムコトヲ期ス我カ神聖ノ中国ヲシテ洪水猛獸ニ陥シメス世界人類ノ指彈ヲ受ケシメサルヲ得ハ則幸甚ナリ 十二月一日 張作霖

二二三 十二月三日 在濟南藤田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ガ南京ニ向ヒタルコト及ビ天津會議ノ結果ニ関スル省長秘書ノ談話報告ノ件

第一六五号

張宗昌ハ十二月二日午前二時帰濟孫伝芳ハ同日午前五時濟南通過張督弁ト停車場ニ於テ一時間会見ノ上南京ニ向ヒタルカ今回ノ天津會議並ニ張、孫ノ關係ニ関シ這間ノ事情ニ通スル省長秘書^{コウシヤクレイ}ノ談ニ依レハ天津會議ニテ張作霖ハ安國總司令其他奉天派各督軍ハ安國副司令ニ就任シ討赤ノ師ヲ起ス事ニ決(シ)先ツ孫伝芳ヲシテ直接広東軍ニ当ラシメ奉天派ハ之ヲ援助シ山東軍ハ河南軍中ノ國民軍ト通スルモノヲ討チ以テ吳佩孚ヲ援助スルコトニ決シタル由ニテ其結果張宗昌ハ本三日安國副司令ニ正式ニ就任シタリ尚四日先ツ南京ニ赴キテ前線視察旁々津浦沿線山東軍ヲ率イテ河南ニ赴クヘシ河南ニ於テハ靳雲鵬、魏益三、田維勤等吳佩孚ノ命ヲ奉セス北伐軍ト通謀ノ疑ヒアルヲ以テ張宗昌自ラ之ニ当リ河南ヲ平定シタル後更ニ安徽ノ反奉天系軍隊ノ始末ヲ付ケ漸次長江方面ニ進ミ又畢庶澄ハ海軍ヲ率イテ上海及安慶方面ニ向フ予定ナリト

北京、天津、奉天、宜昌、南京、上海、漢口、広東へ転電セリ

右ハ今後時局ノ觀察上重要ナル機微ノ係ル処ナリト認ム在支公使、上海、奉天、天津、濟南、漢口へ転電シ広東、福州、青島、蘇州、蕪湖、長沙、九江へ暗送セリ

二二五 十二月四日 在上海矢田總領事ヨリ 幣原外務大臣宛

佐分利局長ト中国人トノ会見ニ関スル中国紙 記事訳文送付ノ件

付屬書 十二月二日申報所載ノ佐分利局長会見記事訳文 公信第九九一号 (十二月十五日接受)

大正十五年十二月四日 在上海

總領事 矢田 七太郎(印) 外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

佐分利局長ト支那人トノ会見ニ関スル支那紙記事 訳文送付ノ件

十二月二日佐分利局長ノ青年支那人トノ会見模様ニ関スル記事ハ翌三日漢字新聞ノ紙上ニ可成リ詳細ニ掲載セラレタリ依テ該記事訳文二種(一ハ申報ニ掲載セラレタルモノノ他ハ商報所載ノ分ニシテ上海日日新聞切抜)玆ニ送付ス尚本

二二四 十二月三日 在南京森岡領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ノ南京到着及ヒ山東軍南下ノ狀況ニツキ報告ノ件

第一八二号 (十二月四日接受)

往電第一七九号ニ関シ

孫伝芳本三日午前六時半当地ニ帰り直ニ總司令部ニ入レリ張宗昌モ本日午後三時來寧ノ筈ナリ津浦南段沿線ニハ其ノ後モ毎日山東軍引続キ南下シ其ノ數約三万ニ達セリト伝ヘラレ從來臨城ニ於テ南北ニ区分管理經營セラレ居リタル津浦鐵道ハ昨今完全ニ奉天系軍閥ノ独占ニ依リ統一管理經營セラルルニ至リタル処山東軍ハ一切浦口以南若ハ津浦沿線以外ニ出テス南京ハ完全ニ孟昭月ノ軍隊ニ依リ滬寧線ハ盧香亭ノ殘部ニ依リ完全ニ警備セラレ一般極メテ平穩ナリ右ノ狀態ニテ江蘇省ハ既ニ山東軍ノ來援ヲ受ケ何時ニテモ北伐軍ニ対シ積極消極兩様ノ態度ヲ取り得ル事トナリ孫ハ安心シテ内部ノ整理及勢力ノ回復ヲ図リ得ルニ至リタルカ今後孫カ上海方面ニ於ケル三省獨立運動及奉天反對ノ氣勢ニ対シ如何ニ応酬スヘキヤハ特ニ注意ヲ要スル問題ニシテ

件ニ関シ何等ノ論評ヲ掲ケタルモノナシ

本信写送付先 北京、漢口、広東

(付屬書)

佐分利昨日各団体ノ政見ヲ詳詢ス

(十二月二日申報所載)

日本外務省条約局長佐分利氏ハ昨日午後三時金神父路百十四号ニ各団体代表ヲ招キ政見ノ交換ヲ為シ研究ニ資シタルカ國民黨上海市党部江蘇省党部中国学生總會上海学生連合会及ヒ各青年団体代表梅華龍、韓宝華、劉昭雲、查大偉、宜朱華、何濟、鄭鼎新、劉竹賢、華彥雲等二十人參集シ塩崎外務事務官横竹商務書記官幹旋シ殷汝耕通訳ノ許ニ六時五十分迄左記ノ如キ問答ヲ為シタリ

佐分利氏曰ク

余ハ昨年十月関稅會議及ヒ司法會議ノ使命ヲ以テ來華シ北京ニ於テ支那朝野ノ名士ト接近シ意見ノ交換ヲ為シタルカ今回來滬シ青年諸君ト見ユルヲ得若キ青年ノ氣分ヲ増スヲ覺ユルハ誠ニ愉快ナリ玆ニ二十四年來ノ外交ノ經驗ヲ以テ諸君ト暢談セント願フ諸君ニ於テ腹藏ナキ意見ヲ述ヘラレシコトヲ望ム

梅華龍曰ク

佐分利氏ニ於テ問題ヲ列举セラレナハ各代表ヨリ詳細ニ解答シ或ハ之ヲ補充スヘシ

依テ佐分利氏ハ左ノ二点ヲ提出セリ

(一)支那ノ将来及ヒ東亞ノ将来ハ青年ノ觀察ニ依レハ果シテ如何ナルヘキカ

(二)支那ノ青年ノ日本及ヒ国際間不平等条約ニ対スル感想如何、特ニ日本人ニ対スル希望及ヒ批評ノ表示ヲ望ム

梅之ニ答ヘテ曰フ

(一)支那ハ将来当然不平等条約ヲ取消シ独立自存ノ国家トナルヘシ(二)東亞ノ将来ハ中日相互ニ親善シ東亞和平及ヒ世界ノ和平ヲ謀ルヘキナリ

佐分利氏問フテ曰ク

国際ノ和平ハ世界ヲ先ニシ東亞ヲ後ニスヘキニ非ラスヤ又帝國主義ノ真意ニ就テハ如何ナル解釈ヲ為スカ

梅答ヘテ曰ク

帝國主義トハ砲火政策ヲ利用シ産業幼稚ナル国家ヲ压迫スル道具ト為シ支那ヲシテ其压迫ニ依テ自ラ立ツ能ハサラシムルモノナリ

難ナキニ非ラスヤ而カモ外国人ハ不平等ニ領事裁判權ヲ享有セントス故ニ法權ハ同時ニ回収スヘキモノニシテ且ツ此問題ハ対内対外ノ二点ニ分ツヲ要ス即チ法權ハ支那ノ内部問題ニシテ固ヨリ建設ヲ要スルモ法權ハ対外問題ニシテ当然速カニ回収シ以テ主權ヲ尊重スヘキモノナリ況ンヤ司法權ト領事裁判權トハ無關係ニテ独乙、露國、奥國及ヒブラジル等ハ領事裁判權ヲ放棄シタルモ何等ノ問題ヲ發生セサルコト其明証タリ、第二ノ問題ニ至リテハ吾人ハ日本人ノ奮闘ノ精神ニハ敬服ス日本人カ勤苦努力シ数十年間ニ一切ノ不平等ノ待遇ヲ廢除シテ世界各国ト相駕スルニ至リタル日本人ノ個人的方面ニハ大イニ同情ヲ表ス唯タ日本人ノ過去ノ事績ヲ見ルニ袁世凱、段祺瑞、張作霖等ヲ援助シテ国内民衆ヲ压迫シ最近ハ又大倉借款ヲ以テ奉軍ノ南下ヲ助ケ南北ノ争ヲ醸成セントス此レ畜ニ支那人ノ惡感ヲ増加スルノミナラス日本自身モ亦其ノ害ヲ受ク若シ中日親善ヲ要ストセハ殊ニ斯クアルヘカラサルナリ吾人ノ觀察ハ全ク斯クノ如キノミ佐分利氏ハ梅君ノ率直ナルニ非常ニ感激シタルカ次テ某君曰ク

日本ハ未タ支那民意ニ基ク政府(國民政府)ヲ承認シ居ラ

問

支那ハ現在不平等条約ヲ廢除セント欲シ居ルカ其内容如何

答

獨立國家ハ獨立ノ主權ヲ有スヘキモノニシテ侵犯ハ即チ压迫ナリ租界、税関、内河航權等は也

問

不平等ニ損失セル主權ノ恢復ニハ急進的ナラントスルカ又ハ漸進的ナラントスルカ

答

対内ニハ軍閥ヲ驅逐シ政治ヲ清明ナラシメ対外ニハ平等ノ原則ヲ根拠トシテ進ミ且ツ其時ノ狀況ヲ斟酌シ適當ノ方法ヲ用ヒ以テ完全ヲ實現セントス

問

司法權ハ支那ノ法制完全トナルヲ俟チ回収スルヤ否ヤ

答

此点ハ或ハ誤解アルヤモ知レサルカ不平等条約廢除セラレサレハ支那ハ何等ノ業ヲモ自由ニ建設スル能ハサルヲ以テ先ツ主權ヲ回収シタル上ニテ初メテ整理シ得ヘシ且ツ支那ノ法制モ亦相当ニ備ハリ居リ外国人ノ旅行等ニモ何等ノ困

サル処日本ハ産業發達セル國家ナレハ支那ニ対シ積極的援助ヲ与ヘ相互發展ヲ期スヘク侵略的ナル不平等条約ノ束縛ヲ与フヘカラス互恵ノ方法ニ依リ同文同種ナル兩國家ノ友善關係ヲ促進スヘキニモ拘ラス日本政府ノ對華政策ハ時ニ侵略的色彩アリ殊ニ二十一ヶ条問題ノ如キハ頗ル支那人ノ仇恨ヲ買ヒ青年ノ腦中ニ惡感ヲ増サシメタリ現在支那民意勃發ノ際ニ当リ日本人ハ断然過去ノ侵略的不平等条約ノ束縛ヲ除シ速カニ中日平等ノ親善ヲ謀リ共ニ東亞ノ和平ヲ策スルヲ要シ斯クセハ西方帝國主義ノ侵略政策ハ攻メスシテ自ラ破ラルヘキナリ故ニ不平等条約ノ廢除ハ實ニ中日親善ノ先決問題ニシテ張ノ南下ヲ助クル大倉借款ノ如キハ逸早く中止スヘキモノナリ蓋シ日本従前ノ侵略的對支政策ハ實ニ支那ノ民衆ト其ノ力トヲ知ラサルニ基因ス現在國人ハ已ニ砲艦政策ノ压迫ヲ恐レ居ラス若シ日本人ニシテ先ツ奉天ヲ援助セサルコトヲ表明シ同時ニ民意ヲ以テ基礎トスル國民政府ヲ承認セハ國民間ノ真実ノ親善ハ直チニ招來シ得ヘキモ然ラサルニ於テハ空シク親善ヲ談スル共何等實益ナキナリ

嗣テ梅ハ上述ノ意見ヲ総合シ

(一)上述ノ各点(二)支那ノ南北政府(三)奉軍ニ反抗スル三省連合會等ニ関シ何等ノ御意見アラハ承リタシト問ヒ且ツ日本人及ヒ佐分利氏ニ於テ率先シテ支那ノ不平等条約廢止ヲ主張セラレタシト希望セリ

佐分利氏之ニ答ヘテ曰ク

諸君ノ各種ノ意見ヲ承知スルヲ得タルカ自分ノ感想ニ依レハ諸君ハ日本政府ニ対シ幾分ノ誤解アリ且ツ日本政府ノ意ノ在ル所ヲ明確ニシ居ラサル嫌アルモ支那ノ日本ニ対スル希望ハ感謝ニ堪ヘス又日本ハ支那ノ受ケツツアル庄迫ニ対シテハ頗ル了解シ居リ之カ解除ヲ援助シ共存共栄ヲ図ルヲ願ヒ同時ニ支那カ自発的ニ一切ノ庄迫解除ニ努メンコトヲ希望シ居ルコトハ年来日本ノ对支政策ニ依リ知ルヲ得ヘシ唯タ如何ナル方法ニ依リ之カ廢除ニ進ムヘキカハ尚研究ヲ要ス司法制度ノ如キモ完全トナリタル後ニ始メテ回収シ得ヘシト為スハ不当ナルモ亦相当時機ヲ待ツニ非ラサレハ不可ナリ日本往年ノ領事裁判權取消ニハ朝野共同努力シテ法制ノ向上ニ尽シタリ

支那ノ朝野モ亦自ラ努ムルニ於テハ日本人ハ当然懇切ニ援助スヘシ惟タ現在ニ於テハ此問題ニ対シ二種ノ極端ナル意

六日王棟ノ岡本ニ為シタル談話中左ノ一節アリ過般馮玉祥ヨリ使者ヲ以テ今後ノ方針トシテ「討吳、和閩、連奉、親日」ノ四項ヲ掲ケ在京津国民軍幹部ノ指導方ヲ申來レル処右ノ中連奉ニ就テハ自分自ラ折衝ニ當リ得サル事情アリ在津中ノ段祺瑞、熊斌等亦戒嚴令下ニ於テ積極的手段ニ出ツルヲ得ス然レトモ早晚本問題ハ具体化スヘシト信ス

張作霖ニ於テモ吳佩孚既ニ無力トナリ孫伝芳亦起ツ能ハサルニ至リタル今日馮氏ト握手スルノ得策ナルハ言ヲ俟タス国民軍トノ連絡ハ臆テ同軍ト密接ナル關係アル広東軍トノ妥協ヲ促進セシムル所以ニシテ安国軍組織ノ宣言中討赤ノ字句ヲ用ヒスシテ暗ニ妥協ノ意アルヲ仄カシタル目的ヲモ達成スル所以ナリ張氏來津以來僅ニ生レ出テタルモノハ安国軍ト称スル不徹底ナル連軍組織ナル処余ノ考ヲ以テスレハ張氏ハ其野望タル大總統タラムカ為ニハ速ニ広東軍ト妥協シ袁世凱ノ故智ヲ学シテ副總統内閣總理等ヲ彼等ニ与ヘ自分ハ兵馬ノ實權ノミヲ掌握スルノ襟度ヲ示スヲ得策トス統一ノ業一日遅ルレハ夫レ丈ケ外交ノ地方化ヲ根強クシ斯業益々困難トナルヘシ云々

北京、奉天、上海、漢口、広東、濟南、南京、張家口へ暗送セリ

見行ハレツツアリ即チ支那人ハ国乱ハ皆不平等条約ノ為メ釀成セラルト言ヒ外国人ハ国乱ハ皆軍閥ニ於テ自ラ釀成スルモノナリト為ス日本人ハ支那ニ対シ極力援助スルモ決シテ何レニモ偏重スルコトナシ余ハ支那ノ政治ヲ研究スル為メ來リタルモノニシテ此際意見ヲ發表スルコト能ハス、尚三民主義中ノ民主主義ノ解釈如何答ヘテ曰フ、資本ヲ制限シ地權ヲ平均ナラシムル意ナリ以上ヲ以テ会见ヲ了レリ

二二六 十二月六日 在南京森岡領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ハ安国軍副司令ニ就任、五省連軍總司令兼任トナリタル旨報告ノ件

第一八五号

孫伝芳去ル四日盛大ナル儀式ニ依リ安国軍副司令ニ就任セリ五省連軍總司令ハ兼任トナレリ

二二七 十二月八日(着) 在天津有田總領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

時局ニ対スル馮玉祥ノ方針ニ関シ報告ノ件

第一八一号

二二八 十二月十日 在奉天峰谷總領事代理ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

奉天側ノ時局大綱ニ関スル楊宇霆ノ談話報告ノ件

第三六六号

時局ニ関スル奉天側ノ大綱ニ付九日楊宇霆ノ談話要領左ノ如シ

自分カ天津ニ赴キタル当時天津會議ハ何等定見無ク依テ自分ノ建策トシテ津浦線ニ依リ山東軍ヲ京漢線ニ依リ奉天軍ヲ南下セシムル方針ヲ取りタルカ津浦線方面ニ付テハ江蘇浙江ノ收拾ハ畢竟孫伝芳ヲ利用スルノ有利ナルヲ認メ好マヌ孫ヲシテ強ヒテ南下セシメ同方面ヲ回復セシムルト共ニ安慶方面ハ陳調元等ヲシテ之ニ當ラシメ山東軍自ラハ津浦線ヲ押ヘツツ徐州ヲ中心トシテ江蘇ヲ固メ直接南軍ニ当ルヲ避ケントス然レトモ曩ニ孫伝芳ノ失敗ニ鑑ミ江南方面又同時ニ策動スルノ要有ルヲ思ヒ即チ京漢線方面ニ対シテハ先ツ以テ吳佩孚軍ヲ説カントセシモ吳軍今ニ之ヲ聴カサルカ故ニ近ク張學良軍ヲシテ順臨大名府ヨリ鄭州方面ニ一線ヲ布キ吳佩孚否彼カ部下ノ奉軍ニ対スル向背何レナルヤ

ヲ明カニセシメ幸(楊ハ彼等聴カハ却テ将来面倒ナルヘシト言ヘリ)聴カサレハ兵數八、九万ト報スルモ戦ヒ得ヘキ兵二万前後ニ過キサレ彼等ヲハ鎧袖一触タルヘク依テテ武勝関迄ヲ我カ勢力下ニ置キ南軍又同地点以北ニ進ミ得ヘクモ無ケレハ故ニ暫時滞在シテ徐ロニ後図ヲ策セントス若シ夫レ馮玉祥軍ノ如キハ閩錫山軍並ニ万福麟麾下ノ黒龍江軍二、三個旅ヲ以テ掃蕩スル亦難事ナラス次ニ地盤問題ニ関シ張ニ彼ノ江蘇安徽浙江獲得ノ野心有ルハ事実ナルモ現下ノ情勢直ニ之ヲ許ササルモノアルカ故ニ張ニ説クニ暫時孫伝芳ニ譲リ後日之ヲ得ルモ遅カラサル旨ヲ以テセリ

組閣問題ニ付テハ顧維鈞内閣若シ繼續シ得ハ奉天側之ヲ支持スヘク然ラサル限り未タ他ニ適當後任無ク斬雲鵬内閣ノ成否亦疑ハシキモノ有リ然リ乍ラ臆テ奉系内閣成リ奉軍天下ヲ取ルノ日次テ直面スヘキ南方反張運動ノ擡頭ニ付テハ自分今ヨリ予想セサルニ非サルモ奉天側ニ頭古キモノ有ルニハ困惑セリ張作霖奉時機未タ確タリ難シ云々

之ヲ要スルニ奉軍将来ニ孕ムヘキ危懼(一)所謂新思想運動反軍閥熱(二)反張勢力ノ團結(三)奉系内地盤問題等ノ対策ニ付テハ彼又自信無キニ似タリ

尚過般吳俊陞ニ時局軍事ヲ訊セタル処略右ト同様ノ所見ナリシカ只南方広東軍トノ妥協云々ヲ言下ニ否定シタルハ彼カ武弁ナルヲ思ハシメタリ

在支公使へ転電セリ

二二九 十二月十五日 高田支那駐屯軍司令官ヨリ
鈴木參謀總長宛(電報)

在天津各派ノ現時局ニ対スル態度ニ関シ報告

ノ件

天電第三八六号 (十二月十五日外務省接受)

在天津各派ノ現時局ニ対スル態度

段派ハ全ク傍觀ノ態度ヲ持シ從來奉天派ト最モ親密ナリシ吳光新等モ最近全ク其往來ヲ断チ一切政局ニ干与セス其他各派ハ張ノ入津当時各派ノ現状ヨリ若干意見ヲ開陳セルモノアリシモ張等ノ容ルル処トナラサリシヲ以テ安國軍ノ編成以來ハ殊ニ各派トモ全ク傍觀ノ態度ヲ持シ今ヤ中国ノ安危ハ一ニ奉天派ノ双肩ニ懸リ且河南問題解決ノ遅速ハ重大ナル影響ヲ及スヲ以テ一般ニ奉天派ノ遲疑逡巡ヲ不可トシ積極的ナランコトヲ希望シツツアリ

閩東、北京、上海、奉天濟

二三〇 十二月十五日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

学生及ヒ工人代表等ニ対スル張作霖ノ講演報告ノ件

付屬書 張作霖ノ講演大意訳文

公信第六四九号 (十二月二十四日接受)

大正十五年十二月十五日

在天津

總領事 有田 八郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

張作霖カ学生及ヒ工人代表等ニ対シ為シタル講演ニ

関スル件

安國軍總司令張作霖ハ曩ニ總司令就任ノ際發出シタル通電(十二月二日付往信第六二二号)ヲ敷衍シタル如キ宣言(別紙新聞切抜添付)ヲ十二月六日付発シタルカ越エテ同十一日ハ当地主要学校十一校ノ学生代表及六大工廠ノ工人代表等五十余名ヲ蔡家花園ニ招致シテ赤化防止ニツキテ訓辭シ又同十三日ハ各校学生約五百名ヲ同所ニ集メ赤化防止及学生工人等ノ對外運動等ニ就キ講演シタル趣ナルカ第二

日目ノ講演内容トシテ新聞紙ノ伝フルトコロノ大意別紙ノ通り訳出添付ス

右報告ス

写送付先 在支公使、上海、奉天、漢口、濟南、広東、

南京

(付屬書)

張作霖カ学生代表等ニ対シ為シタル講演

方今赤化全国ニ蔓延シ党軍ハ三民五權ヲ假冒スルニ及ヒ全国ノ人士ハ憤怒シテ討賊ノ為奮起ス作霖ノ此重任ニ推挙セラレタルハ素ヨリ誤リナルモ事救國ニ属シ義ハ敢テ辭スルヲ得ス諸子ハ此際邪説ニ迷フコトナク正路ヲ辿リ弘ク他人ヲモ勸導スヘキナリ赤党ハ宣伝ニ巧ナルモ亦何ヲカ為サム作霖ノ率ユル同志ハ畜二十万ノ甲兵ノミニ非ス

教育ハ立國ノ要素ニシテ人材ヲ培植シ以テ外ニ対スヘキモノニシテ对内政争ノ具ニ供スヘキニ非ス余ハ南北ノ界ヲ知ラサルモ唯善惡ノ別ヲ知り善者ハ南人ト雖モ親ミ惡者ハ北人ト雖モ之ヲ憎ム況ンヤ北人平乱南人治國ハ我歴史ニ彰々ノ事実ナリ今ヤ国乱甚シキモ他日平定ノ後ハ南人ニシテ國ヲ治ムルニ才能傑出ノモノアラハ余ハ拱手シテ之ニ讓ルノ

ミ余ハ夙ニ広東人ノ不合作主義ニハ感佩スルトコロナルモ
年余来赤露ヲ尊ヒ共産ヲ提倡セルニハ喪心セリ前清以来ノ
国勢不振ニ因リテ訂立セル不平等条約ノ收回又ハ廃止ニ就
テハ素ヨリ人後ニ落ツルモノニ非サルモ之カ目的達成ノ為
学生等カ徒ニ鼓動叫囂スルハ無益ナリ必スヤ先ツ教育ノ發
達実業ノ振興宝蔵ノ開放等ヲ計リ実力ヲ充足シ且ツ正当ノ
手続ニ拠リ之ト交渉セハ自然円満ニ解決スルヲ得ヘシ故ニ
諸子ノ学業ニ猛進スルコトハ即チ外交ノ後援トナルナリ彼
党人等ハ非孝ノ説ヲ高唱シ或ハ敵軍ヲ誘ヒテ倒戈セシメ幸
ニシテ一時ハ勝チ居ルモ其結果ヤ知ルヘキノミ余ハ具佩孚
ノ忠実ニシテ欺カス終始其節ヲ変セサル人格ヲ感佩セリ故
ニ其兵力ハ既ニ皆無ナルモ余ハ尚モ餉械ヲ供シテ之ト合作
シ其面子ヲ全セシメントス之則チ余ノ区々苦心ノ存スルト
コロナリ云々

二二二 十二月二十四日 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

对北伐軍作戰ニ関シ孫伝芳ノ談話報告ノ件

第二〇四号 (十二月二十五日接受)

本日孫伝芳本官ニ対シ左ノ通り語レリ

北京、上海へ転電シ奉天、天津、濟南、漢口、広東、青
島、蕪湖、九江、杭州、長沙へ暗送セリ

二二三 十二月二十四日 在杭州清野領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

浙江情勢ニ関スル陳儀ノ談話報告ノ件

第六一号 (十二月二十六日接受)

二十五日午後小官陳儀ニ面会ス彼ハ頗ル憤慨ノ面持ニテ左
ノ如ク語レリ

(一)入城ノ軍隊ハ孟昭月ノ第八師王森ノ第十一師及李俊義ノ
第十四師ナルカ王森ノ軍隊ハ乱暴ニテ自分ノ兵ノ武装ヲ解
除シタルモ彼ノ兵ニシテ王ハ現ニ我カ第一師司令部ヲ占領
シテ同所ニ在リ当時自分ノ部下ハ抵抗セントシタルカ極力
慰撫シテ辛フシテ之ノ乱暴ヲ甘受セシメタル次第ナリ蓋シ
我方ニ勝算有レトモ若シ抵抗センカ市街戦起リ全城災禍掠
奪ノ惨ハ免カレス然モ彼等ハ之ヲ目論ミ来レルモノノ如シ
我所屬部隊及巡警ノ武装解除ハ尚可ナリ彼等ハ其ノ武装解
除ニ当リテ兵士ノ所持セル金品ヲ奪ヒタルノミナラス武器
ノ捜査ヲ名トシテ將校ノ私宅ニ入りテ又金品ヲ劫奪セリ其
ノ他電信局及電話局ヲ占領シテ通信ヲ止メ通行者ヲ要シテ

過般来張宗昌陳調元及余ノ三人協議ノ末对南方針ヲ決定シ
既ニ左ノ通り実行ニ着手セリ

(一)山東軍約十萬ヲ即時安慶ニ集中シ一部ハ長江北岸ニ沿ヒ
湖北ヲ攻メ一部ハ河ヲ涉リテ江西ヲ攻ム之カ為數日來山東
軍統々南下中ナル処陸路ノミヨリ輸送スルトキハ時日ヲ要
スルニ付青島及長江艦隊ヲ利用シ水路ヨリモ輸送スルコト
トナリ之カ準備ノ為本日畢庶澄及楊樹莊ノ代表者南京ニ到
着セリ

(二)江蘇軍ハ浙江ヨリ江西ヲ攻ムルコトトシ既ニ孟昭月ノ一
隊ハ一日杭州ヲ経テ富陽ニ向ヒ(周鳳岐ハ退却セリ)又
目下麗水ニ到着セル周蔭人ノ軍隊ニ衢州攻撃ヲ命シタリ陳
儀ハ全然余ニ服従セルモ部下ニ異分子多キ為此ノ際自治ノ
名ヲ以テ好意的中立ヲ為スコトナレリ

(三)陳調元ハ皖南ニ在リテ守勢ヲ取ル右ノ次第ニテ兩軍ノ衝
突ハ一月早々ノ見込ナル処今回ハ連合軍モ大決心ヲ有スル
ト共ニ南方ハ政治部及軍隊ノ軋轢日ニ甚シキヲ加ヘ現ニ長
沙市中ニハ蔣介石反對ノ「ポスター」多數市中ニ貼付セラ
ルルニ至リタル趣ニモアリ近ク必ス大勢一変スヘキ見込ナ
リ尚兩三日中岡村ヲ代表トシテ東京ニ急行セシム

金品ヲ奪ヒ婦女強姦モ数件有リ又当省長公署ヲモ其ノ看守
ノ下ニ置キ殆ト外部トノ交通ヲ断チ此室ノ入口ニ立チ居ル
其ノ兵モ彼等ノ兵ナリ余ハ其ノ何か故タルヲ知ラス依テ昨
日直ニ王ニ面会シテ其ノ理由ヲ質シタルニ「孫ノ命令ナル
ニ付暫時我慢ヲ請フ」トノミニテ要領ヲ得サルニ付孟昭月
ヲ寬橋ニ訪問シタルニ彼ハ隠レテ面会スルヲ得ス多分恥カ
シクシテ余ニ会フ事能ハサルモノナルヘシ故ニ孫ヨリ直接
ニ其ノ理由ヲ聞カンカ為今単身南京ニ向ヒテ出立セントス
ル処ナリ(室外ニ於テハ副官ハ行李ヲ備ヘ居レリ)

(四)浙江ヲ中立ノ地位ニ置ク事ハ大局ヨリ見テ孫自身ノ為ニ
モ有利ナルニ付種々苦心画策シ来リタル次第ナルカ江西ノ
田舎ナラハイサ知ラス上海ニ近キ杭州ニ外人環視ノ中ニ無
恥乱暴貪欲ナル指揮官ト兵トヲ派シテ非人ノ如キ此ノ乱暴
ヲ敢テ演セシム余カ計画ノ画餅ハ云ハスモカナ孫ノ前途ニ
モ見込無シト云フヘク之ヲ桐廬迄來レル南軍ノ規律正シキ
ニ比スル時ハ人心ノ帰趨自ラ明白ニシテ長嘆息ニ堪ヘス貴
領事若ハ有力ナル日本人ヨリスノ如キ乱暴ヲ再ヒセサル様
孫伝芳ニ忠告セラレン事希望ニ堪ヘス

(小官ハ話頭ヲ転シテ南京行旅行ノ安全ヲ祈ル旨ヲ述ヘテ

引取レリ)

尚只今得タル諜報者ノ内報ニ拠レハ孫軍ノ一部ハ紹興付近ニ在ル陳儀所屬軍隊ノ武装解除ニ向ヒタル処其ノ抵抗ヲ受ケテ却テ武装解除セラレタリトノ事ナリ陳ノ參謀長葛敬恩カ二十三日其ノ妻子ヲ当館ニ送リテ同地ニ急行シタル等ノ事ヨリスルニ或ハ右ハ事実トモ思考セラレ又右陳儀ノ南京行ハ之ヲ口実トシテ当地ヲ脱出シ上海ヨリ寧波ニ赴テ其ノ軍隊ヲ以テ南軍ニ投スルモノニ非サヤトモ想像セララル往電第五八号ノ通転電及暗送セリ

二三三 (昭和元年) 在南京森岡領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報) 十二月二十五日(着)

孫伝芳国民党ニ加入ノ内意伝達ノ件

第二〇二号

孫伝芳本日本官ニ対シ予カ今回奉天、山東ト提携シタルハ赤化討伐上已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ大勢ヨリ察スルニ簡單ナル軍閥トシテハ今後ノ支那政局ノ中心人物トナルコト困難ナルヲ以テ此際穩健ナル国民党右傾派ト關係ヲ結ヒ若シ出来得レハ将来自分ハ国民党ニ加入シタキ決心ヲ有シ現ニ在上海国民党右傾派ノ操縦ニ着手セル処右ハ此

際漏洩スルニ於テハ奉天、山東側トノ合作上ニ悪影響ヲ及ホスヲ以テ絶対極秘ニ願ヒタシト語レリ 猶孫ハ岡村ニ対シ江西戦争ノ失敗ハ自分カ政略ニ捉ハレ過キタル結果功ヲ一簣ニ欠キタルニ依ルモノナレハ今後ハ革命ニ処スル決心ヲ以テ目的貫徹ノ為ニハ世間ノ人氣評判等ヲ度外視シ軍事専門的ニ猛進スヘシト語リタル趣ナリ 北京、上海へ転電セリ

二三四 十二月二十六日 在南京森岡領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

孫伝芳ノ将来ニ関スル観測申進ノ件

第二〇八号

当地有力官民ノ意見ヲ綜合スルニ広東政府ノ如キ低級ナル労働階級擁護ヲ本意トシ中流以上ノ階級ヲ圧迫スル政策ハ支那ノ国情ニ適セサルヲ以テ早晚必ス反動起リ瓦解スル事疑ナキモ一時勢ニ乗シテ支那本部ヲ風靡スル事無キヲ保セスト云フニ一致ス 又世間孫伝芳戦敗ノ結果彼ノ将来ヲ悲観スルモノ有ルモ他ノ援助次第ニ依リテハ完全ニ江蘇浙江ヲ維持シ得ヘシ特ニ彼ハ徐樹錚死後ニ於ケル支那第一流ノ軍人ニシテ智謀湧ク

時局ニ関シ孫伝芳ガ宣言ヲ發シタル旨ノ新聞

報道ニ関スル件

第二〇八号

(十二月二十七日接受)

カ如ク既ニ国民党右傾派ノ操縦ニ着手シ時局一段落ノ後ハ国民党ニ入党シ總理ノ地位ニ就カントスルノ決心ヲ為セル事ニモ有リ断シテ此ノ儘葬ラルヘキ人物ニ非ス加之彼ハ今日他ニ類例無キ親日家ナレハ彼ヲシテ上海ヲ維持セシムルコトハ日本側トシテハ極メテ必要ノ事ナルヲ以テ同人困窮ノ今日ニ当リ國際問題ヲ惹起セサル範圍ニ於テ援助ヲ与フル事ハ結局帝國対支政策上利益ナリト愚考ス 尚孫ハ上海ニ於ケル各種工場總「ストライキ」ノ計画及一切ノ過激運動ニ対シ徹底の取締ヲ加ヘツアルト同時ニ特ニ日本側ト連絡ノ為不日日本留学出身ノ要人ヲ上海ニ派遣シ敵警察庁長李戒嚴司令等ト策動シテ日本人關係ノ利益ヲ擁護セシムル筈ニテ目下人選中ナリ 因ニ岡村ハ孫ノ命ニ依リ当方面ノ事情説明其ノ他重要用務ヲ帯ヒ上海總領事ト充分打合せノ上東京ニ急行スヘク本二十六日早朝当地ヲ出發セリ 在支公使、上海へ転電シ漢口、奉天、天津、濟南、青島、広東へ暗送セリ

二三五 十二月二十六日 在南京森岡領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

共ニ往電第二〇二号ノ通り国民党右傾派ヲ操縦スル用意ニ出テタルモノト認メラレ尚孫ハ本日本上海發行申報、時報其他ノ有力新聞ニ大々的ノ廣告ヲ載セ自分ハ從來江浙地方紳商ニ対シ政党政派ヲ論セス飽ク迄誠意ヲ以テ公共ノ福利ヲ相談シ来タリタル次第ナル処最近上海ニ蘇贛浙三省工団ノ

名ヲ藉リ地方治安ヲ破壊シ且自分ト三省父老ノ感情ヲ離間セントスルモノアルカスル少数ノ奸人ニ依リ三省ノ安寧ヲ混惑セシムルニ忍ヒス三省ノ治安ニ関シ若シ意見アルモノハ何時ニテモ来タリテ自分ニ面談アリタク然ラスシテ陰險ナル言動ヲナスモノハ容赦ナク軍法ニ照シ処分スル旨発表セリ

転電及暗送先前電ノ通り

二二六 十二月二十八日 在中国公使館付本庄陸軍武官 談話要領

中国時局ニ関スル在中國公使館付陸軍武官本

庄少将ノ談話要領

昭和元年十二月二十八日四局二部長會議ノ席上在支公使館付陸軍武官本庄少将ハ支那現下ノ時局ニ関シ大要左ノ通述ヘタリ

一、支那ハ結局共產主義者ノ天下トナル惧アリ支那ノ国情並国民性ニ顧ミ支那ノ国家並国民カ共產化スル事ハ無カルヘキモ目下南方側ニ於テ最モ勢力ヲ有スルハ共產主義者ナルノ事実ニ顧ミ今後支那南北抗争ノ結果遂ニ南方側ノ勝利ニ帰スル場合ニハ支那ハ少クトモ共產主義者ノ天

兵数多キ故ヲ以テ容易ニ安心シ難キ次第ナリ

(a) 南軍ノ組織ノ良好

南軍側ニ於テハ蔣介石カ軍事政治学校ニ於テ養成セル少壮血氣ノ政治部員アリ殆ト各分隊ニ一人ノ割ニテ配置セラレ(露国人ハ一ヶ連隊ニ一人位ノ割ナリ)内ハ部隊相互ノ連絡ヲ図ルト共ニ諸將ヲ監視シテ其ノ寝返リヲ未然ニ防止シ外ハ自ら陣頭ニ立テ奮戦スルト共ニ盛ニ宣伝ヲ行ヒ敵軍内部ノ切崩シニ当リツツアリ南軍カ素質訓練共ニ良好ナラサル兵(殊ニ湖南湖北ノ新付軍隊ニ於テ然リ)ヲ以テ今日迄能ク効ヲ収メ来リタルハ政治部員ノ活動ニ負フ所大ナリト云ハサルヘカラス從テ南軍中ニ於ケル政治部員ノ勢力ハ頗ル盛ニシテ各部將ニシテ之ニ不満ヲ懷クモノモ少カラス現ニ唐生智ノ如キモ其ノ一人ナルカ何レモ如何トモシ難キ状態ニ在リト云フ

(b) 一般人民ノ人氣

一般人民カ頗ル好感ヲ以テ南軍ヲ迎フル風アルニ反シ北軍殊ニ張宗昌軍ノ人氣悪キ事驚クヘキモノアリ南軍ハ自ら人民ノ軍隊ナリト標榜シテ人心ノ収攬ニ特ニ意

下トナルヘシ從テ支那南北兩派ノ何レカ勝ヲ占ムルヤハ頗ル重要ナル問題ナル処左記ノ諸事情ヲ綜合判断スルニ南北ノ抗争ヲ自然ノ推移ニ委スルニ於テハ結局南方側ノ勝利ニ帰スヘシト思考セラレ

(i) 南北兩軍ノ兵力

南軍ハ所謂北伐軍ノ中枢タル広東広西軍並蔣介石直屬ノ部下(主トシテ浙江出身ノ新人)合計四万乃至五万ト唐生智ノ軍隊並江西湖南湖北等ノ新付ノ軍隊ヨリ成リ其ノ兵数ハ左シテ強大ナラサルノミナラス士卒ノ素質並訓練ノ程度亦良好ナラス反之北方側ハ津浦沿線ニ出動セル山東軍約六万京漢沿線ニ出動セル張學良韓麟春ノ軍隊約四万五千ヲ主力トシ更ニ京綏方面ニモ歩騎約三ヶ旅アリ其ノ兵数ハ南軍ニ比シ遙カニ優レリト雖モ懸軍万里関内ニ出動シテ南軍ト当ル為ニハ未タ充分ナラス現ニ最近吉林軍ノ如キ劣弱ナル軍隊ヲ応援ニ呼寄セタルカ如キカ証左ナリト云フヲ得ヘシ加之士卒ノ素質乃至訓練ノ程度モ前記張學良韓麟春ノ軍隊ヲ除キテハ頗ル劣悪ニシテ張宗昌褚玉璞等ノ軍隊ノ如キハ馬賊ト殆ト大差ナキ状態ニ在リ旁々北軍側モ單ニ其ノ

ヲ用ヒ軍資等調達ノ要アル場合ニモ單ニ一部富裕ナル階級ノミヨリ取立テ下層民ニ対シテハ何等圧迫ヲ加ヘサル処奉天軍ハ貧富双方ノ階級ニ一樣ニ圧迫ヲ加ヘ人民ノ怨府トナリ居レリ即民國十五年四月國民軍北京撤退後先ツ入城セル奉天側憲兵司令官王琦部下ノ掠奪監禁其他ノ不法行為、山東軍ノ北京ニ於ケル四戸税ノ創設(四戸税トハ湯屋、宿屋、劇場、料理屋ニ対スル課税ニシテ其ノ結果ハ下層社会ノ人民ノ負担ヲ重カラシムルモノナリ)等ハ其ノ一例ナルカ尚張作霖ハ固ヨリ張學良ト雖モ其ノ生活頗ル豪奢放縱ニシテ士卒ノ不平ノ種トナリツツアリ

二、南方側勝利ノ場合日本ノ蒙ルヘキ影響

支那南北兩派ノ抗争遂ニ南方ノ勝利トナリ政權共產主義者ノ手ニ帰シタル場合日本ノ蒙ルヘキ影響大要次ノ如クナルヘシト思考ス

(i) 經濟上ノ影響

支那側ハ関稅自主權ノ即時回復並自國産業保護ノ政策ニ出テテ日本粗製品ノ輸入ヲ防遏スヘキハ勿論同盟罷工ノ煽動其ノ他ノ方法ニ依リ鐵道鈺山航海其ノ他支那

ニ於ケル日本ノ企業ヲ圧迫妨碍スルニ至ルヘシ
(d)思想上ノ影響

支那ノ共產主義者ハ労働露国側指導ノ下ニ世界革命ノ
一手段トシテ内国革命ニ当リツツアルモノナレハ必ス
ヤ日本ノ無産階級ト提携シ日本ニ対スル赤化宣伝ヲ開
始スヘシ

(e)国防上ノ影響

労働露国ト支那トノ接近ハ将来日本カ露国若クハ米國
ト戦争ノ場合原料ヲ支那ニ求ムルコトヲ困難ナラシメ
戦争遂行上重大ナル障碍ヲ来スヘシ

三、我方ノ対策

以上ノ次第ナルヲ以テ我方トシテハ支那カ共產主義者ノ
天下トナル事ハ出来得ル限り未然ニ防止スルノ必要アル
処カ為ニハ支那南北兩派ヲシテ衝突セシメサルコトト

シ以テ南方派少壯連ノ張合ヲ抜クト共ニ露國ヲシテ乘ス
ル機會ナカラシムル事得策ナリ從テ我方ハ

(i)北方ニ対シテハ此ノ際暴進スルコトナク専ラ内部ノ充
實地盤確保内政改善ニ努ムヘキ旨ヲ論シ南軍側宣伝ノ
乘スル隙無カラシメ

(ii)南方側ニ対シテハ一方国民党右派ト連絡シテ之ヲ利用
スルト共ニ他方蔣介石其ノ他南軍ノ中心人物トノ接触
ヲ図リ其ノ極左的行動ヲ緩和スル

ノ方策ニ出ツルコト肝要ナルヘシ而シテ其ノ為ニハ我カ
出先文武官憲ニ於テ個人トシテ機會アル毎ニ支那人側ニ
対シ日本ハ赤化防止ノ趣旨ヨリ前記(i)(ii)ノ措置ニ出ツル
モノナル旨ヲ説明スルト共ニ他方我カ国内ニ於テモ政府
ノ力ヲ以テ國論ヲ指導一致セシムルノ方法ヲ採ルコト可
然ト思考ス

事項二 国民政府ノ動靜並ニ国民革命軍ノ北伐關係

二二七 一月十六日 在広東清水総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

広東政府内ノ反共產派ト共產派ノ妥協成立及

ビボロジン帰國ノ情報ニ関スル件

第六号

(一月十七日接受)

客年九月ノ廖仲愷暗殺事件後胡漢民以下所謂反共產派ノ人
物相次イテ広東ヲ追ハレ広東政府カ露国代表「ボロジン」
支配ノ下ニ全ク共產派ノ掌握ニ帰シタル次第並ニ其後北
京、上海地方国民党員ノ反共產運動開始ト共ニ広東政府非
難ノ声高マリタル次第既報ノ通ナルカ最近国民党左翼ニ属
スル反共產派ト当地共產派ノ領袖ヲ以テ目サルル汪兆銘、
蔣介石等トノ間ニ或種ノ了解(確カナル処不明ナルモ共產
黨員ヲ押ヘ付ケ「ボロジン」等ヲ追ヒ出シ並ニ政府ノ組織
ヲ変更スルコトナルカ如シ)ノ下ニ妥協成立シタリトノ情
報アリ孫科、呉鉄城等反共產派ノ徒カ広東ニ帰来セルハ右
妥協成立ノ結果ニシテ軍閥張作霖ヲ倒スニハ国民党ハ相一
致シテ日本ニ当ラサルヘカラストノ主張カ右妥協ヲ促シタ

二一 国民政府ノ動靜並ニ国民革命軍ノ北伐關係 二二七 二二八

ル一動機ナルカ如シトノコトナリ確カナル処不明ナルモ何
レニセヨ仮令妥協成立シタリトスルモ今後広東政府ノ遺口
カ依然「ラヂカル」ニシテ且ツ親露的色彩ノ依然濃厚ナル
ヘキハ予想ニ難カラサル処ナリ十三日交渉員ニ面会シタル
際「ボロジン」労働大使説ノ確否ヲ尋ネタル処同人ハ今回
露国政府組織部長兼共產党中央執行委員会ノ一人トシテ本
國ニ於テ活動スルコトトナリ近々ノ中帰國ノ筈ナルカ同人
ハ米國ニ於テハ嘗テ「シカゴ」大学経済学ノ教授タリシコ
トアリ露國人ト言フヨリハ寧ロ米國人ニ近キ方ナルニ拘ハ
ラス今日迄広東ニ於テ種々奇矯ナル言動ヲ弄シタルハ不可
解ナリト内話セリ

在支公使ヘ転電奉天、上海、天津、漢口、汕頭、雲南、台
湾總督ヘ暗送セリ

二二八 一月二十七日

在広東清水総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

広東政府ノ北伐計画ニ関シ情報ノ件

公第四二号

(二月十日接受)